

---

---

Oracle(R) Hyperion Performance Scorecard, Fusion  
Edition

リリース 11.1.1.3

---

ユーザー・ガイド

**ORACLE**  
ENTERPRISE PERFORMANCE  
MANAGEMENT SYSTEM

Performance Scorecard ユーザー・ガイド, 11.1.1.3

Copyright © 1999, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM Information Development Team

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。U.S. GOVERNMENT RIGHTS: Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

---

# 目次

---

<b>第 I 部 戦略を定義および評価するためのアプリケーション構築</b> .....	13
<b>第 1 章 Performance Scorecard について</b> .....	15
Performance Scorecard .....	15
主要概念 .....	16
ビジネス・オブジェクト .....	16
アプリケーション .....	16
ドメイン .....	16
ビジネス・オブジェクト .....	17
従業員 .....	17
フレームワーク .....	17
マップおよび戦略ツリー .....	17
メジャー .....	18
次元アウトラインおよび次元メジャー .....	19
スコアカード .....	19
アラート .....	20
イニシアチブ .....	20
ビジネス・オブジェクトの使用 .....	21
アプリケーションの構築 .....	21
命名規則 .....	21
ビジネス・オブジェクトの重複 .....	22
ロックされているビジネス・オブジェクト .....	22
Performance Scorecard の操作方法 .....	22
<b>第 2 章 スタート・ガイド</b> .....	25
要件 .....	25
Performance Scorecard へのアクセス .....	25
EPM Workspace 内の Performance Scorecard .....	26
メニュー・コマンド .....	27
ツールバー .....	29
オブジェクト・ビュー .....	29
ブラウザ・ビュー .....	31
ショートカット・メニュー .....	32

データの検索およびフィルタ処理	33
参照および検索の使用方法	33
ノートの探索	34
データのフィルタ処理	35
製品間検索の使用方法	36
カテゴリの使用方法	36
ポートレットおよび EPM Workspace のページ	37
<b>第 3 章 パフォーマンス管理フレームワークの使用方法</b>	<b>39</b>
フレームワークについて	39
フレームワークを作成する方法	39
アプリケーション・フレームワーク	40
提供されるフレームワーク	40
Balanced Scorecard	40
Stern Stewart の統合された EVA	40
Baldrige Criteria	41
キー・パフォーマンス・インディケータの追跡フレーム・ワーク	41
フレームワークの作成	41
一般設定の定義	42
パースペクティブの作成	42
戦略テーマの作成	43
フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義	43
戦略要素階層の作成	43
責任要素階層の作成	44
用語のカスタマイズ	44
フレームワークの変更	45
フレームワークのコピー	45
フレームワークの削除	45
<b>第 4 章 従業員の操作</b>	<b>47</b>
従業員	47
従業員のデータ・アクセス方法	47
従業員スコアカード	48
システム次元としての従業員	48
従業員の作成について	48
従業員の作成	49
その他の設定	50
プライマリ・スコアカードの作成	50
責任の割当て	51
責任の転送	52

プライマリ・スコアカードの範囲の定義	52
メンバーおよびスコアカード・カテゴリの選択	53
従業員プロフィールの変更	53
従業員のコピーおよび削除	54
<b>第5章 マップの使用方法</b>	<b>55</b>
マップについて	55
戦略ツリー	55
戦略マップ	56
責任マップ	56
マップを基にしたスコアカードの作成	57
マップ要素	57
要件	59
マップ・エディタ	59
戦略ツリーの作成について	60
戦略ツリーの作成	61
戦略要素の設定	62
責任マップの作成	63
責任要素の作成	63
その他のオプション	64
戦略マップの作成について	64
戦略マップの作成	65
背景の作成	65
戦略マップ・エディタ	66
戦略要素の追加	67
マップの変更	68
戦略ツリーおよび責任マップの変更	68
戦略マップの変更	68
マップのリンク	70
戦略ツリーおよびマップのコピーと削除	71
<b>第6章 メジャーの使用方法</b>	<b>73</b>
メジャーについて	73
コンポーネント	73
実績およびスコア	74
目標および複数の値の目標	74
単位	75
頻度について	75
収集されていないメジャー	77
式	77

従業員	77
パフォーマンス・インディケータおよび範囲	78
基本メジャーおよび複合メジャー	78
次元メジャー	78
メジャーの作成について	79
メジャーを作成する前に	79
単位の作成	80
目標の作成	80
複数の値の目標の作成	81
変数の作成	81
パフォーマンス・インディケータの作成	82
名前付き範囲の作成	83
カスタム範囲の作成	84
パフォーマンス・インディケータの変更	85
スコア制限値	85
メジャーの作成	85
一般的な属性の定義	86
カスタム・レポート・オプションの使用方法	86
式および頻度の定義	87
レポート・オプションの定義および従業員の割当て	89
期間累計関数の作成	90
範囲の作成	90
メジャーの変更	91
メジャーのコピー	91
メジャーの削除	92
<b>第7章 次元データの使用方法</b>	<b>93</b>
カスタム次元アウトライン	93
システム次元およびシステム・マップ	94
カスタム次元アウトラインの作成	95
次元メジャーの生成について	96
次元メジャーの生成	96
次元の割当て	97
次元アウトラインを変更する前に	98
次元アウトラインの変更	99
メジャー・テンプレートの変更	99
メジャー・テンプレートのコピーおよび削除	100
<b>第8章 スコアカードの作成</b>	<b>101</b>
スコアカードについて	101

スコアカードのタイプ	102
スコアカード・テンプレート	102
加重	103
範囲およびパフォーマンス・インディケータ	103
スコアカードを作成する前に	103
スコアカード・テンプレートの作成	104
スコアカードの作成について	105
スコアカードの作成	105
コンポーネントの追加	106
範囲の定義	107
セカンダリ・スコアカードへのアクセス制限	108
スコアカードの変更	108
<b>第 9 章 プリファレンスの指定</b>	<b>109</b>
プリファレンスについて	109
アプリケーションのプリファレンスの適用	109
スコアリング制限の指定	109
収集されていないデータまたは使用不可のデータの使用方法	110
メジャーおよび目標の頻度の指定	111
会計年度の開始日の指定	112
年 52 週の使用方法	113
外部 Web ページまたはカスタム・レポートへのリンク	114
汎用およびカスタムの Interactive Reporting レポートの作成	114
スコアカードの表示プリファレンスの指定	115
レポートの期間およびカテゴリの作成	115
個人用プリファレンスの適用	116
<b>第 II 部 コミュニケーションおよびコラボレーション: イニシアチブ、ノートおよびアラートの使用方法</b>	<b>117</b>
<b>第 10 章 イニシアチブの使用方法</b>	<b>119</b>
イニシアチブ・データの表示	119
要件	119
カテゴリのタイプ	120
カテゴリのタイプの作成	120
イニシアチブの作成	120
イニシアチブの更新と変更	122
イニシアチブの削除	122
イニシアチブの階層と依存関係の作成	122
イニシアチブのコピー	123
イニシアチブのリンク	123

イニシアチブのレポート・データのカスタマイズ .....	124
<b>第 11 章 アラートの使用方法 .....</b>	<b>127</b>
アラートについて .....	127
要件 .....	127
メジャーのアラートのタイプ .....	128
スコアカードのアラート .....	128
イニシアチブのアラート .....	128
アラートの作成 .....	129
メジャーのアラートの作成 .....	129
スコアカードのアラートの作成 .....	131
イニシアチブのアラートの作成 .....	133
既存のアラートを使用したアラートの作成 .....	135
通知への動的変数の挿入 .....	136
アラートの変更 .....	137
アラートのコピー .....	138
アラートの削除 .....	138
通知への応答 .....	138
登録について .....	139
アラートの登録 .....	139
既存のアラートの登録 .....	139
アラートの作成および登録の同時実行 .....	140
その他のユーザーのアラートへの登録 .....	140
アラートの登録解除 .....	140
アラートからの他のユーザーの登録解除 .....	141
登録の使用不可設定 .....	141
登録の使用可能設定 .....	141
登録の変更 .....	142
<b>第 12 章 ノートおよび注釈の使用方法 .....</b>	<b>143</b>
ノートについて .....	143
全般のフォーラムからのノートへのアクセス .....	143
ノートの作成 .....	144
ノートへの返答 .....	144
ノートの変更 .....	145
ノートの削除 .....	145
ノートの検索 .....	146
注釈について .....	146
要件 .....	147
注釈の作成 .....	147

注積の変更	147
注積の削除	148
「注積とイニシアチブ」タブ	148
<b>第 III 部 分析およびデータ入力: レポートの使用方法</b>	<b>149</b>
<b>第 13 章 レポートの使用方法</b>	<b>151</b>
全般レポート・タスク	151
メジャー・パフォーマンス・レポートの使用方法	152
メジャー詳細レポートの使用方法	154
イニシアチブの使用方法	156
「実績」タブについて	157
メジャーおよび変数の実績値の入力	158
実績値の変更および削除	159
目標値の入力	159
目標値の変更および削除	160
「実績および目標」タブについて	160
実績および目標の同時入力	161
メジャー使用の特定	162
ノートの使用方法	162
メジャー詳細レポートのカスタマイズ	162
スコアカード・パフォーマンス・レポートの使用方法	163
スコアカード詳細レポートの使用方法	164
全般スコアカード・データへのアクセス	165
スコアカード・コンポーネント・データの表示	165
スコアカード・データのグラフ化	166
ノートの使用方法	167
従業員プロフィール・レポートの使用方法	168
従業員詳細レポートの使用方法	168
アクティブなアラート・レポートの使用方法	169
実績の収集レポートの使用方法	170
変数値の入力	170
イニシアチブ・ステータス・レポートの使用方法	171
戦略レポートの使用方法	172
レポート・データのコピーおよび貼付け	173
<b>第 14 章 ポートレットおよび EPM Workspace ページの構築</b>	<b>175</b>
概要	175
EPM System ページでできる作業	177
EPM Workspace ページの作成	177

EPM Workspace ページのカスタマイズ .....	178
メジャー・データのカスタマイズ .....	179
スコアカード・データのカスタマイズ .....	179
メジャー・パフォーマンス・レポート・データのカスタマイズ .....	180
スコアカード・パフォーマンス・レポートのカスタマイズ .....	181
アクティブなアラート・レポートのカスタマイズ .....	181
従業員プロフィール・レポートのカスタマイズ .....	181
イニシアチブ・ステータス・レポートのカスタマイズ .....	182
ポートレット・ページについて .....	183
ポートレットでの Performance Scorecard の使用方法 .....	183
メジャーのトレンド・テーブル .....	185
メジャーのチャート .....	186
注釈 .....	186
スコアカードのトレンド・テーブル .....	186
スコアカード詳細 .....	187
スコアカードのチャート .....	187
<b>付録 A. 制限付きの次元、メンバーおよび別名文字 .....</b>	<b>189</b>
一般的な制限 .....	189
文字とスペース .....	189
<b>付録 B. 複雑な式の作成 .....</b>	<b>191</b>
式エディタ .....	191
メジャー式の操作 .....	191
パフォーマンス・インディケータの操作 .....	192
レイアウトおよびコンポーネント .....	192
構文と表記規則 .....	195
プレースホルダ .....	195
Value .....	195
Arg .....	196
Attribute .....	196
関数の挿入 .....	196
算術関数 .....	197
統計関数 .....	198
IF 文 .....	202
isNoValue の使用方法 .....	204
時間関連の関数 .....	204
アプリケーション・データの使用法 .....	207
メジャーの使用法 .....	207
スコアカードの使用法 .....	211

変数の使用方法 .....	213
次元メジャーの使用法 .....	213
式の検証 .....	215
一般的なエラーの解決 .....	215
すべての式の検証 .....	216
<b>付録 C. レポート機能の拡張</b> .....	<b>217</b>
Interactive Reporting での Performance Scorecard データの使用法 .....	217
生成されたデフォルトのレポート .....	218
スコアカード・レポート .....	218
メジャーのトレンドを表示するスコアカード .....	218
戦略スコアカード .....	219
Interactive Reporting および BI レポートの設定 .....	220
Performance Scorecard データを含む Interactive Reporting の生成 .....	221
OCE ファイルの作成 .....	221
OCE ファイルのインポート .....	222
BQY ファイルのインポート .....	222
Interactive Reporting レポートの生成 .....	224
生成されたレポートの表示 .....	225
カスタム・レポートおよび Interactive Reporting レポートへのリンクの追加 ..	225
汎用 Performance Scorecard レポートへのリンク .....	226
<b>用語集</b> .....	<b>229</b>
<b>索引</b> .....	<b>257</b>



---

## 第 I 部

# 戦略を定義および評価するためのアプリケーション構築

---

戦略を定義および評価するためのアプリケーション構築の内容：

- [Performance Scorecard について](#)
- [スタート・ガイド](#)
- [パフォーマンス管理フレームワークの使用方法](#)
- [従業員の操作](#)
- [マップの使用方法](#)
- [メジャーの使用方法](#)
- [次元データの使用方法](#)
- [スコアカードの作成](#)
- [プリファレンスの指定](#)



# 1

# Performance Scorecardについて

## この章の内容

Performance Scorecard .....	15
主要概念 .....	16
ビジネス・オブジェクト .....	17
ビジネス・オブジェクトの使用 .....	21
Performance Scorecard の操作方法 .....	22

## Performance Scorecard

Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition では、変化するビジネス要件に適合させるために、企業および部署の戦略を定義、評価および詳細設定できます。Performance Scorecard を使用して、次のタスクを実行します。

- 次のタスクを実行することで、企業および部署の戦略と責任の構造を示し、発展させる。
  - 顧客の焦点など、組織のキーとなる領域の役割を示す、業界が認めるパフォーマンス管理フレームワークを使用する。
  - レベルの高い戦略目標をプロセスやアクションに変換する方法を示す戦略ツリーを作成する。
  - 戦略目標またはアクションに従業員を関連付ける。
  - レポート階層を表す責任マップを作成する。
- 次のタスクを実行することで、戦略要素、ビジネス領域および従業員のパフォーマンスを評価する。
  - 内部原価や純利益など、組織の健全性に重要なデータを数値化するメジャーを作成する。
  - 従業員個人、戦略要素および責任要素の進行状況を評価するスコアカードを作成する。
- 次のタスクを実行することで、パフォーマンスを監視し、その変化に対応する。
  - 主要ビジネス・オブジェクトが許容範囲から外れた場合に通知するアラートを登録する。
  - 戦略イニシアチブ、責任要素および従業員の進行状況を反映するレポートを生成する。

16 ページの「主要概念」、16 ページの「ビジネス・オブジェクト」および21 ページの「アプリケーションの構築」を参照してください。

# 主要概念

次のトピックで、Performance Scorecard の基礎となる概念について説明します。

- 16 ページの「ビジネス・オブジェクト」
- 16 ページの「アプリケーション」
- 16 ページの「ドメイン」

## ビジネス・オブジェクト

Performance Scorecard で作成した戦略要素およびメジャーなどのアイテムは、ビジネス・オブジェクトと呼ばれます。ビジネス・オブジェクトにより、様々なタスクを実行できます。たとえば、会社または部署の戦略を表す戦略ツリーは、先に戦略要素を作成してからこれらを編成することで構築します。同様に、従業員、責任チームおよび戦略要素のパフォーマンスを評価するためにスコアカードを作成する場合は、これらのスコアカードで使用するメジャーを先に作成します。

ビジネス・オブジェクトの相互動作は、アプリケーションと呼ばれます。ビジネス・オブジェクトへの変更は、管理者がアクセス権を持つ監査レポートに記録されます。

16 ページの「ビジネス・オブジェクト」を参照してください。

ビジネス・オブジェクトは、21 ページの「アプリケーションの構築」で示されているシーケンスで作成してください。

## アプリケーション

アプリケーションとは、戦略、責任およびスコアカードの構造を形成するためにともに機能するビジネス・オブジェクトを指す概念です。アプリケーションは概念であるため、開いたり、作成または削除したりできません。

大規模な組織では、複数のアプリケーション・デザイナーが特定の企業領域またはドメインでアプリケーションをそれぞれ作成します。

## ドメイン

組織の明確な部署または場所を表すドメインで従業員およびマップなどのビジネス・オブジェクトを整理できます。たとえば、人事部のアプリケーションを作成するには、管理者に人事部ドメインを作成してもらいます。このドメインに次のオブジェクトを関連付けできます。

- 従業員とそのスコアカード
- メジャー
- メジャー・テンプレート
- マップ

ドメインの作成方法については、『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

# ビジネス・オブジェクト

このトピックでは、次のビジネス・オブジェクトを使用する方法について説明します。

- [17 ページの「従業員」](#)
- [17 ページの「フレームワーク」](#)
- [17 ページの「マップおよび戦略ツリー」](#)
- [18 ページの「メジャー」](#)
- [19 ページの「次元アウトラインおよび次元メジャー」](#)
- [19 ページの「スコアカード」](#)
- [20 ページの「アラート」](#)

## 従業員

通常、従業員は、メジャー実績の入力、戦略要素での作業、スコアカードの作成など、関連付けられているオブジェクトに関するタスクを実行する責任を持つすべての Performance Scorecard ユーザーを表します。管理者は、従業員のユーザー・アカウントを作成して、これらの設定を適用し、次のデータへのアクセス権を付与します。

- **ドメイン:** 部署やオフィスなど、従業員が勤務する機能的または地理的な領域。
- **セキュリティの役割:** 従業員が表示できるスコアカード、メジャー、イニシアチブおよびレポートを決定する権限のセット。

**ヒント:** ユーザーがドメインのメジャー、スコアカードおよびイニシアチブに自動的にアクセスできるようにするには、管理者が、**汎用デザイナー**のセキュリティ役割を割り当てる必要があります。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

## フレームワーク

フレームワークは、Balanced Scorecard など、ほとんどの組織の基礎となるビジネス領域の重要性を示すビジネス手法です。

フレームワークを使用して、各領域に関連するメジャーを論理的にグループ化します。また、関連する戦略目標、要素およびアクションをグループ化できるため、戦略の基本としてフレームワークも使用できます。

Performance Scorecard に付属のフレームワークを使用するか、ニーズに合わせてこれらのフレームワークのいずれかをカスタマイズできます。[39 ページの「パフォーマンス管理フレームワークの使用方法」](#)を参照してください。

## マップおよび戦略ツリー

次のオブジェクトを作成して、組織での戦略および責任の構造を表現します。

- 企業および部署の戦略を形成する個々のコンポーネント、戦略要素を識別する戦略ツリー。18 ページの「[戦略ツリー](#)」を参照してください。
- 企業および部署の戦略を達成するために戦略要素にどのように結び付けられるかを表現する戦略マップ。18 ページの「[戦略マップ](#)」を参照してください。
- 企業または部署のレポート構造を識別する責任マップ。18 ページの「[責任マップ](#)」を参照してください。

個々の戦略マップおよび戦略ツリーで部署またはオフィスを表すのにドメインを使用する場合は、これらのアイテムをリンクして全体的なつながりを表せます。70 ページの「[マップのリンク](#)」を参照してください。

## 戦略ツリー

組織のすべてのレベルで戦略目標を識別および明確にすることは、パフォーマンス管理の中心となります。中央集中化された包括的で伝達可能な戦略がないと、組織で、適切にその目標を達成したり再評価したりできません。

高レベルの戦略目標をプロセスやアクション(戦略要素)に変換する戦略ツリーを作成した後、責任を持つ従業員を割り当てます。これにより、従業員が、企業戦略のレベルに自分の役割がどのように貢献するかを理解できるようになります。60 ページの「[戦略ツリーの作成について](#)」を参照してください。

## 責任マップ

責任マップを使用して、次のビジネス領域(責任要素)のレポート構造を示します。

- 部署
- タスク・フォースおよび委員会
- 個々の従業員

63 ページの「[責任マップの作成](#)」を参照してください。

## 戦略マップ

戦略マップは、企業またはドメインの戦略をサポートするために、パースペクティブおよび戦略要素がどのように関係するかを図示します。戦略マップ上の要素間のリンクは、1つの要素を変更すると、他の要素にどのように影響するかを示します。これにより、戦略の変更を予測および調整できるようになります。64 ページの「[戦略マップの作成について](#)」を参照してください。

## メジャー

メジャーを使用すると、パフォーマンスまたは戦略目標に対する進行状況を示す数値化可能なデータである目標を収集できます。たとえば、1つの戦略目標が製品の品質を向上させる場合は、「返品の数」や「低い顧客満足度」というメジャーを作成できます。これらのメジャーは、返品の数、および不満を感じている顧客の数を特定することで、製品の品質を反映します。

メジャーを使用して、次のオブジェクトの進行状況を評価および監視します。

- 従業員個人またはグループ
- 戦略目標およびその他の戦略要素
- その他の論理的にグループ化されたスコアカード

実績の入力および目標の定義などのタスクを実行する従業員をメジャーに割り当てます。

Oracle Essbase データベースからのデータを使用して、次元メジャーを作成できます。

73 ページの「メジャーの使用方法」を参照してください。

## 次元アウトラインおよび次元メジャー

次元は、メジャーを整理するために作成できる階層カテゴリです。次元を使用すると、次のタスクを実行できます。

- 製品、配送チャネル、地理的領域などのグループ別にメジャーを分析する。  
たとえば、地理的な次元には、北米、ヨーロッパおよびオーストラリアのメジャーをグループ化できます。
- 地域別の売上高など、メジャーが交差するところでデータを収集する次元メジャーを生成する。
- アプリケーション・データで、多次元 Essbase データベースを生成する。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。
- 他の Hyperion 製品で使用するために、外部データ・ソースへのアプリケーション・データを生成する。

Performance Scorecard は、次のオブジェクトを作成する際に定義する戦略階層および責任階層を表す次元アウトラインを自動的に作成します。

- 戦略要素
- 責任要素
- 従業員

これらの各アイテムは、システム次元およびメンバーによって表されます。デフォルトの次元アウトラインを使用すると、次のタスクを実行できます。

- 戦略ツリーおよび責任マップを基にした次元メジャーを生成する。
- 次元メジャーを使用してパフォーマンスを評価するスコアカードを作成する際に、使用するメンバーを選択する。選択したメンバーの次元メジャーのみが、スコアカードの計算で使用されます。
- メンバーの選択を使用して、次元メジャーの生成で使用するメンバーを選択する。

## スコアカード

スコアカードにより、次のオブジェクトのパフォーマンスを評価して追跡できます。

- 部署や委員会などの責任要素
- 戦略目標などの戦略要素
- その他の従業員

これらのオブジェクトのパフォーマンス・ステータスは、スコアカードにオブジェクトの進行状況を追跡するメジャーを追加することで判定されます。各メジャーが達成するスコアは、パフォーマンス・レベルをグラフィカルに反映するパフォーマンス・インディケータに範囲を設定することによって評価されます。

マネージャは、自分に報告してくる従業員のスコアカードを作成します。これらのスコアカードが、プライマリ・スコアカードです。

自分が作業しているメジャー、戦略目標およびビジネス領域を評価および監視するために作成できる他のスコアカードは、セカンダリ・スコアカードと呼ばれます。101 ページの「スコアカードの作成」を参照してください。

組織または部署内で、共通の基準を使用してパフォーマンスを評価する場合は、スコアカード・テンプレートを使用します。テンプレート上のメジャーとスコアカードを新しいスコアカードに配置するには、新しいスコアカードにスコアカード・テンプレートを割り当てます。他のユーザーがスコアカード・テンプレートから継承したコンポーネント・スコアカードを追加または変更できないようにするには、スコアカード・テンプレートをロックします。

## アラート

アラートは、ビジネス・オブジェクトのパフォーマンスが、定義した許容可能な範囲から逸脱している場合に、電子メールで通知されます。アラートは、次のオブジェクトのパフォーマンスを監視する場合に作成します。

- メジャー
- スコアカード
- 従業員
- 戦略要素と責任要素

メジャー実績収集の期限が近い場合、期限になった場合、または期限が切れている場合にもアラートが表示されます。

デザイナー、またはデザイナーのセキュリティの役割を持つユーザーは、その他のユーザーが登録可能なパブリック・アラートを作成できます。

第 11 章「アラートの使用方法」を参照してください。

## イニシアチブ

イニシアチブは、プロジェクト・マイルストーンなどの、特定期間内で完了する必要がある個別のタスクまたは関連のタスクです。イニシアチブは、メジャー、戦略要素および責任要素に関連付けできます。イニシアチブが進行すると、(部分的な完了などの)ステータスが更新され、含まれる要因のパフォーマンスや位置が反映されます。複合的なイニシアチブ・ビューを作成して、1つのイニシアチブに含まれるすべてのオブジェクトおよび要素を確認できます。これにより、含まれるすべての要因を考察できるため、イニシアチブの潜在的な問題を識別して、より包括的に把握できます。

イニシアチブはコンテキストに依存し、販売イベントなどのレポートの期間に関連付けられます。その期間中は注釈を使用できます。イニシアチブは、カテゴリを使用して論理的にグループ化できます。管理者は、作成や削除などの、ユーザーがイニシアチブで実行できるタスクを指定できます。

## ビジネス・オブジェクトの使用

次のトピックでは、ビジネス・オブジェクトを作成する際に従う必要のあるルールについて説明します。

- [21 ページの「アプリケーションの構築」](#)
- [21 ページの「命名規則」](#)
- [22 ページの「ビジネス・オブジェクトの重複」](#)
- [22 ページの「ロックされているビジネス・オブジェクト」](#)

## アプリケーションの構築

アプリケーションを開発する場合は、次の順序でビジネス・オブジェクトを作成します。

1. フレームワーク
2. 従業員
3. メジャー
4. 責任要素
5. 戦略要素および戦略ツリー
6. 戦略マップ
7. スコアカード・テンプレート
8. スコアカード

## 命名規則

同じタイプのビジネス・オブジェクトには、一意の名前を付けます。たとえば、スコアカードと目標は同じ名前にできますが、2つの目標に同じ名前は付けられません。

ビジネス・オブジェクトの名前には、次のコンポーネントに使用できない文字を含めないでください。

- Essbase
- 使用しているリレーショナル・データベース

[189 ページの「制限付きの次元、メンバーおよび別名文字」](#)を参照してください。

ビジネス・オブジェクトの名前は、大文字と小文字は区別されません。そのため、NetProfit という名前のメジャーは、別のメジャー netprofit と同じであるとみなされます。

## ビジネス・オブジェクトの重複

アップグレードされたデータベースを使用すると、同じ名前のビジネス・オブジェクトは追加されます。たとえば、SalesSingapore という名前のメジャーが3つ存在する場合は、残りの2つのメジャーは SalesSingapore1 および SalesSingapore2 のように名前変更されます。これらのメジャーは以降も存在し続けます。

SalesSingapore

SalesSingapore1

SalesSingapore2

## ロックされているビジネス・オブジェクト

次のような場合、ビジネス・オブジェクトは変更できないようにロックされます。

- メジャーの収集期限の延長が経過した場合。  
これは、実績が入力または変更できないことを意味します。収集期限の延長期限が切れた後に実績を入力するには、管理者に、自分のユーザー・アカウントから「実績の収集の管理」制限を除去するよう依頼してください。
- 別のユーザーがビジネス・オブジェクトを編集している場合。  
この状況では上書きできません。ユーザーの作業が終了するまで待つ必要があります。

**ヒント：** ビジネス・オブジェクトが間違っていてロックされていると思われる場合は、ロックされているビジネス・オブジェクトのレポートを使用してロックを解除するよう管理者に依頼してください。

## Performance Scorecard の操作方法

実行可能なタスクおよびアクセス可能なデータは、自分のアカウントに割り当てられたセキュリティの役割によって決定されます。セキュリティの役割は管理者が作成できますが、Performance Scorecard では次の役割が用意されています。

- ユーザー: レポートで使用するデータへのアクセスおよび(権限が付与されている場合は)入力ができます。また、ノート、イニシアチブおよびアラートも使用できます。ブラウザ・ビューを使用します。
- デザイナ: 上記のタスクを実行できるほか、マップ、メジャーおよびスコアカードなどのオブジェクトを作成および変更することでアプリケーションも構築できます。また、他のユーザーをアラートに登録できます。オブジェクト・ビューとブラウザ・ビューを使用できます。
- 汎用ドメイン・デザイナー: 上記のタスクを実行できるほか、部署や支社など、ドメイン別に表される組織内の機能的または地理的な領域に対し、アプリケーションを作成できます。
- 管理: カスタムのセキュリティ役割の定義、アプリケーションとアプリケーション・データの移行、外部データ・ソースの構成、アプリケーション・データの Essbase データベースの生成およびユーザー・アクティビティの監視などの

アプリケーション管理タスクを実行できます。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。



# 2

## スタート・ガイド

### この章の内容

要件 .....	25
Performance Scorecard へのアクセス .....	25
EPM Workspace 内の Performance Scorecard .....	26
データの検索およびフィルタ処理 .....	33
ポートレットおよび EPM Workspace のページ .....	37

## 要件

Performance Scorecard を使用する前に、設定に基づいて、管理者が次のタスクを実行する必要があります。

- 新規ユーザーに対しては、管理者は次のタスクを実行する必要があります。
  - ユーザー(基本)またはデザイナー(対話型)のセキュリティ役割が割り当てられる Oracle Hyperion(R) Shared Services に、アカウントを作成およびプロビジョニングします。  
『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
  - Performance Scorecard および Shared Services を同期化します。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。
- 既存のユーザーに対しては、管理者は Shared Services 内に設定されていないアカウントを移行する必要があります。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』の第 2 章を参照してください。

## Performance Scorecard へのアクセス

Performance Scorecard は、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition の専用のタブで起動します。

- ▶ Performance Scorecard にアクセスするには、次の手順に従います。
  - 1 Shared Services および EPM Workspace を開始します。
  - 2 EPM Workspace にログオンします。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。

### 3 次のタスクを実行します。

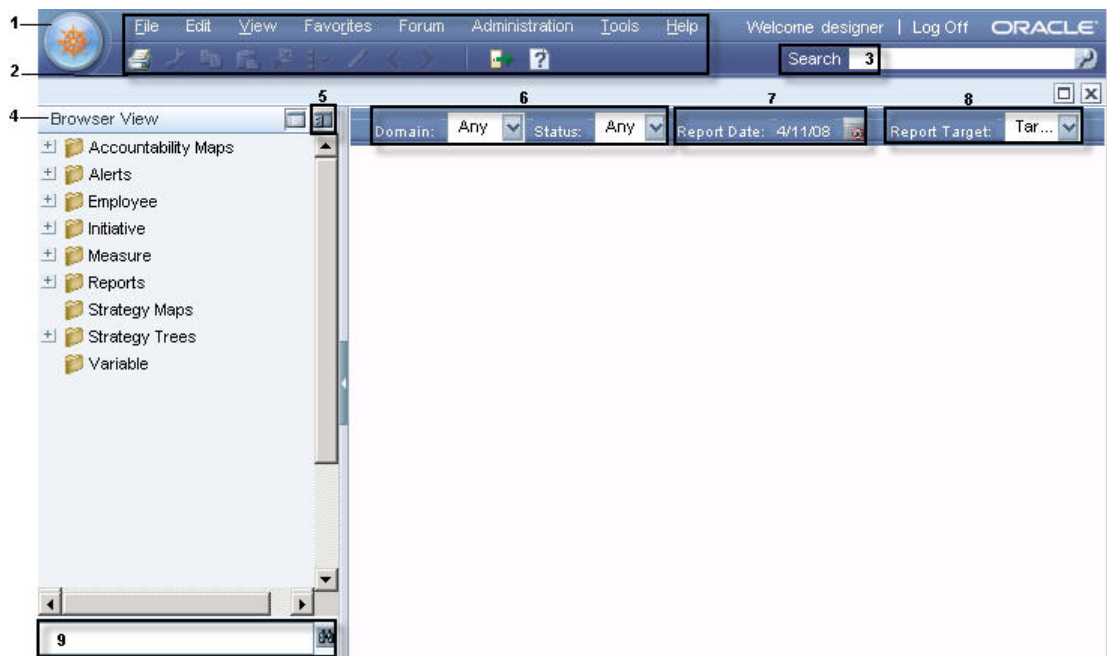
- 「ファイル」 > 「アプリケーション」 > 「Performance Scorecard」 を選択します。
- 「お気に入り」 > 「Performance Scorecard」 を選択します。

## EPM Workspace 内の Performance Scorecard


Performance Scorecard には、2つのペインがあります。

- 左のビュー・ペインには2つのビュー・タブがあり、作成またはアクセスできるデータへのリンクが表示されます。
- 右のコンテンツ・ペインには、メニュー・バーまたは Performance Scorecard のツール・バーから、ビュー・タブで行った選択に基づいて、データが表示されます。

図 1 Performance Scorecard




Performance Scorecard には、次の領域とツールがあります。

1. 左上にあるナビゲーション・アイコン  により、インパクト・マネージャおよびスケジューラなどの一般的なツールにアクセスできます。『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。
2. メニュー・バーおよびツールバーでは、ワークスペースで一般的なタスクだけでなく、Performance Scorecard 固有のタスクも実行できます。
3. 右上の検索ボックスでは、EPM Workspace で開いているすべての製品アプリケーションでデータを検索できます。これはグローバル検索とも呼ばれます。[33 ページの「参照および検索の使用法」](#)を参照してください。
4. ブラウザ・ビューには、アクセス、レポートおよびアラートが可能なデータへのリンクが表示されます。このビューには、Performance Scorecard 内のデー

タのみを見つけることのできる検索もあります。31 ページの「ブラウザ・ビュー」を参照してください。

5. オブジェクト・ビューはデザイナーのみが使用可能で、従業員、メジャー、マップおよびスコアカードなどのアプリケーションを構築するときに作成するオブジェクトなどが表示されます。29 ページの「オブジェクト・ビュー」を参照してください。
6. Performance Scorecard ツールバーの「ドメイン」および「ステータス・フィルタ」では、ドメインおよびパフォーマンス・レベル別に表示されるデータを制限できます。
7. Performance Scorecard ツールバーの「レポート日」リストでは、レポートで表示するデータの日付を選択できます。
8. Performance Scorecard ツールバーの「レポートの出力先」には、作成するすべての出力先が含まれています。このリストにより、その他の出力先を使用して計算を実行できます。選択された出力先は、レポートの出力先と呼ばれます。

メジャー・パフォーマンスおよびスコアカード・パフォーマンスなどのレポートで複数の出力先を使用して、メジャーまたはスコアカード・データを計算および表示するには、「編集」>「カスタマイズ」を選択してから、使用する出力先を選択します。第 13 章「レポートの使用法」を参照してください。

9. 検索フィルタでは、Performance Scorecard アプリケーション内でのみデータを検索して、ブラウザ・ビューに表示します。たとえば、メジャー名を入力してから検索アイコンをクリックすると、ブラウザ・ビューのタブにあるメジャーのみが表示されます。33 ページの「参照および検索の使用法」を参照してください。

## メニュー・コマンド

この項では、次のメニューにある Performance Scorecard 固有のコマンドについて説明します。その他のすべてのメニューに関する詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。

- 27 ページの「ファイル」
- 28 ページの「編集」
- 28 ページの「スコアカードのお気に入り」
- 28 ページの「フォーラム」
- 28 ページの「ヘルプ」

「管理」メニューは、管理セキュリティの役割が自分のアカウントに割り当てられた場合に使用できます。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

## ファイル

次のコマンドを使用できます。

- プリファレンス - 個人用プリファレンスを指定します。109 ページの「[プリファレンスの指定](#)」を参照してください。
- スコアカードの構成 - スコアの制限および頻度の設定など、アプリケーション・レベルのプリファレンスを指定し、任意で適用します。109 ページの「[プリファレンスの指定](#)」を参照してください。
- Excel にエクスポート - レポートに関するスコアカードおよびメジャー・データを Microsoft Excel で使用できるようにします。

## 編集

次のコマンドを使用できます。

- コピー - 実績の収集およびメジャー実績のレポートでデータをコピーします。
- リンクのコピー - 現在の「Performance Scorecard」ページへのリンクを作成して、Microsoft Outlook などの他のアプリケーションに貼り付けられるようにします。リンクを埋め込んだアプリケーションに SSO トークンを追加すると、Performance Scorecard にログオンする必要はなくなります。それ以外の場合は、リンクされたページを表示するために Performance Scorecard にログオンします。
- 編集 - レポートのビジネス・オブジェクト設定データを変更します。たとえば、メジャー詳細のレポートのメジャー設定を変更できます。
- カスタマイズ - レポートに表示される、追加データまたは複数のターゲットの使用などのデフォルトのコンテンツを変更します。

## スコアカードのお気に入り

次のコマンドを使用できます。

- 現在のページの追加 - ページをお気に入りの 1 つとしてブックマークします。
- お気に入りの編集 - お気に入りの表示順序またはお気に入りのタイトルを変更します。

## フォーラム

次のコマンドを使用できます。

- 全般 - 特定のビジネス・オブジェクトに関連しないノートを作成したり、ノートに返答します。
- 検索 - 特定の基準を含むノートおよび注釈のあるフォーラムを検索します。

143 ページの「[ノートについて](#)」を参照してください。




## ヘルプ

開いているすべての製品アプリケーションのオンライン・ヘルプにアクセスするには、「ヘルプ」>「コンテンツ」を選択します。コンテキストに依存するヘルプにアクセスするには、「ヘルプ」>「このトピックのヘルプ」を選択します。たと

例えば、「メジャー設定」ページでメジャーを作成しているときにヘルプを参照するには、「ヘルプ」>「このトピックのヘルプ」を選択します。


## ツールバー

Performance Scorecard 特有のツールバー・ボタンを使用すると、データの編集、データのエクスポートおよびレポートのカスタマイズができます。

- 任意のデータを Microsoft Excel のスプレッドシート・ファイルにエクスポートするには、「Microsoft Excel にエクスポート」ボタン  をクリックします。
- レポートのデフォルトのデータと設定を変更するには、「カスタマイズ」ボタン  をクリックします。
- 編集ボタン  をクリックすると、レポートの従業員やメジャーなどのオブジェクトを変更できます。

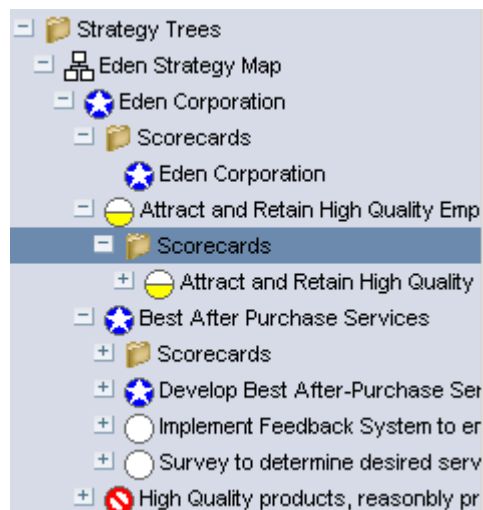
ツールバーの他のボタンについての詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。

## オブジェクト・ビュー

ビュー・ペインの右上の「オブジェクト・ビュー」タブ  には、従業員、マップおよびメジャーなど、システム内のすべてのオブジェクトが作成日および更新日で編成されて一覧表示されます。オブジェクトは、フォルダおよびツリー内で階層的に表示されます。オブジェクトでは次のように作業できます。

- 右クリックしてショートカット・メニューを使用する。
  - オブジェクトを選択して編集する
  - フォルダを選択して表示されるリスト・ボックスでボタンを使用する
- アプリケーションに基づいて、データは次のように表示されます。
- マップは、フォルダ内で、責任などのタイプ別に編成されます。マップを構築するために作成した要素は、各マップの下に階層的に表示されます。
  - 従業員、戦略要素および責任要素のパフォーマンスを監視するスコアカードは、各要素の下にある「スコアカード」フォルダ内に次のように表示されます。

図2 サンプルの戦略マップ要素のスコアカード・エクスプローラ

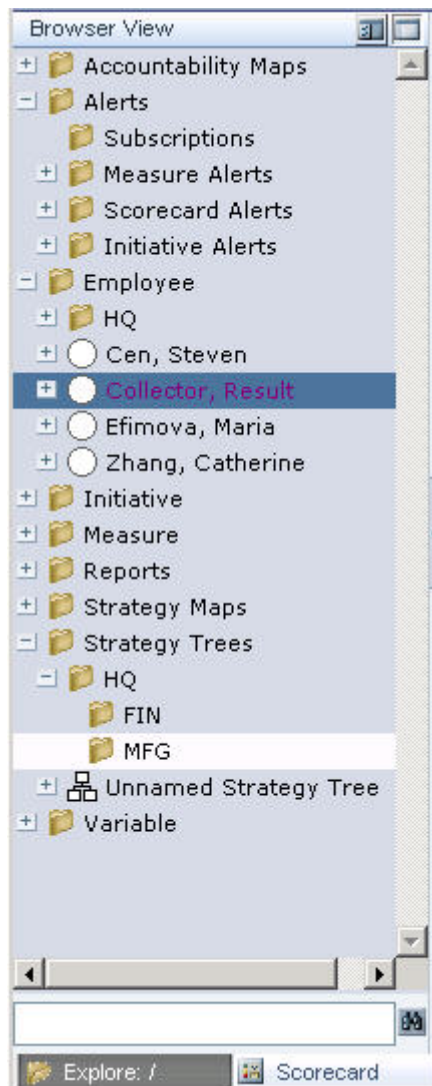


- 組織内の個別の物理的または機能的な領域を表すためにドメインを使用している場合は、ドメイン内のオブジェクトはオブジェクト・フォルダ内のドメイン・フォルダに表示されます。たとえば、Marketing ドメイン内のメジャーは、「メジャー」フォルダ内の Marketing というフォルダに表示されます。

他のメジャーの式で使用する複合メジャーも、ドメインによって表示されます。複合メジャーをドリル・ダウンすると、すべての子が表示されます。

## ブラウザ・ビュー

オブジェクト・ビューの左にある「ブラウザ・ビュー」タブ



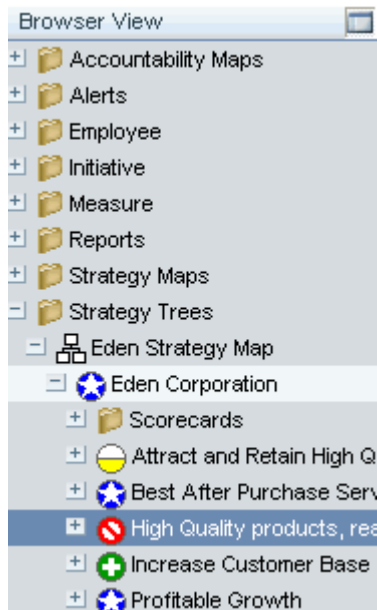
には、システム内のオブジェクトが表示用およびレポート用に編成されて一覧表示されます。次のデータにアクセスできます。

- 表示できるメジャー、マップ、従業員、アラートおよびイニシアチブ。スコアカードは、評価対象のオブジェクトの下に表示されます。情報を表示するにはオブジェクトを選択します。たとえば、イニシアチブを選択するとステータス・レポートが開き、メジャーを選択すると詳細レポートが開きます。

組織内の明確な領域を表すためにドメインを使用している場合は、ドメイン内のオブジェクトは、オブジェクト・エクスプローラのドメイン・フォルダ内に表示されます。たとえば、Marketing 部のドメインのフォルダは、マップ、従業員およびメジャーのフォルダに表示されます。

- データの分析および入力に使用されるレポート。第 13 章「[レポートの使用方法](#)」を参照してください。
- Performance Scorecard アプリケーションのデータを探せるようにする検索ボックス。33 ページの「[参照および検索の使用方法](#)」を参照してください。

図3 サンプルのブラウザ・ビュー



データを別途整理するには、33 ページの「データの検索およびフィルタ処理」を参照してください。

次のタスクを実行できます。

- 情報を表示するにはオブジェクトを選択します。たとえば、メジャーを選択すると、メジャー詳細のレポートが表示されます。
- 右クリックからのショートカット・メニューを使用した、オブジェクトのコピー、編集および削除。

## ショートカット・メニュー

右クリックのショートカット・メニューにより、次のような様々なタスクを実行できます。

- オブジェクトの変更または削除(許可されている場合)
- 従業員、メジャーおよびスコアカードの様々な種類のデータを表示する。  
たとえば、前に収集したメジャー実績を表示するには、メジャーを右クリックして「表示」>「実績」を選択します。
- ドメイン別のデータおよびマネージャ別の従業員をグループ化する。
- 従業員、戦略要素および責任要素のセカンダリ・スコアカードを作成する。  
たとえば、従業員のセカンダリ・スコアカードを作成するには、従業員の「スコアカード」フォルダを選択して右クリックし、「追加」を選択します。
- 添付ファイルへのリンクをコピーする。コピーしたリンクを貼り付けることで、添付ファイルへのリンクを別のレポートに追加できます。
- マップから戦略レポートにアクセスする。
- 他のユーザーが電子メールなどのサードパーティ製ツールでアプリケーション・データを表示するのに使用できるリンクを作成する。
- ビューをリフレッシュして最新の変更を反映する。

## データの検索およびフィルタ処理

この項では、ノートとデータを検索する方法について説明します。データを論理的に表示する方法、またはデータをドメイン別やパフォーマンス・ステータス別に表示する方法についても説明します。次の項を参照してください。

- [33 ページの「参照および検索の使用方法」](#)
- [34 ページの「ノートの探索」](#)
- [35 ページの「データのフィルタ処理」](#)
- [36 ページの「カテゴリの使用方法」](#)

### 参照および検索の使用方法

次のように、Performance Scorecard のデータを見つけて表示できます。

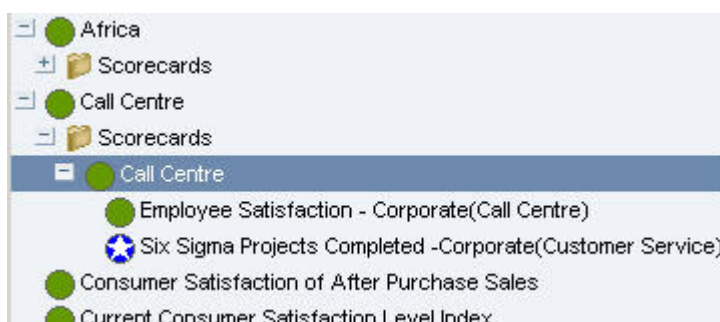
- EPM Workspace で開いている他のアプリケーションからのグローバル検索を使用 - ツールバーの右にある「**検索**」ボックスに、基準を入力します。名前による基本検索を実行するか、「**詳細検索**」を選択して日付、場所などで検索します。[36 ページの「製品間検索の使用方法」](#)を参照してください。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』の第 4 章を参照してください。
- Performance Scorecard 内 - 従業員、戦略要素、責任要素、メジャー、変数、アラートおよびレポートを検索するには、ブラウザ・ビューの左下にある「**検索**」ボックスに名前を入力します。戻されるデータは、アプリケーション階層でのデータの使用に関連して表示されます。たとえば、「収益」と入力すると、アプリケーションでの使用(スコアカード関連など)に関連する名前の初めに「収益」が付いたメジャーなどのすべてのオブジェクトを戻します。

図4 サンプルの検索結果



パフォーマンスのステータスでオブジェクトを参照し、表示もできます。たとえば、「良好」と入力すると、次の例のように、メジャーおよびスコアカードなど、現在高いパフォーマンス・レベルを持つすべてのオブジェクトが表示されます。

図5 パフォーマンス・レベルによるサンプル検索



## ノートの探索

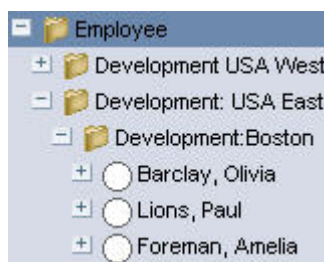
特定の基準を含むトピック、ノートまたはディスカッション・スレッドを検索するには、「フォーラム」>「検索」を選択し、検索基準を入力します。[146 ページ](#)の「[ノートの検索](#)」を参照してください。

## データのフィルタ処理

特定ドメイン内のデータのみを表示するには、「ドメイン」フィルタを使用します。この操作により、組織内の明確な領域ごとにデータを表示できます。たとえば、地域の営業所のドメインを選択すると、その営業所に関連付けられたイニシアチブなどのデータのみが表示されます。

マップ、従業員およびイニシアチブをドメイン別に配置するには、これらのフォルダを右クリックし、ショートカット・メニューから「ドメインでグループ化」を選択します。ビューがリフレッシュされ、ドメイン構造が表示されます。次のサンプルでは、米国東部の開発担当従業員が場所でグループ化されます。

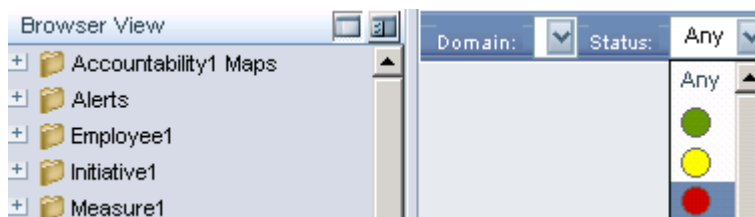
図 6 サンプルのドメインベース・フィルタ



レポートの階層を表すため、マネージャ配下の従業員を表示するには、従業員を右クリックして「マネージャでグループ化」を選択します。

特定のパフォーマンス・レベルにあるメジャー、従業員、責任要素、戦略要素、スコアカードおよびイニシアチブのみを表示するには、「ステータス」フィルタを使用します。たとえば、危険性のあるオブジェクトおよびデータを表示するには、次に示すようなパフォーマンスの劣化を表すインディケータを選択します。

図 7 ステータス別のフィルタ処理



両方のフィルタにより、次のレポートに示されるメジャー、イニシアチブ、スコアカード、従業員、マップおよびマップ要素が変更されます。

- メジャー・パフォーマンス
- スコアカード・パフォーマンス
- 従業員プロフィール
- イニシアチブ・ステータス
- マップ戦略レポート

## 製品間検索の使用方法

EPM Workspace の任意のリポジトリからドキュメント、レポートおよびダッシュボードを検索および取得できます。検索操作により、ドキュメント名、作成日、ファイル・タイプなど、ドキュメント特有のメタデータ内でユーザーのキーワードを見つけることで結果のリストが戻されます。次のタイプの検索を実行できます。

- 一般 - EPM Workspace で公開されているすべてのサポートされているコンテンツにあるキーワードの検索
- 詳細 - 日付、日付範囲、場所および優先度による検索
- コンテキスト依存 - EPM Workspace で公開されているすべてのサポートされているコンテンツで特定のコンテンツの特徴に関連するキーワードの検索
- 階層内 - EPM Workspace または選択したリポジトリの選択したブランチに制限した一般またはコンテキスト依存の検索
- データまたはメタデータ - コンテキストが静的である場合は、メタデータとデータの両方が索引付けされます(たとえば、フィルタ名とフィルタ用に選択した値)。コンテキストが動的である場合は、メタデータのみが索引付けされます(たとえば、列名のみ)。

検索結果は次のように表示されます。

- コンテンツ・タイプ、変更日、および EPM Workspace 内のファイルの場所に基づいて分類
- 関連性または変更日によってソート
- 承認済。ユーザーのログイン情報により、ユーザーが承認した承認済コンテンツのみが戻されることを保証します。

デフォルトで、結果は、ドキュメントでキーワードが検出された回数、およびドキュメントでその他のキーワードが検出された回数で決まるスコアによってソートされます。

## カテゴリの使用方法

レポートとビュー・タブ内のスコアカードとイニシアチブを論理的に整理するには、カテゴリを使用します。

- ▶ カテゴリを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューから、カテゴリを選択し、次の中からタイプを選択します。
    - スコアカード - 戦略要素または従業員などの類似したスコアカードでグループ化します。
    - イニシアチブ・タイプ - 個人または部署などのイニシアチブの種類でグループ化します。
    - イニシアチブ・ステータス - 完了の程度に基づいてイニシアチブをグループ化します。
    - 優先度 - 重要性または緊急性でイニシアチブをグループ化します。
  - 2 追加をクリックします。

- 3 カテゴリ名を入力します。たとえば、財務関連のスコアカードのカテゴリを作成するには、財務と入力します。
- 4 説明に、カテゴリの目的の概要を入力します。
- 5 順序で、カテゴリが表示されるシーケンスを指定します。

これで、スコアカードまたはイニシアチブにカテゴリを関連付けできます。

## ポートレットおよび EPM Workspace のページ

EPM Workspace またはポートレットのカスタム・ページを使用して、チーム、部署または組織で最も重要なメトリックと情報を表示することで、アプリケーション・データのカスタム・ビューを作成できます。ポートレットのページを作成すると、ポートレット環境内で指定した主要なデータを表示、調査およびレンダリングできます。このデータには Performance Scorecard を起動してアクセスできますが、ポートレットからデータは変更できません。たとえば、ポートレットを作成すると、現在および前のメジャー・スコアや実績などの詳細情報に、メジャー・パフォーマンス・レポートなどの上位レベルのエントリ・ポイントからアクセスできます。Oracle Hyperion EPM System のポータル設定ガイドを参照してください。

EPM Workspace ページを作成すると、主要な情報を、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンポーネントとしてインストールされた製品アプリケーションから、同じように表示できます。同時に、次のデータを含む Workspace ページを構築して、これらのデータの表示方法を調整したり、主要データを詳細にカスタマイズした表示を作成したりできます。

- 従業員のスコアカード
- 戦略要素および責任要素のスコアカード
- メジャーおよび次元メジャー
- アクティブなアラート・レポート
- イニシアチブ・ステータス・レポート
- 従業員プロフィール・レポート
- メジャー・パフォーマンス・レポート
- スコアカード・パフォーマンス・レポート
- カスタム・レポート

177 ページの「[EPM Workspace ページの作成](#)」を参照してください。



# 3

## パフォーマンス管理フレームワークの使用方法

### この章の内容

フレームワークについて.....	39
フレームワークを作成する方法.....	39
アプリケーション・フレームワーク.....	40
提供されるフレームワーク.....	40
フレームワークの作成.....	41
フレームワークの変更.....	45
フレームワークのコピー.....	45
フレームワークの削除.....	45

## フレームワークについて

フレームワークは、財務および顧客関係など、パースペクティブと呼ばれるビジネス領域の重要性を識別するビジネス手法です。フレームワークは、時間を重視したパースペクティブを基にして、競争力における利点をもたらすビジネス戦略を定義するのに役立ちます。一般に広く使用されているフレームワークには、Balanced Scorecard Collaborative フレームワークおよび Stern Stewart の統合された EVA フレームワークなどがあります。

フレームワークを使用すると、次のタスクを実行できます。

- 情報および分析など、組織でのプライマリ領域を識別する。
- パフォーマンス、およびパースペクティブの健全性を監視するメジャーをグループ化する。

たとえば、金融業界の組織では、顧客というパースペクティブで顧客のデータを追跡する次のメジャーを割り当てます。

- ローンの品質
- クレジット・スコアの集約
- マップを構築するために使用する戦略要素および責任要素のタイプを識別する。

## フレームワークを作成する方法

フレームワークは、次のように作成できます。

- Balanced Scorecard などを提供するフレームワークをカスタマイズします。カスタマイズするフレームワークは、基本フレームワークと呼ばれます。

- フレームワークで提供されないカスタムパースペクティブを使用します。

## アプリケーション・フレームワーク

組織を最もよく表すフレームワークが見つかるまで、サンプルの戦略マップおよび責任マップを構築して、異なるフレームワークを使用してください。最も適したフレームワークが見つかった場合は、それをアプリケーション・フレームワークにします。

## 提供されるフレームワーク

Performance Scorecard が提供する次のフレームワークをカスタマイズできます。

- 40 ページの「Balanced Scorecard」
- 40 ページの「Stern Stewart の統合された EVA」
- 41 ページの「Baldrige Criteria」
- 41 ページの「キー・パフォーマンス・インディケータの追跡フレーム・ワーク」

### Balanced Scorecard

Balanced Scorecard フレームワークは、次のパースペクティブを使用します。

- 財務 - 組織が株主と協力する方法を定義します。
- 内部 - 優れた製品を製造するために社内で使用されるプロセスを定義します。
- 顧客 - 組織が価値を生み出し、顧客ベースと情報交換する方法を説明します。
- 学習と成長 - 組織が進化し、革新を起こす方法を説明します。

### Stern Stewart の統合された EVA

Stern Stewart の統合された EVA フレームワーク (Stern Stewart) を使用して、収益性だけでなく、経済付加価値や株主値を測定します。このフレームワークは、組織の真の収益性を識別するため、次の数式を使用します。

純営業利益 - 総資本費用 = 経済付加価値

Stern Stewart フレームワークは、次のパースペクティブを使用します。

- EVA および EVA ドライバ - EVA および財務 EVA ドライバ・マップの財務コンポーネントを識別します。
- 顧客 - 顧客ベースを定義し、顧客のニーズを管理して、収益を生み出す方法を説明します。
- 原価 - 生産、材料、労働などのアイテムの原価が、活動およびプロセスを通じてどのようにサービスおよび製品に変換されるかを識別します。

- 能力 - 顧客のニーズを満足させるために必要な知識を維持、開発、更新するためのタスクを識別します。

## Baldrige Criteria

Baldrige Criteria フレームワークは、次のように、企業戦略でのプロセスの役割を著しく強調します。

- リーダーシップ - 組織がリーダーシップの機会をどのように作り出していくかを定義します。
- 戦略プランニング - 戦略上の目的および目標が企業のビジョンおよび方向性にどのように該当しているかを識別します。
- 顧客とマーケットの焦点 - 主要な顧客関係、合併、ビジネス拡充を識別します。
- 情報と分析 - メジャー、パフォーマンスの分析と向上の重要性を強調します。データの可用性を検証するのに使用します。
- 人的資源の焦点 - 従業員の協力態勢、コミュニケーション、知識共有の向上のための組織の構成方法を説明します。
- 事業の実績 - 顧客満足度および忠実度の役割を検証します。

## キー・パフォーマンス・インディケータの追跡フレームワーク

パフォーマンス管理フレームワークを使用していない場合は、キー・パフォーマンス・インディケータ(KPI)の追跡フレームワークを使用します。これにより、基礎構造を使用せずに、パースペクティブによってメジャーを整理しなくてもマップを構築できます。

## フレームワークの作成

フレームワークを作成するには、次のタスクを実行します。

- Performance Scorecard に付属しているフレームワークを使用するよう選択してください。42 ページの「[一般設定の定義](#)」を参照してください。
- パースペクティブを作成します。
- 戦略ツリーおよび戦略マップの戦略要素をグループ化するのに使用できる戦略テーマを作成します。43 ページの「[戦略テーマの作成](#)」を参照してください。
- マップを構築するのに使用する戦略要素および責任要素の種類を識別します。43 ページの「[フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義](#)」を参照してください。
- マップに戦略要素および責任要素のレベルを配置するシーケンスを定義します。43 ページの「[フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義](#)」を参照してください。

- オプション: 戦略要素および責任要素のタイプ名を省略できます。43 ページの「フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義」を参照してください。
- オプション: デフォルトの用語を置き換えます。44 ページの「用語のカスタマイズ」を参照してください。
- テスト環境でフレームワークを使用して調整し、サンプルの戦略マップおよび責任マップを構築します。フレームワークがニーズに合ったら、これをアプリケーション・フレームワークにします。

## 一般設定の定義

▶ フレームワークを作成するには、次の手順に従います。

- 1 オブジェクト・ビューから、フレームワーク・リストを選択します。フレームワーク・リストが表示されます。

アプリケーション・フレームワークを別のユーザーが選択している場合は、それがフレームワーク・リストの上に表示されます。

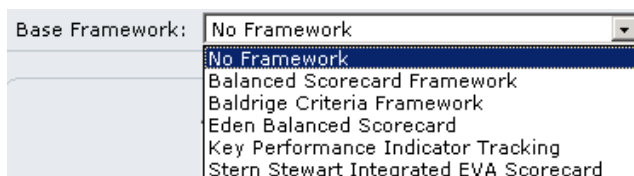
- 2 追加をクリックします。「フレームワーク設定」ページが表示されます。

- 3 次の情報を入力します。

- 名前
- フレームワークの目的または使用方法

- 4 付属のフレームワークを使用するフレームワークを構築するには、基本フレームワークからフレームワークを選択します。

図 8 基本フレームワーク



**注意** サンプルでない実際の戦略マップおよび責任マップを作成するのにフレームワークを使用する場合以外は、アプリケーション・フレームワークを選択しないでください。

- 5 保存をクリックします。
- 6 42 ページの「パースペクティブの作成」を参照してください。

## パースペクティブの作成

▶ パースペクティブを作成するには、次の手順に従います。

- 1 「フレームワーク設定」ページで、パースペクティブの表示を選択します。
- 2 パースペクティブで追加をクリックします。「パースペクティブ設定」ボックスが表示されます。

- 3 指示番号で、戦略マップでパースペクティブを表示する順序を表す数字を入力します。  
たとえば、3番目のパースペクティブとして表示するには、「3」と入力します。
- 4 パースペクティブの名前と目的の説明を入力します。
- 5 保存をクリックします。パースペクティブがフレームワークに追加されます。

## 戦略テーマの作成

戦略テーマは、パースペクティブと戦略要素のグループ化を可能にする高レベルなカテゴリです。共通のテーマには、収益の成長、原価の削減、生産性の向上などがあります。

- ▶ 戦略テーマを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 フレームワーク設定ページで、「戦略テーマの表示」を選択します。
  - 2 戦略テーマで追加をクリックします。「戦略テーマ設定」ボックスが表示されます。
  - 3 マップでテーマを指定する順番を示す指示番号を入力します。
  - 4 戦略テーマの名前および使用方法の概要を入力します。
  - 5 保存をクリックします。テーマがフレームワークに追加されます。
  - 6 マップを構築するのに使用する要素タイプを作成します。[43 ページの「フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義」](#)を参照してください。

## フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義

「戦略階層」タブおよび「責任階層」タブを使用して、戦略ツリーおよび責任マップを構築するのに使用する戦略目的などの要素を識別します。また、このタブを使用して、デフォルトの階層を作成し、マップで使用する要素レベルの順番を指定します。たとえば、戦略目的レベルの下で、重要成功要因レベルを使用できます。これは、マップで戦略目的を選択して新しい戦略要素を追加すると、要素が重要成功要因になることを意味します。

次の項を参照してください。

- [43 ページの「戦略要素階層の作成」](#)
- [44 ページの「責任要素階層の作成」](#)

## 戦略要素階層の作成

このトピックでは、戦略ツリーの構築に使用する戦略目的など、戦略要素の種類を識別する方法について説明します。また、マップで各要素タイプのレベルを整理させる方法についても説明します。

**注：** 基本フレームワークを使用する場合は、関連付けられた戦略階層をカスタマイズできます。

- ▶ 戦略階層を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 「フレームワーク設定」ページで、戦略階層を選択します。「フレームワークの戦略階層」ボックスが表示されます。
  - 2 追加をクリックして、戦略ツリーに配置する順番で要素を追加します。
  - 3 保存をクリックします。
  - 4 [44 ページの「責任要素階層の作成」](#)を参照してください。

## 責任要素階層の作成

このトピックでは、責任マップを構築するために使用するチームなど、責任要素のタイプを識別する方法について説明します。また、マップで要素のレイヤーを表示する順番をカスタマイズする方法についても説明します。たとえば、部署レベルにタスク・フォース・レベルを表示できます。

- ▶ 責任階層を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 「フレームワーク設定」ページで、責任階層を選択します。「フレームワークの責任階層」ボックスが表示されます。
  - 2 追加をクリックして、ビジネス領域や従業員など、使用する責任要素の種類を作成します。

マップに配置する順番で要素を追加します。たとえば、この図の順番は、マップでビジネス領域に追加された要素が、自動的に部署に配置されます。

図 9 サンプルの階層

Long Name	Short Name	
<input type="text" value="Business Area"/>	<input type="text" value="Bus Area"/>	<input type="button" value="Delete"/>
<input type="text" value="Department"/>	<input type="text" value="Dept"/>	<input type="button" value="Delete"/>
<input type="text" value="Employee"/>	<input type="text" value="Emp"/>	<input type="button" value="Delete"/>
<input type="button" value="Add"/>		

- 3 要素の完全な名前と略称を入力します。
- 4 保存をクリックします。
- 5 オプション: 組織で使用される用語に置き換えます。[44 ページの「用語のカスタマイズ」](#)を参照してください。

## 用語のカスタマイズ

- ▶ フレームワークの用語をカスタマイズするには、次の手順に従います。
  - 1 「フレームワーク設定」ページで、用語を選択します。「フレームワークの用語」ボックスが表示されます。
  - 2 カスタマイズされた用語に置き換える用語を入力します。
  - 3 保存をクリックします。

## フレームワークの変更

Performance Scorecard に付属しているもの以外は、すべてのフレームワークを編集できます。

**注意:** 別のアプリケーション・フレームワークを使用すると、すべての関連付けられているパースペクティブがメジャーおよび戦略要素から除去されます。フレームワーク・レベルで定義した戦略階層も削除されます。

- ▶ フレームワークを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、フレームワーク・リストを選択します。
  - 2 リストでフレームワークを選択し、編集をクリックします。
  - 3 [41 ページの「フレームワークの作成」](#) で説明されているように、設定を変更します。

## フレームワークのコピー

フレームワーク・リストからフレームワークはコピーできません。そのかわりに、コピーしたいフレームワークを使用するフレームワークを作成します。

- ▶ フレームワークをコピーするには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、フレームワーク・リストを選択します。
  - 2 「フレームワーク・リスト」で追加をクリックします。
  - 3 「フレームワーク設定」ページで、「基本フレームワーク」からコピーするフレームワークを選択します。
  - 4 フレームワークを変更し、別の名前で保存します。

## フレームワークの削除

アプリケーション・フレームワークである場合、またはそのフレームワークのみが使用中である場合は、フレームワークを削除できません。

- ▶ アプリケーション・フレームワークを削除するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、フレームワーク・リストを選択します。
  - 2 アプリケーション・フレームワークではなく、使用するフレームワークを選択し、「編集」をクリックします。
  - 3 「フレームワーク設定」でアプリケーション・フレームワークを選択し、「保存」をクリックします。
  - 4 「フレームワーク・リスト」で、古いアプリケーション・フレームワークを削除します。
- ▶ カスタム・フレームワークを削除するには、「フレームワーク・リスト」を選択し、フレームワークを選択してから、「削除」をクリックします。



# 4

## 従業員の操作

### この章の内容

従業員 .....	47
従業員の作成について .....	48
従業員の作成 .....	49
従業員プロフィールの変更 .....	53
従業員のコピーおよび削除 .....	54

## 従業員

従業員は、メジャー実績の入力や戦略要素での作業など、関連付けられているオブジェクトに関連したタスクを実行する責任を持つ Performance Scorecard ユーザーです。従業員は、メジャーなど、オブジェクトのパフォーマンスを監視するために複数のスコアカードを使用できるため、マネージャは、従業員のプライマリ・スコアカードを作成して、従業員のパフォーマンスを評価してください。

次の項を参照してください。

- 47 ページの「従業員のデータ・アクセス方法」
- 48 ページの「システム次元としての従業員」

基本的な従業員情報は、従業員プロフィール・レポートに表示されます。詳細情報を表示するには、レポートで従業員をクリックし、従業員の詳細レポートを開きます。168 ページの「従業員プロフィール・レポートの使用方法」を参照してください。

## 従業員のデータ・アクセス方法

管理者は、Oracle Hyperion(R) Shared Services で作成するユーザー・アカウントに従業員を添付できます。従業員をユーザー・アカウントに割り当てると、アカウントを使用するユーザーが、従業員がアクセスできるデータにアクセスできるようになります。これは、データを規制するこれらの要因に加え、従業員を代表して次の要因を使用できることを意味します。

- セキュリティの役割 - アクセスできるメジャー、イニシアチブ、スコアカード、Web ページおよびレポートを指定します。明示アクセス: 選択したドメインにのみユーザーがアクセスできるようにします。

- ドメイン - 支社や部署など、自分が作業する地理的または機能的に特定される企業領域の表現。ドメインのマップ、メジャーおよびスコアカードなどのオブジェクトを作成するには、自分のアカウントに、管理者が**汎用ドメイン・デザイナ**のセキュリティ役割を割り当てる必要があります。これが割り当てられていない場合は、**デザイナ**の役割が割り当てられている必要があります。自分の下にあるすべてのドメインでデータを操作するには、管理者が暗黙のアクセスを付与する必要があります。特定のドメインでのみデータを操作するには、明示アクセスを使用します。

Performance Scorecard 従業員の Shared Services でプロビジョニングされる必要があるアカウントを識別するには、『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』の第2章で説明されているように、「ユーザー・アカウントを従業員と同期」コマンドを実行します。デザイナのセキュリティ役割を持っている場合は、従業員を作成して空のアカウントに割り当てられます。

## 従業員スコアカード

従業員は、次の種類のスコアカードを持てます。

- プライマリ・スコアカード - 個々の従業員のパフォーマンスを評価するためにマネージャによって作成されます。50 ページの「[プライマリ・スコアカードの作成](#)」を参照してください。
- セカンダリ・スコアカード - 自分のメジャー、戦略要素、責任要素のパフォーマンスを評価および監視するために従業員によって作成されます。従業員は、これらのスコアカードにアクセスできるユーザーを指定できます。

## システム次元としての従業員

Performance Scorecard は、レポートと戦略の構造を示すために作成した従業員、責任要素、戦略要素を表す次元アウトラインを自動的に作成します。各オブジェクトは、システム次元によって表されます。

作成したすべての従業員は、従業員システム次元のメンバーとして追加されます。従業員を作成すると、アプリケーションの次元構造が変更されます。このため、新しい従業員または削除された従業員を含めるには、新しい次元メジャーを生成するか、既存の次元メジャーを再生成する必要があります。

## 従業員の作成について

従業員を作成するには、次のタスクを実行します。

1. 従業員が勤務する機能的または地理的な領域(ドメイン)を含む、ビジネスおよび連絡先の情報を指定します。
2. 従業員が作成できるスコアカード用に、次元などの次元コンテキストを指定します。従業員が次元メジャーを使用する複数のスコアカードを使用する場合は、スコアカードの計算に使用する次元またはメンバーを選択します。
3. 従業員のパフォーマンスを監視するスコアカードを作成します。従業員が複数のスコアカードに関連付けられていることがあるため、従業員の作成中に

作成したスコアカードが、そのパフォーマンスを評価するプライマリ・スコアカードになります。

4. 従業員が作業するメジャー、または従業員間で責任を転送するメジャーなどのビジネス・オブジェクトを従業員に割り当てます。
5. **オプション:** 従業員がアクセスできるスコアカードを整理するには、カテゴリを作成します。カテゴリにより、関連するスコアカードをレポートおよびブラウザ・ビューでグループ化できます。36 ページの「[カテゴリの使用方法](#)」を参照してください。

**注:** 従業員を作成すると、アプリケーションの次元構造が変更されます。新しい従業員または削除された従業員を含めるには、新しい次元メジャーを生成するか、既存の次元メジャーを再生成する必要があります。

基本的な従業員情報は、従業員プロフィール・レポートに表示されます。詳細情報を表示するには、レポートで従業員をクリックし、従業員の詳細レポートを開きます。168 ページの「[従業員プロフィール・レポートの使用方法](#)」を参照してください。

## 従業員の作成

- ▶ 従業員を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューから、従業員リストを選択します。
  - 2 「従業員リスト」で追加をクリックします。「従業員全般設定」ページに「一般」タブが表示されます。
  - 3 従業員の姓名を入力します。
  - 4 オプション: 次の情報を入力します。
    - 番号
    - 役職
    - 部署およびマネージャ
  - 5 オプション: 従業員を物理的または機能的な明確な領域に関連付けるには、ドメインで選択をクリックします。

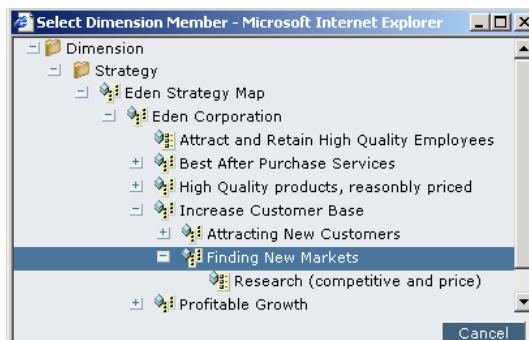
**ヒント:** また、「従業員リスト」で従業員を選択して「ドメイン割当て」をクリックして、ドメインに従業員を配置できます。
  - 6 従業員のピクチャを添付するには、ピクチャで参照をクリックして、ファイルを見つけて選択します。
  - 7 イメージ・ファイルを見つけて選択します。
  - 8 従業員を戦略要素などの次元メンバーに関連付けるには、「次元の選択」で「選択」をクリックし、次のタスクを実行します。
    1. 「次元の選択」ボックスで、使用する次元メンバーの隣にある「選択」をクリックします。

選択するメンバーは、スコアカードの次元コンテキストを形成します。これは、スコアカードの計算で使用される次元メジャーを決定します。

- 次元階層を展開し、割り当てるメンバーを選択します。

この図では、新しい市場を見つけることで顧客ベースをどのように拡張するかを監視する次元メジャーに従業員が関連付けられています。

図 10 「次元のメンバーの選択」ボックス



- 住所、電話番号、電子メール・アドレスなど、連絡先情報を入力します。電子メール・アドレスは、アラートの通知に使用され、リンクまたはレポートになります。
- 次のタスクのいずれかを行います。
  - プライマリ・スコアカードを使用して従業員のパフォーマンスを監視するには、「スコアカード」タブを選択します。50 ページの「[プライマリ・スコアカードの作成](#)」を参照してください。
  - 従業員をメジャー、責任要素および戦略要素に割り当てるには、「責任」タブを選択します。51 ページの「[責任の割当て](#)」を参照してください。
  - 従業員のプライマリ・スコアカードをカテゴリに関連付けるには、「その他」タブを選択します。
  - 従業員が、次元メジャーを使用するスコアカードを持つ場合は、「その他」タブを選択して、計算に使用する次元またはメンバーを選択します。

## その他の設定

マップ要素または従業員のプライマリ・スコアカードをカテゴリに関連付けるには、「カテゴリ」で「**選択**」をクリックします。従業員または要素が次元メジャーを使用するスコアカードを持つ場合は、「次元リスト」で「**選択**」をクリックし、計算に使用する次元またはメンバーを指定します。

## プライマリ・スコアカードの作成

プライマリ・スコアカードを作成して、従業員個人のパフォーマンスを評価します。プライマリ・スコアカードは、監視している従業員名の下に保存され、従業員の下に「スコアカード」フォルダに表示されます。

- ▶ プライマリ・スコアカードを作成するには、次の手順に従います。

- 1 「従業員設定」ページでスコアカードタブを選択します。

- 2 従業員のパフォーマンスを反映するメジャーおよびスコアカードを追加し、加重を割り当てます。[106 ページの「コンポーネントの追加」](#)を参照してください。
- 3 「**範囲**」を選択して、従業員がプライマリ・スコアカードで達成した場合のスコアを定義し、パフォーマンスのステータスを示します。[52 ページの「プライマリ・スコアカードの範囲の定義」](#)を参照してください。

**ヒント：** 他のスコアカードを構築するのに使用できる範囲を作成するには、名前付き範囲を作成します。従業員のスコアカードにのみ使用する範囲を作成するには、カスタムの範囲を作成します。

- 4 オプション: 次のタスクを実行するには、「**その他**」を選択します。

- スコアカードの計算に使用できる次元メジャーを生成するメンバーを選択します。
- レポートでスコアカードを表示するカテゴリを作成します。

[53 ページの「メンバーおよびスコアカード・カテゴリの選択」](#)を参照してください。

## 責任の割当て

「責任」タブを使用して、従業員が実行する必要があるタスクに関連付け、指定する戦略要素などのオブジェクトに従業員を割り当てます。このタブでは、従業員間での責任の転送も実行できます。[52 ページの「責任の転送」](#)を参照してください。

- ▶ 従業員の責任を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 従業員設定ページで、「責任」を選択します。
- 2 従業員が実行するタスクの隣にある設定をクリックします。たとえば、従業員がメジャーの実績を収集することを確実にするには、実績収集者で選択をクリックし、メジャーを選択します。
- 3 次の責任を従業員に割り当てられます。
  - メジャーの場合:
    - 所有者 - 従業員は、全体的なパフォーマンスに責任があります。
    - 実績の収集 - 従業員は、実績値が収集または入力されたことを確認する必要があります。
    - 目標設定者 - 従業員は、目標値を入力する責任があります。
    - 注釈作成者 - 従業員は、メジャーに関する特定のレポート期間で作成されたコンテキスト固有のノートである注釈を入力できます。
  - 戦略要素および責任要素:
    - 所有者 - 従業員は、全体的な要素のパフォーマンスに責任があります。
    - メンバー - 従業員は、要素に関連付けられ、要素に貢献します。
    - 注釈作成者 - 従業員は、要素に関する特定のレポート期間で作成されたコンテキスト固有のノートである注釈を入力できます。

- 従業員マネージャ - 従業員は、選択した従業員のパフォーマンスに責任を持ちます。
  - イニシアチブの場合:
    - 所有者 - 従業員は、イニシアチブの完了に責任があります。
    - メンバー - 従業員はイニシアチブに関連付けられ、イニシアチブに貢献します。
    - 通知済 - 従業員は、イニシアチブの完了についてアラート通知を受信し、それに応答します。
- 4 表示される「選択」ボックスから、従業員に割り当てるメジャー、要素、従業員またはイニシアチブを選択し、適用をクリックします。
- オブジェクトから従業員を除去するには、オブジェクトの横にある「設定」をクリックしてから、「消去」をクリックします。

## 責任の転送

責任のある従業員から別の従業員に再度割り当てることで、タスクを再割り当てします。これで、合併やプロモーションなど、組織的な変化を素早く調整できます。たとえば、部署のマネージャが退職した場合は、その責任を、部下などの別の従業員に転送できます。

- ▶ 責任を転送するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューから従業員リストを選択します。
  - 2 「従業員リスト」で、責任を受け取る従業員を選択してから、編集をクリックします。
  - 3 「従業員設定」ページで、責任タブを選択します。
  - 4 再割り当てするタスクの隣にある転送元をクリックします。たとえば、従業員にメジャー目標を入力させるには、目標設定者で転送元をクリックします。  
部下を割り当てるには、「管理対象の従業員」で「転送元」をクリックします。
  - 5 「従業員の選択」ボックスで、責任を転送する元の従業員を選択します。
  - 6 次のいずれかのオプションを選択します。
    - すでに責任を持っている従業員に責任を追加するには、「新しい責任の追加」を選択します。
    - 既存の責任を削除し、新しい責任のみを割り当てるには、「既存の責任を置換え」を選択します。
  - 7 「保存」をクリックします。

## プライマリ・スコアカードの範囲の定義

プライマリ・スコアカードのスコアを基にして、従業員のパフォーマンスを評価し、表す範囲を作成できます。他のスコアカードを構築するために範囲を使用するには、名前付き範囲を作成します。83 ページの「名前付き範囲の作成」を参照してください。1つのスコアカードでのみ範囲を使用するには、カスタム範囲を作成します。84 ページの「カスタム範囲の作成」を参照してください。

## メンバーおよびスコアカード・カテゴリの選択

「その他」タブを使用して、プライマリ・スコアカードの計算で使用する次元メジャーを生成するためのメンバーを選択します。また、このタブを使用して、従業員のスコアカードおよびイニシアチブを表示するカテゴリを選択できます。

▶ 次元メジャーを選択するには、次の手順に従います。

1 「従業員設定」ページでその他タブを選択します。

2 メンバー・リストで、選択をクリックします。

「次元の選択」ボックスが表示されます。システム(責任および戦略)次元が、作成したカスタム次元に加えて表示されます。

3 使用するメンバーを含む次元で選択をクリックします。

「次元メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4 次元アウトラインを展開して、メンバーを選択します。選択した各メンバーは、「次元の選択」ダイアログ・ボックスに追加されます。個人のメンバーしか選択できないため、次元メジャーを生成するすべてのメンバーを選択し終わるまで、この手順を繰り返します。

5 「次元メンバーの選択」ボックスで、OK をクリックします。

「従業員設定」ページに戻ります。スコアカードで使用する、次元メジャーが生成されるメンバーが表示されます。

## 従業員プロフィールの変更

次の変更を反映するよう、従業員プロフィールを変更します。

- 異なるビジネス・オブジェクトへの割当て。
- 新しい責任
- 別のマネージャまたはドメインへの関連付け

▶ 従業員を変更するには、次の手順に従います。

1 オブジェクト・ビューから「従業員リスト」を選択します。

2 「従業員リスト」で、従業員を選択してから、編集をクリックします。

「従業員設定」ページが表示されます。

**ヒント:** また、オブジェクト・ビューで「従業員リスト」を展開し、従業員を右クリックして「編集」を選択することで、このページを表示できます。

3 49 ページの「従業員の作成」で指定した設定を変更します。

4 「保存」をクリックします。

## 従業員のコピーおよび削除

従業員をコピーおよび削除すると、次元アウトラインおよび次元メジャーが変更される場合があります。変更を反映するには、次元メジャーを再生成してください。

- ▶ 従業員をコピーまたは削除するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューから従業員リストを選択します。
  - 2 リストで、次のように従業員を表示して選択します。
    - ドメインによって表される特定の機能的または地理的な領域に属する従業員を選択するには、フィルタでドメイン名を入力します。
    - 連続していない複数の従業員を選択するには、従業員を選択する前に[Ctrl]キーを押します。
  - 3 コピーまたは削除をクリックします。

コピーした従業員の名前の前に、「コピー」が付きます。

# 5

## マップの使用法

### この章の内容

マップについて .....	55
要件 .....	59
マップ・エディタ .....	59
戦略ツリーの作成について.....	60
責任マップの作成 .....	63
責任要素の作成 .....	63
その他のオプション .....	64
戦略マップの作成について.....	64
戦略マップの作成 .....	65
マップの変更.....	68
マップのリンク .....	70
戦略ツリーおよびマップのコピーと削除.....	71

## マップについて

このトピックでは、組織または部署の戦略およびレポートの構造を表す、次のマップを使用する方法について説明します。

- [55 ページの「戦略ツリー」](#)
- [56 ページの「戦略マップ」](#)
- [56 ページの「責任マップ」](#)

また、マップを構築するために使用する戦略要素および責任要素についても説明します。

## 戦略ツリー

戦略ツリーを使用すると、組織全体、または部署や支社などの組織内の領域の戦略プランを作成、開発、伝達できます。

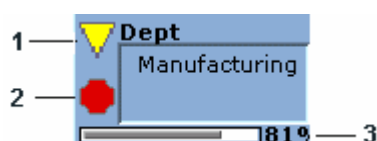
戦略ツリーを作成し、高レベルの戦略目標を、事業部門または従業員が責任を持つ低レベルの要素およびアクションに分割します。これにより、従業員が、企業戦略全体に自分の努力がどのように貢献するかを理解できるようになります。

スコアカードを要素に添付して、その進行状況を監視します。各要素には、2つのパフォーマンス・インディケータとスコア・バーが表示され、パフォーマンス・レベルを通知します。1つ目のインディケータは、スコアカードによって評価さ

れる現在のパフォーマンスを表します。2つ目のインディケータは、要素に関連付けられている最も低いパフォーマンス要素のステータスを表します。下部に表示されるスコア・バーは、要素のパフォーマンス・レベルをパーセントで示します。

たとえば、次のマップ要素は、低いパフォーマンス・レベルが1つ目の黄色いパフォーマンス・インディケータで示されている場合は、許容範囲にあります。この要素に関連付けられている低レベルの要素は、2つ目の赤いパフォーマンス・インディケータで示されており、劣化のパフォーマンスを表しています。現在のパフォーマンス・レベルを示すスコア・バーは、81%です。

図 11 サンプルのマップ要素パフォーマンス・インディケータ



**ヒント：** 組織の領域で別の戦略ツリーが使用される場合は、これらのマップをリンクして、各領域の戦略が総合的な企業戦略をどのように形成するかを示せます。

## 戦略マップ

戦略マップは、戦略要素がどのように関係し合い、組織の戦略目標を達成するためにどのように機能していくかを示します。たとえば、「製品品質の向上」という戦略要素は、製品の返品数が少ない場合は製品の品質が良いことを示すため、「返品品の削減」と「顧客満足度の向上」という戦略要素に影響を与えます。このように、戦略マップを使用すると、1つの戦略要素での変更が他の要素に与える影響を予測できます。64 ページの「戦略マップの作成について」を参照してください。

使用しているフレームワークで定義されたパースペクティブや戦略テーマを使用して、戦略マップの要素を整理できます。43 ページの「フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義」を参照してください。

## 責任マップ

責任マップは、組織の部署およびレポート構造を表します。責任マップを作成し、全体的なレポート構造を形成するために組織レベルがどのように統合されているかを示します。典型的な高レベルのビジネス領域には、財務、運営、製造、人事などの部署が含まれ、チーム、タスク・フォース、個々の従業員をこれらにリンクできます。たとえば、総務と経理のビジネス領域は財務にレポートし、従業員サービスは人事にレポートします。

大規模な組織では、それぞれの明確な領域またはドメインで責任マップを作成します。たとえば、上のサンプル組織を使用して、次の部署のマップを作成できます。

- 従業員サービスおよび顧客サービス

- フランチャイズ
- 総務および経理
- セールスおよびマーケティング
- 資産および建造物

作成する責任マップの要素は、責任システム次元でメンバーによって自動的に表されます。これは、責任マップがメジャーのテンプレートとして機能し、責任マップを使用して定義するレポート構造を基に、次元メジャーを生成できることを意味します。57 ページの「マップを基にしたスコアカードの作成」を参照してください。

マップをリンクして、全体的な企業の責任構造を作成します。70 ページの「マップのリンク」を参照してください。

## マップを基にしたスコアカードの作成

Performance Scorecard は、システム・マップと呼ばれる次元構造を自動的に作成します。これは、作成する戦略ツリーおよび責任マップを表します。これらのシステム・マップを基にして、スコアカードの目的の次元メジャーを生成できます。これにより、マップをメジャー・テンプレートとして使用し、組織での戦略要素およびビジネス領域のパフォーマンスを評価する次元メジャーを作成できるようになります。

## マップ要素

マップ要素は、目標、重要成功要因、マップを形成するために作成および整理した部署など、戦略要素および責任要素を表します。これらの要素の階層は、該当するマップ・フォルダに表示されます。たとえば、下に示す Eden Company の責任マップは、研究開発、IT、人事などの部署で表される責任要素によって構成されています。

図 12 マップ要素

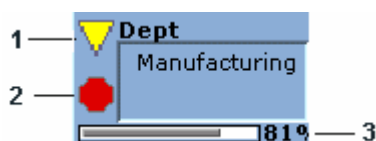


要素タイプの名前とマップに表示するデフォルトの順序を変更するには、43 ページの「フレームワーク・レベルでの要素タイプの定義」を参照してください。

スコアカードを要素に添付して、その進行状況を監視します。各要素には、2つのパフォーマンス・インディケータとスコア・バーが表示され、パフォーマンス

のレベルを通知します。左側の1つ目のインディケータは、スコアカードによって評価される現在のパフォーマンスを表します。1つ目の下の2つ目のインディケータは、要素に関連付けられている最も低いパフォーマンス要素のステータスを表します。下部に表示されるスコア・バーは、要素のパフォーマンス・レベルをパーセントで示します。たとえば、次のマップ要素は、低いパフォーマンス・レベルが1つ目の黄色いパフォーマンス・インディケータで示されている場合は、許容範囲にあります。この要素に関連付けられている低レベルの要素は、2つ目の赤いパフォーマンス・インディケータで示されており、劣化のパフォーマンスを表しています。現在のパフォーマンス・レベルを示すスコア・バーは、81%です。

図 13 マップ要素のパフォーマンス



## エンティティ

エンティティは、マップの最高位レベルを示します。組織で1つの戦略ツリーを作成する場合は、エンティティは組織を表します。セールス部など、個々のビジネス領域またはドメインの戦略を表すマップを作成している場合は、セールス部がエンティティになります。マップの上部に、エンティティを表すマップ・ボックスを配置します。

## 戦略目標

戦略目標(SO)は、戦略内容を達成するために満たす必要のある高レベルの目標を表します。たとえば、企業戦略の一部に増収が掲げられている場合は、次のSOを作成できます。

- 顧客ベースの拡大
- 内部原価の削減

SOを低レベルのSOまたは重要成功要因に分割できます。たとえば、「顧客ベースの拡大」は、「潜在顧客の識別」および「潜在顧客へのアプローチ」といったより低レベルのSOを作成して絞り込むことが可能です。

## 重要成功要因と重要プロセス

重要成功要因(CSF)および重要プロセス(CP)は、戦略目標を達成するために作成するポリシーまたは手順を表します。たとえば、SO「社内出費の削減」のCSFは、必要経費をなくすことは社内出費の削減につながるため、「必要経費の排除」となります。

## アクション

アクションとは、戦略目標の達成や CSF または CP の確立のために実行する必要があるタスクを表します。たとえば、次のアクションは、「原価の削減」という SO をサポートします。

- 部署別の出費の追跡
- 毎月の出費の評価

## 重要事業領域

重要事業領域(CBA)は、次のような主なビジネス領域、または組織やドメイン内の従業員のグループを表します。


- 部署
- 部門
- 委員会

各要素を、それぞれが責任を持つ戦略要素に割り当てます。

## 要件

マップを作成する前に、アプリケーション・フレームワークが選択されていることを確認してください。指定したフレームワークは、マップ、およびマップに追加されるデフォルト階層を構築するために利用可能な要素のタイプを決定します。[39 ページの「パフォーマンス管理フレームワークの使用方法」](#)を参照してください。

## マップ・エディタ

マップ・エディタでは、責任マップおよび戦略ツリーを形成する要素を作成および整理します。新規ボックス・ボタン  をクリックし、使用する各戦略および責任要素を表すボックスを作成します。



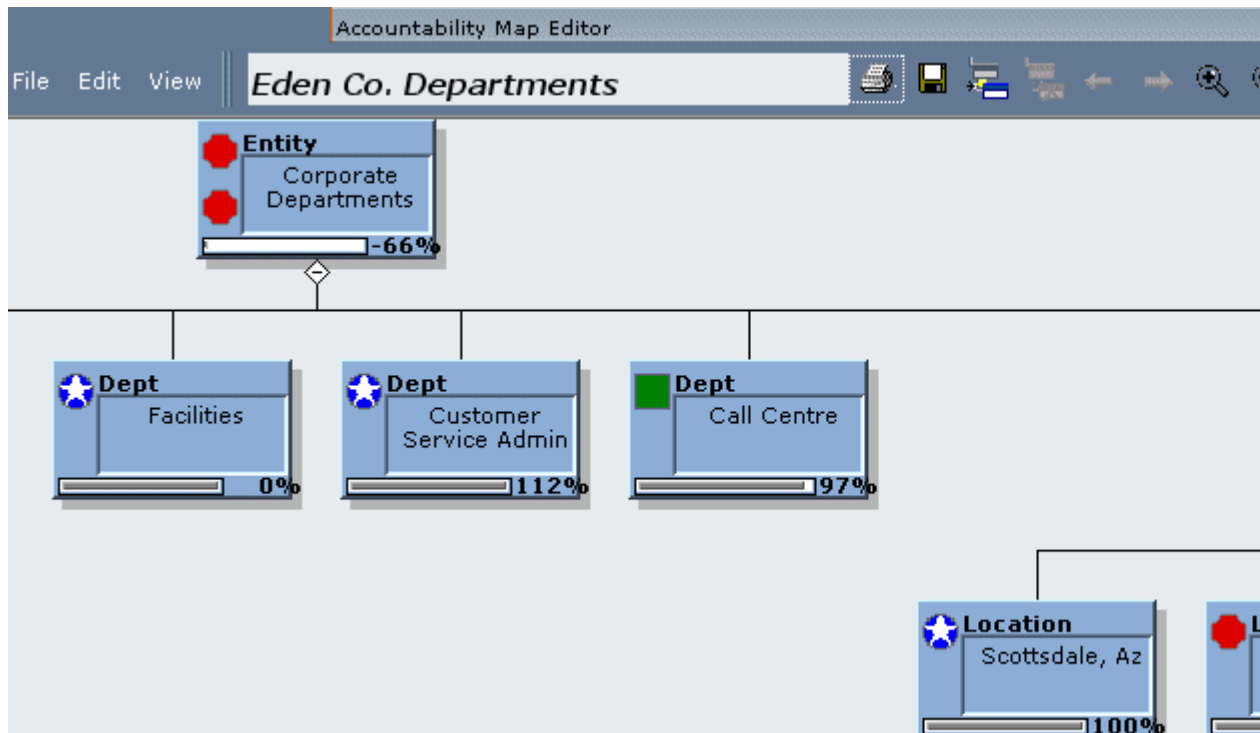
- 高レベルのアイテムを左側に配置するマップを表示するには、横方向ビュー・ボタン  をクリックします。
- 高レベルのアイテムを中央に配置するマップを表示するには、内側ビュー・ボタン  をクリックします。

図 14 サンプルの責任マップ



要素のパフォーマンス・ステータスは、各要素の左側にあるパフォーマンス・インディケータおよびスコア・バーによって示されます。マップ要素がグレー表示される場合は、現在のマップがリンクされている別のマップに属しています。要素をダブルクリックすると、接続されているマップが起動されます。

マップをより迅速に構築できるよう、次のタスクを実行するには、ショートカット・メニューを使用します。

- ドメインの設定 - マップまたは要素を選択したドメインに配置します。
- 外部マップにリンク - 1つのマップの要素から別のマップの要素にリンクしてマップを接続します。これにより、マップを接続して、異なる戦略および責任の構造がビジネス領域内または組織内でどのように統合されるかを示せます。
- テンプレートの設定 - スコアカード・テンプレートを戦略要素または責任要素のスコアカードに適用します。これにより、既存のスコアカードを開いてテンプレートを適用することなくテンプレートを使用できるようになります。
- テンプレートをこのスコアカードとその子孫に設定 - スコアカード・テンプレートをスコアカードのすべての子要素に適用します。これにより、既存のスコアカードを開いてテンプレートを適用することなくテンプレートを使用できるようになります。

## 戦略ツリーの作成について

戦略ツリーを使用すると、企業戦略の異なるレベルを表せます。高レベルの企業目標をより特別な目標、プロセス、アクションに振り替えるには、戦略ツリーを作成します。

戦略ツリーを作成するには、次のタスクを実行します。

- 戦略要素のマップ・ボックスを作成します。
- 次のような、戦略要素プロパティを定義します。
  - 要素に責任を持つビジネス領域
  - 要素が関連付けられるパースペクティブおよび戦略テーマ
  - 要素の進行状況を評価して監視するスコアカード


戦略要素に責任を持つビジネス領域を指定する必要があるため、戦略ツリーの前にビジネス領域を作成します。63 ページの「[責任要素の作成](#)」を参照してください。

61 ページの「[戦略ツリーの作成](#)」を参照してください。

## 戦略ツリーの作成

このトピックでは、戦略要素のボックスを作成および整理し、戦略ツリーを構築する方法について説明します。

**注：** ドメインを基にした認可を使用している場合は、新しい戦略ツリーは、オブジェクト・ビューには表示されません。ドメインに戦略ツリーを配置するには、「[編集](#)」>「[ドメインの設定](#)」を選択します。

- ▶ 戦略要素を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「[戦略ツリー](#)」を選択します。  
マップ・リストが表示されます。
  - 2 マップ・リストで追加をクリックします。  
マップ・エディタに空のマップが表示されます。
  - 3 Performance Scorecard のツールバーで戦略ツリーの名前を入力します。
  - 4 **オプション:** ドメインにマップを配置するには、「[編集](#)」>「[ドメインの設定](#)」を選択してから、表示されるボックスからドメインを選択します。次に、「OK」をクリックします。
  - 5 新規ボックス・ボタン  をクリックします。最高位の戦略レベルを表すボックスが、マップに追加されます。
  - 6 ボックスを右クリックしてプロパティを選択します。  
「要素のプロパティ」ボックスが表示されます。
  - 7 要素名で、「原価の削減」など、戦略要素の名前を入力します。
  - 8 要素のタイプから、戦略目標など、要素のタイプを選択します。  
フレームワークを設定した際に戦略要素のタイプにショート名を定義した場合は、これらの名前が使用されます。  
オブジェクト・ビューの戦略ツリー階層に要素が追加されます。
  - 9 この操作を繰り返して、各戦略要素にボックスを作成します。
  - 10 要素をドラッグ・アンド・ドロップして、戦略構造を作成します。

- 11 各戦略要素のプロパティを定義します。62 ページの「戦略要素の設定」を参照してください。

## 戦略要素の設定

要素を後から変更するには、オブジェクト・ビューで要素を選択して右クリックし、ショートカット・メニューから「編集」を選択します。

- ▶ 戦略要素を設定するには、次の手順に従います。

- 1 戦略ツリーを展開して、要素にアクセスします。

- 2 戦略要素をクリックします。

「戦略要素設定」ページが表示されます。

要素がマップ上の別の戦略要素の下にある場合は、要素の名前が「親」に表示されます。

- 3 戦略要素の名前と目的の説明を入力します。

- 4 注釈作成者で選択をクリックし、要素の注釈を作成する従業員を選択します。

- 5 所有者で選択をクリックし、要素を所有する従業員を特定します。

- 6 責任要素で選択をクリックし、戦略要素の責任を担うビジネス領域を特定します。

- 7 プライマリのパースペクティブから、要素に割り当てるパースペクティブを選択します。

- 8 別のパースペクティブを使用して要素をグループ化するには、セカンダリのパースペクティブで選択をクリックします。

たとえば、顧客満足度が高いと、顧客ベースが拡大され、売上数が増えるので、「高い顧客満足度」という SO には、「財務」というパースペクティブを割り当てられます。

- 9 オプション: フレームワークを作成した際にテーマを定義した場合は、「戦略テーマ」で要素をグループ化します。

- 10 オプション: 次元メジャーを使用する要素でスコアカードを作成する場合は、次元コンテキストで選択をクリックし、スコアカードの計算に使用する次元とメンバーを選択します。

- 11 次のタスクを実行します。


- 「範囲」タブを選択して、パフォーマンスの異なるレベルを反映するスコアを指定します。これらの範囲は、戦略要素のスコアカードで使用されます。107 ページの「範囲の定義」を参照してください。
- 「スコアカード」タブを選択して、要素のパフォーマンスを監視するスコアカードを作成します。105 ページの「スコアカードの作成」を参照してください。

**ヒント:** 要素がスコアカードを持つ場合は、スコアカード・テンプレートを適用して、共通メジャーおよびスコアカードをスコアカードに追加できます。これにより、既存のスコアカードを開き、テンプレートを自分で適用する必要がなくなります。スコアカード・テンプレ

トを適用するには、要素を右クリックして、「テンプレートの設定」を選択します。

## 責任マップの作成

責任マップを作成して、組織のレポート階層を表します。これらは、企業戦略を形成する戦略要素に責任を持つ部署、部門およびチームです。ドメインを基にした認可を使用している場合は、作成したマップはオブジェクト・ビューには表示されません。「編集」>「ドメインの設定」を選択して、マップとドメインを関連付けます。

- ▶ 責任マップを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「責任」を選択します。
  - 2 マップ・リストで追加をクリックします。
  - 3 マップ・エディタに空のマップが表示されます。
  - 4 新規ボックス・ボタン  をクリックします。ボックスがマップに追加されます。
  - 5 要素を右クリックして、プロパティを選択します。「プロパティ」ボックスが表示されます。
  - 6 要素の名前を入力します。
  - 7 要素のタイプから作成する要素のタイプを選択します。
  - 8 責任マップを構築するのに必要なすべての要素を作成するまで、この手順を繰り返します。

作成するビジネス領域は、オブジェクト・ビューのマップ・フォルダに配置されます。
  - 9 各ビジネス領域のプロパティを定義します。63 ページの「責任要素の作成」を参照してください。

## 責任要素の作成

このトピックでは、組織のレポート構造を示すマップ要素を作成および整理する方法について説明します。

**ヒント：** 要素を後から変更するには、マップ・フォルダを展開し、要素を選択して右クリックし、ショートカット・メニューから「編集」を選択します。

- ▶ 責任要素を設定するには、次の手順に従います。
  - 1 マップ・フォルダでビジネス領域のリストを展開して、各要素をクリックします。

要素が別のマップ要素の子である場合は、親要素の名前が表示されます。
  - 2 次の情報を入力します。
    - ミッション - ビジネス領域の目標または目的

- ビジョン - ビジネス領域の将来の目標または目的
  - 区別子 - 競合他社内の類似する領域から要素を差別化する特徴
- 3 所有する戦略要素で選択をクリックして、そのビジネス領域が責任を担う戦略要素を指定します。
  - 4 所有者で選択をクリックして、ビジネス領域に責任を持つ従業員を選択します。
  - 5 メンバーで選択をクリックして、ビジネス領域に属する従業員を選択します。
  - 6 注釈作成者で選択をクリックして、ビジネス領域の注釈を作成できる従業員を選択します。
  - 7 次元メジャーを使用する要素でスコアカードを作成する場合は、次元コンテキストで選択をクリックし、スコアカードの計算に使用する次元とメンバーを選択します。
  - 8 次のタスクのいずれかを行います。
    - プライマリ・スコアカードをカテゴリの要素に配置する、または要素のスコアカードで次元メジャーを使用する場合は、「その他」タブを選択します。64ページの「その他のオプション」を参照してください。
    - パフォーマンスの異なるレベルを反映するスコアを指定するには、「範囲」を選択します。これらの範囲は、要素のスコアカードで使用されます。107ページの「範囲の定義」を参照してください。
    - 要素のパフォーマンスを監視するスコアカードを作成するには、「スコアカード」を選択します。105ページの「スコアカードの作成」を参照してください。

**ヒント：** 要素がすでにスコアカードを持つ場合は、スコアカード・テンプレートを適用して、共通メジャーおよびスコアカードをスコアカードに追加できます。これにより、スコアカードを開いてテンプレートを適用する必要がなくなることを意味します。スコアカード・テンプレートを適用するには、要素を右クリックして、「テンプレートの設定」を選択します。

## 9 作業を保存します。

責任マップおよび要素が、オブジェクト・ビューおよびブラウザ・ビューの責任マップ・フォルダに表示されます。

## その他のオプション

プライマリ・スコアカードとカテゴリを関連付けるには、「カテゴリ」で「選択」をクリックし、カテゴリを選択します。要素のパフォーマンスが、次元メジャーを使用するスコアカードでモニタされる場合は、「その他」タブを選択してから「次元リスト」で「選択」をクリックし、計算に使用する次元やメンバーを指定します。

## 戦略マップの作成について

戦略マップを作成するには、次のタスクを実行します。

1. Adobe Photoshop などのグラフィック・エディタで、背景のイメージを作成します。65 ページの「背景の作成」を参照してください。  
イメージには、戦略要素およびマップで使用するパースペクティブを表すボックス(プレースホルダ)を含める必要があります。また、戦略要素間の関係を示す線または矢印も必要です。
2. 背景イメージをインポートします。65 ページの「背景の作成」を参照してください。
3. 背景イメージのプレースホルダに戦略要素、戦略テーマおよびパースペクティブを配置して、マップを構築します。67 ページの「戦略要素の追加」を参照してください。

## 戦略マップの作成

戦略マップを構築して、戦略目標および戦略要素がどのようなつながりを持つかを示します。これにより、1つの戦略目標または戦略要素への変更が、他にどのように影響するかを識別できるようになります。次の項を参照してください。

- 65 ページの「背景の作成」
- 67 ページの「戦略要素の追加」

ドメインを基にした認可を使用している場合は、新しいマップは、オブジェクト・ビューには表示されません。ドメインに新しいマップを配置するには、「編集」>「ドメインの設定」を選択します。

## 背景の作成

このトピックでは、戦略マップの背景として使用するイメージを作成およびインポートする方法について説明します。イメージには、次のアイテムを表すプレースホルダが必要です。

- 戦略要素
- 戦略テーマ
- 戦略要素間のリンク

▶ マップの背景を作成するには、次の手順に従います。

- 1 グラフィック・エディタで、マップで使用する要素のプレースホルダとなるボックスを作成します。

イメージには、次のものを表すプレースホルダが必要です。

- 戦略要素
- 戦略テーマ
- 戦略要素間のリンク

- 2 矢印または線を使用してボックスをつなぎ、関係およびリンクを作成します。

- 3 次のフォーマットのいずれかでイメージ・ファイルとして背景を保存します。

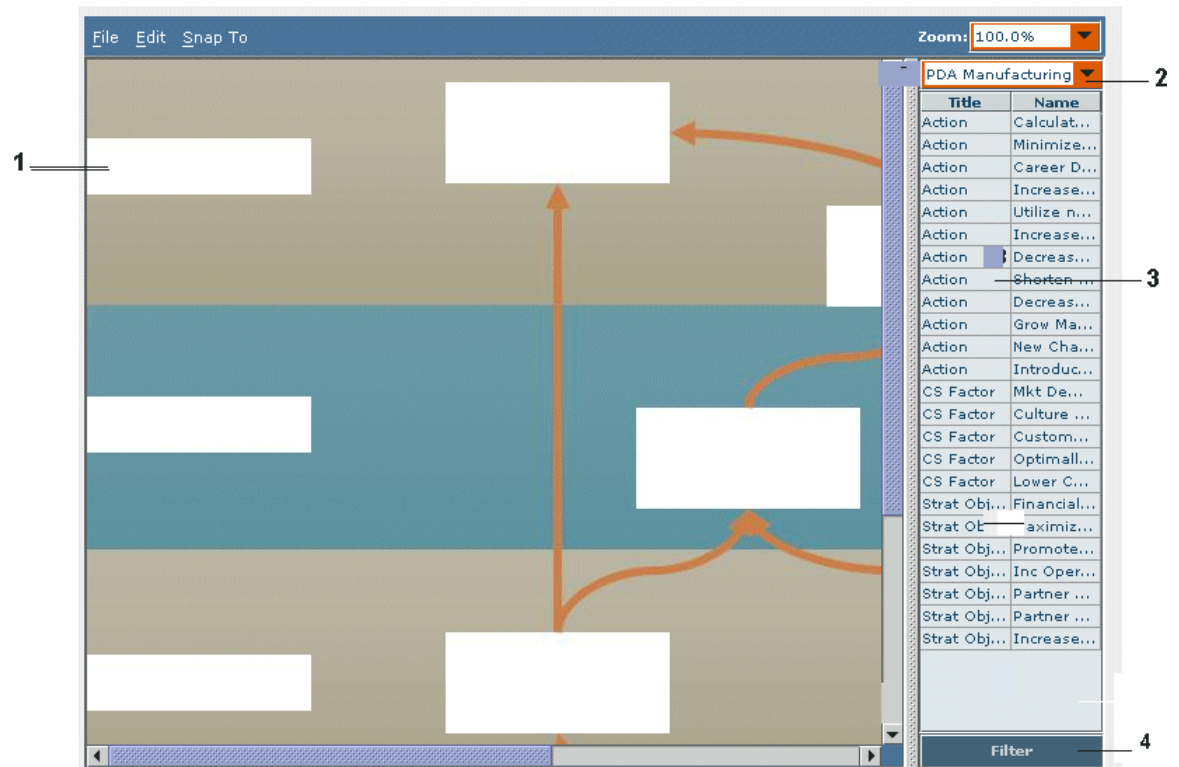
- JPG

- GIF
  - BMP
  - PNG
- 4 オブジェクト・ビューで、マップ>「**戦略**」を選択します。
  - 5 追加をクリックします。
  - 6 ファイル>「**イメージの選択**」を選択します。「**背景の選択**」ボックスが表示されます。
  - 7 次のタスクを実行します。
    - イメージ・ファイルがローカルのディレクトリに保管されている場合は、「**イメージのアップロード**」を選択してファイルを選択し、「**ファイルのタイプ**」から「**イメージのみ**」を選択します。
    - URL アドレスにイメージを保存した場合は、「**URL の選択**」を選択して、場所を入力します。
- イメージがマップ・エディタにロードされます。[66 ページの「戦略マップ・エディタ」](#)を参照してください。
- 8 ファイル>「**名前変更**」を選択して、マップの名前を入力します。
  - 9 戦略要素とパースペクティブを追加します。[67 ページの「戦略要素の追加」](#)を参照してください。

## 戦略マップ・エディタ

次の図に、マップを作成して整理する戦略要素を表すプレースホルダおよび矢印を持つサンプルのマップ背景を示します。

図 15 サンプルのインポート済背景



マップ・エディタは、次のコンポーネントおよびツールを備えています。

1. 戦略要素を表すイメージ・ファイルのプレースホルダ。
2. マップの構築に使用する要素を含む戦略ツリーを選択するために使用する、右側のフレームにあるアイテム・セクタ。
3. 要素をドラッグ・アンド・ドロップする、右側のフレームにある戦略要素リスト。
4. マップを構築するために選択した戦略要素の特定のタイプのみをリストするために使用する、右側のフレームの下部にあるフィルタ。

## 戦略要素の追加

このトピックでは、戦略ツリーから戦略マップへなど、戦略要素を追加する方法について説明します。

▶ マップに戦略要素を追加するには、次の手順に従います。

- 1 オブジェクト・ビューから、使用する要素を持つ戦略ツリーを選択します。
- 2 スナップ先>「ボックスの色領域」を選択し、戦略要素をドラッグするプレースホルダの色を選択します。
- 3 背景イメージで、プレースホルダ・ボックスをクリックします。

マップの背景にある、戦略要素に配置できるすべてのプレースホルダは、緑色で表示されます。プレースホルダの色を変更するには、次のタスクを実行します。

1. 「スナップ先」>「ボックスの色領域」を選択します。カーソルがカラー・ドロップパに変わります。

2. プレースホルダに割り当てる色でカーソルをクリックします。一致する色のすべての領域が、緑で縁取りされます。
- 4 **スナップ先>「スナップ先の使用可能」**を選択します。
- 5 右側のフレームから、使用する要素を該当するプレースホルダにドラッグします。  
パースペクティブおよび戦略テーマを追加するには、アイテム・セクタを使用して、パースペクティブおよびテーマを含めるために表示される要素のリストを変更します。
- 6 **マップを保存**します。  
オブジェクト・ビューおよびブラウザ・ビューの「戦略マップ」フォルダに、マップが表示されます。

## マップの変更

次のトピックで、マップの変更方法について説明します。

- [68 ページの「戦略ツリーおよび責任マップの変更」](#)
- [68 ページの「戦略マップの変更」](#)

**ヒント：** マップ・フォルダでマップを素早く開いて選択するには、右クリックしてショートカット・メニューから「**編集**」を選択します。

## 戦略ツリーおよび責任マップの変更

責任マップと戦略ツリーを変更するには、次のタスクを実行します。

- マップの名前を変更するには、「**ファイル**」>「**名前変更**」を選択します。
- マップ構造を変更するには、要素をドラッグ・アンド・ドロップします。
- 個々のマップ要素のプロパティを変更するには、次の項を参照してください。
  - [62 ページの「戦略要素の設定」](#)
  - [63 ページの「責任要素の作成」](#)

また、[68 ページの「戦略マップの変更」](#)も参照してください。

マップ・フォルダでマップを素早く開いて選択するには、右クリックしてショートカット・メニューから「**編集**」を選択します。

## 戦略マップの変更

「**マップ**」を選択し、マップのタイプと名前を選択します。次のタスクを実行して、レイアウトを変更します。

- [69 ページの「背景の変更」](#)
- [69 ページの「要素の色の変更」](#)
- [69 ページの「要素プロパティの位置変更」](#)
- [70 ページの「パースペクティブ・フォントの変更」](#)

## 背景の変更

変更したマップの背景をインポートするには、マップ上の要素を移動またはサイズ変更する必要があります。

## 要素の色の変更

このトピックでは、戦略マップで要素の背景色を変更する方法について説明します。

- ▶ マップ要素の背景色を変更するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「戦略」を選択します。  
マップ・リストが表示されます。
  - 2 マップ・リストでマップを選択して、編集をクリックします。
  - 3 要素を右クリックしてプロパティを選択します。
  - 4 次のタブを選択します。
    - パレットから色を選択するには、「見本」を選択します。
    - カスタムの色を使用するには、「HSB」(色相、彩度、明度)および「RGB」(赤、緑、青)を選択し、表示されるボックスに色の値を入力します。
  - 5 適用する前に、プレビュー・ペインで色の変化を確認します。
  - 6 OK をクリックして、色を適用します。

## 要素プロパティの位置変更

このトピックでは、戦略マップ要素で表示される情報、および情報の位置を変更する方法について説明します。

- ▶ 要素の情報を調整するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「戦略マップ」を選択します。  
マップ・リストが表示されます。
  - 2 マップを選択して、編集をクリックします。
  - 3 マップで要素をクリックして、編集>「ボックスのプロパティのカスタマイズ」を選択します。
  - 4 サブアイテムを選択して、表示される情報を選択します。  
タイトル、名前、スコア、ステータス、パフォーマンスのトレンド、最低のパフォーマンス要素のステータスを階層で表示したり、非表示にしたりできます。
  - 5 情報をドラッグ・アンド・ドロップして、要素のレイアウトを変更します。  
たとえば、要素の名前をボックスの一番下に移動し、上部にステータスを表示します。

## 要素の表示オプションの変更

このトピックでは、戦略マップ上にある要素の背景色、形状およびフォント・サイズを変更する方法について説明します。

- ▶ 表示オプションを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「**戦略マップ**」を選択します。
  - 2 マップで要素をクリックし、編集>ボックス・テンプレートのカスタマイズを選択します。
  - 3 属性>「**背景色**」を選択し、戦略要素の背景色を設定します。「背景色の選択」ボックスが表示されます。
  - 4 オプション: イメージを背景として使用するには、背景イメージを選択します。
  - 5 枠線を選択して、次のプロパティを変更します。
    - 枠線の色
    - 枠線の太さ
    - 枠線のタイプと形状

## パースペクティブ・フォントの変更

このトピックでは、戦略マップでパースペクティブに異なるフォントを使用する方法について説明します。

- ▶ パースペクティブ・フォントを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、マップ>「**戦略マップ**」を選択します。
  - 2 リストでマップを選択して、編集をクリックします。
  - 3 マップでパースペクティブをクリックして、編集>「**テキスト・プロパティの変更**」を選択します。
  - 4 フォントで選択をクリックし、異なるフォントおよびフォント・サイズを選択します。
  - 5 OK をクリックします。
  - 6 最前面で、選択をクリックし、フォントの色を選択します。
  - 7 OK をクリックします。
  - 8 垂直方向に表示するなど、ボックスでフォントの位置を変更するには、向きを使用します。

## マップのリンク

マップ要素を接続すると、組織内の異なる部署やドメインの戦略ツリーおよび責任マップをリンクできます。これにより、従業員が、組織全体の戦略と責任の構造をサポートするために、各部署の戦略とレポートの構造がどのように協力し合うかを理解できます。

- ▶ 2つのマップをリンクするには、次の手順に従います。
  - 1 リンクを作成するマップを開きます。オブジェクト・ビューから、「マップ」を選択し、マップのタイプおよびマップを選択します。
  - 2 別のマップにリンクする要素をクリックします。
  - 3 編集>外部マップにリンクを選択します。  
「外部マップ・リスト」が表示されます。
  - 4 階層を展開し、リンクするマップ先を選択します。
  - 5 マップ要素を展開し、リンクを接続する要素を選択します。  
リンクされた要素はグレーになり、他のマップに表示されるようになります。  
いずれかの要素をダブルクリックすると、リンクされたマップが表示されます。

## 戦略ツリーおよびマップのコピーと削除

- ▶ 戦略ツリーおよびマップをコピーまたは削除するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューから、戦略ツリーまたはマップを選択します。  
「戦略ツリー」または「マップ・リスト」が表示されます。
  - 2 戦略ツリーまたはマップを選択します。
  - 3 コピーまたは削除をクリックします。  
複製したマップおよび戦略ツリーは、名前の前に「コピー」と表示されます。



# 6

## メジャーの使用方法

### この章の内容

メジャーについて .....	73
コンポーネント .....	73
基本メジャーおよび複合メジャー .....	78
次元メジャー .....	78
メジャーの作成について .....	79
メジャーを作成する前に .....	79
メジャーの作成 .....	85
メジャーの変更 .....	91
メジャーのコピー .....	91
メジャーの削除 .....	92

### メジャーについて

メトリックおよび KPI としても知られるメジャーにより、パフォーマンスまたは戦略の目標の進行状況を示す目的、数値化が可能なデータまたはデータを収集できます。たとえば、ある戦略的目標が製品の品質を向上させることである場合、「製品の返品数」や「低い顧客満足度」などのメジャーを作成できます。これらのメジャーでは、製品の返品数や不満を抱く顧客数を示すことで、製品の品質を反映します。メジャーを使用すると、次のタスクを実行できます。

- ビジネス・データを分類および解釈する。メジャーを使用して、組織における財務などの主要な領域(パースペクティブ)の状態を反映させます。たとえば、銀行業で組織の総資産利益を追跡するメジャーでは、財務データを提供するため、財務のパースペクティブに関連付けられる必要があります。
- 戦略要素、責任要素および従業員のパフォーマンスを評価して表示するスコアカードを作成する。

実績の入力や目標値の設定などの特定のタスクを実行させるため、メジャーに従業員を割り当てる。部署など、アプリケーション内のデータを分割するために使用するドメインにメジャーを関連付けできます。

### コンポーネント

このトピックでは、次の概念やコンポーネントを説明することで、メジャーの仕組みを示します。

- [74 ページの「実績およびスコア」](#)

- 74 ページの「目標および複数の値の目標」
- 75 ページの「単位」
- 75 ページの「頻度について」
- 77 ページの「収集されていないメジャー」
- 77 ページの「式」
- 77 ページの「従業員」
- 78 ページの「パフォーマンス・インディケータおよび範囲」

## 実績およびスコア

メジャーによって収集されたデータは、実績と呼ばれます。実績は、通貨や時間などの単位で表されます。実績は次の方法で収集できます。

- 実績の式を使用する
- 従業員を、レポートを使用して実績を入力する実績収集者として割り当てる
- フラット・ファイルのインポート/エクスポート・ユーティリティを使用して、外部データ・ソースから実績をインポートする。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。
- Essbase データベースから実績を取得する

「頻度」を選択することで、実績の収集期間と頻度を指定します。頻度で定義された期間に実績が収集されなかったメジャーは、収集されていないとみなされます。メジャーが実績を収集できない場合、次の理由が考えられます。

- 実績が存在しないか利用できない。
- 頻度で定義された収集期間中に実績が入力されなかった。

メジャーで、収集した実績を評価するのにスコアの式を使用している。この場合、パフォーマンス全体にパーセントとして反映されます。

メジャーに収集させる実績、つまり望ましい結果は目標と呼ばれます。74 ページの「目標および複数の値の目標」を参照してください。

## 目標および複数の値の目標

メジャーに収集させる実績は、目標値と呼ばれます。作成した各目標は、どのメジャーにも使用でき、ツールバーの「レポートの出力先」リストに表示されます。別の目標を使用してパフォーマンスを評価して計算を実行するには、このリストから別の目標を選択します。目標の頻度を使用して、目標がデータの取得と評価に使用される日と頻度を指定します。実際の目標値は次のように指定します。

- mComparator または mSubTarget などの関数を含む式を使用して、選択したメジャーの目標を参照および挿入する。
- 目標設定者として従業員を割り当てて、値を入力できるようにする。
- フラット・ファイルのインポート/エクスポート・ユーティリティを使用して、外部データ・ソースから目標値をインポートする。

複数の値の目標は、多数のサブ目標を持つことのできる目標です。たとえば、「概算の高さ」などのアセンブリ設定を監視するメジャーの目標には、最高の高さ、平均の高さおよび最低の高さの値に対するサブ目標を含められます。

## 単位

実績値および目標値を数値化する単位。たとえば、週単位でカスタマ・サポートへの電話の件数を記録するメジャーでは、「週の電話件数」という単位を使用できます。独自のものを作成できますが、Performance Scorecard には次の単位が用意されています。

- 合計時間
- クレーム数
- 香港ドル、円、ランドなどの通貨単位

## 頻度について

頻度により、メジャーの実績値と目標値を入力する予定日(収集の頻度)、およびこれらの値をレポートに表示する予定日(レポートの頻度)が指定されます。次の頻度を使用できます。

- なし - 頻度設定なし。実績が入力される日付を指定する必要があります。
- 日次 - 毎日
- 日次(月曜 - 金曜) - 月曜日から金曜日までの各日
- 週次 - 各週
- 半月ごと - 月の 1 日と 16 日(2 月の場合は、1 日と 15 日)
- 月次 - 各月
- 四半期ごと - 各四半期。各四半期は、1 月 1 日、4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日に開始されます。
- 半期ごと - 年に 2 回。
- 年次 - 年に 1 回。

次の期間または下位頻度を使用して、実績値と目標値を収集する実際の日を指定します。

- 各 x 期間 - 収集と収集の間に置く期間。たとえば、「月次」の頻度を選択して、期間を 3 と入力した場合、実績と目標は、3 か月ごとに収集されます。
- 期間の最初の日 - データを収集する週の日。
- 期間の開始日 - 期間の最初の日にデータを収集します。たとえば、目標に対して「月次」の頻度を選択して期間を 2 に指定し、このオプションを選択すると、目標値は 1 か月おきの 1 日に収集されます。
- 期間の最終日 - データを収集する日を指定します。たとえば、メジャーの場合、「週次」の頻度を選択して期間を 4 に指定し、このオプションを選択すると、実績は 4 週間ごとの最後の日に収集されます。

- 期間の x 日目 - データを収集する日を指定します。たとえば、目標に対して「半月ごと」の頻度を使用して期間を 2 に指定し、このオプションで 4 を指定した場合は、目標値は 1 か月に 2 度、毎月の 4 日に収集されます。
- 期間の最終日 - データを収集する最終日を指定します。たとえば、「週次」の頻度を選択して期間を 4 に指定し、このリストで「水曜日」を選択すると、データは 4 週間ごとの水曜日に収集されます。
- データ収集日 - 指定した日に実績を常に収集します。

次の項を参照してください。

- [76 ページの「頻度および収集期限の延長」](#)
- [76 ページの「年に 52 週および 53 週」](#)

## 頻度および収集期限の延長

レポートの頻度では、実績値と目標値が Performance Scorecard のレポートで反映される日付のリストが生成されます。収集の頻度では、メジャーの実績値と目標値が入力されるまたは使用可能になる一連の日付が生成されます。期限の延長では、値が入力される日を指定できます。たとえば、5 月 26 日が収集日である実績を持つメジャーがあるとします。収集期限の延長を 3 日と指定すると、実績は 5 月 29 日中まで入力可能になります。ただし、5 月 29 日を過ぎると入力できません。

たとえば、ある企業で、各月の販売の売上額を追跡するのに「売上」という名前のメジャーを作成したとします。他の月と重複しないようにするため、「売上」メジャーのレポート頻度を月次にし、期間の最終日を収集日とします。これにより、たとえば、1 月の売上額は 2 月ではなく 1 月にのみ表示されるようになります。売上額が 1 月中に確定しないが、次の月(2 月)の中旬までには判明する場合は、毎月 15 日に指定されている収集の頻度を使用できます。実績が 2 月 18 日より後に入力されないようにするには、期限の延長を 3 に指定します。これらの頻度設定により、1 月の売上額の実績が 2 月 15 日までに収集されない場合でも、1 月のレポートに表示されるようにできます。また、売上実績の値が、2 月 15 日から 3 日後より後に入力されないようにもできます。

同じ頻度のルールが目標値にも適用されます。目標収集の頻度により、目標値が入力される予定の日付が生成されます。目標レポートの頻度では、目標値がレポートに関連付けられる日付が識別されます。

収集期限の延長の期限が切れると、メジャーがロックされ、ユーザーは実績値と目標値の入力ができなくなります。ロックを解除できるのは管理者です。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

## 年に 52 週および 53 週

小売業界または政府部門の組織の場合は、年 364 日(52 週)を使用します。年 52 週の場合は、四半期および半期の頻度が、月ベースから週ベースに変更されます。たとえば、四半期の頻度は 3 か月ではなく 13 週になります。年 52 週を使用すると、週は、4 週および 5 週のグループに振り分けられます。

[113 ページの「年 52 週の使用方法」](#) を参照してください。

## 収集されていないメジャー

実績が、頻度または収集期限の延長で定義された収集期間内に入力されない場合は、メジャーは収集されていないとみなされます。収集されていない実績の、レポートでの表示方法および計算での使用方法は、「スコアカードの構成」ページで指定できます。このページでは、収集されていない欠落データの処理方法を、前の実績値で代用したり、欠落している実績を計算から除外することでカスタマイズできます。[110 ページの「収集されていないデータまたは使用不可のデータの使用方法」](#)を参照してください。

## 式

式は、メジャー全体のパフォーマンスを判断するために、実績値、目標値およびスコアの計算方法および評価方法を定義する場合に次のように作成します。

- 目標の式 - その他のメジャーの実績またはスコアがメジャーの目標に影響する場合に使用します。たとえば、「製品の売上」を監視しているメジャーの目標を、前年の実績に 15% をプラスしたものをこのメジャーの実績にできます。
- 実績の式 - その他のオブジェクトのデータがメジャーの実績に影響を及ぼす場合に使用します。たとえば、「純利益」という名前の複合メジャーに対する実績の式には、「販売原価」や「営業経費」などのメジャーの実績が含まれます。
- スコアの式 - パフォーマンス全体を反映するスコアを生成するため、実績の評価方法を指定します。デフォルトでは、Performance Scorecard では、メジャーの実績をその目的で割ることによってスコアを計算する式が使用されます。

`mResult(this) / mTarget(this)`

`this` は、現在のメジャーです。

次のデータを挿入するため、関数を使用する複雑な式を作成するには、式エディタを使用します。

- メジャーの実績、スコア、目標および差異
- 変数実績
- スコアカード・スコア

前に収集したデータを使用して式を構築するには、`timeOffset` などの時間関連の関数を使用します。

詳細は、[付録 B「複雑な式の作成」](#)を参照してください。

## 従業員

次のタスクを実行する場合には、メジャーに従業員を割り当てます。

- メジャーの責任を担う。従業員は所有者です。
- 実績値を入力または変更する。従業員は実績収集者です。
- 1 つまたは複数の値の目標値を入力する。従業員は目標設定者です。

- 財務四半期などのレポートの期間中に、パフォーマンスについて話し合うための注釈を作成する。従業員は注釈作成者です。第12章「ノートおよび注釈の使用方法」を参照してください。

メジャーに従業員を割り当てられるのは、次の場合です。

- 従業員を作成するとき。49ページの「従業員の作成」を参照してください。
- メジャーを作成するとき。89ページの「レポート・オプションの定義および従業員の割当て」を参照してください。

ユーザーにメジャーにアクセスさせないようにする場合、管理者は、従業員が所有権などの特別なメジャーの割当てを所有している場合にのみ、アクセスを許可するセキュリティの役割を定義できます。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

## パフォーマンス・インディケータおよび範囲

パフォーマンス・インディケータは、メジャーおよびスコアカードのパフォーマンス・レベルをグラフィカルに表示します。範囲セットが各メジャーに関連付けられ、実績およびスコアを評価してパフォーマンス・レベルを表示します。たとえば、メジャーの実績が70から100の間にある場合に高いパフォーマンスを示すには、高いパフォーマンスを表すインディケータの範囲として、70、小なり記号(>)、xの後に小なり記号(>)、100の順に入力します。

**ヒント：** 他のメジャーまたはスコアカードを評価する場合に同じ範囲を使用するには、名前付き範囲を作成します。名前付き範囲により、後で他のメジャーまたはスコアカードを定義するときに選択できるように、値の範囲を一度で定義できます。

Performance Scorecardには、パフォーマンスのレベルを表すパフォーマンス・インディケータが4つ用意されています。緑は高いパフォーマンスを示し、黄色は許容可能なパフォーマンスを示し、赤は劣化したパフォーマンスを示し、白はパフォーマンス・レベルが定義されていないことを示します。必要に応じて、これらのインディケータを変更したり、独自のインディケータを作成したりできます。

## 基本メジャーおよび複合メジャー

基本メジャーでは、実績は手動入力されるか外部データ・ソースからロードされるため、実績の式を持ちません。また、基本メジャーは次元ではありません。

これに対し、複合メジャーでは、他のメジャーまたはスコアカードのデータを含むため、実績は実績の式を使用して計算されます。

## 次元メジャー

次元は、関連のメジャー・データを論理的にグループ化する場合に使用できる、販売や製品などの上位レベルのカテゴリです。次元には、次元別にグループ化で

きるアイテムであるメンバーが含まれます。次元とメンバーで形成した階層は、次元とメンバーが交差するデータを収集するための次元メジャーを生成可能にするカスタム次元アウトラインです。これにより、オフィス別の売上など、複数のデータ・ポイントでデータを収集できます。たとえば、国際的なソフトウェア組織では、営業所ごとに製品の売上を監視するために次のタスクを実行します。

- 各営業所と製品を表す次元で次元のアウトラインを作成する。
- 支社および製品の次元を追加する、「製品の売上」というメジャー・テンプレートを作成する。

**ヒント：** Essbase の次元メジャーおよびデータを使用するために、管理者が Essbase への接続を設定できます。設定の詳細は『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』で説明されています。

## メジャーの作成について

メジャーを作成するには、次のタスクを実行します。

- メジャーが関連付けられるパースペクティブ、およびメジャー・データを数値化する単位などの基本情報を指定します。
- 実績、スコアおよび目標の値を計算する式を定義します。
- データが収集される時期と頻度を指定します。
- メジャーを所有する従業員、実績値を入力する従業員、目標値を入力する従業員を指定します。
- メジャーのパフォーマンスを表すパフォーマンス・インディケータのデータを評価する範囲を定義します。

## メジャーを作成する前に

メジャーを作成する前に、次のタスクを実行します。

1. **オプション:** Essbase データベース内の実績値および目標値を使用するには、管理者にこのデータベースを定義し、接続してもらってください。
2. 実績を数値化する単位を作成します。80 ページの「[単位の作成](#)」を参照してください。
3. 式で必要な変数を作成します。
4. **オプション:** メジャーで到達可能な最高スコアおよび最低スコアを指定します。85 ページの「[スコア制限値](#)」を参照してください。
5. **オプション:** 他の期間中に別の実績を評価するには、複数の目標を作成します。80 ページの「[目標の作成](#)」を参照してください。
6. **オプション:** デフォルトを使用しない場合は、パフォーマンス・インディケータを作成します。82 ページの「[パフォーマンス・インディケータの作成](#)」を参照してください。
7. **オプション:** メジャーを関連付けるビジネス領域を表すドメインは、管理者に作成してもらってください。

8. **オプション:** 個別のメジャーに関連付ける Business Intelligence レポートまたは Intelligence レポートへのリンクを作成します。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

## 単位の作成

実績を数値化する単位です。たとえば、製品の年間売上の単位をドルにします。

- ▶ 単位を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、単位リストを選択します。  
「単位リスト」が表示されます。
  - 2 追加をクリックします。  
「単位設定」ページが表示されます。
  - 3 数値化するデータの単位の名前および説明を入力します。
  - 4 スイス・フラン(CSF)などの通貨単位を作成するには、次のタスクを実行します。
    1. 「これは通貨単位です」を選択します。
    2. 「通貨コード」に単位の通貨コードを入力します。  
コードがわからない場合は、「検索」をクリックします。コードの最初の文字がわかっている場合は、その文字の後にアスタリスク(\*)を続けて入力します。これで、その文字で始まるすべてのコードが一覧表示されます。たとえば、B\*と入力すると、BRL(ブラジル・リアル)などの B で始まるコードが表示されます。
  - 5 別の Hyperion 製品アプリケーションの単位を使用するには、インターオペラビリティのためのスケールから該当するスケール・レベルを選択します。  
たとえば、メジャー・データを 100 万ドル(\$ (millions))単位で数値化する場合は、100 0000 を選択します。
  - 6 保存をクリックします。

## 目標の作成

目標は、メジャーが達成することを期待される目標です。ツールバーの「レポートの出力先」リストを使用すると、別の目標でメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを評価できます。

- ▶ 目標を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、目標リストを選択します。
  - 2 「目標リスト」で追加をクリックします。
  - 3 名前と説明を入力します。
  - 4 目標を使用してデータを評価するには、その目標を先頭に配置します。
  - 5 目標が多数の値としきい値を持てることを指定するには、「複数の値の目標」を選択します。81 ページの「複数の値の目標の作成」を参照してください。

- 6 「次へ」をクリックします。
- 7 オプション: 別のデータ・ソースに目標値を保管するには、次のタスクを実行します。
  1. 「データ・ソース」を選択します。使用可能なデータ・ソースが表示されます。
  2. 使用するデータ・ソースの横にある「編集」をクリックします。
  3. 「次元の選択」ボックスで、アウトラインを展開し、使用する値を含むメンバーを選択します。
- 8 保存をクリックします。

目標が「目標リスト」および「レポートの出力先」リストに追加されます。これで、目標を使用してデータを計算できます。

## 複数の値の目標の作成

複数の値の目標は、多数のサブ目標を持つことのできる目標です。たとえば、「概算の高さ」などのアセンブリ設定を監視するメジャーの目標には、最高の高さ、平均の高さおよび最低の高さの値に対するサブ目標を含められます。目標設定者は、メジャー詳細レポートの「目標」タブ、「実績と目標」タブで複数の値の目標の値を入力できます。

- ▶ 複数の値の目標を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 80 ページの「目標の作成」の手順を実行し、「複数の値の目標」を選択します。
  - 2 「追加」をクリックし、最初のサブ目標の名前を入力します。たとえば、パフォーマンスを評価するための目標で別のパフォーマンス・レベルを指定する場合は、High と入力します。
  - 3 「OK」をクリックします。
  - 4 手順 2 を繰り返して、複数の値の目標のすべてのサブ目標を作成します。
  - 5 レポートに表示されるサブ目標の順序を変更するには、そのサブ目標を選択して「上へ移動」または「下へ移動」をクリックします。
  - 6 「次へ」をクリックします。
  - 7 オプション: 外部データソースの値を使用するには、次のタスクを実行します。
    - データ・ソースの横にある「編集」をクリックします。
    - 表示された「次元の選択」ボックスで、アウトラインを展開し、目標値を含むメンバーを選択します。
    - 「OK」をクリックします。
  - 8 保存をクリックします。

## 変数の作成

変数は、為替レートなどの時間とともに変化するデータを表します。最新のデータを使用して計算を実行する場合には、式で変数を使用します。

- ▶ 変数を作成するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、変数リストを選択します。
  - 2 「変数リスト」で、追加をクリックします。  
「変数設定」ページが表示されます。
  - 3 名前に、名前を入力します。
  - 4 単位で、選択をクリックします。
  - 5 「単位の選択」ボックスで、変数を数値化する単位を選択します。たとえば、通貨の為替レートの変数を作成している場合は、\$などの通貨を選択します。  
「変数設定」ページに戻ります。
  - 6 説明に、変数の使用方法の概要を入力します。
  - 7 実績収集者で、選択をクリックして、変数の値を入力できる従業員を指定します。
  - 8 「従業員の選択」ボックスで、変数の実績を入力できる従業員を選択し、「適用」をクリックします。  
「変数設定」ページに戻ります。
  - 9 「保存」をクリックします。

## パフォーマンス・インディケータの作成

パフォーマンス・インディケータは、メジャーの現在のステータスを見ただ目で簡単に表す記号です。デフォルトのインディケータを使用することも、他のイメージのインポートもできます。

メジャーのステータスを判別するには、表示されるパフォーマンス・インディケータを識別するための、メジャーの実績を評価する範囲を定義します。他のメジャーを作成する場合に同じ範囲セットを使用するには、名前付き範囲を作成します。[83 ページの「名前付き範囲の作成」](#)を参照します。1つのメジャーのみで範囲セットを使用するには、カスタム範囲を作成します。[84 ページの「カスタム範囲の作成」](#)を参照してください。

**ヒント：** 白黒でレポートを印刷する場合は、個別の特徴として色ではなく形状を使用するパフォーマンス・インディケータを作成します。

次のレポート上のスコア・セルの背景色を選択する場合は、カスタマイズ・オプションも使用できます。

- メジャー・パフォーマンス
- スコアカード・パフォーマンス
- メジャー・トレンド
- スコアカード・レポート
- スコアカード・トレンド

レポートの「カスタマイズ」から選択された背景色により、選択された色がレポート・セルに表示されることで簡単に印象付けられます。

- ▶ パフォーマンス・インディケータを作成するには、次の手順に従います。
- 1 **オブジェクト・ビュー**で、**パフォーマンス・インディケータ・リスト**を選択します。  
「パフォーマンス・インディケータ・リスト」が表示されます。
  - 2 **追加**をクリックします。  
「パフォーマンス・インディケータ設定」ページが表示されます。
  - 3 **名前**に、新しいパフォーマンス・インディケータの名前を入力します。
  - 4 **オプション**: 色の横にある**カラー・ボックス**をクリックします。  
「色」ダイアログ・ボックスが表示されます。セル内の背景色として表示する色、およびこのパフォーマンス・インディケータのチャートを選択し、「OK」をクリックします。パレットから色のサンプルを選択するか、HSL 値または RGB 値を使用して色を設定できます。この設定は、実際のパフォーマンス・インディケータの色には影響しません。
  - 5 **説明**に、このインディケータで表すパフォーマンス・レベルに関する概要を入力します。  
「部分範囲設定」ボックスが表示されます。X は、メジャーが収集する実績を表します。
  - 6 「**ファイルのアップロード**」の横にある**参照**をクリックして、パフォーマンス・インディケータで使用する**イメージ・ファイル**に移動し、**ファイルのアップロード**をクリックします。選択されたグラフィックが、「パフォーマンス・インディケータ」フィールドの横に表示されます。
  - 7 **デフォルトの範囲**で、**追加**をクリックします。
  - 8 **ボックス**に数値を入力し、**リスト**から**比較関数**を選択して、**範囲**を指定します。  
たとえば、メジャーが 60 から 85 の間の実績を収集したときにインディケータを表示するには、最初のボックスに 60、2 番目のボックスに 85 と入力します。  
各範囲の境界に式を定義するには、[191 ページの「複雑な式の作成」](#)を参照してください。
  - 9 **順序**で、「パフォーマンス・インディケータ・リスト」とレポートにパフォーマンス・インディケータを表示する順序を指定します。
  - 10 **保存**をクリックします。

## 名前付き範囲の作成

複数のメジャーのパフォーマンスを反映する値の範囲を 1 つ作成する場合は、名前付き範囲を作成します。この範囲は、他のメジャーおよびスコアカードを作成する場合に選択できます。

**注:** 名前付き範囲を変更すると、変更はその範囲を使用しているメジャーに適用されます。

- ▶ 名前付き範囲を作成するには、次の手順に従います。
- 1 **オブジェクト・ビュー**で、**名前付き範囲リスト**を選択します。

「名前付き範囲リスト」が表示されます。

- 2 「名前付き範囲リスト」で、追加をクリックします。

「名前付き範囲設定」ボックスが表示されます。

- 3 名前を入力し、パフォーマンス・レベルを判定するための範囲の使用方法を指定します。

- 4 各パフォーマンス・インディケータのフレームで、追加をクリックします。

「部分範囲設定」ボックスが表示されます。その中の x は、評価される(スコアなどの)値を表します。

- 5 パフォーマンス・インディケータを表示する値の範囲を入力し、OK をクリックします。

たとえば、実績が 85 より上で 95 より下の場合に高いパフォーマンス・インディケータを表示するには、85、小なり記号(<)の順に入力し、隣のフィールドに小なり記号(<)、95 の順に入力します。

**ヒント：** 各範囲の境界に式を定義するには、191 ページの「複雑な式の作成」を参照してください。

- 6 保存をクリックして、「名前付き範囲設定」ページに戻ります。

範囲を変更するには、その範囲を選択して「編集」をクリックします。

範囲を削除するには、その範囲を選択して「削除」をクリックします。

## カスタム範囲の作成

カスタム範囲により、特定のスコアカードまたはメジャーのみを評価するために使用する範囲を定義できます。

- ▶ カスタム範囲を作成するには、次の手順に従います。

- 1 メジャー、戦略要素、責任要素または従業員を開きます。

- 2 「設定」ページで、範囲を選択します。

- 3 「範囲」タブで、範囲の追加をクリックします。

- 4 「範囲」で、カスタムを選択します。

- 5 編集ボタン  をクリックします。

- 6 名前を入力し、範囲の目的を入力します。

- 7 各パフォーマンス・インディケータのフレームで、追加をクリックします。

「部分範囲設定」ボックスが表示されます。x は、評価されるメジャーの実績またはスコアカード・スコアを表します。

- 8 パフォーマンス・インディケータを表示する値の範囲を入力し、OK をクリックします。

たとえば、実績が 75 より上で 90 より下の場合に高いパフォーマンス・インディケータを表示するには、最初のボックスに 75 と入力し、その後に小なり記号(<)を挿入し、フィールドの x の後に小なり記号(<)を挿入してから 90 と入力します。

**ヒント：** 各範囲の境界に式を定義するには、[191 ページの「複雑な式の作成」](#)を参照してください。

- 9 保存をクリックして、「範囲設定」ページに戻ります。
- 10 メジャー、従業員、戦略要素または責任要素で範囲を使用するには、作業内容を保存します。

## パフォーマンス・インディケータの変更

パフォーマンス・インディケータはカスタマイズできます。たとえば、良好なパフォーマンスを表す緑のインディケータを別のイメージに置換できます。

- ▶ パフォーマンス・インディケータを変更するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、パフォーマンス・インディケータ・リストを選択します。「パフォーマンス・インディケータ・リスト」が表示されます。
  - 2 パフォーマンス・インディケータを選択し、編集をクリックします。「パフォーマンス・インディケータ設定」ページが表示されます。
  - 3 次の設定を変更することで、パフォーマンス・インディケータを変更します。
    - 名前
    - 使用するイメージ
    - パフォーマンス・インディケータが使用される時期を示す範囲
  - 4 保存をクリックします。

## スコア制限値

デフォルトでは、0-100 でメジャーが採点されます。このデフォルトは、0 より下および 100 より上に変更して使用できます。

スコアカード、メジャー、パースペクティブ・データを使用または表示する他のオブジェクトのスコアリング範囲も同様に更新されます。[109 ページの「スコアリング制限の指定」](#)を参照してください。

## メジャーの作成

メジャーを作成するには、次のタスクを実行します。

- [86 ページの「一般的な属性の定義」](#)

これには、外部 Web ページの埋め込み、外部 Web ページへのリンク、カスタム・レポートの作成と添付、デフォルトのメジャー・レポート・タブのカスタム・レポートへの置換など、メジャー詳細レポートに適用されるカスタム・レポート機能の設定が含まれます。
- [87 ページの「式および頻度の定義」](#)
- [89 ページの「レポート・オプションの定義および従業員の割当て」](#)
- [90 ページの「範囲の作成」](#)

## 一般的な属性の定義

- ▶ メジャーを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、「メジャー・リスト」を選択します。
  - 2 表示されたリストで、「追加」をクリックします。
  - 3 名前に、一意の名前を入力します。

名前が長い場合は、「ショート名」に簡潔な名前を入力します。この名前は、「ユニシアチブ・ステータス」レポートで使用されます。
  - 4 オプション: メジャーが、ブラウザ・ビューやレポートで表示する主要データを追跡する場合は、プライマリを選択します。
  - 5 「プライマリのパースペクティブ」で、メジャーを適切に分類するパースペクティブを選択します。

たとえば、財務データを提供する「製品の売上」というメジャーは、「財務」というパースペクティブに関連付けます。

利用できるパースペクティブは、フレームワークを設定したときに作成したものです。
  - 6 オプション: メジャーを別のパースペクティブに関連付けるには、選択をセカンダリのパースペクティブでクリックします。

たとえば、製品の売上が増えると顧客ベースも広がるので、「製品の売上」というメジャーは、「顧客」というパースペクティブにも配置できます。
  - 7 説明で、メジャーの目的およびメジャーが収集するデータを入力します。
  - 8 オプション: 「ドメイン」で、「選択」をクリックして、メジャーを配置するドメインを選択します。ドメイン名がわからない場合は、「検索」をクリックしてすべてのドメインを表示します。
  - 9 オプション: 外部 Web ページへのリンクを追加する、またはメジャーをカスタム・レポートに割り当てる場合は、[86 ページの「カスタム・レポート・オプションの使用方法」](#)を参照してください。
  - 10 次へをクリックするか、計算式を選択します。[87 ページの「式および頻度の定義」](#)を参照してください。

## カスタム・レポート・オプションの使用方法

メジャーの詳細レポートは、次のようにカスタマイズできます。


- 次の手順に実行することで、外部ページまたはレポートにリンクを添付します。
  - 1 「リンク名」に、ページまたはレポートの名前、またはリンクの名前を入力します。
  - 2 「リンク URL」に、ページまたはレポートの URL を入力します。
  - 3 別のブラウザ・ウィンドウでページを開くには、「新しいウィンドウで起動」を選択します。
- 次の手順に実行することで、外部ページまたはレポートを埋め込みます。

1. 「リンク名」に、ページまたはレポートの名前、またはリンクの名前を入力します。
  2. 「リンク URL」に、ページの URL を入力します。
  3. 「タブに URL を表示」を選択します。
- 「リンク名」に適切な名前を入力してデフォルトのタブを置換することで、独自のレポートに置き換えます。
  - general - 「全般」タブを置換
  - trendingChart - 「チャート」タブを置換
  - trendingTable - 「トレンド・テーブル」タブを置換
  - initiatives - 「イニシアチブ」タブを置換
  - results - 「実績」タブを置換
  - comparators - 「目標」タブを置換
  - reverse - 「一部」タブを置換
  - notes - 「ノート」タブを置換
  - annotationsInitiatives - 「ノートとイニシアチブ」タブを置換
  - resultsAndTargets - 「実績と目標」タブを置換

これらのレポートへは、ブラウザ・ビューでメジャーを右クリックし、コンテキスト・メニューからビューを選択することでもアクセスできます。

## 式および頻度の定義

▶ 式および頻度を定義するには、次の手順に従います。

- 1 「メジャー設定」ページで、計算式を選択します。
- 2 実績をパフォーマンス・レベルで示す方法を指定します。
  - 高い実績が良好なパフォーマンスを示すようにする場合は、「**高い実績**」を選択します。
  - 低い実績が良好なパフォーマンスを示すようにする場合は、「**低い実績**」を選択します。
- 3 単位で選択をクリックして、メジャーを数値化する単位を指定します。たとえば、「総収入」というメジャーの単位をドルにします。
- 4 日付セレクタ・ボタン  をクリックし、開始日で実績の収集を開始する日付を選択します。
- 5 (期間累計の実績を含む)実績が、レポートを使用して実績収集者によって入力されない場合は、「**実績の式**」の横にある「**選択**」をクリックして、実績を計算する式を定義します。付録 B 「**複雑な式の作成**」を参照してください。
- 6 実績および目標を使用して全体のパフォーマンスを計算するデフォルト式を受け入れるか、スコアの式の横にある「**選択**」をクリックして、別の式を定義します。付録 B 「**複雑な式の作成**」を参照してください。

- 7 メジャーで収集される予定の実績が他のデータによって影響を受ける場合、または目標を使用してパフォーマンスを評価する場合は、目標の式の横にある「選択」をクリックします。

作成した複数の値の目標が一覧表示され、それぞれに目標の式を定義できます。

**注：** レポートを使用して目標設定者によって入力された目標値は、式で計算された値を上書きします。

- 8 オプション: 実績ソース・リポジトリで、実績を取得するソースの名前を入力します。これは純粹に記述的なテキストです。

たとえば、メジャー・データが総勘定元帳データベースにある場合は、そのデータベースの名前を入力します。

- 9 収集の頻度の横にある選択をクリックし、実績値が入力される日、または使用可能になる日を指定する頻度を選択します。

「頻度の選択」ボックスが表示されます。年 52/53 週を使用し、実績を毎月収集する場合は、「月次(週単位)」を選択します。

- 10 メジャー・レポートの頻度の横にある選択をクリックして、実績値をレポートに関連付ける日付を指定します。この頻度により、収集された実績値がレポートでアクティブになる日が決定されます。

たとえば、ある企業では、各月の販売の売上額を追跡する場合に、月次レポートの頻度を期間の最終日に指定することで、他の月と重複するのを防げます。これにより、たとえば、1月の売上額は2月ではなく1月にのみ表示されるようになります。各月の売上額が次の月の中旬までに使用できない場合は、毎月15日に指定されている収集の頻度によって、各月の実績が、月内に収集されていない場合でもその月に関連付けられるようにします。たとえば、1月の売上実績が2月15日までに収集されない場合でも、実績はレポートの1月に表示されます。

- 11 オプション: 実績収集者が実績の入力日を延長できるようにするには、収集期限の延長に値を入力します。

- 12 目標収集の頻度の横にある選択をクリックし、目標値が入力される日、または計算される日を指定する頻度を選択します。

「頻度の選択」ボックスが表示されます。年 52/53 週を使用し、目標を毎月収集する場合は、「月次(週単位)」を選択します。

- 13 目標レポートの頻度の横にある選択をクリックし、目標値がレポートに関連付けられる日付のリストを生成します。たとえば、3月に入力された目標値を6月に適用し、レポートの6月に関連付けられるように指定できます。

- 14 オプション: 目標設定者が値の入力日を延長できるようにするには、目標収集期限の延長に入力します。

- 15 次へをクリックします。89 ページの「レポート・オプションの定義および従業員の割当て」を参照してください。

# レポート・オプションの定義および従業員の割当て

レポートにおけるメジャー・データを指定または入力する従業員を特定し、メジャー・データの計算、評価および表示方法を指定するには、次の手順を実行します。また、従業員の作成時に従業員をメジャーに割り当てられます。[51 ページの「責任の割当て」](#)を参照してください。

▶ レポートのオプションを定義し、従業員を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 「メジャー設定」ページで、レポートの小数点以下の桁数から、レポートで使用する小数点以下の桁数を選択します。

たとえば、メジャー実績が 345.22045 の場合に 345.22 と表示するには、2 を入力します。

- 2 オプション: 実績をトレンド分析や比較に使用する期間を指定するには、現行期間のデータのトレンドの基準から期間を選択します。

たとえば、実績を 5 つ前の期間の実績と比較するには、「5 期間前」を選択します。

- 3 オプション: ある期間中に収集したデータに期間累計の計算を適用するには、次の手順を実行するか、[90 ページの「期間累計関数の作成」](#)を参照してください。

1. 「この操作を実行」および関数を選択します。

たとえば、すべての値を追加するには、SUM 関数を使用します。AVERAGE、MAX、MIN の関数を使用すると、それぞれ平均、最大または最小の値を算出できます。

2. 頻度を選択することで、どの収集データにいつ関数を使用するかを指定できます。これは、収集の頻度よりも大きな値になります。

- 年次 - 過去 1 年間のすべてのデータ・ポイントに関数を適用します。
- 半期ごと - 過去 6 か月間のすべてのデータ・ポイントに関数を適用します。
- 四半期ごと - 四半期の値を取得するのに、最後の四半期の 3 か月に関数を適用します。たとえば、開始日が 2 月 1 日の場合、2 月、3 月、4 月の 3 か月になります。年 52/53 週の場合、四半期は 13 週間になります。
- 月次 - 1 か月間に収集されたすべてのデータ・ポイントに関数を適用します。
- 週次 - 過去 1 週間に収集されたすべてのデータ・ポイントに関数を適用します。

- 4 選択をクリックして、メジャーを所有する従業員、実績と目標を入力できる従業員、注釈を作成できる従業員を指定します。実績および目標を入力または変更できるのは、実績収集者および目標設定者として割り当てられた従業員のみです。

**注:** これらの従業員は、メジャーのドメイン内に存在していない場合でもデータを入力できます。

- 5 従業員を選択し、適用をクリックします。

「メジャー設定」ページに戻ります。

- 6 「**範囲**」を選択し、90 ページの「**範囲の作成**」を参照してください。

## 期間累計関数の作成

特定の期間中に収集されたメジャー実績を評価するには、期間累計の式を定義します。たとえば、メジャーの実績値を年間の目標で割ることで期間累計を計算する場合は、次の式を使用できます。

```
sum(valuesToDate(result, this, year))/  
sum(valuesToDate(target, this, year))
```

**注：** 手動入力された期間累計の値は、式で計算された値を上書きします。



- ▶ 期間累計の式を作成するには、次の手順に従います。

- 1 「**期間累計の式**」を選択します。
- 2 式エディタで時間関数を使用して、式を作成します。204 ページの「**時間関連の関数**」を参照してください。

## 範囲の作成

メジャーのパフォーマンスを評価して表示するには、パフォーマンス・インディケータの範囲を作成します。同じ範囲の値で他のメジャーのパフォーマンスを評価する場合は、名前付き範囲を作成します。83 ページの「**名前付き範囲の作成**」を参照してください。

- ▶ 範囲を定義するには、次の手順に従います。

- 1 「メジャー設定」ページで、範囲を選択します。
- 2 メジャーのステータスを判定するデータ型を選択します。たとえば、計算済の期間累計の値を使用するには、「**ステータスに期間累計の実績を使用**」を選択します。
- 3 範囲の追加をクリックし、次のタスクを実行します。
  - 名前付き範囲を使用するには、次の手順に従います。
    - カレンダー・アイコン  をクリックし、範囲を使用する日付を選択します。
    - ドロップダウン・リストから範囲を選択します。
  - 範囲を作成するには、次のタスクを実行します。
    - リストから「**カスタム**」を選択します。
    - 編集ボタン  をクリックします。  
「範囲設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
    - 最初のパフォーマンス・インディケータ・フレームで「**追加**」をクリックします。  
「部分範囲設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- パフォーマンス・インディケータを表示する値の範囲を入力します。たとえば、実績が 70 から 85 の間のときに良好なパフォーマンスを示すには、適切なインディケータの範囲として、最初のボックスに 70、小なり記号 (<) を入力し、x の後に小なり記号 (<) を挿入し、85 を入力します。
  - 「OK」 をクリックします。
- 4 残りのパフォーマンス・インディケータの横にある追加をクリックし、範囲を定義します。
  - 5 保存をクリックします。

## メジャーの変更

- ▶ メジャーを変更するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、メジャーを選択するか、メジャーを右クリックして「編集」を選択します。  
「メジャー・リスト」が表示されます。
  - 2 メジャーを次のように変更します。
    - 関連付けられている名前およびパースペクティブを変更します。
    - 他のドメインにメジャーを配置します。
    - 実績、スコアおよび目標を計算する式を変更します。
    - 実績が収集される時期と頻度を決定する頻度を変更します。
    - 別の従業員をメジャーに割り当てるか、割当て済の従業員を除去します。
    - パフォーマンスを評価するパフォーマンス・インディケータで使用される範囲を変更します。

85 ページの「メジャーの作成」を参照してください。
  - 3 保存をクリックします。

## メジャーのコピー

- ▶ メジャーをコピーするには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、「メジャー・リスト」を選択します。
  - 2 「メジャー・リスト」でメジャーを選択します。
  - 3 「コピー」をクリックします。  
メジャーがコピー 名前の形式で表示されます。

## メジャーの削除

- ▶ メジャーを削除するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューで、「メジャー・リスト」を選択します。
  - 2 「メジャー・リスト」でメジャーを選択します。
  - 3 「削除」をクリックします。

# 7

## 次元データの使用方法

### この章の内容

カスタム次元アウトライン .....	93
システム次元およびシステム・マップ .....	94
カスタム次元アウトラインの作成 .....	95
次元メジャーの生成について .....	96
次元メジャーの生成 .....	96
次元アウトラインを変更する前に .....	98
次元アウトラインの変更 .....	99
メジャー・テンプレートの変更 .....	99
メジャー・テンプレートのコピーおよび削除 .....	100

## カスタム次元アウトライン

次元は、関連するメジャー・データを論理的にグループ化する場合に使用できる上位レベルのカテゴリです。次元には、次元によってグループ化可能なアイテムであるメンバーが含まれます。次元およびメンバーを使用して形成される階層は、カスタム次元アウトラインと呼ばれます。

必要に応じてメンバーのサブメンバーを作成します。たとえば、次のサンプル・アウトラインで示すように、カナダやメキシコなどの北米にある営業所、およびブラジルやペルーなどの南米にある営業所を表すサブメンバーを作成できます。

図 16 サンプルの次元アウトライン



次元アウトラインを使用すると、次のタスクを実行できます。

- メンバーと呼ばれる下位レベルのアイテムを含む次元を作成することで、データを整理および分析するために使用できるグループを作成する。
- 次元およびメンバーが公差するデータを収集する次元メジャーを生成する。これにより、販売支社別などの複数のデータ・ポイントを使用してデータを収集できるようになります。

Performance Scorecard では、作成した戦略ツリー、責任マップおよび従業員を複製する内部のシステム次元アウトライン(システム・マップ)が自動作成されます。これにより、次元メジャーを生成するメジャー・テンプレートとして、戦略および責任の構造を使用できるようになります。[94 ページの「システム次元およびシステム・マップ」](#)を参照してください。

Essbase データベース内の実績値と目標値を使用できます。

## システム次元およびシステム・マップ

独自のものも作成できますが、Performance Scorecard では、マップを作成したときに定義した戦略構造、責任構造および従業員を反映する次元アウトラインが自動生成されます。このような内部的な次元の表示機能は、システム・マップと呼ばれます。たとえば、製造工場、販売および企業の部署の責任マップを作成した場合、これらのマップは次のように次元として自動的に表示されます。

図 17 次元として表示されるマップ



## カスタム次元アウトラインの作成

作成した従業員、戦略構造および責任構造を表すためにスコアカードが作成するシステム・マップおよびシステム次元は変更できます。また、独自の次元アウトラインも定義できます。

**注意:** カスタム次元アウトラインを作成する前に、[189 ページ](#)の「制限付きの次元、メンバーおよび別名文字」で命名規則を確認してください。

- ▶ カスタム次元アウトラインを作成するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、カスタム次元設定を選択します。「カスタム次元設定」ページが表示されます。
- 2 次元エクスプローラを右クリックし、次元の追加を選択します。
- 3 ラベルに一意的次元名を入力し、[Enter]を押します。  
次元の名前が、「プロパティ」フレームに表示されます。
- 4 オプション: Essbase データベース内で別の次元名を使用するには、別名に名前を入力します。
- 5 次元別に整理するメジャーを表すメンバーを次元に追加します。
- 6 メンバーを追加する次元を右クリックして、次元メンバーの追加を選択します。  
メンバー・ラベルが、次元の下に追加されます。
- 7 ラベルにメンバー名を入力し、[Enter]を押します。
- 8 メンバーのメジャーの目的を、説明に入力します。
- 9 オプション: Essbase データベース内で別の名前を使用するには、別名に名前を入力します。
- 10 保存をクリックします。

## 次元メジャーの生成について

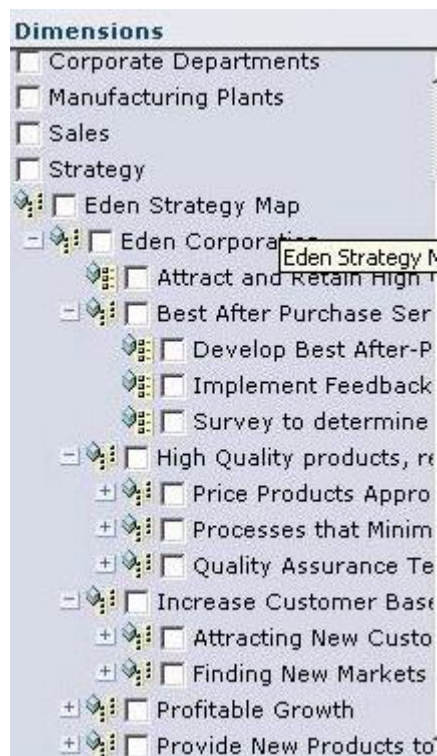
次元およびメンバーで表されるデータ・ポイントを使用して、データを収集して分析するには、次元メジャーを使用します。たとえば、場所、従業員および年に基づいて製品の売上を監視できます。次元メジャーは、次元およびメンバーをメジャー・テンプレートに追加する際に生成されます。

次元メジャーは次のように生成できます。

- マップ上で使用される戦略および責任の構造を表す内部の次元アウトラインであるシステム・マップを使用する。これらのマップ構造は、メジャー・テンプレートの役割を果たします。

たとえば、次に示すような Eden Company の戦略マップを構成する戦略要素に、次元メジャーを生成できます。

図 18 システム・マップ次元



- 作成したカスタム次元を使用する。

## 次元メジャーの生成

次元データの選択以外は、次元メジャーを生成するときに指定する情報は、非次元メジャーの情報と同じです。次元メジャーは次を使用して生成できます。

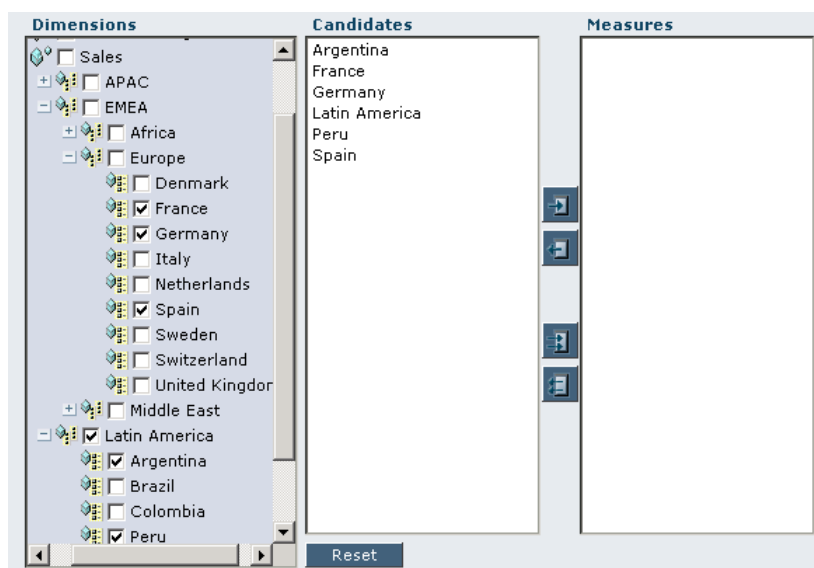
- 戦略ツリーおよび責任マップを表すシステム・マップ。
- カスタム次元アウトライン。

- ▶ 次元メジャーを生成するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、メジャー・テンプレート・リストを選択します。「メジャー・テンプレート・リスト」が表示されます。  
テンプレートを選択して「ドメイン割当て」をクリックすることで、テンプレートをドメインに関連付けできます。
  - 2 追加をクリックします。「メジャー・テンプレート設定」の「全般」タブが表示されます。
  - 3 次元アウトライン内の下位レベル・メンバーの次元メジャーに、実績、スコアおよび目標の式を適用するには、「**最下位レベルに適用**」を選択します。
  - 4 標準のメジャー設定を指定します。85 ページの「メジャーの作成」を参照してください。
  - 5 「次元」をクリックし、97 ページの「次元の割当て」を参照してください。




## 次元の割当て

- ▶ 次元メジャーの生成を終了するには、次の手順に従います。
- 1 **オプション: Essbase データベース**など、別のデータ・ソース内の実績および目標を使用するには、次のタスクを実行します。
    - 「データ・ソース」で、データ・ソースを選択します。
    - 「メンバー」で、「**選択**」をクリックします。
    - 表示されている次元アウトラインを展開し、使用する値のメンバーを選択します。
    - 外部データ・ソース内の次元メジャー・データを挿入するには、「**更新を許可**」を選択します。
  - 2 すべてのデータを使用して最高のスコアを検索するなどの計算を実行するには、「**ロールアップ関数**」から関数を選択します。目標として結果の式を使用するには、「**目標の式に適用**」を選択します。
  - 3 次元で、データの収集対象メンバーを選択するアウトラインを展開します。選択されたメンバーが、「候補」に表示されます。たとえば、このテンプレートによって、フランス、ドイツ、スペイン、アルゼンチンおよびペルーの売上を指定できます。

図 19 サンプルのメンバー選択



4 次元メジャーは、テンプレートを保存する際に、「メジャー」フレーム内のメンバーに対して生成されます。メンバーをこのフレームに移動するには、次の手順に従います。

- 1つのメンバーを移動するには、メンバーの移動ボタン  をクリックします。  
すべてのメンバーを移動するには、すべてのメンバーの移動ボタン  をクリックします。
- 1つのメンバーを除去するには、メンバーの除去ボタン  をクリックします。  
選択を元に戻してはじめの設定に戻るには、「リセット」をクリックします。

## 次元アウトラインを変更する前に

この項では、次元アウトラインの変更および次元の削除の意味について説明します。この情報は、これらの変更を行う前に確認してください。

- 次元メジャーが存在する場合に、メンバーを他のテンプレート上の領域に移動すると、元の次元メジャーが削除されます。この場合、実績は収集されず、既存の実績は削除され、メジャーはレポートから除去され、新しい次元メジャーは現在割り当てられているメンバーのテンプレートを使用して生成されます。
- 次元メジャーが存在しない場合に、メンバーを他のテンプレート上の領域に移動すると、新しい次元メジャーが、アウトラインでの新しい位置に基づいて、そのメンバーが現在割り当てられているテンプレートを使用して生成されます。

次元を削除すると、関連するすべての次元メジャーが削除され、その次元はテンプレートから除去されます。



## 次元アウトラインの変更

次元アウトラインを変更した場合に発生する変更を確認するには、[98 ページの「次元アウトラインを変更する前に」](#)を参照してください。

- ▶ カスタム次元アウトラインを変更するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、カスタム次元設定を選択し、「次元設定」ページを表示します。
- 2 次のタスクを実行します。
  - 次元およびメンバーをドラッグ・アンド・ドロップして、アウトラインの構造を変更する。
  - 次元およびメンバーを追加または削除します。[95 ページの「カスタム次元アウトラインの作成」](#)を参照してください。
  - 次元の名前、説明、別名、およびメンバーを選択して、「プロパティ」フレームで別の情報を入力し、これらを変更する。
- 3 保存をクリックします。
- 4 プロンプトが表示されたら、次元構造への変更を同期化します。この操作では、次元メジャーが再生成されます。

## メジャー・テンプレートの変更

メジャー・テンプレートに行った変更は、メジャー・テンプレートによって生成された次元メジャーに自動的に適用されます。ただし、これらの変更は、次元メジャーを個別に編集することで上書きできます。

- ▶ メジャー・テンプレートを変更するには、次の手順に従います。
- 1 オブジェクト・ビューで、メジャー・テンプレート・リストを選択します。
- 2 リストでテンプレートを選択し、編集をクリックします。  
「メジャー・テンプレート設定」ページが表示されます。
- 3 標準のメジャー設定を変更します。[91 ページの「メジャーの変更」](#)を参照してください。
- 4 他のデータ・ソース内の実績値および目標値を使用するには、「データ・ソース」リストを使用します。
- 5 別の次元およびメンバーを割り当てることで他の次元メジャーを生成するには、「次元」をクリックして次のタスクを実行します。
  - 次元およびメンバーを追加するには、次元階層でこれらを選択し、メンバーの移動ボタンをクリックします。すべてのメンバーを使用するには、すべてのメンバーの移動ボタンをクリックして、「メジャー」フレームに配置します。
- 6 変更を保存します。
- 7 次元構造への変更を同期化します。この操作では、次元メジャーを再生成して変更を反映させます。

# メジャー・テンプレートのコピーおよび削除

---

**注意** メジャー・テンプレートを削除すると、テンプレートによって生成された次元メジャーも削除されます。

---

▶ メジャー・テンプレートをコピーまたは削除するには、次の手順に従います。

- 1 オブジェクト・ビューで、メジャー・テンプレート・リストを選択します。
- 2 リストで、テンプレートを選択します。
- 3 コピーまたは削除をクリックします。

複製されたテンプレートは、「メジャー・テンプレート・リスト」のテンプレート名の前に「コピー」と表示されます。

# 8

## スコアカードの作成

### この章の内容

スコアカードについて.....	101
スコアカードを作成する前に.....	103
スコアカード・テンプレートの作成.....	104
スコアカードの作成について.....	105
スコアカードの作成.....	105
スコアカードの変更.....	108

## スコアカードについて

スコアカードは、次のオブジェクトのパフォーマンス全体を監視するために構築します。

- 部署、部門およびタスク・フォースなどの組織内のレポート階層を表す責任要素。
- 戦略オブジェクトおよび重要プロセスなどの企業戦略レベルを形成する戦略要素。
- 従業員

スコアカードが作成されたオブジェクトは件名と呼ばれます。スコアカードは戦略要素、責任要素および従業員に対しては自動作成されますが、これらのオブジェクトの別の側面を評価する場合は複数のスコアカードを作成できます。

スコアカードは、件名のパフォーマンスを反映させるメジャー(次元および非次元)およびスコアカード(下位レベルのオブジェクト)を追加および加重することで作成します。そのため、上位レベルのパフォーマンスを評価するスコアカードに、組織内の下位レベルのパフォーマンスを含められます。たとえば、純利益のパフォーマンスを監視するスコアカードでは、売上や内部原価などの関連するスコアカードを使用できます。スコアカードを構築するために使用するメジャーやスコアカードはコンポーネントと呼ばれます。

スコアカード・コンポーネントの実績やスコアにより、パフォーマンス・インディケータで表されるスコアカード全体のスコアが生成されます。別の基準を使用してパフォーマンスを評価する場合は、次の方法を使用できます。

- 複数のセカンダリ・スコアカード
- 複数の範囲

## スコアカードのタイプ

次の3種類のスコアカードを作成できます。

- プライマリ - 複数のスコアカードのうち最も重要なスコアカードで、従業員、戦略要素または責任要素に関連付けられます。オブジェクトに複数のスコアカードがある場合は、プライマリ・スコアカードのステータス、スコアおよびトレンドがビュー・タブおよびレポートに表示されます。
- セカンダリ - 評価するために使用される複数のスコアカードで、従業員、戦略要素および責任要素のパフォーマンスを表します。
- 派生 - スコアカード・テンプレートからメジャーおよびスコアカードを継承したスコアカードです。[102 ページの「スコアカード・テンプレート」](#)を参照してください。

## スコアカード・テンプレート

スコアカード・テンプレートにより、共通で一定の基準を使用して組織内または部署内のパフォーマンスを評価できます。たとえば、ヨーロッパ、北米およびオーストラリアに本部のある組織の場合は、リスク要因とコントロールおよび機能に関する共通のメジャーを使用してこれらの地域のパフォーマンスを評価します。共通の基準を使用してヨーロッパ、北米およびオーストラリアでのパフォーマンスを測定するには、リスク要因とコントロールのメジャーを含むスコアカード・テンプレートを作成します。その後でこのテンプレートを各本部に関連付けられた下位レベルのスコアカードに添付します。このスコアカードの構成は次のようになります。

- ヨーロッパ
  - テンプレートから継承した共通メジャー: リスク要因およびコントロール
  - オフィス固有のメジャー: 通貨コントロールおよび予定レート
- 北米
  - テンプレートからの共通メジャー: リスク要因およびコントロール
  - オフィス固有のメジャー: 従業員の離職および実行レート
- オーストラリア
  - テンプレートからの共通メジャー: リスク要因およびコントロール
  - オフィス固有のメジャー: 販売プログラムおよび実行

[104 ページの「スコアカード・テンプレートの作成」](#)を参照してください。

他のユーザーが、スコアカード・テンプレートから継承したコンポーネント・スコアカードを追加したり変更できないようにするには、スコアカード・テンプレートをロックします。

スコアカード・テンプレートを、戦略要素および責任要素のスコアカードにマップから直接割り当てるには、次の手順を実行します。

1. オブジェクト・ビューで、目的の要素が存在するマップを選択します。
2. 要素を右クリックします。
3. 「テンプレートの設定」を選択します。

## 加重

コンポーネントがスコアカード全体のパフォーマンスに与える影響を指定するには、各コンポーネントに加重を割り当てます。たとえば、品質保証チームの効率を評価するスコアカードでは、次のメジャーが重要視されるため、加重を重くします。

- テストした機能の数
- 記録された不備の数
- 解決した顧客ケースの数

## 範囲およびパフォーマンス・インディケータ

パフォーマンス・インディケータは、スコアカードおよびメジャーのパフォーマンス・レベルを象徴するイメージです。様々なパフォーマンス・レベルが、各インディケータに添付される範囲によって決定されます。

たとえば、高レベルのパフォーマンスが、75 から 90 の間のスコアを記録したスコアカードで達成される場合は、良好なパフォーマンスを表すインディケータとして、74、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、89 の順に範囲を指定します。

同じ範囲を使用して他のスコアカードを構築するには、名前付き範囲を作成します。[83 ページの「名前付き範囲の作成」](#)を参照してください。1つのスコアカードのみのために範囲を作成するには、カスタム範囲を作成します。[84 ページの「カスタム範囲の作成」](#)を参照してください。

## スコアカードを作成する前に

スコアカードを作成する前に、次のタスクを実行します。

- スコアカードの件名のパフォーマンスを反映するメジャーを作成します。これらのメジャーを使用してスコアカードを構築します。[85 ページの「メジャーの作成」](#)を参照してください。
- パフォーマンスを評価するスコアが他のスコアカードで使用される場合は、名前付き範囲を作成します。[83 ページの「名前付き範囲の作成」](#)を参照してください。
- **オプション:** 組織の標準的なメジャーまたはスコアカードを適用するには、スコアカード・テンプレートを作成します。[104 ページの「スコアカード・テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- **オプション:** 関連するスコアカードを論理的に整理するには、カテゴリを作成します。ブラウザ・ビューおよびレポートでは、スコアカードがこれらのカテゴリ内で表示されます。
- **オプション:** カスタム・パフォーマンス・インディケータを作成します。[82 ページの「パフォーマンス・インディケータの作成」](#)を参照してください。
- **オプション:** 次のプリファレンスを指定します。
  - スコアカードで達成可能な最高および最低のスコア。[85 ページの「スコア制限値」](#)を参照してください。

- スコアカード・コンポーネントのデータが古いか、欠落している場合のスコア計算方法。110 ページの「[収集されていないデータまたは使用不可のデータの使用方法](#)」を参照してください。

## スコアカード・テンプレートの作成

新規スコアカードに標準または汎用のメジャー、およびスコアカードを適用するには、スコアカード・テンプレートを使用します。

- ▶ スコアカード・テンプレートを作成するには、次の手順に従います。
    - 1 オブジェクト・ビューで「**スコアカード・テンプレート・リスト**」を選択します。スコアカード・テンプレート・リストが表示されます。
    - 2 「**追加**」をクリックします。「スコアカード・テンプレート」ページが表示されます。
    - 3 テンプレート名を入力します。
    - 4 テンプレートに対する最小の加重を「**最小加重**」に割り当てます。これは、テンプレート・コンポーネントが派生したスコアカードに貢献する最小量です。この加重は増やせます。

たとえば、テンプレートで2つのスコアカードを使用していて、両方とも、派生されたスコアカード・スコアに対し30%貢献する必要がある場合は30と入力します。
    - 5 テンプレートから派生したスコアカードに追加されるコンポーネントからのその他の加重を抑制するには、「**ロック済**」を選択します。
    - 6 コンポーネントを追加するには、次の手順に従います。
      - 次元メジャーを追加するには、「**メジャー・テンプレートの追加**」をクリックし、テンプレートを選択して「**追加**」をクリックします。
      - スコアカードを追加するには、「**スコアカードの追加**」をクリックします。「スコアカードの選択」ボックスに、タイプ別にグループ化されたスコアカードが表示されます。スコアカードを選択し、「**追加**」をクリックします。
      - オブジェクトに特有の非次元メジャーを追加するには、「**詳細**」を選択します。「メジャーの選択」ボックスが表示されます。メジャーを選択し、「**追加**」をクリックします。
- 「スコアカード・テンプレート設定」ページに戻ります。
- 7 「**加重**」列に加重を入力して、各コンポーネントのスコアがスコアカード・パフォーマンスに与える影響を指定します。
  - 8 **オプション:** 次のタスクを実行します。
    - 同じ加重をすべてのコンポーネントに割り当てるには、「**等しく加重**」をクリックします。
    - コンポーネントの加重を100%まで追加するには、「**正規化**」をクリックします。
  - 9 作業を保存します。

特定のコンポーネントを継承するスコアカードを作成するには、テンプレートを使用します。105 ページの「[スコアカードの作成](#)」を参照してください。

# スコアカードの作成について

スコアカードを作成するには、次の手順に従います。

1. **オプション:** 標準のメジャーおよびスコアカードを適用するには、スコアカード・テンプレートを添付します。
2. スコアカードにコンポーネントを追加します。
3. 各コンポーネントの重要性は、加重を割り当てることで識別します。スコアカード・テンプレートから継承されたコンポーネントに加重は割り当てられません。
4. パフォーマンスのレベルを示すスコア値の範囲を定義します。
5. スコアカードの次元コンテキストを、スコアカードの計算で使用するメンバーを選択することで指定します。これらは、「設定」ページの要素および従業員と関連付けられた次元およびメンバーです。

## スコアカードの作成

戦略要素、責任要素および従業員のパフォーマンスを評価および監視するには、スコアカードを作成します。様々な基準を使用してパフォーマンスを評価するには、これらのオブジェクトに複数のスコアカードを定義します。

▶ スコアカードを作成するには、次の手順に従います。

### 1 オブジェクト・ビューから、次のように件名を選択します。

- プライマリ戦略または責任要素のスコアカードの場合、次の手順に従います。
  1. 「戦略ツリー」または「責任マップ」を選択します。
  2. 階層を展開し、要素を選択して表示されるページで、「スコアカード」タブをクリックします。
- セカンダリ戦略または責任要素のスコアカードの場合、次の手順に従います。
  1. 「戦略ツリー」または「責任マップ」を選択します。
  2. 階層を展開して、要素を選択し、「スコアカード」フォルダを選択します。
  3. 「スコアカード」を右クリックして、追加を選択します。
- 従業員のスコアカードを作成するには、次の手順に従います。
  1. 従業員リストを選択します。
  2. 次のタスクを実行します。
    - プライマリ・スコアカードの場合は、従業員を選択して表示される「従業員プロフィール」ページで「スコアカード」タブを選択します。
    - セカンダリ・スコアカードの場合は、従業員の下にある「スコアカード」フォルダを右クリックして、「追加」を選択します。

### 2 オプション: スコアカード・テンプレートからコンポーネントを追加するには、「テンプレート」で「選択」をクリックしてから、テンプレートを選択します。

すべてのテンプレート・コンポーネントは、スコアカードに追加されます。加重は変更できません。

テンプレートがロックされた場合は、メジャーおよびスコアカードを追加したり、テンプレートから継承された内容を変更したりできません。

- 3 **オプション:** マネージャが従業員のパフォーマンスを評価するためにスコアカードを作成している場合は、「プライマリ」を選択します。
- 4 **106 ページの「コンポーネントの追加」**を参照してください。

## コンポーネントの追加

▶ スコアカードにコンポーネントを配置するには、次の手順に従います。

- 1 「スコアカード設定」 ページで、メジャーの追加をクリックします。

「メジャーの選択」 ボックスに、メジャーが次のように一覧表示されます。


- 個別(非次元メジャーの場合)
- フォルダ内(次元メジャーの場合)。メジャーを生成するときに使用したテンプレートまたはシステム次元が列として表示されます。

---

**注意** メジャー・テンプレートをスコアカードに追加しないでください。

---

- 2 次元メジャーを選択するには、適切なフォルダを展開します。

各メジャーが監視する次元データが表示されます。現在の選択項目アイコンで、次元を移動するためにクリックしたアイテムが示されます。

作成時に要素または従業員を割り当てた次元のメンバーのみを表示するには、「一致する次元のみを表示」を選択します。

- 3 メジャーを選択して、「追加」をクリックします。
- 4 「ウィンドウを閉じる」をクリックします。

メジャーは、スコアカード上のパースペクティブによって編成されます。ドラッグ・アンド・ドロップすると、メジャーが同じパースペクティブ内で再編成されます。

- 5 その他のオブジェクトのパフォーマンスを、それらのスコアカードで表して含めるには、次の手順に従います。

1. スコアカードの追加をクリックします。「スコアカードの選択」 ボックスが表示されます。

「スコアカードの選択」 ボックスが表示されます。フォルダ内にスコアカードがタイプ別で表示されます。



2. スコアカードを選択するため、各グループを展開します。
3. 各スコアカードを選択して、「追加」をクリックするかダブルクリックします。
4. 「ウィンドウを閉じる」をクリックします。

追加したスコアカードが、「スコアカード設定」 ページに「未割当て」として表示されます。

- 6 加重内でダブルクリックして、コンポーネントに加重を割り当てます。
- 7 「範囲」をクリックします。**107 ページの「範囲の定義」**を参照してください。

## 範囲の定義

範囲により、パフォーマンスのレベルを反映してスコアカード・スコアを評価します。スコアカードに複数の範囲を割り当てると、様々な時刻にパフォーマンスを評価できます。

- ▶ 範囲を定義するには、次の手順に従います。
- 1 「スコアカード設定」 ページで、範囲を選択します。
  - 2 「範囲の追加」 をクリックし、カレンダー・ボタン  をクリックして、パフォーマンスを評価する範囲として使用する日付を指定します。
  - 3 次のタスクを実行します。
    - **推奨:** 名前付き範囲を使用するには、リストから選択します。83 ページの「名前付き範囲の作成」を参照してください。
    - スコアカードのみの範囲を作成するには、「カスタム」を選択してから編集ボタン  をクリックします。パフォーマンス・インディケータと範囲フレームが表示されます。
  - 4 最初のインディケータ・フレームで追加をクリックします。  
「部分範囲設定」ボックスが表示され、スコアカード・スコアが X で表されます。
  - 5 達成した場合に各パフォーマンス・インディケータを表示させるスコアの範囲を入力します。  
たとえば、スコアが 70 と 90 の間の場合は、高いパフォーマンスを示します。
    1. 高いパフォーマンスを表すパフォーマンス・インディケータのフレームで追加をクリックします。
    2. 70、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、90 の順に入力します。  
範囲の境界に関する式を定義するには、191 ページの「複雑な式の作成」を参照してください。
    3. OK をクリックします。
  - 6 手順 5 を繰り返して、その他のパフォーマンス・インディケータの範囲を指定します。
  - 7 **オプション:** 次のタスクを実行するには、「その他」を選択します。
    - セカンダリ・スコアカードの場合: そのスコアカードにアクセスできない従業員を指定します。108 ページの「セカンダリ・スコアカードへのアクセス制限」を参照してください。
    - 次元メジャーを使用した場合: スコアカードの計算で使用する次元とメンバーを選択します。
    - スコアカードをカテゴリに配置するには、「カテゴリ・リスト」で「選択」をクリックします。スコアカードは、ブラウザ・ビューおよびレポートで選択したカテゴリに表示されます。

## セカンダリ・スコアカードへのアクセス制限

セカンダリ・スコアカードは、従業員がメジャー、戦略要素および責任要素を監視する場合に使用します。これらのスコアカードへのアクセスは次のように制限できます。

- 要素を所有、管理しているか、または要素のメンバーである従業員のみアクセスを許可するには、「**所有しているオブジェクトのすべてのアクセサ**」を選択します。
- プライマリ・スコアカードを表示できる従業員のみアクセスを許可するには、「**選択した従業員(所有しているアクセサから)**」を選択し、「**選択**」をクリックして従業員を選択します。

これらの従業員にスコアカードの変更を許可するには、「**編集可能**」を選択します。

## スコアカードの変更

▶ スコアカードを変更するには、次の手順に従います。

1 「スコアカード設定」ページにアクセスします。

2 次のタスクのいずれかを行います。

- コンポーネントを除去するには、コンポーネントを選択して「**削除**」をクリックします。スコアカード・テンプレートから継承したコンポーネントは除去できません。プロンプトが表示された場合は、スコアカードの次元コンテキストを同期して次元メジャーを再生成し、この変更を反映します。
- 「**全般**」タブで次元とメンバーを追加または除去します。プロンプトが表示された場合は、次元メジャーを再生成して、この変更を反映します。
- スコアの評価でその他の範囲を使用するには、「**範囲**」を選択して、名前付き範囲を適用するか、範囲を作成します。[107 ページの「範囲の定義」](#)を参照してください。

3 「**保存**」をクリックします。

## この章の内容

プリファレンスについて.....	109
アプリケーションのプリファレンスの適用.....	109
個人用プリファレンスの適用.....	116

## プリファレンスについて

プリファレンスには、次の2種類があります。

- 次のようにアプリケーション全体に適用されるアプリケーションのプリファレンス:
  - メジャーおよび目標の実績の収集(メジャーの作成時に指定されていない場合)
  - 値が使用できない場合に実行される計算方法を指定する計算の設定
  - 会計年度が開始される日などのカレンダー・プリファレンスこうした変更は、他のユーザーによって指定された個人用プリファレンスを上書きしません。109 ページの「アプリケーションのプリファレンスの適用」を参照してください。
- 日付フォーマット、メジャーの信頼性の表示方法、Performance Scorecard が開くタブなどの表示設定を制御する個人用プリファレンス。116 ページの「個人用プリファレンスの適用」を参照してください。

## アプリケーションのプリファレンスの適用

デフォルトのプリファレンスをカスタマイズするには、次のタスクを実行します。デザイナのアカントを使用するか、デザイナの役割を自分のアカントに割り当てる必要があります。

## スコアリング制限の指定

デフォルトでは、メジャーまたはスコアカードの最低スコアは0で、最高スコアは100です。これらの制限を変更すると、スコアを0未満および100を超える値にできます。スコアリング制限を変更すると、その他すべてのメジャー、パースペクティブおよびスコアカードも更新されます。

- ▶ スコアリング制限を定義するには、次の手順に従います。
- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
  - 2 「スコアリング制限」タブを選択します。
  - 3 スコア制限値の使用可能を選択します。
  - 4 スコアの最低値で、メジャーまたはスコアカードで得られる最低スコアを入力します。
  - 5 スコアの上限値で、メジャーまたはスコアカードで得られる最高スコアを入力します。
  - 6 制限の使用方法は次のとおりです。
    - スコアがレポートに表示されているときのみ制限を使用するには、「表示するときにスコアに制限値を適用する」を選択します。
    - 式で参照する場合も含め、スコアを使用するときに常にこの制限を適用するには、「計算でスコアに制限値を適用する」を選択します。

このオプションを選択すると、すべてのメジャーとスコアカードの実績、スコアおよびステータスが再計算されます。

## 収集されていないデータまたは使用不可のデータの使用方法

この項では、関連するメジャーに実績がないか(NO VALUE)または古い実績と目標(旧)がある場合の、メジャーとスコアカードの計算を実行する方法について説明します。

適用したプリファレンスは、すべてのメジャー、目標およびスコアカードの計算で使用されます。

- ▶ 古いデータまたは欠落データを使用して計算を実行するには、次の手順に従います。
- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
  - 2 「旧データの処理」タブを選択します。
  - 3 旧メジャー実績データで、現在の値が使用不可である場合に使用する他の値を指定します。次のオプションがあります。
    - 「最後に集計した値を使用する」：「使用不可の値に使うテキスト」で入力した二重ダッシュまたはテキストにより、欠落データを表します。
    - 「前年の同じ期間に収集した実績を使用する」：前年のこの期間に収集した実績を使用します。たとえば、今日が2008年8月4日で、実績が8月1日に収集されることになっていた場合、2007年8月4日に収集された実績が使用されます。2007年8月4日の実績が使用不可である場合は、2006年8月4日に収集された実績が使用されます。
    - 「次の代替値を使用」：欠落している実績を表す0などの値を入力します。
    - 「現在の期間の最初の実績が入力されるまで、前の期間の値を表示する」：期間累計関数に基づいて収集された最近の実績を使用します。この設定により、新しい実績が収集されるまで、前の期間の実績を使用できます。

- 4 **オプション:** 古い目標値を同じように扱うには、「旧目標値にも適用します」を選択します。
- 5 **すべての計算から実績なしのメジャーを除外するには、次のタスクを実行します。**
  1. 不明な値は無視する(式およびスコア計算)を選択します。これにより、計算の操作は次のような影響を受けます。
    - 加算または減算 - 値なしを評価するオペランドは 0
    - 乗算 - 値なしを評価するオペランドは 1
    - パーセント - 値なしのアイテムに操作を適用すると値なしとして評価される
    - OR または NOT 条件 - 値なしを評価するオペランドは false とみなされる
  2. 値が欠落している場合のスコアの計算方法を指定するオプションを選択します。
    - 「その他のすべてのスコアカード・コンポーネントに加重を再配分する」: その他のスコアカード間で加重を割り当てることで、欠落している値を補うスコアを計算します。スコアカードは、加重の大きいメジャーが欠落している場合に、パフォーマンスを現実的に反映します。
    - 「スコアの計算にコンポーネントを含めない」: 欠落しているスコアを計算から除外し、0 の値を持つスコアとして扱います。
- 6 保存をクリックします。

## メジャーおよび目標の頻度の指定

この項では、実績値と目標値の入力が予想される時期、およびそれが反映される日付を決定する頻度の設定を適用する方法について説明します。プリファレンスは、頻度が定義されているメジャーには適用されません。

- ▶ 頻度を適用するには、次の手順に従います。
- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
  - 2 「日付と頻度」タブを選択します。
  - 3 次の頻度を適用します。
    - **収集の頻度** - 実績収集者が実績値を入力する予定時期、または実績値が使用可能になっている時期。
    - **メジャー・レポートの頻度** - 実績値が反映される日付。これにより、たとえば、1月の実績値が2月までに入力されなかった場合でも、1月の売上をレポートの1月分に関連付けられるようにできます。
    - **収集期限の延長** - 実績値を入力可能な時間(日数)。たとえば、収集日が5月26日で収集期限の延長が3日であるメジャーの実績収集者は、5月29日まで実績を入力できます。
  - 4 メジャー・レポートの頻度を定義したら、収集の頻度より後に収集された実績値に関連付ける日付を指定します。
    - **収集日を実績日より後に関連付ける** - 収集の頻度によって生成された日付より後に実績値を表示します。


- 収集日を実績日より前に関連付ける - 収集の頻度によって生成された日付より前に実績値を表示します。
- 5 次の目標頻度を適用します。
- 目標収集の頻度 - 目標値が入力されることになっている時期。
  - 目標レポートの頻度 - 目標値が反映される日付。これにより、たとえば、四半期ごとの目標値がその財務四半期中に手入力されないか、収集されなかった場合でも、その目標値がレポートの正しい月に関連付けられるようにできます。
  - 収集日を実績日より前に関連付ける - 収集の頻度によって生成された日付より前に目標値を表示します。  
 目標収集期限の延長 - 目標値を入力可能な時間(日数)。たとえば、収集日が9月15日で収集期限の延長が6日であるメジャーの目標設定者は、9月21日まで目標値を入力できます。
- 6 目標レポートの頻度を定義したら、収集の頻度より後に収集された目標値に関連付ける日付を指定します。
- 収集日を実績日より後に関連付ける - 収集の頻度によって生成された日付より後に目標値を表示します。
  - 収集日を実績日より前に関連付ける - 収集の頻度によって生成された日付より前に目標値を表示します。
- 7 保存をクリックします。

## 会計年度の開始日の指定

Performance Scorecard では、会計年度の開始日として1月1日を使用します。ただし、組織の会計年度の開始日が1月1日でない場合は、この日付を変更できます。会計年度の開始日を変更すると、メジャー実績が収集される時期に次のような影響があります。

- 半期ごとのメジャーの場合 - 1月と7月の収集ポイントが、会計年度の開始日で定義された月数と日数に応じて変更されます。たとえば、会計年度が2月6日に開始される場合、収集ポイントが1月と5日ずれます。実績は、2月6日と8月に収集されます。
- 四半期ごとのメジャーの場合 - 1月、4月、7月、10月のそれぞれ1日に設定されている収集ポイントが、会計年度の開始日で定義された月数と日数に応じて変更されます。たとえば、会計年度が3月1日に開始される場合、収集ポイントが2月分ずれます。実績は、3月1日、6月1日、9月1日、12月1日に収集されます。
- 月に2度のメジャーの場合 - 収集ポイントは、会計年度の開始日に基づく日数に応じて変更されます。たとえば、会計年度が3月4日に開始される場合、実績は各月の19日と4日に収集されます。
- 月に1度のメジャーの場合 - 収集ポイントは、会計年度の開始日で定義された日数に応じて変更されます。たとえば、会計年度が1月15日に開始される場合、実績は各月の15日に収集されます。

▶ 会計年度の開始日を指定するには、次の手順に従います。

- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
- 2 「日付と頻度」タブを選択します。
- 3 「会計年度の開始日」で、カレンダー・アイコンをクリックして、会計年度の開始日を選択します。
- 4 適用をクリックします。
- 5 保存をクリックします。

## 年 52 週の使用方法

小売業界および政府部門の組織の場合は、週の配布が 4 および 5 週サイクルで繰り返される年 52 週を使用できます。年 52 週を使用するには、次のいずれかの配布サイクルを選択します。サイクルにより、3 か月の各月に使用される週の数を指定します。

- 4-4-5
- 4-5-4
- 5-4-4


たとえば、4-4-5 の配布では、最初の月が 4 週間、次の月が 4 週間、最後の月が 5 週間になります。年 52 週を使用する場合は、四半期および半期の頻度が月ベースから週ベースに変更されます。たとえば、四半期の頻度は 3 か月ではなく 13 週になります。

四半期または半期の頻度を使用するメジャーも、次のように変更されます。

- 四半期の頻度で生成される収集日は、3 か月ごとではなく 13 週ごとに設定されます。
- 半期の頻度で生成される収集日は、26 週ごとに設定されます。

**注：** これらの頻度で収集されていた以前の実績は、年タイプによって生成された新しい収集日に関連付けされません。

▶ 年 52 週を使用するには、次の手順に従います。

- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
- 2 「日付と頻度」タブを選択します。
- 3 「会計年度の開始日」で、カレンダー・アイコンをクリックして、会計年度の開始日を選択します。
- 4 「年タイプ」から 52/53 週を選択します。
- 5 1 か月の週数で、オプションを選択して、四半期で余った週を月に割り当てる方法を指定します。

たとえば、四半期の最初の月を 5 週間にし、次の月を 4 週間にし、最後の月を 4 週間にする場合は、5-4-4 を選択します。

- 6 「53 週の年」の横の選択をクリックして、余った週を適用する年を選択します。

- 7 適用をクリックします。
- 8 保存をクリックします。

## 外部 Web ページまたはカスタム・レポートへのリンク

アプリケーションは、外部 Web ページまたはカスタム・レポートへのリンクを追加することでカスタマイズおよび拡張できます。追加したリンクは、ブラウザ・ビューの「カスタム・レポート」フォルダに表示されます。

- ▶ 外部ページおよびレポートにリンクするには、次の手順に従います。
  - 1 「ファイル」 > 「スコアカードの構成」を選択します。
  - 2 「レポート」タブを選択します。
  - 3 外部 Web ページまたはカスタム・レポートへのリンクを追加するには、次のタスクを実行します。
    1. 追加をクリックします。
    2. レポート名に、Web ページまたはレポートの名前を入力します。
    3. レポート URL に、Web ページまたはレポートの URL を入力します。
    4. 別のブラウザ・ウィンドウで Web ページまたはレポートを表示するには、新しいウィンドウで起動を選択します。
  - 4 「保存」をクリックします。

## 汎用およびカスタムの Interactive Reporting レポートの作成

Performance Scorecard データで入力可能な次の Interactive Reporting レポートを作成して、それらへのリンクを追加できます。

- スコアカード・レポート - 選択された従業員のスコアカードの詳細を提供します。このレポートでは、メジャーおよび次元メジャーの両方が表示されます。使用可能なスコアカードのすべて、またはいくつかを表示できます。詳細は、テーブルおよびグラフで示されます。
- 戦略スコアカード - 戦略的な目的のコンポーネントの概要を提供し、選択されたメジャーの目標に対する現在の実績をグラフで表示します。ダッシュボードでは、戦略の現在の進行状況を表示したり、戦略に適用する分析、機会および問題に関する注意を追加したり、アクションまたは戦略イニシアチブを表示したりできます。
- スコアカード(メジャー・トレンド) - 選択されたスコアカードで1つ以上のメジャーに関するトレンド・テーブルの詳細を提供します。使用可能なスコアカードのすべて、またはいくつかを表示できます。詳細はテーブル・フォーマットで示され、値とパフォーマンスのインディケータにより、選択されたメジャーのトレンドを、指定した日付または日付の範囲で評価できます。

各レポートは、事前にフォーマットされた BQY ファイルによって生成されます。このファイルにより、レポートを生成するためのスマート・カット・パラメータを指定します。デフォルト・レポートの開始場所として使用される BQY ファイルを変更することで、独自のカスタム・レポートを作成できます。218 ページの「生成されたデフォルトのレポート」を参照してください。

メジャーおよびスコアカード・データの個人用ビューを設計できるようにするために、レポートも作成できます。

作成したカスタム・レポートは、ブラウザ・ビューの「カスタム・レポート」フォルダに表示されます。

## スコアカードの表示プリファレンスの指定

この項では、スコアカードでメジャーをアルファベット順またはスコアカード上で配置された順に表示する方法について説明します。

▶ スコアカードのメジャーのプリファレンスを指定するには、次の手順に従います。

- 1 ファイル>「スコアカードの構成」を選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。
  - スコアカードに追加された順にメジャーを表示するには、「スコアカードに配置された順序」を選択します。
  - メジャーをアルファベット順に表示するには、「名前別」を選択します。
- 3 上位レベルのマップ要素のスコアカードにある下位レベルのマップ要素のスコアを含めるには、下位レベルの要素が使用不可である場合でも、スコアカードの最低位の子孫を計算する場合は、スコアなしの子を含めるを選択します。
- 4 マップからアクセスされたスコアカードを別のブラウザ・ウィンドウで表示するには、マップからスコアカードを開く場合は、新しいウィンドウを開くを選択します。
- 5 保存をクリックします。

スコアカードのメジャーが、選択したオプションに基づいて、レポートに表示されるようになります。

## レポートの期間およびカテゴリの作成

ユーザーがノートや注釈を関連付けることのできる、財務四半期などのレポートの期間を作成します。これにより、会社のイベントなど、生成されるコンテキストに基づいて、ノートや注釈を整理できるようになります。

この項では、ユーザーがノートや注釈をフィルタする場合に使用できる、カテゴリの定義方法についても説明します。

- ▶ レポートの期間およびカテゴリを設定するには、次の手順に従います。
- 1 ファイル>「スコアカードの構成」>「ノート」を選択します。
  - 2 ユーザーが、ロック済のメジャーに添付された注釈を作成または変更できないようにするには、メジャー実績がロックされると注釈をロックしますを選択します。

- 3 レポート期間の追加で、追加をクリックして、1週間にわたる会社イベントなどのレポート期間の開始日を選択します。
- 4 表示で、レポートの期間の名前を入力します。たとえば、この場合は販売活動などの、会社イベントの名前を付けます。
- 5 手順3と4を繰り返し、すべてのレポートの期間を作成します。
- 6 使用可能を選択して、レポートの期間をアクティブにします。  
レポートの期間を除去するには、隣の「削除」ボタンをクリックします。
- 7 カテゴリの追加で、追加をクリックします。  
カテゴリを除去するには、隣の「削除」ボタンをクリックします。
- 8 保存をクリックします。  
これでユーザーは次のタスクを実行できます。
  - 定義したカテゴリのいずれかにノートまたは注釈を配置する
  - 定義したカテゴリを使用してノートおよび注釈をソートする
  - ノートまたは注釈を、定義したレポートの期間と関連付ける

## 個人用プリファレンスの適用

- ▶ 個人用プリファレンスを指定するには、次の手順に従います。
- 1 「ファイル」>「プリファレンス」>「スコアカードのプリファレンス」を選択します。
  - 2 デフォルトを上書きするには、「マイ・ユーザー・プリファレンス」を選択します。
  - 3 プリファレンスを選択します。
    - ビュー・パネルのリンクは固定されています - 最後の従業員、メジャー、責任要素または戦略要素のページを記録します。現在のセッション中であれば、このページは自動的に表示されます(次回のセッションでは無効)。
    - 日付フォーマット(短) - 日付の短い表示方法を指定します。日付を表示するフォーマットを入力します。たとえば、今日が2008年1月15日である場合は、yy MMM dd と入力すると、「08 Jan 15」と表示されます。
    - 日付フォーマット(長) - 日付の長い表示方法を指定します。
    - カレンダーでの曜日選択を使用不可にする - ユーザーがカレンダーを使用して日付を選択できないようにします。
    - 次元メジャーのデータ信頼性を表示 - 複合メジャーおよび次元メジャーに影響を及ぼす欠落している実績を反映します。信頼性インディケータは、ブラウザ・ビュー上のメジャーの横に表示されます。データの信頼性は、パーセントまたは少数で表示できます。
    - 「デフォルト・ビュー」タブ - Performance Scorecard を開くためのタブです。
  - 4 「保存」をクリックします。

---

## 第II部

# コミュニケーションおよびコラボレーション: イニシアチブ、ノートおよびアラートの使用方法

---

コミュニケーションおよびコラボレーション: イニシアチブ、ノートおよびアラートの使用方法の内容:

- [イニシアチブの使用方法](#)
- [アラートの使用方法](#)
- [ノートおよび注釈の使用方法](#)



## この章の内容

イニシアチブ・データの表示 .....	119
要件 .....	119
イニシアチブの作成 .....	120
イニシアチブの更新と変更 .....	122
イニシアチブの削除 .....	122
イニシアチブの階層と依存関係の作成 .....	122
イニシアチブのコピー .....	123
イニシアチブのリンク .....	123
イニシアチブのレポート・データのカスタマイズ .....	124

## イニシアチブ・データの表示

イニシアチブは優先順位を付けることのできるタスクであり、任意の期間中に完了する必要があります。イニシアチブは、メジャー、スコアカード、戦略要素および責任要素に割り当てできます。イニシアチブは、特定の結果に対するパフォーマンスを反映するため、プロジェクトのマイルストーンとしての役割を果たします。イニシアチブは、特定のゴール、プロジェクトまたは目的を達成するため、要素とタスクをともに収集する場合に作成します。メジャー、スコアカードおよび目的を1つのビューに表示することで、イニシアチブのゴールに対するすべての要素の進行状況を確認するための優れたパースペクティブを持てます。これにより、関連する要因をすべて調べられるため、潜在的な問題を特定して、イニシアチブをより総合的に把握することが容易になります。

各イニシアチブにはレポートの期間があり、この期間にイニシアチブに注釈を関連付けできます。イニシアチブは、カテゴリでグループ化することで論理的に表示する必要があります。イニシアチブが進行すると、ステータス(一部完了または予定された期限など)が更新され、関連する要因のパフォーマンスおよび位置が反映されます。管理者は、ユーザーがイニシアチブで実行できる作成、更新および削除などのタスクを指定できます。

## 要件

イニシアチブを作成する前に、適切なカテゴリと優先度を設定します。[120 ページの「カテゴリのタイプの作成」](#)を参照してください。

## カテゴリのタイプ

「イニシアチブのステータス」カテゴリは、現在のステータスまたは要件に基づいてイニシアチブをグループ化する場合に使用されます。独自のカテゴリを作成するか、または次のデフォルトのカテゴリを使用できます。

- ステータス - ステータス(「開始していません」、「完了」、または「進行中」)に基づいてイニシアチブをグループ化します。
- タイプ - 定義したカスタム基準に基づいてイニシアチブをグループ化します。
- 優先度 - 緊急度または重要性のレベルによってイニシアチブをグループ化します。


## カテゴリのタイプの作成

- ▶ タイプを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 オブジェクト・ビューから、「カテゴリ」>「タイプ」を選択します。  
そのタイプの既存のカテゴリが一覧表示されます。
  - 2 「追加」をクリックします。
  - 3 次の情報を入力します。
    - 高優先度または遅延などのカテゴリ名。
    - カテゴリを使用してイニシアチブを整理している理由の説明。
    - カテゴリが表示される順序。
  - 4 「保存」をクリックします。

## イニシアチブの作成

イニシアチブは優先順位を付けることのできるタスクであり、任意の期間中に完了する必要があります。タスクはメジャー、スコアカード、戦略要素および責任要素に割り当てできます。イニシアチブは、特定の結果に対するパフォーマンスを反映するため、プロジェクトのマイルストーンとしての役割を果たします。

- ▶ イニシアチブを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、要素またはメジャーを選択します。
  - 2 表示されたレポートで、「イニシアチブ」を選択します。  
「イニシアチブ」タブが表示されます。作成済のイニシアチブが一覧表示されません。
  - 3 新しいイニシアチブを作成するには、右クリックして「追加」を選択します。  
「イニシアチブ設定」ページに、時間に依存する情報、変数、メンバー、完了日などの詳細が表示されます。
  - 4 「名前」にイニシアチブの名前を入力します。
  - 5 「依存」で、関連するその他のオブジェクトと要因を確認します。

- 親イニシアチブ(適用可能な場合)
  - このイニシアチブの添付先である関連オブジェクト
  - 責任要素など、関連オブジェクトのタイプ
- 6 「説明」に、イニシアチブの目的を要約して入力します。
  - 7 「タイプ」から、イニシアチブの種類を選択します。
  - 8 優先度から、イニシアチブの重要性を表すレベルを選択します。
  - 9 「アクティブ」をクリックして、イニシアチブを起動します。
  - 10 所有者で、選択をクリックしてこのイニシアチブの責任を担う従業員を選択し、適用をクリックします。
  - 11 オプション: 「メンバー」で、関連するまたはイニシアチブに関連付けられた従業員を選択します。
  - 12 オプション: 「通知」で、イニシアチブへの変更や進行状況を、アラートによって通知する従業員を選択します。133 ページの「イニシアチブのアラートの作成」を参照してください。
  - 13 原価に、イニシアチブの実装に必要な実際または概算の値を入力します。単位の選択をクリックして、数値で表す単位(\$000、#Employees など)を選択します。
  - 14 見積もり作業工数に、イニシアチブを完了するために必要な日数を小数で入力します。たとえば、10.0 人日と入力します。単位の選択をクリックして、値の単位(\$000、#Employees など)を追加します。
  - 15 オプション: ファイルを添付するには、添付ファイルのアップロード>参照をクリックします。ファイルを選択して、「アップロード」をクリックします。
  - 16 完了日は指定しないでください。
  - 17 「イニシアチブ・データ」の横にある矢印を使用して、レポートの期間を指定します。これにより、注釈をイニシアチブに関連付けることのできる期間を定義します。
  - 18 開始日および「期限」で、カレンダー・ボタン  をクリックして、イニシアチブを開始する日とイニシアチブを完了する必要がある日付を選択します。
  - 19 「完了率」で、デフォルトの値を受け入れます。
  - 20 「ステータス記号」で、「開始していません」を選択します。イニシアチブが進行すると、パフォーマンスのステータスを選択できます。
  - 21 「注釈」で、このイニシアチブに関連付ける注釈を入力します。イニシアチブが複数のレポートの期間またはサイクルにまたがる場合は、各サイクルに注釈を添付します。注釈は、プロジェクトのステータスと入力を監視するために、イニシアチブの実施中に更新されます。
  - 22 保存をクリックします。
  - 23 別のレポートの期間を追加するには、手順 18 から 24 を繰り返します。
  - 24 「保存」をクリックします。

## イニシアチブの更新と変更

イニシアチブはいつでも更新できますが、完了率などのイニシアチブ・データ内の情報は、進行状況の追跡に使用されます。イニシアチブを更新するには、そのイニシアチブの所有者か作成者である必要があります。

- ▶ イニシアチブを更新するには、次の手順に従います。
  - 1 次のタスクを実行します。
    - ブラウザ・ビューまたは任意のレポートから、イニシアチブが割り当てられているオブジェクトをクリックします。「イニシアチブ」をクリックして、更新するイニシアチブを選択します。
    - ブラウザ・ビューから、「レポート」>「イニシアチブ・ステータス」を選択します。イニシアチブを右クリックして、「編集」を選択します。
  - 2 該当する設定を変更します。120 ページの「イニシアチブの作成」を参照してください。
  - 3 保存をクリックします。

## イニシアチブの削除

イニシアチブが複数のオブジェクトに割り当てられている場合は、現在のオブジェクトまたはすべてのオブジェクトから、選択項目のみ除去できます。

- ▶ イニシアチブを削除するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューまたはレポートから、イニシアチブが割り当てられているオブジェクトを選択します。
  - 2 表示されたレポートで、「イニシアチブ」を選択します。
  - 3 イニシアチブを選択し、右クリックして「削除」を選択します。
  - 4 確認メッセージに応答します。
    - イニシアチブが他のオブジェクトに割り当てられていない場合は、「OK」をクリックします。
    - イニシアチブを、現在のオブジェクトからのみ除去するには、「いいえ」をクリックします。
    - 割り当てられているすべてのオブジェクトから、イニシアチブを削除するには「はい」をクリックします。

## イニシアチブの階層と依存関係の作成

大規模または複雑なイニシアチブは、貢献する下位レベルの子イニシアチブを作成することで洗練できます。これにより、複雑なイニシアチブを一連の手順に細分化できます。サブ・イニシアチブは、親イニシアチブの特性を共有しますが、そのステータスは親イニシアチブに影響しません。

- ▶ イニシアチブにサブ・イニシアチブを追加するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューまたは任意のレポートから、親イニシアチブが添付されているオブジェクトを選択します。
  - 2 表示されたレポートで、「イニシアチブ」を選択します。
  - 3 イニシアチブを右クリックして、「追加」を選択します。  
「イニシアチブ設定」ページが表示されます。
  - 4 上位レベルの親イニシアチブが、依存関係として識別されます。
  - 5 サブイニシアチブを定義します。120 ページの「イニシアチブの作成」を参照してください。
  - 6 「保存」をクリックします。

## イニシアチブのコピー

他の要素のスコアカードまたはメジャーに割り当てられるようにするため、イニシアチブをコピーして複製を作成できます。

- ▶ イニシアチブをコピーするには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、要素のスコアカードまたはメジャーを選択します。
  - 2 「イニシアチブ」を選択します。
  - 3 イニシアチブを右クリックして、「コピー」を選択します。
  - 4 もう一度右クリックして、「貼付け」>「コピー」を選択します。  
イニシアチブのコピーが、スコアカードまたはメジャーに追加されます。

## イニシアチブのリンク

イニシアチブは、次のルールに従ってその他の要素またはメジャーにリンクできます。

- イニシアチブに現在の親イニシアチブがない場合は、どの親にも自由にリンクできます。
  - イニシアチブに親がある場合は、最上位で所有している他のオブジェクトにのみリンクできます。
  - 複数のオブジェクトにリンクされているイニシアチブは、別の親にリンクを移動できますが、元の親、新しい親および子のイニシアチブは、すべて同じ親に添付する必要があります。
- ▶ イニシアチブをリンクするには、次の手順に従います。
    - 1 ブラウザ・ビューから、リンクするイニシアチブのあるオブジェクトを選択します。
    - 2 「イニシアチブ」を選択します。
    - 3 イニシアチブを右クリックして、「コピー」を選択します。

- 4 ブラウザ・ビューで、イニシアチブをリンクするスコアカードまたはメジャーに移動します。
- 5 「イニシアチブ」を選択します。
- 6 右クリックして、「貼付け」>「リンク」を選択します。  
そのイニシアチブが新しいスコアカードまたはメジャーに追加され、イニシアチブがリンクされます。
- 7 右クリックして「表示」を選択します。  
「イニシアチブの表示」が表示され、「依存」の下に、リンクされた所有オブジェクトが表示されます。

## イニシアチブのレポート・データのカスタマイズ

次のビューでは、イニシアチブの様々な情報を表示できます。

- 静的ビュー - 変更されないデータを表示します。
  - トレンド・ビュー - 完了率などの進行状況およびパフォーマンス関連の変化を表示します。
- ▶ イニシアチブのビューをカスタマイズするには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、「レポート」>「イニシアチブ・ステータス」を選択します。
  - 2 表示されたレポートで、「編集」>「カスタマイズ」を選択します。
  - 3 使用するビュー、およびこのテーブルで示したとおりに表示するデータを選択します。

表1 イニシアチブ・データ

オプション	説明
システム・デフォルトの設定	アプリケーション・デザインまたは汎用デザイン: その他すべてのユーザーにカスタマイズを適用する場合に選択します。
関連付けられたオブジェクト・タイプごとにグループ化	メジャー、責任要素または戦略要素によるグループ・イニシアチブ。
トレンド・ビューをデフォルトで表示	完了率およびステータスなどの追跡情報を表示します。
名前	イニシアチブの名前を表示します。
ステータス記号	イニシアチブのステータスを表すパフォーマンス・インディケータを表示します。
開始日	イニシアチブを開始する日を表示します。
完了日	イニシアチブが完了した日付を表示します。
原価	イニシアチブの原価をドルで表示します。
作成者	イニシアチブを作成した従業員を示します。

オプション	説明
ステータス	「進行中」など、現在のステータスを表示します。
優先度	イニシアチブの優先度を表示します。1は最も高いレベルの優先度を示します。
元の期限	イニシアチブが完了することになっていた最初の日付を表示します。
改訂された期限	調整された完了日を表示します。
期限	イニシアチブが完了する必要がある日付を表示します。
完了率	完了のステータスをパーセントで表示します。
見積もり作業工数	イニシアチブの見積もり原価を作業日数で表示します。
所有者	イニシアチブに割り当てられた従業員を表示します。
関連付け先	イニシアチブが関連付けられているオブジェクトを表示します。
名前	各イニシアチブの名前を表示します。
所有者	イニシアチブの所有者の名前を表示します。
期限	イニシアチブの予定された完了日を表示します。
改訂された期限	最後に改訂されたイニシアチブの期限を表示します。

4 「保存」をクリックします。

5 オプション: レイアウトを次のように変更します。

- 列のヘッダーをクリックして他の場所にドラッグして、列を移動します。
- データソートするには、列のヘッダーをダブルクリックします。



## この章の内容

アラートについて .....	127
アラートの作成 .....	129
通知への応答.....	138
登録について .....	139
アラートの登録 .....	139
アラートの登録解除 .....	140
登録の使用不可設定 .....	141
登録の使用可能設定 .....	141
登録の変更.....	142

## アラートについて

アラートでは、許容可能な範囲から逸脱した、重要情報の主なメジャー、スコアカードまたはその他の内容を電子メールで通知します。たとえば、顧客の保持期間というメジャーの実績が75%を下回ってはならない場合、「範囲内のメジャー実績」アラートを作成して、メジャーの実績データが75%を下回った場合に、登録者に通知します。また、メジャー実績の収集またはイニシアチブの完了が近づいている場合、期日になった場合、または遅滞している場合に通知するアラートも作成できます。アラートには次の2種類があります。

- 個人用アラート: 特定の個人にのみ送信されるアラートです。
- パブリック・アラート: 管理者によって作成されるアラートで、すべてのユーザーは登録することで通知を受信できます。パブリック・アラートは、共通の属性を共有するアラートを新規に生成する場合に、テンプレートとして使用できます。

アラートの属性を継承することで、他のアラートに基づいてアラートを作成できます。パブリック・アラートから属性を継承する場合、そのパブリック・アラートはテンプレートとして使用されます。テンプレートとして使用されたパブリック・アラートを変更すると、それらの変更内容はそのパブリック・アラートに基づいて作成されたすべてのアラートに反映されます。

## 要件

アラートの電子メール通知を受信するには、次の手順に従います。

- Alerter がインストールおよび構成されていることを確認します。『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- アラートを作成します。
- 通知の電子メールを受信する従業員にアラートをリンクする登録を作成します。

## メジャーのアラートのタイプ

メジャーのアラートは次のタイプを作成できます。

- ステータスのメジャー - メジャーに特定のパフォーマンス・レベルがある場合、登録者に通知します。たとえば、メジャーのパフォーマンスが劣化した場合に、そのメジャーに関連するすべての従業員に通知できます。
- 範囲内の実績 - 実績が指定した範囲内にある場合、登録者に通知します。たとえば、メジャーの顧客満足度が一定レベルを下回った場合に、主な従業員に通知できます。
- 範囲内のスコア - スコアが監視対象範囲に入った場合、登録者に通知します。たとえば、顧客サポートへの電話の数というメジャーが 75%を超えた場合に、従業員に通知できます。
- 実績収集の期限 - メジャーの実績の収集日が近づいた場合、収集日になった場合、収集日を過ぎた場合に、登録者に通知します。実績を適時に収集できるようになります。
- 範囲内の差異 - メジャーの実績の割合(パーセント)が、許容可能と定義した範囲の目標から逸脱している場合に、登録者に通知します。

## スコアカードのアラート

スコアカードのアラートは次のタイプを作成できます。

- ステータスのスコアカード - スコアカードの評価従業員、戦略要素、または責任要素のパフォーマンスが、劣化などの特定のステータスになった場合、登録者に通知します。
- 範囲内のスコアカード - スコアカード・スコアが、定義した範囲に入った場合、登録者に通知します。たとえば、60 を下回ってはならない顧客満足度を監視するスコアカードのスコアの場合は、アラートに 0、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、60 の順に入力すると、スコアが 60 を下回った場合に通知が送信されます。

## イニシアチブのアラート

イニシアチブのアラートは次のタイプを作成できます。

- 範囲内の完了率 - イニシアチブの完了率が指定した範囲内または範囲外になった場合、登録者に通知します。

- 期限切れ - 割り当てられた期日までにイニシアチブが完了しなかったため、完了するためのアクションが必要な場合、登録者に通知します。
- ステータスのイニシアチブ(シンボル) - イニシアチブの進行状況が、デフォルトまたはユーザーが定義したステータス・シンボルで示されるステータスに変化した場合、登録者に通知します。
- ステータスのイニシアチブ(テキスト) - イニシアチブの進行状況が、「開始済」または「進行中」など、定義済の状態を示すステータスに変化した場合、登録者に通知します。
- イニシアチブによって指定された所有者 - 特定の従業員がイニシアチブの所有権を割り当てられた場合、登録者に通知します。このようなアラートは、マネージャが、自分の監督する従業員の1人にイニシアチブの所有権が付与されたことを知る必要がある場合に便利です。
- イニシアチブによって指定された通知先 - 特定の従業員がイニシアチブに関連付けられた場合、登録者に通知します。

## アラートの作成

この項では、調査またはアクションが必要な次のような状況になった場合に、登録者に通知するアラートの作成方法について説明します。

- メジャーおよびスコアカードのパフォーマンス・ステータスが定義した範囲から逸脱した。
- メジャー実績の収集期限が来たか期限切れになった。
- イニシアチブが開始されたか完了した。

[129 ページの「メジャーのアラートの作成」](#)、[131 ページの「スコアカードのアラートの作成」](#) および [133 ページの「イニシアチブのアラートの作成」](#) を参照してください。

## メジャーのアラートの作成

メジャーのアラートを作成するには、次の手順に従います。

- 全般属性を指定します。[129 ページの「全般属性の指定」](#) を参照してください。
- アラートをトリガーさせる基準を指定します。[130 ページの「トリガーの定義」](#) を参照してください。
- 通知の電子メールで送信されるメッセージを作成します。[131 ページの「通知の設定」](#) を参照してください。

## 全般属性の指定

- ▶ メジャーのアラートを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラート>「メジャー・アラート」を選択します。
  - 2 タイプを選択します。「アラート・リスト」が表示されます。

- 3 表示から個人を選択します。
- 4 追加をクリックします。
- 5 オプション: 他の属性を使用してアラートを作成するには、「**属性値の継承元**」を選択し、アラートを選択します。
- 6 メジャー選択で、特別に選択をクリックしてメジャーを選択します。
- 7 登録者の場所で、メジャーに関連付けられている従業員の中で登録者を選択します。たとえば、登録者が実績を収集するメジャーにアラートを添付するには、「**実績収集者**」を選択します。
- 8 メジャーのスコアカード上の場所で、アラートを添付するスコアカードのメジャーを指定します。たとえば、アラートを、登録者が所有するスコアカードのメジャーに添付するには、「**所有**」を選択します。
- 9 次へをクリックします。
- 10 アラートの名前と目的の概要を入力します。
- 11 アラートをトリガーさせるトリガー基準を指定します。130 ページの「**トリガーの定義**」を参照してください。
- 12 管理者: すべてのユーザー用にアラートを作成するには、これは、パブリック・アラートですをクリックします。
- 13 複数のターゲットを使用する場合、式に使用する目標値から、ステータス、スコア、実績または差異を指定するターゲットを選択します。
- 14 特定のメジャーにアラートを作成するには、メジャー選択を選択し、メジャーを選択します。
- 15 通知メッセージを作成します。131 ページの「**通知の設定**」を参照してください。

## トリガーの定義

- ステータスのメジャーアラートの場合、登録者に送信されるアラート通知を指示するステータス記号をクリックします。たとえば、メジャー・ステータスが劣化の場合に登録者に通知するには、該当するステータス記号を選択します。
- 範囲内の実績、範囲内のスコア、範囲内の差異または実績収集の期限の場合は、次の手順に従います。
  1. 「**アラートをアクティブにする基準**」で、「**追加**」をクリックします。
  2. 「**部分範囲設定**」で、アラートをアクティブにする値の範囲を入力します。たとえば、60 を下回る場合に登録者に通知するには、0、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、60 の順に入力します。

**ヒント:** 各範囲の境界に関する式を使用するには、「f」をクリックします。付録 B「**複雑な式の作成**」を参照してください。

131 ページの「**通知の設定**」を参照してください。

## 通知の設定

▶ 通知を定義するには、次の手順に従います。

### 1 次のタスクを実行します。

- メジャーがトリガーされ、アラート状態でなくなった場合にのみ通知を送信するには、手順2に進みます。
- 特定条件が適用される場合に複数の通知を送信するには、再アラート設定を選択してから条件を選択します。
  - 基準に一致し始める - メジャーのステータスが変化した場合に通知を送信します。
  - 入力範囲 - 実績などの基準が定義済みの範囲と一致した場合に通知を送信します。
  - 基準に一致するが、異なる値 - ステータスが変化した場合に通知を送信します。
  - 範囲内だが、異なる値 - スコアなどの基準が範囲内にあるが値が異なる場合に、通知を送信します。たとえば、スコアが増えているが依然として許容可能でない範囲にある場合です。
  - 基準に一致 - メジャーが希望のステータスである場合に通知を送信します。
  - 範囲内 - 実績、スコアまたは差異が範囲内にある場合に通知を送信します。
  - 登録者はまだ受信を確認していません - 登録者が元の通知の受信を確認していない場合に通知を送信します。
  - このメッセージは、まだ送信されていません。x 時間 - 「x」 時間内に何も送信されない場合に通知を送信します。

### 2 オプション: メジャーがアラートの状態でなくなった場合に通知を送信するには、「値が次の場合に送信」でオプションを選択し、通知するコンテンツを入力します。

### 3 「保存」をクリックします。

## スコアカードのアラートの作成

スコアカードのアラートを作成するには、次のタスクを実行します。

- 全般属性を指定します。131 ページの「[全般属性の指定](#)」を参照してください。
- アラートをトリガーさせる基準を指定します。132 ページの「[トリガーの定義](#)」を参照してください。
- 通知の電子メールで送信されるメッセージを作成します。132 ページの「[通知の設定](#)」を参照してください。

## 全般属性の指定

スコアカードのアラートを作成するには、次のタスクを実行します。

- ▶ スコアカード・アラートを作成するには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、アラート>「**スコアカードのアラート**」を選択します。
  - 2 アラートのタイプを選択します。
  - 3 「アラート・リスト」で、追加をクリックします。「アラート設定」ページが表示されます。
  - 4 オプション: 他のアラートと同じ設定を使用するには、「**属性値の継承元**」を選択し、アラートを選択します。
  - 5 このアラートはスコアカードを評価しますで、特別に選択をクリックし、特定のスコアカードにアラートを割り当てます。
  - 6 登録者の場所で、通知する登録者のタイプを指定します。たとえば、登録者が管理する従業員のスコアカードにアラートを添付するには、「**従業員のマネージャ**」を選択します。
  - 7 アラートのトリガーと基準を指定するには、次へをクリックします。[132 ページの「トリガーの定義」](#)を参照してください。

## トリガーの定義

- ▶ アラートのトリガーを指定するには、次の手順に従います。
- 1 アラートの名前と目的の概要を入力します。
  - 2 アラートのタイプについて次のタスクを実行します。
    - ステータスのスコアカード: 通知をトリガーするパフォーマンス・インディケータを選択します。たとえば、ステータスが劣化のときのみ通知を送信するには、該当するパフォーマンス・インディケータを選択します。
    - 範囲内のスコア: 「アラートをアクティブにする基準」で、「追加」をクリックします。アラートをトリガーさせる値の範囲を入力します。たとえば、スコアが 60 を下回る場合に通知を送信するには、0、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、60 の順に入力します。
  - 3 複数の目標を使用する場合、式に使用する目標値から、計算に使用する目標を選択します。
  - 4 特別に選択されたスコアカードの場合は、スコアカード選択タブを選択して、アラートを関連付ける責任要素、戦略要素または従業員のスコアカードを選択します。
  - 5 通知用のメッセージを作成します。[132 ページの「通知の設定」](#)を参照してください。

## 通知の設定

- ▶ アラート通知を作成するには、次の手順に従います。
- 1 次のタスクを実行します。
    - アラートがトリガーされるか、終了した場合にのみ通知を送信するには、手順 2 に進みます。

- 様々な指定の条件で複数の通知を送信するには、再アラート設定の定義を選択し、条件を選択します。
  - ステータスのスコアカード-パフォーマンスが、選択したパフォーマンス・レベルに初めて該当する場合に、通知を送信します。
  - 範囲内のスコアカード-スコアカード・スコアが定義した範囲内に入った場合に通知を送信します。
  - 基準に一致するが、異なる値-ステータスが変化した場合に通知を送信します。
  - 範囲内だが、異なる値-スコアなどの基準が範囲内にあるが値が異なる場合に、通知を送信します。たとえば、スコアが増えているが依然として許容可能でない範囲にある場合です。
  - ステータスのスコアカードだが、異なる値-パフォーマンスが選択したレベルに該当するが、スコアが変化している場合に通知を送信します。
  - 範囲内のスコアカードだが、異なる値-スコアが範囲内であるが、スコアが異なる場合に通知を送信します。
  - 登録者はまだ受信を確認していません-登録者が元の通知の受信を確認していない場合に通知を送信します。
  - このメッセージは、まだ送信されていません。x 時間 - 「x」 時間内に何も送信されない場合に通知を送信します。
- 2 通知用の電子メールのコンテンツを入力します。
- 3 オプション: メジャーがアラートの状態でなくなった場合に登録者に通知するには、基準に一致しなくなったを選択し、送信するメッセージを入力します。
- 4 「保存」をクリックしてアラートを登録します。

## イニシアチブのアラートの作成

イニシアチブのアラートを作成するには、次のタスクを実行します。

- 全般属性を指定します。133 ページの「全般属性の指定」を参照してください。
- アラートをトリガーさせる基準を指定します。134 ページの「トリガーの定義」を参照してください。
- 通知の電子メールで送信されるメッセージを作成します。135 ページの「通知の設定」を参照してください。

### 全般属性の指定

- ▶ イニシアチブのアラートを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラート>「イニシアチブ」を選択します。
  - 2 アラートのタイプを選択します。
  - 3 「アラート・リスト」で、追加をクリックします。
  - 4 「アラート設定」ページで、次のタスクを実行します。

- 他のメジャーの属性を使用するには、属性値の継承元を選択し、アラートを選択します。
  - 次のいずれかを選択します。
    - 特定のイニシアチブにアラートを割り当てるには、「**特別に選択されたイニシアチブ**」を選択します。
    - アラートを、メジャー、戦略要素または責任チームに割り当てられたイニシアチブに後で添付するには、「**選択されたオブジェクトのイニシアチブ**」を選択します。
    - アラートを、登録者が所有するイニシアチブに割り当てるには、「**登録者によって所有**」を選択します。これにより、登録済の従業員が所有しているすべてのイニシアチブにアラートが割り当てられます。
- 5 次へをクリックします。
  - 6 アラートの名前と目的の概要を入力します。
  - 7 [134 ページの「トリガーの定義」](#)を参照してください。

## トリガーの定義

送信されるアラートをトリガーさせるトリガーを設定します。その後で、[135 ページの「通知の設定」](#)を参照してください。

- 「範囲内の完了率」または「期限切れ」 - 「**アラートをアクティブにする基準**」で、「**追加**」をクリックします。範囲を定義します(「x」は完了率または期限を表します)。たとえば、イニシアチブが完了すべき日の5日前と2日後に通知を送信するには、-5、小なり記号(<)、x、小なり記号(<)、2の順に入力します。
- 「範囲内の完了率」 - イニシアチブをアラートの状態にするパフォーマンス・インディケータを選択します。
- 「イニシアチブ入力ステータス」 - イニシアチブをアラートの状態にするステータスを表すパフォーマンス・インディケータを選択するか、「完了」や「遅滞」など、イニシアチブをアラートの状態にするパフォーマンス・レベルの名前を選択します。
- 「イニシアチブによって指定された通知先」または「イニシアチブによって指定された所有者」 - 「**監視する従業員**」リストで、イニシアチブに関連付けられた場合にアラートをトリガーする従業員を選択します。たとえば、James Hull および Alice Taylor という従業員を管理していて、James がイニシアチブに関連付けられたことを知りたい場合は、リストから James を選択します。
- 「選択されたオブジェクトのイニシアチブ」 - イニシアチブが関連付けられたオブジェクト・タイプの隣の「**選択**」をクリックします。たとえば、アラートを戦略要素に関連付ける場合は、「**戦略要素に基づいて選択**」をクリックし、表示される戦略の階層を移動して目的の要素を選択します。

## 通知の設定

### ▶ 通知の作成

#### 1 次のタスクを実行します。

- 「イニシアチブによって指定された所有者」または「イニシアチブによって指定された通知先」の場合は、手順2に進みます。
- 「範囲内の完了率」、「期限切れ」、「ステータスのイニシアチブ」アラートの場合は、再アラート設定を選択し、通知が送信される条件を選択します。
  - 基準に一致し始める - パフォーマンスのステータスが、選択したパフォーマンス・レベルに初めて該当した場合に、通知を送信します。
  - 入力範囲 - 完了率または期限が許容可能な範囲内にある場合に通知を送信します。
  - 基準に一致 - パフォーマンスのステータスが、選択したステータスに該当する場合に通知を送信します。
  - 範囲内だが、異なる値 - 完了率が範囲内であるが値が増減している、または完了日が近づいている場合に通知を送信します。
  - 基準に一致 - ステータスが、選択したステータス・テキストまたは記号に該当する場合に通知を送信します。
  - 登録者はまだ受信を確認していません - 登録者が元の通知の受信を確認していない場合に通知を送信します。
  - このメッセージは、まだ送信されていません。x時間 - 「x」時間内に何も送信されない場合に通知を送信します。

#### 2 通知用の電子メールのコンテンツを入力します。

#### 3 オプション: イニシアチブがアラートの状態でなくなった場合に登録者に通知するには、終了した範囲または基準に一致しなくなったを選択し、通知のコンテンツを入力します。

#### 4 「保存」をクリックしてアラートを登録します。

## 既存のアラートを使用したアラートの作成

既存のアラートを使用してアラートを作成するには、次の手順に従います。

- パブリック・アラートの値を継承することでアラートを作成します。パブリック・アラートへの変更は、作成したアラートにも適用されます。[136 ページの「パブリック・アラート属性の継承」](#)。
- 個人用アラートをコピーおよびカスタマイズすることで、アラートを作成します。[136 ページの「コピーのカスタマイズによるアラートの作成」](#)を参照してください。

## パブリック・アラート属性の継承

- ▶ 継承されたパブリック・アラート属性を使用してアラートを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラートを選択してから、タイプ、名前の順に選択します。たとえば、「アラート」>「メジャー・アラート」>「範囲内の実績」を選択します。
  - 2 「アラート・リスト」が表示されます。
  - 3 「追加」をクリックします。
  - 4 「アラートの継承」で、「属性値の継承元」を選択し、パブリック・アラートを選択します。
  - 5 アラートを定義します。129 ページの「アラートの作成」を参照してください。

## コピーのカスタマイズによるアラートの作成

- ▶ 他のアラートをカスタマイズすることでアラートを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラートを選択してから、タイプ、名前の順に選択します。たとえば、「アラート」>「メジャー・アラート」>「範囲内の実績」を選択します。
  - 2 アラートのタイプの「アラート・リスト」が表示されます。
  - 3 アラートを選択して「コピー」をクリックします。
  - 4 「アラート・リスト」でコピーを選択し、「編集」をクリックします。
  - 5 アラートを作成します。129 ページの「アラートの作成」を参照してください。

## 通知への動的変数の挿入

アラートがトリガーされ、通知が送信されると、Performance Scorecard によって、変数で表される実際の値が通知メッセージに挿入されます。これにより、値が入力されるプレースホルダを通知メッセージに挿入できます。変数は、\$記号で囲まれた小文字で挿入します(例: \$subject\_name\$)。次の変数を使用できます。

表 2 動的変数

変数	説明	適用先
collection_date	メジャーの収集頻度によって生成される実績の収集日を入ります。	メジャー・アラート
current_date	システムの日付(アラートがトリガーされる日)を入ります。	すべて

変数	説明	適用先
current_time	システムの時刻(アラートがトリガーされる時刻)を挿入します。	すべて
object_name	アラートにメジャー、イニシアチブまたはスコアカードの名前を挿入します。	すべて
object_type	アラートにスコアカードなどのオブジェクトの種類を挿入します。	すべて
result	現在の実績値を挿入します。	メジャー・アラート
score	現在のスコアを挿入します。たとえば、メジャー・アラートの場合はメジャー・スコアが埋め込まれます。	メジャーおよびスコアカードのアラート
status_symbol	劣化などのステータス記号に該当する名前を挿入します。	すべて
target	メジャーの目標値を挿入します。	メジャー・アラート
tripped_range_calculated	関連付けられた範囲によって評価された値を挿入します。	すべて
tripped_range_formula	アラートに関連付けられている値の範囲を挿入します。	すべて
user_name	アラートに登録されている従業員の名前を挿入します。	すべて
user_id	登録者のユーザー・アカウントを挿入します。	すべて
variance	目的と実際のメジャー実績の差異を挿入します。	メジャー・アラート
initiative_due_date	完了日を挿入します。	イニシアチブのアラート
initiative_notified	イニシアチブの更新情報を通知する従業員の名前を挿入します。	イニシアチブのアラート
initiative_owners	イニシアチブを所有している従業員の名前を挿入します。	イニシアチブのアラート
initiative_percent_complete	完了率を挿入します。	イニシアチブのアラート
initiative_text_status	現在のステータスをテキストとして挿入します。	イニシアチブのアラート

## アラートの変更

変更できるのは自分が作成したアラートのみです。再登録する必要はありません。

- ▶ アラートを変更するには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」を選択してから、タイプ、名前の順に選択します。
- 2 表示されたリストでアラートを選択し、「編集」をクリックします。
- 3 アラート属性を変更します。129 ページの「アラートの作成」を参照してください。

## アラートのコピー

- ▶ アラートをコピーするには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」を選択してから、タイプ、名前の順に選択します。
- 2 表示されたリストでアラートを選択し、「コピー」をクリックします。

## アラートの削除

削除できるのは自分で作成したアラートのみです。アラートを削除すると、それらのアラートの登録が削除されるため、登録済のその他のすべてのユーザーがそのアラートを必要としていないかを確認してください。

- ▶ アラートを削除するには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」を選択してから、タイプ、名前の順に選択します。
- 2 表示されたリストでアラートを選択し、「削除」をクリックします。
- 3 アラートを削除することを確認します。

## 通知への応答

アラート通知は、メジャーなどとともに動作するオブジェクトがアラートの状態になり、アクションが必要なときに、アラートの登録者に送信される電子メール・メッセージです。

アラート通知に応答するには、次の手順に従います。

- 受信の確認  
アラートが、受信確認後に続いて通知を送信するように構成されていない場合は、アラートの状態が変化するまでは他の通知メッセージを受信することはありません。
- 管理者によってロックされていない場合は、アラートを非アクティブまたは登録解除します。
- 推奨: アラート内のイニシアチブ、メジャーまたはスコアカードを調査して、必要なアクションと応答を判断します。

**ヒント:** 通知が配信されない場合は、管理者に次のファイル内のエラーを確認してもらいます: `アプリケーション・サーバー¥webappsconf¥log`  
`¥HyperionAlerter.log`

## 登録について

登録は、アラート、およびアラート通知を受信する必要があるユーザーにリンクします。登録するユーザー、または他のユーザーによってアラートに登録されたユーザーは、スコアカードおよびメジャーなどのオブジェクトのアラート基準がトリガーされた場合に通知を受信します。すべてのユーザーは、パブリック・アラートに自分自身を登録できます。ただし、他のユーザーが登録できるパブリック・アラートを作成できるのは、アプリケーション・デザイナーおよび管理者(汎用デザイナーまたは管理セキュリティの役割)のみです。

ユーザーはすべてのアラートから自分自身を登録解除できます。ユーザーの登録解除を禁止するには、アプリケーション・デザイナーおよび管理者がアラートをロックします。

アラートに登録するには、次の手順に従います。

- アラートを作成した後、[139 ページの「既存のアラートの登録」](#)を参照してください。
- アラートを作成するときは、[140 ページの「アラートの作成および登録の同時実行」](#)を参照してください。

登録は、使用不可にすることで一時的に非アクティブにできます。この間、オブジェクトがアラートの状態であっても通知は送信されません。登録を使用不可にしても、アラートから自分や他のユーザーが登録解除されることはありません。

## アラートの登録

次のいずれかのタスクを実行することでアラートに登録します。

- [139 ページの「既存のアラートの登録」](#)
- [140 ページの「アラートの作成および登録の同時実行」](#)

アラートから他のユーザーを登録または除去するには、[140 ページの「その他のユーザーのアラートへの登録」](#)または[140 ページの「アラートの登録解除」](#)を参照してください。

## 既存のアラートの登録

- ▶ 既存のアラートに登録するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラートを選択してから、タイプ、名前の順に選択します。アラートのリストが表示されます。
  - 2 登録先のアラートを選択します。
  - 3 登録をクリックします。

**注：** アラートの必須プロパティを指定しなかった場合は、「アラート設定」ページが表示されます。

- 4 **オプション:**管理者である場合は、アラートを選択して「他のユーザーを登録」をクリックして、他のユーザーを登録します。そのアラートが「登録リスト」に表示されます。アラートがトリガーされると、アラート通知の電子メールが送信されます。

## アラートの作成および登録の同時実行

- ▶ アラートの作成と登録を同時に行うには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」>「タイプ」を選択します。
  - 2 アラート・リストで、登録をクリックします。
  - 3 アラートを作成します。129 ページの「アラートの作成」を参照してください。

## その他のユーザーのアラートへの登録

アプリケーション・デザイナー(汎用デザイナーまたはデザイナーの役割を持つユーザー)および管理者は、その他のユーザーが登録でき、登録対象になれるパブリック・アラートを作成できます。その他のユーザーがパブリック・アラートを登録解除できないようにするには、アラートをロックします。

- ▶ その他のユーザーをパブリック・アラートに登録するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラート>「タイプ」>「アラート」を選択します。
  - 2 ビューで、パブリックを選択します。
  - 3 アラートを選択し、他のユーザーを登録をクリックします。  
「複数ユーザー選択」が表示されます。
  - 4 登録ユーザーで、選択をクリックします。  
「ユーザーの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
  - 5 登録するユーザーを選択し、適用をクリックします。
  - 6 **オプション:**これらのユーザーが登録解除しないようにするには、ユーザーの登録解除を禁止をクリックします。
  - 7 次へをクリックします。
  - 8 アラート通知で送信するメッセージを入力し、保存をクリックします。

## アラートの登録解除

**注：** アラートの登録から他の従業員は除去できません。

- ▶ アラートから登録解除するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」>登録をクリックします。

自分が登録しているアラートが一覧表示されます。

- 2 アラートを選択し、登録解除をクリックします。
- 3 登録解除することを確認します。

アラートが自分の登録のリストから除去され、アラート通知メッセージを受信しなくなります。

## アラートからの他のユーザーの登録解除

- ▶ パブリック・アラートからユーザーを登録解除するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、アラート>「タイプ」>「アラート」を選択します。
  - 2 「アラート・リスト」で、「ビュー」>「パブリック」を選択します。
  - 3 ビューで、パブリックを選択します。
  - 4 アラートを選択し、他のユーザーを登録解除をクリックします。  
「複数ユーザー選択」が表示されます。「アラートへの登録」に、選択されたアラートの名前が表示されます。
  - 5 「複数ユーザー選択」ページで、ユーザーの登録解除でユーザーを選択し、登録解除をクリックします。

## 登録の使用不可設定

関連付けられたアラートから登録解除することなく、一定の期間、通知を受け取らないようにするには、登録を使用不可にします。たとえば、休日の間は登録を使用不可にして、仕事に戻ったときに使用可能にできます。

- ▶ 登録を使用不可にするには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」>登録を選択します。  
登録のリストが表示されます。
  - 2 ビューで、使用可能を選択します。
  - 3 使用不可にする登録を選択し、使用不可をクリックします。
  - 4 登録を使用不可にすることを確認します。

## 登録の使用可能設定

- ▶ 登録を使用可能にするには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」>登録を選択します。
  - 2 表示で、使用不可を選択します。非アクティブにされている登録が表示されます。
  - 3 アクティブにする登録を選択し、使用可能をクリックします。  
確認メッセージが表示されます。

#### 4 登録を使用可能にすることを確認します。

アラート基準がトリガーされると、アラート通知が送信されます。

## 登録の変更

アラートに登録するとコピーが作成され、自分の登録がそのコピーにリンクされます。このことにより、登録および関連付けられたアラートに行った変更が、その他の登録やアラートに適用されることはありません。登録に対して行った変更は、オリジナルではなく、関連付けられたアラートのコピーに適用されます。

▶ 登録を変更するには、次の手順に従います。

#### 1 ブラウザ・ビューから、「アラート」>登録を選択します。

自分の登録が表示されます。

#### 2 登録を選択し、編集をクリックします。

関連付けられているアラートの「設定」ページが表示されます。

#### 3 必要に応じて、アラートを変更します。129 ページの「アラートの作成」を参照してください。

## この章の内容

ノートについて .....	143
注釈について.....	146

## ノートについて

ノートおよびディスカッション・スレッドにより、社内の全員が、アクセス権を持つメジャーおよびスコアカードに関する情報、提案および意見を共有できます。スコアカード、メジャー、責任要素および戦略要素には、ノートを作成して追加できます。注釈により、ノートおよびディスカッション・スレッドをレポート期間別にグループ化できます。注釈を作成できるのは、注釈作成者のみです。

次の項を参照してください。

- 144 ページの「ノートの作成」
- 144 ページの「ノートへの返答」
- 145 ページの「ノートの変更」
- 145 ページの「ノートの削除」
- 143 ページの「全般のフォーラムからのノートへのアクセス」

## 全般のフォーラムからのノートへのアクセス

全般のフォーラムでは、表示が許可されている従業員、メジャー、スコアカードなどのオブジェクトのノートを表示できます。これらのオブジェクトに添付されているノートに対して、送信および返答ができます。フォーラム内のノートを素早く検索するには、146 ページの「ノートの検索」を参照してください。

▶ 全般のフォーラムにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 フォーラム>全般のフォーラムを選択します。
- 2 情報を次のように整理し、フィルタ処理します。
  - **グループ別:** 問題となっているトピック、作成者、カテゴリおよび日付のオブション。
  - **表示専用:** 次のフィルタを使用。
    - 「**確認済**」は、監視のフラグを付けたノートまたはディスカッション・スレッドを含むフォーラムを表示。

- 「新規」は、未読のノートのみを表示。
- 「過去 x 日間」は、過去の指定日数中に作成されたノートを含むフォーラムを表示。たとえば、過去 1 週間に作成されたノートを表示するには、「過去 x 日間」をダブルクリックして 7 と入力します。

### 3 権限がある場合は、次のタスクを実行できます。

- ノートに応答する。144 ページの「ノートへの返答」を参照してください。
- ノートを編集する。145 ページの「ノートの変更」を参照してください。
- ノートを除去する。145 ページの「ノートの削除」を参照してください。

## ノートの作成

▶ オブジェクトにノートを作成するには、次の手順に従います。

### 1 ブラウザ・ビューから、オブジェクトを選択します。「コンテンツ」ペインにビジネス・オブジェクトが表示されます。

フィルタを使用して、既存のノートおよびディスカッション・スレッドをソートします。

### 2 新しいノートの送信をクリックします。「新しいノートの送信」領域が追加されます。

### 3 件名に、ノートの名前を入力します。

### 4 カテゴリから、ノートのコンテンツを適切に表すグループを選択します。これらのカテゴリは管理者がカスタマイズできます。

### 5 「コンテンツ」に、メッセージを入力します。

新しいノートのテキストでは HTML タグを使用できます。HTML タグの使用方法についての詳細は、オンラインの HTML リソースを参照してください。

**オプション:** PowerPoint のプレゼンテーションや Microsoft Word のドキュメントなどの添付ファイルを追加するには、「参照」をクリックしてファイルを選択し、「アップロード」をクリックします。

### 6 保存をクリックします。

ノートが追加されます。

## ノートへの返答

ノート、ディスカッション・スレッドまたは他の返答に返答して、元のノートに追加のコメントまたはドキュメントを添付できます。

▶ ノートに返答するには、次の手順に従います。

### 1 ブラウザ・ビューから、ノートに適用するオブジェクトを選択します。

オブジェクトの「詳細」ページが表示されます。

### 2 ノートを選択します。

### 3 返答するノートを検索します。

- ノートは、トピック、作成者、カテゴリおよび日付別にフィルタできます。

- 「表示専用」で、フィルタを選択します。
  - 「確認済」は、監視対象としてフラグを付けられたノートまたはディスカッション・スレッドを含むフォーラムを表示。
  - 「新規」は、新しい未読のノートをすべて表示。
  - 「過去 x 日間」は、過去の指定日数中に作成されたメッセージを含むフォーラムを表示。日数を指定するには、「過去 x 日間」をクリックします。「トピック・フィルタ設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。ノートをフィルタ処理する日数を入力し、「保存」をクリックします。

4 ノートの隣にある返答ボタンをクリックします。

ページに「新しいノートの送信」領域が追加されます。

5 件名に、応答の件名を入力します。

6 カテゴリから、応答のコンテンツを適切に表すカテゴリを選択します。

7 コンテンツに、応答の本文を入力します。

**ヒント：** このフレームでは HTML タグを使用できます。詳細については、オンラインの HTML リソースを参照してください。

8 ファイルを添付するには、参照をクリックしてファイルを選択し、アップロードをクリックします。

9 保存をクリックします。

ノートのリストに応答が追加されます。元のノートを展開すると、自分の応答が表示されます。

## ノートの変更

編集できるのは自分で作成したノートのみです。管理者はすべてのノートを編集できます。

▶ ノートを編集するには、次の手順に従います。

- 1 「ブラウザ・ビュー」ペインから、ノートが添付されているオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトの詳細ページで、ノートをクリックします。
- 3 必要に応じて、フィルタを使用してノートを検索します。
- 4 ノートの横にある編集をクリックします。
- 5 ノートを変更して、「保存」をクリックします。

## ノートの削除

ノートを削除できるのは、作成者または管理者のみです。

▶ ノートを削除するには、次の手順に従います。


- 1 ブラウザ・ビューで、ノートが存在するオブジェクトを選択します。

- 2 オブジェクトの詳細ページでノートを選択します。
- 3 ノートを検索して、「削除」をクリックします。
- 4 はいをクリックして、ノートを削除します。

## ノートの検索

特定情報を含むフォーラム、ノートおよびディスカッション・スレッドを見つけるには検索を使用します。次の基準を使用して検索を実行します。

▶ 検索するには、次の手順に従います。

- 1 「フォーラム」>「検索」を選択します。
- 2 基準を選択します。
  - 「フォーラム」から、表示するノートおよびディスカッション・スレッドを含むフォーラムを選択します。
  - 「作成者」から、ノートまたはディスカッション・スレッドを作成した従業員の名前を選択します。
  - 特定の期間中に作成されたノートおよびディスカッション・スレッドを表示するには、カレンダー・ボタンをクリックし、日付セレクトを使用します。
  - 入力したテキストのすべてではなく、一部を含むノートを検索するには、「次のいずれかを含む」を選択します。
  - 入力したテキストのすべてを含むノートを検索するには、「次のすべてを含む」を選択します。
- 3 検索をクリックします。

基準を含むノート、フォーラムおよびディスカッション・スレッドが表示されません。

## 注釈について

注釈により、財務四半期や会社のイベントなどのレポート期間のコンテキストにおけるメジャー、責任要素または戦略要素を、ノートを使用して話し合えます。それには、注釈をレポートの期間に関連付ける必要があります。[115 ページの「レポートの期間およびカテゴリの作成」](#)を参照してください。注釈を作成、変更または削除するには、注釈作成者である必要があります。[51 ページの「責任の割当て」](#)を参照してください。

**ヒント：** 複数の注釈とそれらの注釈に関連付けられたイニシアチブを表示するには、オブジェクトの詳細ページの「注釈とイニシアチブ」を使用します。[148 ページの「注釈とイニシアチブ」タブ](#)を参照してください。

次の項を参照してください。

- [147 ページの「注釈の作成」](#)
- [147 ページの「注釈の変更」](#)

- 148 ページの「注釈の削除」

## 要件

注釈を作成する前に、自分がメジャー、責任要素または戦略要素の注釈作成者として割り当てられていることを確認します。51 ページの「責任の割当て」を参照してください。注釈を挿入するレポートの期間が存在することも確認する必要があります。115 ページの「レポートの期間およびカテゴリの作成」を参照してください。

## 注釈の作成

- ▶ 注釈を作成するには、次の手順に従います。
  - 1 要件を満たすことを確認します。147 ページの「要件」を参照してください。
  - 2 ブラウザ・ビューから、オブジェクトを選択します。
  - 3 ノートをクリックします。  
関連付けられたノートと注釈が一覧表示されます。
  - 4 新しいノートの送信をクリックします。
  - 5 注釈および「レポートの期間」を選択します。  
件名に、ノートの名前を入力します。件名は必須です。
  - 6 カテゴリから、「目標」、「FYI」、「その他」など、注釈の内容を適切に表すカテゴリを選択します。これらのカテゴリは管理者が変更できます。
  - 7 コンテンツに、メッセージを入力します。
  - 8 オプション: 注釈にファイルを添付するには、参照をクリックしてファイルを検索し、アップロードをクリックします。
  - 9 保存をクリックします。

## 注釈の変更

- ▶ 注釈を編集するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューから、オブジェクトを選択します。
  - 2 ノートをクリックします。  
関連付けられたノートと注釈が一覧表示されます。
  - 3 変更する注釈を検索し、隣にある「編集」ボタンをクリックします。
  - 4 注釈を変更します。
  - 5 保存をクリックします。

## 注釈の削除

削除できるのは自分が作成した注釈のみです。

- ▶ 注釈を削除するには、次の手順に従います。
- 1 ブラウザ・ビューから、注釈が存在するオブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトの詳細ページで、ノートをクリックします。
- 3 注釈を検索し、隣にある「削除」ボタンをクリックします。
- 4 注釈を削除することを確認します。

## 「注釈とイニシアチブ」タブ

「注釈とイニシアチブ」タブには、オブジェクトの注釈とイニシアチブの両方が表示されます。管理者は、該当する Web ページの制限を除去することによって、このタブへのアクセス権をユーザーに付与する必要があります。自分が注釈作成者である場合は、このタブから注釈の作成、編集または削除が行えます。

---

## 第 III 部

# 分析およびデータ入力: レポートの使用 方法

---

分析およびデータ入力: レポートの使用方法の内容:

- [レポートの使用方法](#)
- [ポートレットおよび EPM Workspace ページの構築](#)





## この章の内容

全般レポート・タスク .....	151
メジャー・パフォーマンス・レポートの使用方法 .....	152
スコアカード・パフォーマンス・レポートの使用方法 .....	163
従業員プロフィール・レポートの使用方法 .....	168
従業員詳細レポートの使用方法 .....	168
アクティブなアラート・レポートの使用方法 .....	169
実績の収集レポートの使用方法 .....	170
変数値の入力.....	170
イニシアチブ・ステータス・レポートの使用方法 .....	171
戦略レポートの使用方法.....	172
レポート・データのコピーおよび貼付け.....	173

## 全般レポート・タスク

いくつかの例外はありますが、次のタスクはすべてのレポートで実行できます。



















- オブジェクトを次のようにドリルダウンして詳細な情報にアクセスする。
  - メジャー - 次元メジャー上でドリル・ダウンし、複合メジャーを展開すると子が表示される。複合メジャーを展開することで表示されるスコアカードもドリル・ダウンできます。
  - スコアカード - スコアカードを選択すると、構成されるメジャーとスコアカードが表示される。スコアカードでメジャーを選択すると、その詳細または子が表示されます。
  - イニシアチブ - イニシアチブを選択すると、その依存物、子、サブイニシアチブが表示される。
- 列をドラッグ・アンド・ドロップすることで列のサイズを変更する。
- 「編集」 > 「カスタマイズ」を選択することで、レポートのデフォルトのコンテンツを変更する。
- ノート・アイコンを選択することで、ノートの読取り、作成および応答を行う。
- パフォーマンス・インディケータを選択してメジャーおよびスコアカード・データの履歴にアクセスすることで、前のパフォーマンス・レベルを表示する。

- ソート・アイコンを選択することで、列内のデータをアルファベット順、または昇順や降順の値でソートして表示する。

## メジャー・パフォーマンス・レポートの使用方法

メジャー・パフォーマンス・レポートでは、表示可能なすべてのメジャーのパフォーマンス概要が提供されます。メジャーは、パースペクティブ別にグループ化されます。複合メジャーおよび次元メジャーは階層で表示され、展開することで詳細な情報にアクセスできます。

図 20 メジャー・パフォーマンス・レポート

Measure	Status	Target	Score/Target	Status/Target	Benchmark	Score/Benchmark	Status/Benchmark	Stretch Top
<u>Environment Costs</u>		450,000.0	172.20		250,000.00	69.96		--
<u>Growth in Net Profit</u>		3.00	233.33		3.00	233.33		--
<u>Increase in Revenue</u>		350,000,0	203.97		375,000,000.0	190.37		--
<u>New Product Success Index</u>		95.00	42.11		97.00	41.24		--
<u>New Technologies Under Review</u>		5.00	80.00		8.00	50.00		--
<u>Operating Margin</u>		12.50	80.40		20.00	50.25		--

- ▶ レポートを開くには、ブラウザ・ビューを選択して、「レポート」>「メジャー・パフォーマンス」を選択します。

レポート設定はカスタマイズできますが、次の情報はメジャーごとに表示されません。

- 未読のノートが存在する場合
- ステータス記号によって全体のパフォーマンス・レベルを示すステータス列

**注：** パフォーマンスは、ツールバーの「レポートの出力先」リストから選択された目標によって評価されます。複数の値の目標を使用してメジャー・パフォーマンスを評価するようにレポートをカスタマイズすると、複数の値を持つ各目標値の列に、各目標のメジャー・パフォーマンスを示すスコアとステータス記号が表示されます。

- パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すパフォーマンス・トレンド
- 現在の実績値
- 現在の期間累計実績値。手動で入力した場合、この値は、式または関数で計算された期間累計の実績を上書きします。

- 現在の目標値。複数の値の目標値も表示されます。
- 各メジャーを数値化する単位。\$(百万)またはクレーム数。
- 現在のスコア(パーセント)
- ターゲットによって予測および示される実績値から逸脱した値を示す差異(パーセント)

次のタスクを実行できます。

- ツールバーの「レポートの出力先」リストから他のパフォーマンスの目標を選択することで、その目標を使用してメジャー・データを計算する。
- 個別のメジャーを選択してその詳細にアクセスし、目標値、実績値の入力、イニシアチブの作成、現在のデータまたは履歴データのグラフ作成などのタスクを実行する。154 ページの「メジャー詳細レポートの使用法」を参照してください。
- パフォーマンス・インディケータにより、任意のメジャーの前のパフォーマンス・レベルおよびデータを表示する。
- 表示されるコンテンツを、「編集」>「カスタマイズ」を選択して、次の設定を適用することで変更する。

**表 3** メジャー・パフォーマンス・レポートのオプション

オプション	説明
複合および次元メジャーをツリーで表示	複合メジャーおよび次元メジャーを階層で表示します。 注： 選択した場合、Excel にエクスポートできません。
名前	各メジャーの名前を表示します。
ノート	新しい未読のノートが存在するかどうかを示します。
ステータス	メジャーのパフォーマンス・レベルを記号で表示します。
トレンド	各メジャーのパフォーマンス・トレンドを表示します。ここでは、パフォーマンスが向上したか、低下したか、変化がないかどうかを示します。
実績	すべてのメジャーの実績を一覧表示します。
目標	レポートの目標を使用してパフォーマンスを評価し、計算を実行します。これは、ツールバーの「レポートの出力先」リストから選択された目標です。
期間累計の実績	メジャーに適用された期間累計関数の実績を一覧表示します。
単位	メジャー実績を数値化する単位を表示します。
スコア	メジャー・スコアを表示します。
ステータスを背景色として表示	レポート上のスコア・セル内の該当するパフォーマンス・インディケータ用に選択された色を表示します。
差異(%)	目標から逸脱しているメジャー実績のパーセンテージを表示します。たとえば、メジャー A の目標が 200 で、実績が 160 である場合、差異は(200-160)/100 になります。

オプション	説明
データの信頼性(小数)	関連するメジャーのパフォーマンスに影響を及ぼす、次元メジャーまたは複合メジャーの欠落している実績の程度を小数で表示します。たとえば、次元メジャーに3つの子があるが実績は1つにしかない場合、信頼性の値は1/3になります。
データの信頼性(%)	メジャーのパフォーマンスに影響を及ぼす、次元メジャーまたは複合メジャーの欠落している実績の程度をパーセントで表示します。たとえば、次元メジャーに3つの子があるが実績は1つにしかない場合、信頼性の値は33%になります。
表示する目標	選択した各目標を使用しているメジャー・パフォーマンスを評価する列を作成します。スコアやステータス記号を使用してパフォーマンス・レベルを表したり、目標値を表示したりできます。

## メジャー詳細レポートの使用方法

メジャー詳細レポートのタブでは、次のタスクを実行できます。

- 「全般」タブで、関連付けられた従業員、頻度および式などの基本的なメジャー設定データを表示する。
- 「チャート」タブで、現在および前の実績値、目標値およびスコアをグラフ化する
- 「トレンド・テーブル」タブで、前のパフォーマンス・レベル、目標値および実績値を表示する
- 「イニシアチブ」タブで、イニシアチブを表示および作成する
- 「実績」タブおよび「目標」タブで、実績値と目標値を表示し、(権限が付与されている場合は)入力または変更する
- 「一部」タブで、メジャーが関連付けられているスコアカードおよび式などの他のオブジェクトを表示する
- 「ノート」タブで、メジャーに関連するノートを表示および作成する

メジャー詳細レポート上のタブを自分固有のレポートと置き換えるには、[162 ページの「メジャー詳細レポートのカスタマイズ」](#)を参照してください。


▶ メジャー詳細レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

### 1 ブラウザ・ビューまたは任意のレポートで、メジャーを選択します。

「トレンド・テーブル」タブにレポートが開き、前の実績値および目標値が表示されます。複数の値の目標を使用している場合、これらの値は各目標を使用して計算されます。タブがカスタマイズされている場合は、追加データまたは別のデータが表示されることがあります。

図 21 メジャー詳細のトレンド・テーブル

Formula Object	Mar 31, 2007	Jun 30, 2007	Sep 30, 2007	Dec 31, 2007
<i>Result:</i>	186,233,478.00	186,233,478.00	186,233,478.00	186,233,478.00
<i>Target:</i>	185,000,000.00	185,000,000.00	185,000,000.00	185,000,000.00
<i>PTD Result:</i>	--	--	--	--
<b>Production and Admin related costs</b> <i>Score(%):</i>	97.78	97.78	97.78	97.78
<i>Status:</i>	+	+	+	+
<i>Target:</i>	185,000,000.00	185,000,000.00	185,000,000.00	185,000,000.00
<i>Benchmark:</i>	166,500,000.00	166,500,000.00	166,500,000.00	166,500,000.00

- 2 他の期間の実績値、目標値、スコアおよびパフォーマンス・レベルを表示するには、「終了日」フィールドおよび「開始日」フィールドでカレンダー・アイコン  をクリックして、日付範囲を指定します。

## 全般メジャー・データへのアクセス

メジャー詳細レポートの「全般」タブには、アプリケーション・デザイナーによって指定された基本的なメジャー情報が表示されます。

- ▶ 全般メジャー・データにアクセスするには、ブラウザ・ビューまたは任意のレポート上でメジャーをクリックし、「全般」タブを選択します。

次の情報が表示されます。詳細は、73 ページの「メジャーについて」を参照してください。


- 現在のパフォーマンス・ステータス、スコアおよびパフォーマンス・トレンド。トレンド記号により、パフォーマンスが向上したか、変化がないか、低下したかが示されます。この情報は、レポートの上部に表示されます。
  - メジャーが割り当てられているプライマリおよびセカンダリのパースペクティブ
  - メジャーによってデータの収集が開始される日
  - 目標の設定など、タスクを実行するメジャーに割り当てられた従業員の名前。これらの従業員に電子メールを送信するには、各従業員の名前を選択します。
  - 関連するレポートへのリンク
  - メジャー・データを評価するための実績値、スコア、目標値、および期間累計の式。
  - ドルなど、実績を数値化する単位
  - 実績収集と目標定義の頻度を指定する、実績と目標の頻度。
  - 実績が取得される、外部リポジトリまたは Essbase データベースを含むデータ・ソース。
  - パフォーマンスを評価して表すパフォーマンス・インディケータおよび範囲
- アプリケーション・デザイナーは、「編集」 > 「編集」を選択することでこの設定情報を変更できます。

## メジャー・データのグラフ化

メジャー詳細レポートの「チャート」タブでは、指定した期間別に次のデータをグラフ化できます。

- 実績値
- 期間累計の実績値
- スコア(パーセント)
- 目標値


次のタスクを実行できます。

- 「終了日」フィールドと「開始日」フィールドでカレンダー・アイコンをクリックし、日付範囲を指定することで、前のデータをグラフ化する。
- ツールバーの「レポートの出力先」リストから目標またはしきい値の設定を選択することで、別の目標またはしきい値の設定を使用してデータを再計算してグラフ化する。
- 「編集」>「カスタマイズ」を選択して、次のオプションを選択することで、様々な情報をグラフ化する。
  - **チャートに凡例を表示** - 使用されるデータを説明するテキスト
  - **収集されていない実績を折れ線グラフで表示** - 使用不可の実績値に関するインディケータまたは代替りの値を表示
  - **y 軸の自動** - スケールを選択することによって、値を明瞭にグラフ化。
  - **スコア** - スコアをグラフ化。別の色でスコアを表示するには、「色」ボックスを選択して表示されるパレットから別の色を選択します。
  - **実績** - 実績値をグラフ化。別の色で実績を表示するには、「色」ボックスを選択して表示されるパレットから別の色を選択します。
  - **期間累計の実績** - 計算された期間累計の実績値をグラフ化。別の色で実績を表示するには、「色」ボックスを選択して表示されるパレットから別の色を選択します。
  - **目標** - 目標値をグラフ化。これらの値を別の色で表示するには、「色」ボックスを選択して表示されるパレットから別の色を選択します。
  - **表示する目標** - 選択した他の目標を使用して、パフォーマンス・レベルを計算し、グラフ化。
  - **コンボ** - 棒と線を使用して、複数の値を示すデータを1つのグラフで表します。

## イニシアチブの使用法

メジャー詳細レポートの「イニシアチブ」タブでは、メジャーに関連付けられたイニシアチブを表示および更新できます。すべてのイニシアチブの所有者および期限が表示されます。「イニシアチブ」タブでは、イニシアチブを新規作成したり、既存のメジャーのイニシアチブを更新したりもできます。

- 各イニシアチブの所有者に電子メールで問い合わせるには、所有者の名前を選択します。


- 表示されているデータを変更するには、「編集」>「カスタマイズ」を選択します。
- イニシアチブを作成するには、次のタスクを実行します。
  1. 適切なレポートの期間を作成します。115 ページの「レポートの期間およびカテゴリの作成」を参照してください。
  2. 右クリックし、「追加」を選択します。「イニシアチブ設定」ページに、時間に依存する情報、変数、メンバー、完了日などの詳細が表示されます。
  3. イニシアチブの名前と目的の概要を入力します。
  4. 「依存」で、関連するその他のオブジェクトと要因を確認します。
    - 親イニシアチブ(適用可能な場合)
    - このイニシアチブの添付先である関連オブジェクト
    - 責任要素など、関連オブジェクトのタイプ
  5. 「タイプ」から、イニシアチブの種類を選択します。
  6. 優先度から、イニシアチブの重要性を表すレベルを選択します。
  7. 「アクティブ」を選択して、イニシアチブを起動します。
  8. 所有者で、選択をクリックして、イニシアチブの責任を担う従業員を選択し、適用をクリックします。
  9. オプション: 「通知」で、イニシアチブの変更や進行状況についてアラートで通知する従業員を選択します。133 ページの「イニシアチブのアラートの作成」を参照してください。
  10. 原価で、イニシアチブを実装するのに必要な実際の値または見積りの値を入力します。単位の選択をクリックして、\$000 や #Employees などの数値化する単位を選択します。
  11. 見積もり作業工数に、イニシアチブを完了するために必要な日数を小数で入力します。たとえば、10.0 人日と入力します。単位の選択をクリックして、値の単位(\$000、#Employees など)を追加します。
  12. 「イニシアチブ・データ」の横にある矢印を使用して、レポートの期間を指定します。これにより、注釈をイニシアチブに関連付けることのできる期間を定義します。
  13. 開始日および「期限」で、カレンダー・ボタンをクリックして、イニシアチブを開始する日、およびそのイニシアチブが完了する必要がある日付を選択します。
  14. 「注釈」で、このイニシアチブに関連付ける注釈を入力します。イニシアチブが複数のレポートの期間またはサイクルにまたがる場合は、各サイクルに注釈を添付します。注釈は、プロジェクトのステータスと入力を監視するために、イニシアチブの実施中に更新されます。

## 「実績」タブについて

メジャー詳細レポートの「実績」タブには、次の情報が表示されます。

- 実績の日付 - 実績の頻度で指定された、実績値を収集または入力する必要がある日。

- 収集日 - 実績値を収集または入力する必要がある日。この値は、「収集期限の延長」を指定することで増やせます。
- 入力または計算された実績。
- 式または関数で計算された期間累計の実績。
- 手動で入力された期間累計の実績。これらの実績は、計算された実績を上書きします。

ロック済アイコン  は、実績を指定できる期間が終了したことを示します。この問題を解決するには、「収集期限の延長」を増やします。[87 ページの「式および頻度の定義」](#)を参照してください。

実績収集者は、実績および期間累計の実績の値を変更、削除または入力できます。[158 ページの「メジャーおよび変数の実績値の入力」](#) および [159 ページの「実績値の変更および削除」](#) を参照してください。

権限が付与されている場合は、「編集」 > 「編集」を選択することでこのメジャーの設定を変更できます。

## メジャーおよび変数の実績値の入力

実績および期間累計の値を入力するには、実績収集者である必要があります。自分自身をメジャーに関連付けるには、[51 ページの「責任の割当て」](#)を参照してください。Essbase を外部データ・ソースとして使用している場合、入力した期間累計の値は、Essbase データベースに書き込まれます。



**注：** 入力した期間累計の実績は、式で計算された実績を上書きします。

実績と目標を同時に入力するには、[161 ページの「実績および目標の同時入力」](#)を参照してください。

▶ 実績を入力するには、次の手順に従います。

### 1 ブラウザ・ビューから、次のタスクを実行します。

- 「レポート」 > 「実績の収集」を選択します。
- 「レポート」 > 「メジャー・パフォーマンス」を選択し、表示されたレポートからメジャーを選択して「実績」をクリックします。次の情報が表示されます。
  - 実績の日付 - 実績を収集または入力する必要がある日が一覧表示されます。これは、実績の頻度で指定されたものです。
  - 収集日 - 実績を収集または入力する必要がある日を一覧表示します。この値は、「収集期限の延長」を指定することで増やせます。
  - 実績 - 入力または計算された実績が含まれます。
  - 計算済の PTD 実績 - 式または関数で生成された実績が含まれます。
  - 入力済の PTD 実績 - 式または関数を使用せずに入力する期間累計の実績が含まれます。

- 2 前の実績値を表示するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」および「開始日」で日付範囲を指定します。
- 3 欠落している実績のみを入力するには、「収集されていないメジャーのみを表示」を選択し、空のボックスをクリックして値を入力します。
- 4 新しい実績値を入力するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」フィールドおよび「開始日」フィールドで日付範囲を指定し、表示されているボックスに実績を入力します。
- 5 変数の実績を入力するには、「変数」タブを選択し、手順2と3を繰り返します。
- 6 保存をクリックします。

## 実績値の変更および削除

実績を変更または削除するには、実績収集者である必要があります。式または関数で生成された期間累計の値は変更できませんが、生成された値は、入力した期間累計の値によって上書きされます。Essbaseを外部データ・ソースとして使用している場合、変更された期間累計の実績はEssbaseデータベースに書き込まれます。

▶ 実績値を変更または削除するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザ・ビューから、次のタスクを実行します。
  - 「レポート」>「実績の収集」を選択します。
  - 「レポート」>「メジャー・パフォーマンス」を選択し、表示されるレポートからメジャーを選択して、「実績」または「実績と目標」タブのいずれかをクリックします。
- 2 次のタスクを実行します。
  - 実績値を変更するには、その値を選択して「削除」をクリックし、別の値を入力します。
  - 実績値を削除するには、その値を選択して「削除」をクリックします。  
スケジュールされた収集日に収集された実績を削除すると、その値は二重ダッシュ(--)になります。収集日は変更されません。


## 目標値の入力


しきい値の設定とも呼ばれる目標は、メジャーで収集が予定される実績値を指定します。レポートを使用して値を入力できる新しい目標を作成するには、[80 ページの「目標の作成」](#)を参照してください。

▶ 目標値を入力するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザ・ビューまたは任意のレポートから、メジャーを選択します。
- 2 表示されるメジャー詳細レポートで、目標を選択します。


「目標」タブに、最近設定された目標が一覧表示されます。目標に複数の値がある場合、目標のしきい値を表すサブ目標がパフォーマンスの評価で使用され、サブ目標の列が表示されます。

前の目標を表示するには、カレンダー・アイコンをクリックして、日付範囲を選択します。

- 3 1つまたは複数値の新しい目標値を入力するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「開始日」および「終了日」で日付範囲を選択します。
- 4 目標、列またはサブ目標の列のボックスに値を入力します。
- 5 保存をクリックします。  
指定した日付で、目標が使用されるようになります。

## 目標値の変更および削除

1つまたは複数の値の目標値を変更または削除するには、目標設定者である必要があります。自分自身を目標設定者として割り当てるには、[51 ページの「責任の割当て」](#)を参照してください。

- ▶ 目標を変更または削除するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューまたは任意のレポートから、メジャーを選択します。
  - 2 メジャー詳細レポートで、目標を選択します。
  - 3 前の目標値を表示するには、カレンダー・アイコンをクリックし、「終了日」フィールドおよび「開始日」フィールドを使用して日付範囲を指定します。
  - 4 次のタスクを実行します。
    - 目標値を変更するには、その値を選択して「削除」をクリックし、別の値を入力します。
    - 目標値を削除するには、その値を選択して「削除」をクリックします。  
スケジュールされた収集日に収集された実績を削除すると、その値は二重ダッシュ(--)になります。収集日は変更されません。
  - 5 「保存」をクリックします。


## 「実績および目標」タブについて

「実績および目標」タブにより、メジャーのすべての実績と目標を表示できます。実績収集者は、実績を入力、変更または削除できます。目標設定者は、目標値を入力、変更または削除できます。外部データ・ソースとして Essbase を使用している場合は、このタブに入力された期間累計の値が Essbase データベースに書き込まれます。

「実績および目標」タブには、次の情報が表示されます。

- 実績値を収集または入力する必要がある日。これは、実績の頻度で指定されます。

- 実績を収集または入力する必要がある日。この値は、「収集期限の延長」を指定することで増やせます。
- 入力または計算された実績値。
- 式または関数で計算された期間累計の実績値。
- 式または関数を使用せずに入力する期間累計の実績値。この実績は計算された実績を上書きします。
- メジャーに定義された目標。サブ目標が存在する、複数の値の目標を使用している場合は、これらの値の列も表示されます。
- 式で計算された目標値。




前の実績値および目標値を表示するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」および「開始日」で日付範囲を指定します。

式によって生成された目標および実績のデータを表示しない場合は、「計算済の値を非表示」を選択します。

## 実績および目標の同時入力

目標設定者である場合は、「実績および目標」タブで、目標値を入力、変更または削除できます。実績収集者である場合は、このタブを使用して実績値を入力、変更または削除できます。外部データ・ソースとして Essbase を使用している場合は、このタブに入力された期間累計の値が Essbase データベースに書き込まれます。

**注：** このタブでデータを入力するには、管理者がユーザー・アカウントに対する「実績と目標」タブの Web ページ制限を除去する必要があります。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』の第 2 章を参照してください。


- ▶ 実績と目標を同時に入力するには、次の手順に従います。
  - 1 ブラウザ・ビューまたは任意のレポートから、メジャーを選択します。
  - 2 メジャー詳細レポートで、実績および目標タブを選択します。
  - 3 前の実績値および目標値を表示するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」および「開始日」で日付範囲を指定します。
  - 4 欠落している実績のみを表示して入力するには、「収集されていないメジャーのみを表示」を選択し、空のボックスをクリックして値を入力します。
  - 5 新しい実績値を入力するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」および「開始日」で日付範囲を指定し、表示されるボックスに実績を入力します。
  - 6 1 つまたは複数值の新しい目標値を入力するには、カレンダー・アイコンをクリックして、「終了日」および「開始日」で目標が使用される期間を選択します。該当する目標の列に値を入力します。
  - 7 保存をクリックします。

## メジャー使用の特定

メジャー詳細レポートの「一部」タブでは、メジャーが使用されているスコアカード、および関連付けられている戦略要素と責任要素を表示できます。

メジャーを使用しているオブジェクトを表示するには、ブラウザ・ビューまたは任意のレポートでメジャーを選択し、「一部」タブを選択します。関連付けられたオブジェクトを選択すると、詳細情報が表示されます。

## ノートの使用方法

メジャーに関するノートの作成と読取り、およびノートへの返答を行うには、メジャー詳細レポートの「ノート」タブを使用します。未読のノートが存在する場合は、新しいノート記号で示されます。[143 ページの「ノートおよび注釈の使用方法」](#)を参照してください。

## メジャー詳細レポートのカスタマイズ

レポート・オプションの適用に加え、メジャー詳細レポートを次のようにカスタマイズできます。


- メジャーの詳細レポートの「全般」タブで、外部 Web ページへのリンクを添付する。リンクを添付するには、次の手順を実行します。
  1. 「編集」 > 「編集」を選択して、メジャー設定ページに戻ります。
  2. 「リンク名」に、ページの名前を入力します。
  3. 「リンク URL」に、ページの URL を入力します。
  4. メジャー詳細レポートからリンク・ページを表示する方法を指定します。
    - 別のブラウザ・ウィンドウでページを開くには、「新しいウィンドウで起動」を選択します。
    - レポート上の別のタブにページを埋め込むには、「タブに URL を表示」を選択します。

**ヒント：** これらのレポートには、ブラウザ・ビューでメジャーを右クリックし、コンテキスト・メニューから「表示」を選択することでもアクセスできます。
- デフォルト・タブをカスタム・レポートに置き換えるには、次の手順を実行します。
  1. 「編集」 > 「編集」を選択して、メジャー設定ページに戻ります。
  2. リンク名で、置き換えるタブのキーを入力します。たとえば、「チャート」タブを置き換えるには、trendingChart と入力します。
    - 全般=general
    - チャート=trendingChart
    - トレンド・テーブル=trendingTable
    - イニシアチブ=initiatives

- 実績=results
  - 目標=comparators
  - 一部=reverse
  - ノート=notes
  - 注釈とイニシアチブ=annotationsInitiatives
  - 実績と目標=resultsAndTargets
3. リンク URL で、かわりに使用するレポートの URL を入力します。

## スコアカード・パフォーマンス・レポートの使用方 法

スコアカード・パフォーマンス・レポートでは、表示可能なスコアカードのステータスおよびスコアが提供されます。このレポートを開くには、「レポート」>「スコアカード・パフォーマンス」を選択します。レポートにスコアカードが、従業員、責任および戦略スコアカードの階層別に表示されます。次のタスクを実行できます。

- スコアカードを展開およびドリルダウンして、スコアカードで使用されているメジャーまたはスコアカードを表示する。
- メジャーを選択することにより、スコアカード上の各メジャーに関する詳細にアクセスする。[154 ページの「メジャー詳細レポートの使用法」](#)を参照してください。
- スコアカードを選択することにより、スコアカードで使用されている下位レベルのスコアカードに関する詳細にアクセスする。[164 ページの「スコアカード詳細レポートの使用法」](#)を参照してください。
- パフォーマンスを監視する、従業員のプライマリ個人用スコアカードを選択するには、「従業員スコアカード」>「従業員」を選択します。
- 該当するパフォーマンス・インディケータを選択して、前のスコアカード・パフォーマンスを表示する。
- ノート・アイコンを選択して、スコアカード関連のノートの読取りや返答を行う。
- 「編集」>「カスタマイズ」を選択して次のオプションを選択することで、表示されているコンテンツを変更する。
  - スコアカードのグループ化基準 - スコアカードをタイプまたはカテゴリ別に表示する。スコアカードをアルファベット順に表示するには、「グループなし」を選択します。
  - 
  - スコアカード名 - スコアカードの名前を表示する
  - スコアカードのノート - スコアカード関連のノートが存在するかどうかを示す
  - スコアカード・ステータス - スコアカード・パフォーマンスのレベルを反映するパフォーマンス・インディケータを表示する

- スコアカード・スコア - 各スコアカードのスコアを表示する
- スコアカード・トレンド - パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すトレンド記号を表示する。
- ステータスを背景色として表示 - スコア・セル内のパフォーマンス・インディケータ用に選択された色を表示する

## スコアカード詳細レポートの使用方法

スコアカードの様々な情報を表示するには、スコアカード・パフォーマンス・レポートまたはその他のページで、スコアカードを選択します。次のタブを使用して、様々な情報にアクセスします。

- 「全般」タブ - 所有者、メンバー、親およびスコアカードのスコアリング範囲など、スコアカードに関する基本情報にアクセスします。[165 ページの「全般スコアカード・データへのアクセス」](#)を参照してください。
- 「スコアカード」タブ - 現在のステータス、名前、現在のスコア、トレンドを表示します。この情報は、上部に表示されます。スコアカード上のステータス、スコア、実績値、目標値、メジャーおよびスコアカードの加重を表示します。ステータス、スコア、実績および加重などの各スコアカードのメジャーに関する情報にアクセスします。
- 「チャート」タブ - 様々なフォーマットでデータをグラフ化します。[166 ページの「スコアカード・データのグラフ化」](#)を参照してください。
- 「トレンド・テーブル」タブ - 前のスコアカード実績値を表示します。[167 ページの「トレンド・データによる過去のパフォーマンスの表示」](#)を参照してください。
- 「イニシアチブ」タブ - スコアカードに割り当てられたイニシアチブを表示、作成または更新します。[第 10 章「イニシアチブの使用方法」](#)を参照してください。
- 「目標」タブ - 目標の開始日、目標値およびベンチマークの値を表示します。
- 「実績」タブ - メジャーの実績の日付、収集日および値を表示します。
- 「一部」タブ - スコアカードが関連付けられているスコアカード、戦略要素または従業員などのオブジェクトを表示します。また、オブジェクトが参照される式も表示します。
- 「スコアカード」タブ - 次の情報を表示します。
  - 現在のステータス、名前、現在のスコア(パーセンテージで表示)およびトレンド。この情報は、タブの上部に表示されます。
  - スコアカードで使用される各メジャーおよびスコアカードの一覧(パースペクティブ別にグループ化)。
  - 構成される各メジャーとスコアカードのステータス、スコア、実績、目標および加重。[165 ページの「スコアカード・コンポーネント・データの表示」](#)を参照してください。

## 全般スコアカード・データへのアクセス

スコアカード詳細レポートの「全般」タブでは、そのスコアカードによって評価される従業員、戦略要素、責任チームまたは戦略マップに関する次の情報が提供されます。

- 従業員 - 名前、従業員番号、役職名、マネージャおよび連絡先などの情報を表示します。
  - 「戦略」 ツリー要素 - 親(「戦略」 ツリー上で表示しているスコアカードの要素の上部に表示される要素)を表示します。また、要素、グループおよびビジネス領域に関連付けられた、戦略要素の達成責任を担う従業員、およびスコアカード・パフォーマンスを評価および表示するパフォーマンス・インディケータの範囲も表示されます。
  - 「責任」 マップ要素 - 親(「責任マップ」上で表示しているスコアカードの要素の上部に表示される責任要素)を表示します。責任要素(通常はビジネス領域またはタスク・フォース)が達成する必要がある、または作業対象とする必要がある戦略オブジェクトなどの戦略要素も表示されます。スコアカード・パフォーマンスを評価および表示するパフォーマンス・インディケータの範囲も表示されます。
  - 戦略マップ要素 - 要素の所有者、責任要素に関する情報、およびスコアカード・パフォーマンスを評価および表示するパフォーマンス・インディケータの範囲を表示します。
- ▶ この情報にアクセスするには、ブラウザ・ビューまたは任意のレポート上でスコアカードを選択し、表示されるレポート上の「全般」タブを選択します。

## スコアカード・コンポーネント・データの表示

スコアカード詳細レポート上の「スコアカード」タブを使用すると、スコアカード上のメジャーおよびスコアカードに関する次の情報が表示されます。

- 現在のステータス、名前、現在のスコア(パーセンテージ)およびトレンド。この情報は、タブの上部に表示されます。
- 次のメジャー情報が表示されます。
  - 名前およびパースペクティブ
  - ステータスおよびスコア
  - 実績値および加重。実績は未修正の収集された実績の値です。加重は、この実績がスコアカード全体のスコアに与える影響の程度です。下線付きの値は、欠落している実績を示します。実績収集者は、メジャーの実績を入力できます。[157 ページの「実績」タブについて](#)を参照してください。
  - メジャーの実績値として予定される目標値。別の目標を使用してパフォーマンスを評価するには、Performance Scorecard のツールバーの「パフォーマンス目標」リストから、その目標を選択します。
  - パフォーマンス全体に影響を及ぼす、欠落している複合メジャーまたは次元メジャーの実績の程度を表すデータの信頼性。

## スコアカード・データのグラフ化

現在および前のスコアカードの値を次のフォーマットで表示するには、スコアカード詳細レポートの「チャート」タブを使用します。

- スコアリング・ダッシュボード - スコアカードの全体のパフォーマンスを表示します。スコアカード・スコア全体に与える影響を示す、パースペクティブのパフォーマンスも表示します。
- スコアカードの「パースペクティブ・スコア」棒グラフ - スコアカード上の各パースペクティブの未修正の加重されたスコアを表示します。
- 「スコアカード・トレンド」グラフ - スコアカード・スコアを時間の経過とともに表示します。

次のタスクを実行できます。

- カレンダを使用して、前のレポート期間のデータと値をグラフ化する。
- 「編集」 > 「カスタマイズ」を選択し、次の設定を適用することで、表示対象データおよびデータの表示方法を変更する。
  - システム・デフォルトの設定 - アプリケーション全体にカスタマイズの内容を適用する。
  - 凡例の表示 - グラフ化したデータの簡単な説明を表示する。
  - パースペクティブのショート名 - 使用可能な場合、パースペクティブの略称を使用する。
  - y 軸の自動スケーリング - 値が明瞭にグラフ化されるようにする。
  - 次のテーブルに示すように、使用する値、グラフおよびチャートを選択します。

オプション	説明
ダイヤル	スコアカードをスコアリング・ダッシュボード上に表示します。
パースペクティブ	スコアカードで使用される各パースペクティブのスコアを棒グラフ・フォーマットで表示します。未修正の加重されたメジャー・スコアをグラフ化するには、「加重されたスコアの表示」および「スコアの表示」を選択します。
トレンド(折れ線)	指定された期間でスコアカードが達成したスコアを表示します。
トレンド(棒)	過去 6 か月間でスコアカードが達成したスコアを棒グラフで表示します。
スコアカードのレーダー	すべてのスコアカード・メジャーのパフォーマンスのレーダー・チャートを表示します。
スコア	スコアカードで使用される各パースペクティブの未修正のスコアを棒グラフ・フォーマットで表示するには、このオプションを「パースペクティブ」とともに選択します。
加重されたスコアの表示	スコアカードで使用される各パースペクティブの加重されたスコアを棒グラフ・フォーマットで表示するには、このオプションを「パースペクティブ」とともに選択します。

オプション	説明
実績	このオプションは、すべてのスコアカード・メジャーの実績のレーダー・チャートに対し、「スコアカードのレーダー」とともに選択します。
目標	このオプションは、レーダー・チャートにメジャーの目標値を含める場合に選択します。
実績を 100 に正規化	スコアカード・メジャーをレーダー・グラフに合わせるには、このオプションで「スコアカードのレーダー」を選択します。
しきい値の設定: 目標	他のレポートの出力先を使用して、パフォーマンスを評価してグラフ化します。
色	チャート上の値を表すため、各設定およびパースペクティブの色を選択します。

## トレンド・データによる過去のパフォーマンスの表示

スコアカード上のメジャーに関する前のスコア、目標およびパフォーマンス・レベルを表示するには、スコアカード詳細レポートの「トレンド・テーブル」を使用します。これにより、パフォーマンスの履歴が提供されます。

▶ **トレンド・データにアクセスするには、次の手順に従います。**

**1 ブラウザ・ビューから、次のようにスコアカードを選択します。**

- 従業員スコアカード・トレンド・データを表示するには、「従業員」>「従業員」を選択します。
- 責任要素または戦略マップのトレンド・データを表示するには、「マップ・タイプ」>「マップ」を選択し、要素を選択します。
- 戦略ツリー要素のトレンド・データを表示するには、「戦略ツリー」>「戦略ツリー」を選択し、要素を選択します。

**2 「スコアカード」>「スコアカード」を選択します。**

**3 表示されるスコアカード詳細レポートで、「トレンド・テーブル」タブを選択します。**

スコアカードの各メジャーに関する次の情報が表示されます。

- 実績値
- 目標値
- スコア(パーセント)
- ステータス
- 前の期間からパフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すトレンド

## ノートの使用方法

ノートおよびディスカッション・スレッドの作成、読取りおよび返答を行うには、スコアカード詳細レポートの「ノート」タブを使用します。[143 ページの「ノートおよび注釈の使用方法」](#)を参照してください。

## 従業員プロフィール・レポートの使用方法

従業員プロフィール・レポートにより、アプリケーション内のすべての従業員に関する次の情報を表示できます。

- 各従業員に関連付けられているスコアカード。
- 従業員番号
- 電子メール・アドレス
- ビジネスの役割と部署
- マネージャ
- 現在のパフォーマンス・ステータス
- パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すパフォーマンス・トレンド

レポートを開くには、「レポート」>「従業員プロフィール」を選択します。次のタスクを実行できます。

- 従業員の名前を選択することで、従業員の連絡先情報、従業員が作業している戦略要素および責任要素などの情報を表示する。
- 従業員の名前、および各スコアカードを展開することで、各従業員のスコアカードで使用されている下位レベルのスコアカードおよびメジャーに関する情報を表示する。詳細にアクセスするには、メジャーおよびスコアカードを個別にドリル・ダウンします。
- 電子メールを送信するマネージャの名前を選択する。
- パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すパフォーマンス・トレンド
- 「編集」>「カスタマイズ」を選択して、次のオプションを適用することで、レポートにデフォルトで表示される情報を変更する。
  - 従業員名 - 各従業員の名前を表示する。
  - 従業員番号 - 各従業員の番号を表示する。
  - 従業員電子メール - 各従業員の電子メール・リンクを表示する。
  - 従業員部署 - 各従業員の就業部署を表示する。
  - 従業員マネージャ - 従業員マネージャの名前を表示する。
  - スコアカード・ステータス - 各従業員が自分のプライマリ・スコアカードで評価された場合に、そのパフォーマンス・ステータスを表示する。
  - 「スコアカード・トレンド」ステータス - 従業員のパフォーマンスが向上したか、変化がないか、または低下したかどうかを表示する。

## 従業員詳細レポートの使用方法

従業員詳細レポートを使用すると、次のタスクを実行できます。

- 「全般」タブ - 従業員の連絡先と業務に関する情報を表示します。このタブでは、従業員のパフォーマンス・レベルを判断するため、従業員スコアカード・データを評価するパフォーマンス・インディケータも表示できます。従業員

に問い合わせるには、表示されている電子メール・リンクを選択します。権限が付与されている場合は、「編集」>「編集」を選択することで、プロフィールを編集できます。

- 「責任」タブ - 従業員が割り当てられているメジャーや責任要素などのオブジェクト、および実績の収集などの実行対象タスクを表示します。
- 「スコアカード」タブ - 従業員の個人的なパフォーマンスを評価するプライマリ・スコアカードを表示します。
- 「チャート」タブ - 従業員のスコアカード・データを様々なフォーマットでグラフ化します。
- 「トレンド」タブ - 従業員スコアカードのメジャーおよびスコアカードの、前のパフォーマンスを表示します。ここでは、従業員のパフォーマンスが向上したか、低下したか、変化がないかどうかを時間の経過とともに表示できます。

## アクティブなアラート・レポートの使用方法

アクティブなアラート・レポートには、自分が登録されているアラート、トリガー済のアラートおよびアクティブなアラートが一覧表示されます。通常の状態に戻すために調査およびアクションが必要なオブジェクトを確認するには、このレポートを使用します。

▶ アクティブなアラート・レポートを開くには、次の手順に従います。

### 1 ブラウザ・ビューから、レポート>アクティブなアラートを選択します。

自分が登録されているすべてのアクティブなアラートが表示されます。

このレポートでは、アクティブなアラートは「イニシアチブ期限切れ」などのアラート・タイプ別にグループ化されます。トリガー済のアラートに関する次の情報がレポートで提供されます。

- アラートがトリガーされたオブジェクトのタイプ(スコアカード、イニシアチブなど)
- ビジネス・オブジェクトの現在のステータス、トレンドおよび実績値
- トリガーされたビジネス・オブジェクトに添付されているアラートの名前
- ユーザーが受信確認をすることでアラート通知に応答した日付を示す「受信確認済」列。

アクティブなアラートのタイプ(「ステータスのメジャー」など)に基づいて、レポートに追加情報が表示されます。

- ビジネス・オブジェクトに添付されたアラートが、いつトリガーされアクティブになったかを示すステータスや範囲などの基準。
- 適用可能な場合は、メジャーの収集予定日
- 期限



### 2 アラート状態の各オブジェクトに関する詳細情報には、そのオブジェクトを選択することでアクセスします。

# 実績の収集レポートの使用法

実績の収集レポートには、表示可能なすべてのメジャーおよび変数が表示されます。また、自分が実績収集者または目標設定者であるメジャーの実績値、目標値、期間累計の実績値も入力できます。レポート上のメジャーを選択すると、次のタスクを実行できます。

- 自分が実績収集者であるメジャーの欠落した実績値を入力する。期間累計の式が使用されていない場合は、期間累計の実績を入力できます。
- 自分が実績収集者であるメジャーの実績値を変更および削除する。
- 前に収集した実績値を表示する。
- 変数実績を変更する。
- 1つまたは複数の値の目標値を入力する。

▶ メジャーまたは変数実績を入力するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザ・ビューから、レポートを選択し、「**実績収集者**」タブを選択します。
- 2 実績が欠落しているメジャーの実績のみを表示および入力するには、収集されていないメジャーのみを表示を選択し、適切な列に実績を入力します。
- 3 実績値、期間累計の実績値および目標値を昇順または降順で一覧表示するには、各列のヘッダーでソート・アイコン  をクリックします。
- 4 現在の期間の実績を入力するには、適切なボックスに値を入力します。
- 5 前に指定した実績値を入力または変更するには、カレンダー・アイコン  を「終了日」フィールドおよび「開始日」フィールドでクリックして日付範囲を指定し、適切な列に実績を入力します。
- 6 保存をクリックします。



このレポートに表示されるコンテンツを変更するには、「編集」>「カスタマイズ」を選択し、次の設定を適用します。

- 名前 - 実績を入力可能な各メジャーまたは変数の名前を表示する。
- 親 - 実績の式で現在のメジャーまたは変数を使用しているメジャーを表示する。
- 実績の日付 - 各メジャーで指定された収集日の実績の日付を表示する。
- 収集日 - 実績を収集する必要がある期限の日付を表示する。
- 実績 - メジャーまたは変数ごとに現在の実績値を表示する。
- 目標 - メジャーまたは変数ごとに目標値を表示する。
- 表示する目標 - 選択した目標の値を表示する。

## 変数値の入力

▶ 変数実績を入力するには、次の手順に従います。

- 1 ブラウザ・ビューから、レポートを選択し、「**実績収集者**」タブを選択します。

- 2 「変数」タブを選択します。
- 3 実績値、期間累計の実績値および単位を昇順または降順で一覧表示するには、各列のヘッダーでソート・アイコンをクリックします。
- 4 現在の期間の変数値を入力するには、適切なボックスに値を入力します。
- 5 前に指定した変数値を入力または変更するには、カレンダー・アイコンを「終了日」フィールドおよび「開始日」フィールドでクリックして日付範囲を指定し、適切な列に値を入力します。
- 6 保存をクリックします。

## イニシアチブ・ステータス・レポートの使用法

イニシアチブは、アクセス権のある戦略要素、責任要素およびメジャーに優先して割り当てることのできるタスクです。イニシアチブ・ステータス・レポートには、イニシアチブが添付されているメジャー、戦略要素および責任要素と、各イニシアチブを実装および完了する責任を担うユーザーが一覧表示されます。また、各イニシアチブのステータス、優先度および割り当てられている期限も表示されます。イニシアチブの進行状況を更新したり、新しいイニシアチブを作成するには、このレポートを使用します。

イニシアチブ・ステータス・レポートを起動するには、「レポート」>「イニシアチブ・ステータス」を選択します。自分が責任者であるイニシアチブのみを表示するには、「マイ・イニシアチブの表示」を選択します。次の情報が、イニシアチブごとに表示されます。

- イニシアチブの所有者
- 現在および過去の期限
- 開始日
- 完了率
- 現在のステータス
- 優先度レベル
- 関連付けられた従業員
- 関連付けられたメジャー、責任要素および戦略要素

次のタスクを実行できます。

- イニシアチブを選択することで、イニシアチブのステータスの更新、またはイニシアチブの編集を行う。
- レポート上で右クリックし、「追加」を選択することで、イニシアチブを作成する。[120 ページの「イニシアチブの作成」](#)を参照してください。
- 「編集」>「カスタマイズ」を選択して、次のオプションを適用することで、レポートにデフォルトで表示される情報を変更する。

表4 イニシアチブ・レポートのオプション

オプション	説明
システム・デフォルトの設定	アプリケーション全体にカスタマイズの内容を適用する。
関連付けられたオブジェクト・タイプごとにグループ化	同じタイプのイニシアチブをグループ化する。
トレンド・ビューをデフォルトで表示	完了率およびステータスなどの追跡情報を表示する。
名前	イニシアチブの名前を表示する。
ステータス記号	パフォーマンス・インディケータを使用して、イニシアチブのステータスを表す。
開始日	イニシアチブを開始する日を表示する。
完了日	完了日を表示する。
原価	原価をドルで表示する。
作成者	イニシアチブを作成した従業員を確認する。
ステータス	「進行中」などの現在のステータスを表示する。
優先度	イニシアチブの優先度を表示する(1は最優先)
元の期限	イニシアチブが完了する予定だった最初の日付を表示する。
改訂された期限	調整された完了日を表示する。
期限	イニシアチブを完了する必要がある日付を表示する。
完了率	完了率をパーセントで表示する。
見積もり作業工数	必要な作業日数を表示する。
所有者	割り当てられた従業員を表示する。
関連付け先	イニシアチブが関連付けられているオブジェクトを表示する。
所有者	イニシアチブの所有者を表示する。
期限	完了予定日を表示する。
改訂された期限	最後に改訂された期限を表示する。

## 戦略レポートの使用法

戦略マップ上の要素の目的、メジャーの目標、イニシアチブおよび所有者を確認するには、戦略レポートを使用します。レポートは、戦略マップごとに生成されます。

▶ 戦略レポートを開くには、次の手順に従います。

1 ブラウザ・ビューから、レポート>戦略を選択します。

次の情報が表示されます。

- 「目的」列は、マップ上の戦略目的ごと、およびパースペクティブごとに、セクションに分かれており、戦略テーマによってグループ化されて表示される。
- 「メジャー」列には、各戦略目的のスコアカード上にあるすべてのメジャーが表示される。
- 「目標」列には、現在の目標値が表示される。
- 「イニシアチブ」列には、各メジャーのすべてのイニシアチブが表示される。
- 「所有者」列には、各メジャーの所有者が表示される。
- 各イニシアチブの指定された期限および完了率。
- 各イニシアチブに関連付けられている従業員。

2 該当する戦略マップを表示するには、戦略マップの表示を選択します。

3 表示されているデータを変更するには、「編集」>カスタマイズを選択し、次のオプションを適用します。

- 戦略目的 - 因果関係マップに関連付けられた戦略目的を表示する。
- メジャー - 関連付けられたメジャーを表示する。
- メジャー目標 - 関連付けられたメジャーの目標値を表示する。
- イニシアチブ - マップまたはマップ上の要素に添付されたイニシアチブを表示する。
- イニシアチブの所有者 - イニシアチブの責任を担う従業員を表示する。

## レポート・データのコピーおよび貼付け

レポート上のデータはコピーして、Microsoft Excel などのアプリケーションに貼り付けられます。Excel からコピーしたデータは、Excel フォーマットを使用している Performance Scorecard に貼り付けられます。たとえば、Excel で小数点以下の桁数がゼロに設定されている場合、459.32 は 459 と表示されます。

▶ データのコピーおよび貼付けを行うには、次の手順に従います。

1 スコアカードやスプレッドシートなどの、データを含むデータ・フォームを選択します。

2 「編集」>「コピー」を選択します。

3 コピー先のデータ・フォームで、「編集」>「貼付け」を選択します。



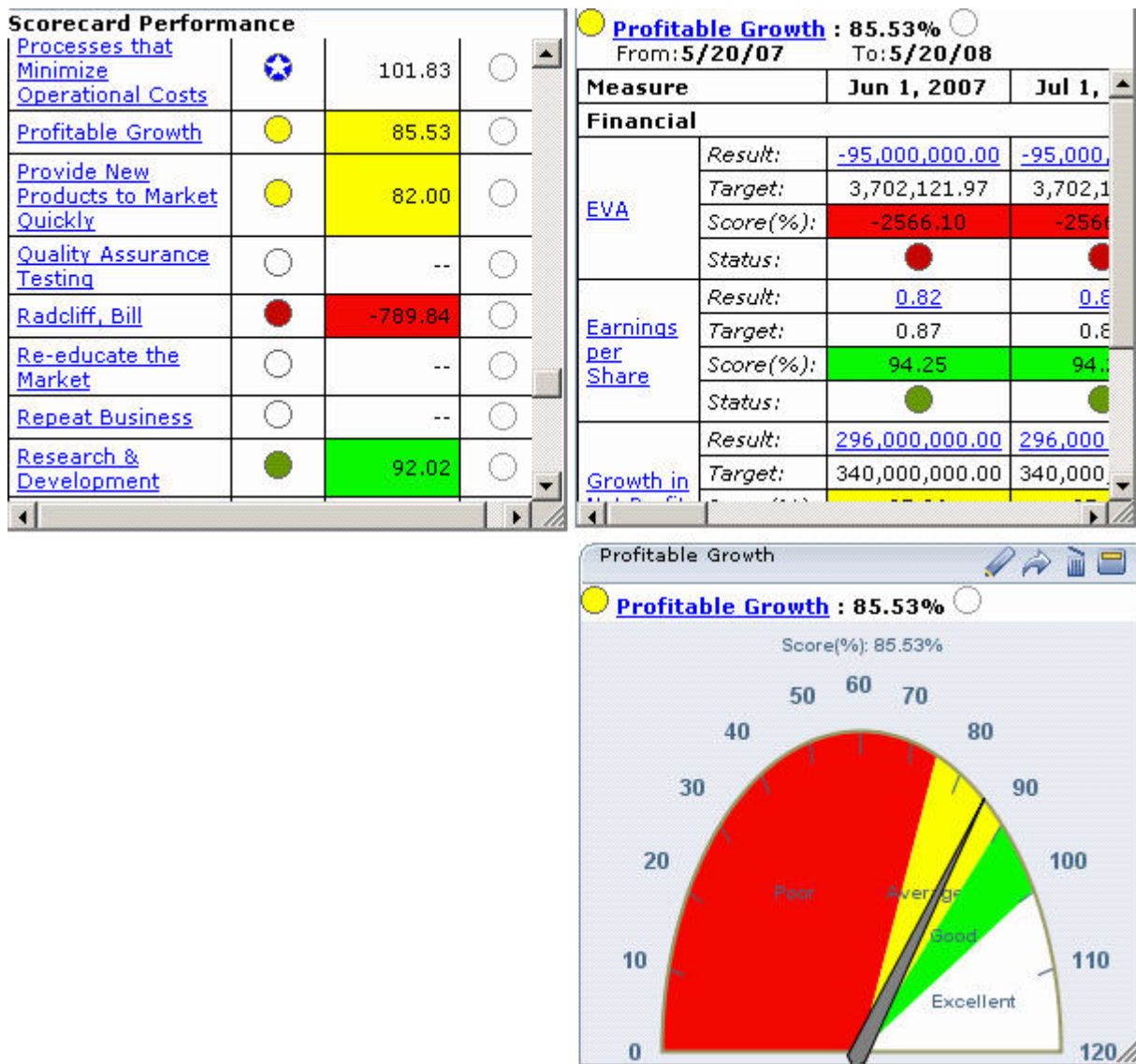
## この章の内容

概要 .....	175
EPM System ページでできる作業 .....	177
EPM Workspace ページの作成 .....	177
EPM Workspace ページのカスタマイズ .....	178
ポートレット・ページについて .....	183
ポートレットでの Performance Scorecard の使用方法 .....	183

## 概要

EPM Workspace ページを構築して、Performance Scorecard データおよび他の Oracle Hyperion BI 製品のデータなど、様々なデータを含むカスタム・ビューを構築できます。たとえば、Performance Scorecard スコアカード、Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition データおよび Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition データを好みのレイアウトで表示するページを作成できます。戦略の詳細、ビジネス領域の詳細、メジャー・データ、スコアカード、幅広い様々なレポート・データをドラッグ・アンド・ドロップして、ページを構築します。たとえば、次の例では、レポートとグラフでスコアカード・パフォーマンスのビューを表しています。




図 22 EPM Workspace ページの例




Workspace Foundation リポジトリからのレポートに加え、次の Performance Scorecard データを使用して、ページを構築できます。

- 従業員のスコアカード
- 戦略要素および責任要素のスコアカード
- メジャーおよび次元メジャー
- Workspace Foundation リポジトリからのレポート
- アクティブなアラート・レポート
- イニシアチブ・ステータス・レポート
- 従業員プロフィール・レポート
- メジャー・パフォーマンス・レポート
- スコアカード・パフォーマンス・レポート


## EPM System ページでできる作業

- Workspace ページにある、メジャー、スコアカード、従業員およびイニシアチブを選択するか、または「スコアカードに起動」ボタンをクリックすることで、これらの詳細データにアクセスする。オブジェクトが Performance Scorecard 内で開きます。
- オブジェクトを選択して、Web ページ、または Workspace ページに表示されているポータルを開きます。
- 編集ボタンをクリックすることで、表示される情報、およびその情報が表示されるフォーマットを変更する。178 ページの「EPM Workspace ページのカスタマイズ」を参照してください。
- 「削除」ボタンをクリックして、Workspace ページからオブジェクトを除去します。

## EPM Workspace ページの作成

Workspace ページに追加したオブジェクトで表示される情報を変更、または前に収集したデータを表示するには、各コンポーネント・ウィンドウの編集ボタンをクリックします。178 ページの「EPM Workspace ページのカスタマイズ」を参照してください。


- ▶ EPM Workspace ページを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 「ファイル」>「新規」>「Workspace ページ」を選択します。
  - 2 ページ・レイアウトとして、2 列などのテンプレートを選択します。
  - 3 「HPS リポジトリ」を、左の「ソース」リストから選択します。
  - 4 左のビュー・ペインから、使用するデータを次のようにドラッグ・アンド・ドロップします。
    - 従業員スコアカードを追加するには、「従業員」を選択して従業員を選択するか、「従業員リスト」を選択して従業員を選択します。

表示されるデータ(スコア、ステータス・レベルなど)、およびその情報が表示されるフォーマット(グラフ、チャートまたはトレンド・テーブル)は、編集ボタンをクリックすることで変更できます。178 ページの「EPM Workspace ページのカスタマイズ」を参照してください。
    - メジャーおよび次元メジャーを追加するには、「メジャー」を選択してメジャーを選択するか、「メジャー・リスト」を選択してメジャーを選択します。

実績値、スコアおよび目標値に加え、メジャーのパフォーマンス・レベルが日付別に表示されます。表示される(イニシアチブ、期間累計の実績、トレンド・データなどの)メジャー・データ、およびその表示フォーマット(グラフやチャートなど)の種類は、Workspace ページを編集することで変更できます。178 ページの「EPM Workspace ページのカスタマイズ」を参照してください。

- 指定のレポートを追加するには、「レポート」を選択し、レポートを選択します。次の情報が表示されます。
  - アクティブなアラート - アプリケーション内で、許容可能な範囲を逸脱しているスコアカードなど、トリガー済のすべてのアラートを確認する。ページを一度保存すると、ユーザーはアラートを選択して詳細情報にアクセスできるようになります。
  - メジャー・パフォーマンス・レポート - 各メジャーの実績値、目標値およびスコアを、指定可能な期間で表示する。ページを一度保存すると、ユーザーはメジャーを選択して詳細情報にアクセスできるようになります。
  - スコアカード・パフォーマンス・レポート - すべてのスコアカードのパフォーマンス・ステータス、スコアおよびトレンド(パフォーマンスの推移を示す)。ページを一度保存すると、ユーザーはスコアカードを選択して詳細情報にアクセスできるようになります。
  - 従業員プロフィール・レポート - すべての従業員の名前、役職名、電子メール、パフォーマンス・ステータス(プライマリ・スコアカードで評価された場合)、およびパフォーマンス・トレンド(パフォーマンスの推移を示す)。ページを一度保存すると、ユーザーは従業員を選択して詳細情報にアクセスできるようになります。


5 「役職名」フィールドに、各コンポーネントの名前を入力します。

6 追加したオブジェクトで表示される情報を変更するには、各ウィンドウの編集ボタン  をクリックします。178 ページの「EPM Workspace ページのカスタマイズ」を参照してください。

7 「ファイル」 > 「保存」を選択します。

詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition ユーザー・ガイド』を参照してください。

## EPM Workspace ページのカスタマイズ

Workspace ページを構築している際に表示される情報を変更するには、各コンポーネントのウィンドウで「編集」ボタン  をクリックします。表示されるボックスで「詳細」ボタンをクリックし、次のトピックで説明されているオプションを選択します。

- 179 ページの「メジャー・データのカスタマイズ」
- 179 ページの「スコアカード・データのカスタマイズ」
- 180 ページの「メジャー・パフォーマンス・レポート・データのカスタマイズ」
- 181 ページの「スコアカード・パフォーマンス・レポートのカスタマイズ」
- 181 ページの「アクティブなアラート・レポートのカスタマイズ」
- 181 ページの「従業員プロフィール・レポートのカスタマイズ」
- 182 ページの「イニシアチブ・ステータス・レポートのカスタマイズ」

EPM Workspace ページのコンポーネント・ウィンドウのサイズやスクロールなど、基本的な設定の変更については、『Oracle Hyperion EPM Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

## メジャー・データのカスタマイズ

- メジャー・データのグラフを挿入するには、「デフォルト・ビュー」から「チャート」を選択します。
- これまでに収集または生成されたデータを使用するには、「開始日」および「終了日」リストを使用して、別の日付範囲を指定します。
- レポート期間に特有のノートである注釈を挿入するには、「デフォルト・ビュー」から「注釈」を選択します。
- 収集期間でデータを表示するには、「デフォルト・ビュー」から「トレンド・テーブル」を選択します。
- 次のいずれかを表示または非表示にします。
  - 期間累計の実績 - 期間累計の式で計算された、または手動で入力した実績
  - 実績 - 指定した期間中に収集された業績
  - 目標 - 指定した期間で使用される目標値
  - スコア - 指定した時刻に達成された前のスコア
  - ステータス - 指定した期間でのパフォーマンス・レベル
  - 色で示したステータス - パフォーマンス・レベルに該当する色(良好の場合は緑など)をページに適用
  - トренд - パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうか
  - 表示される目標 - 別の目標を使用してメジャーのスコアまたはパフォーマンス・レベルを計算

## スコアカード・データのカスタマイズ

- スコアカード・データのグラフを挿入するには、「デフォルト・ビュー」から「チャート」を選択します。
- 前のデータを使用するには、「開始日」および「終了日」リストを使用して、別の日付範囲を指定します。
- 次のデータを表示または非表示にします。
  - パースペクティブでグループ化 - パースペクティブによってスコアカード・メジャーを表示
  - 実績 - 実績の表示
  - 目標 - パフォーマンスを評価するために使用される目標値
  - スコア - 前のスコア
  - ステータス - 前のパフォーマンス・レベル

- 色で示したステータス・パフォーマンス・レベルに該当する色(許容範囲内の場合は黄色など)をページに適用
- トレンド・スコアカードが評価するオブジェクトのパフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうか

## メジャー・パフォーマンス・レポート・データの カスタマイズ

表示または非表示にするデータを選択します。

表5 メジャー・パフォーマンス・レポートのオプション

オプション	説明
複合および次元メジャーをツリーで表示	複合メジャーおよび次元メジャーを階層で表示します。 注： 選択した場合、Excel にエクスポートできません。
名前	各メジャーの名前を表示します。
ノート	新しい未読のノートが存在するかどうかを示します。
ステータス	メジャーのパフォーマンス・レベルを記号で表示します。
トレンド	各メジャーのパフォーマンス・トレンドを表示します。ここでは、パフォーマンスが向上したか、低下したか、変化がないかどうかを示します。
実績	すべてのメジャーの実績を一覧表示します。
目標	レポートの目標を使用してパフォーマンスを評価し、計算を実行します。これは、ツールバーの「レポートの出力先」リストから選択された目標です。
期間累計の実績	メジャーに適用された期間累計関数の実績を一覧表示します。
単位	メジャー実績を数値化する単位を表示します。
スコア	メジャー・スコアを表示します。
ステータスを背景色として表示	レポート上のスコア・セル内の該当するパフォーマンス・インディケータ用に選択された色を表示します。
差異(%)	目標から逸脱しているメジャー実績のパーセンテージを表示します。たとえば、メジャー A の目標が 200 で、実績が 160 である場合、差異は $(200-160)/100$ になります。
データの信頼性(小数)	関連するメジャーのパフォーマンスに影響を及ぼす、次元メジャーまたは複合メジャーの欠落している実績の程度を小数で表示します。たとえば、次元メジャーに 3 つの子があるが実績は 1 つにしかない場合、信頼性の値は $1/3$ になります。
データの信頼性(%)	メジャーのパフォーマンスに影響を及ぼす、次元メジャーまたは複合メジャーの欠落している実績の程度をパーセントで表示します。たとえば、次元メジャーに 3 つの子があるが実績は 1 つにしかない場合、信頼性の値は 33% になります。

オプション	説明
表示する目標	選択した各目標を使用しているメジャー・パフォーマンスを評価する列を作成します。スコアやステータス記号を使用してパフォーマンス・レベルを表したり、目標値を表示したりできます。

## スコアカード・パフォーマンス・レポートのカスタマイズ

- スコアカードのグループ化基準 - スコアカードに従業員などのタイプまたはカテゴリで表示します。スコアカードをアルファベット順にリスト表示するには、「グループなし」を選択します。
- スコアカード名 - スコアカードの名前を表示します。
- スコアカードのノート - スコアカードのノートがあるかどうかを示すノート・アイコンを表示します。
- スコアカード・ステータス - すべてのスコアカードのパフォーマンス・レベルを表すパフォーマンス・インディケータを表示します。
- スコアカード・トレンド - パフォーマンス・レベルが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示すトレンド記号を表示します。
- ステータスを背景色として表示 - パフォーマンス・レベルの色を使用するセルにスコアを表示します。

## アクティブなアラート・レポートのカスタマイズ

- ビジネス・オブジェクトの現在のステータス、トレンドおよび実績値
- トリガーされたビジネス・オブジェクトに添付されているアラートの名前
- ユーザーが受信確認をすることでアラート通知に応答した日付を示す「受信確認済」列。

アクティブなアラートのタイプ(「ステータスのメジャー」など)に基づいて、レポートに追加情報が表示されます。

- ビジネス・オブジェクトに添付されたアラートが、いつトリガーされアクティブになったかを示すステータスや範囲などの基準。
- 適用可能な場合は、メジャーの収集予定日
- 期限

## 従業員プロフィール・レポートのカスタマイズ

表示または非表示にするデータを選択します。

- 従業員名 - 各従業員の名前を表示する。
- 従業員番号 - 各従業員の番号を表示する。
- 従業員電子メール - 各従業員の電子メール・リンクを表示する。
- 従業員部署 - 各従業員の就業部署を表示する。

- 従業員マネージャ - 従業員マネージャの名前を表示する。
- スコアカード・ステータス - 各従業員が自分のプライマリ・スコアカードで評価された場合に、そのパフォーマンス・ステータスを表示する。
- 「スコアカード・トレンド」ステータス - 従業員のパフォーマンスが向上したか、変化がないか、または低下したかどうかを表示する。

## イニシアチブ・ステータス・レポートのカスタマイズ

表示または非表示にするイニシアチブ・データを選択します。

表 6 イニシアチブ・レポートのオプション

オプション	説明
関連付けられたオブジェクト・タイプごとにグループ化	同じタイプのイニシアチブをグループ化する。
トレンド・ビューをデフォルトで表示	完了率およびステータスなどの追跡情報を表示する。
名前	イニシアチブの名前を表示する。
ステータス記号	パフォーマンス・インディケータを使用して、イニシアチブのステータスを表す。
開始日	イニシアチブを開始する日を表示する。
完了日	完了日を表示する。
原価	原価をドルで表示する。
作成者	イニシアチブを作成した従業員を確認する。
ステータス	「進行中」などの現在のステータスを表示する。
優先度	イニシアチブの優先度を表示する(1 は最優先)
元の期限	イニシアチブが完了する予定だった最初の日付を表示する。
改訂された期限	調整された完了日を表示する。
期限	イニシアチブを完了する必要がある日付を表示する。
完了率	完了率をパーセントで表示する。
見積もり作業工数	必要な作業日数を表示する。
所有者	割り当てられた従業員を表示する。
関連付け先	イニシアチブが関連付けられているオブジェクトを表示する。
所有者	イニシアチブの所有者を表示する。
期限	完了予定日を表示する。
改訂された期限	最後に改訂された期限を表示する。

# ポートレット・ページについて

Oracle および SAP NetWeaver Enterprise など、業界標準のポータルから、特定の Performance Scorecard データへのアクセスを提供するポートレット・ページを作成できます。ポートレットを使用すると、ポートレット環境で指定したキー・データを表示、調査およびレンダリングできます。Performance Scorecard を起動してデータにアクセスできますが、このデータは変更できません。

メジャー・パフォーマンス・レポートといった高レベルのエントリ・ポイントから、現在および前のメジャー・スコアや実績などのキー・メトリックに関する詳細情報にアクセスするポートレットを作成します。たとえば、トレンド・テーブルから、AP Late Payment Charge メジャーに関する詳しい情報にアクセスできる次のようなポートレットを作成できます。同様に、関連付けられた従業員、およびメジャー・パフォーマンス・レポートでメジャーのメジャー・パフォーマンスを評価する範囲などの詳細にアクセスできるポートレットも作成できます。

次のデータを使用できます。

- 次のスコアカード・データを含むプレゼンテーション・ビュー：
  - すべてのスコアカード・コンポーネント
  - 履歴トレンド・データ
  - 値およびパフォーマンス・チャート
  - 注釈とイニシアチブ
- 次のメジャー・データを含むプレゼンテーション・ビュー：
  - 履歴トレンド・データ
  - 値およびパフォーマンス・チャート
  - 注釈
- メジャー・パフォーマンス・レポート
- スコアカード・パフォーマンス・レポートのコンテンツ
- イニシアチブ・ステータス・レポート
- 従業員の詳細レポート

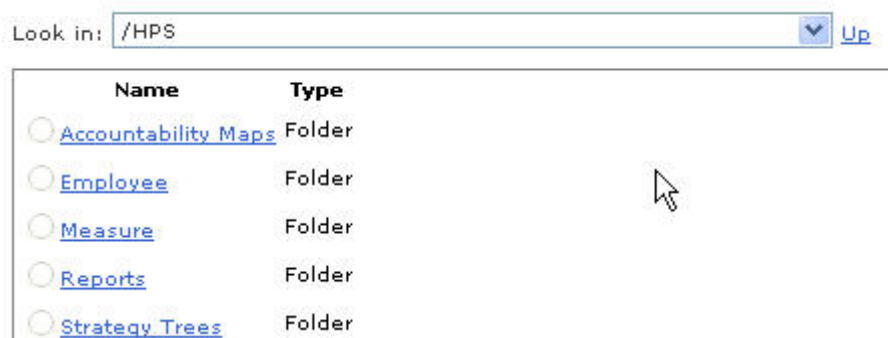
## ポートレットでの Performance Scorecard の使用方法

編集モードでポートレット・ページを構築し、表示するアプリケーション・データおよびそのレンダリング方法を選択します。ポートレット・ページから、アプリケーションのデータは変更できません。

**注：** ポートレットおよびポートレット・ページを作成するのに実行する手順はポータルによって異なります。手順については、『Hyperion ポータル統合ツールキット設定ガイド』を参照してください。次の手順では、Performance Scorecard データにアクセスする方法のみを説明します。この手順は、ポートレット・ページで使用できます。

- ▶ ポートレット・ページを作成するには、次の手順に従います。
- 1 インストールおよび構成時に指定したログイン情報を使用して、ポータルにログインします。『Hyperion ポータル統合ツールキット設定ガイド』の第1章を参照してください。
  - 2 『Hyperion ポータル統合ツールキット設定ガイド』で説明されているように、ポータルのタイプに該当する次のタスクを実行します。
    - ポータルを作成し、Hyperion ポートレットを追加します。
    - Performance Scorecard データベースに接続します。
    - **編集モード**を使用可能にして、ポートレット・ページにコンテンツを追加します。
  - 3 データをタイプ別にグループ化している下の図のように、アプリケーション階層を移動します。  
たとえば、責任要素データを使用するには、「**責任マップ**」を選択してから、マップおよび要素を選択します。

図 23 ポートレットの作成: データ型の選択



- 4 次元メジャーを選択するには、「**メジャー**」を選択してから、メジャー・テンプレートおよびメジャーを選択します。  
たとえば、北米オフィスの従業員の満足度を数値化する次元メジャーを選択するには、次のように、「**メジャー**」>「**従業員の満足度**」>「**北米**」を選択してから、オフィスを選択します。

図 24 ポートレットの作成: 次元メジャーの選択



- 5 表示するデータ(スコアカードなど)および関連コンテンツ(ステータス、実績など)を選択します。  
たとえば、次の図のポートレット・ページには、スコアカードのすべてのコンポーネントの名前、ステータス、ノートが含まれており、**Profitable Growth** 戦略要素のパフォーマンスを評価しています。


図 25 ポートレットの作成: コンテンツの選択



6 メジャーおよびスコアカードのプレゼンテーション・ビューに表示するデータを選択します。次の項を参照してください。


- 185 ページの「メジャーのトレンド・テーブル」
- 186 ページの「メジャーのチャート」
- 186 ページの「注釈」
- 186 ページの「スコアカードのトレンド・テーブル」
- 187 ページの「スコアカード詳細」
- 187 ページの「スコアカードのチャート」

## メジャーのトレンド・テーブル

「開始日」および「終了日」でカレンダー・アイコンをクリックして、メジャー・データを表示する日付範囲を指定します。そして、次の表示プリファレンスを選択します。

- 期間累計の実績 - 期間累計の式で計算された、または手動で入力した実績
- 実績 - 指定した期間中に収集された業績
- 目標 - 指定した期間で使用される目標値
- スコア - 指定した時刻に達成された前のスコア
- ステータス - 指定した期間でのパフォーマンス・レベル
- 色で示したステータス - パフォーマンス・レベルに該当する色(良好の場合は緑など)をページに適用
- トレンド - パフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうか
- 表示される目標 - 別の目標を使用してメジャーのスコアまたはパフォーマンス・レベルを計算

## メジャーのチャート


「開始日」および「終了日」でカレンダー・アイコンをクリックして、グラフ・データの日付範囲を指定します。そして、次の表示プリファレンスを選択します。

- 凡例の表示 - グラフに示されるメジャー値を説明するテキスト
- チャート・タイプ - 使用するチャートの種類
- 行/列のレイアウト - 複数のチャートおよびグラフを表示する方法を指定します。
- 収集されていない実績を表示 - 利用できない実績のインディケータまたは代替値を表示します。
- スコア - スコアをグラフ化
- 実績 - 実績値をグラフ化
- 期間累計の実績 - 期間累計として計算した実績値をグラフ化
- 目標 - 目標値をグラフ化
- 表示する目標 - 別の目標を使用して、メジャー・スコアまたはパフォーマンス・レベルを計算およびグラフ化。

## 注釈


- レポートの期間 - コンテキスト特有の注釈およびノートが存在する会社のイベントまたは財務四半期などの期間。
- 添付ファイルの表示 - 添付ファイルへのリンク

## スコアカードのトレンド・テーブル

「開始日」および「終了日」でカレンダー・アイコンをクリックして、スコアカード・データを表示する日付範囲を指定します。そして、次の表示プリファレンスを選択します。


- パースペクティブでグループ化 - パースペクティブによってスコアカード・メジャーを表示
- 実績 - 実績の表示
- 目標 - パフォーマンスを評価するために使用される目標値
- スコア - 前のスコア
- ステータス - 前のパフォーマンス・レベル
- 色で示したステータス - パフォーマンス・レベルに該当する色(許容範囲内の場合は黄色など)をページに適用
- トrend - スコアカードが評価するオブジェクトのパフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうか

## スコアカード詳細

「開始日」および「終了日」でカレンダー・アイコンをクリックして、スコアカード関連データ(1年前から現在まで)を表示する日付範囲を指定します。そして、次の表示プリファレンスを選択します。

- ノート - 関連付けられているノートへのリンク
- 期間累計の実績 - 期間累計の式で計算された、または手動で入力したメジャー実績
- 実績 - メジャーの実績
- データの信頼性 - 欠落している実績が全体のパフォーマンスにどの程度影響するかをパーセントまたは小数で示します。
- 単位 - 時間など、メジャーを数値化する単位
- 頻度 - メジャー実績が収集される頻度
- 所有者 - メジャーを所有している従業員
- 目標設定者 - メジャーの目標値を入力する従業員
- データ収集者 - メジャー実績を入力する従業員
- 目標 - メジャー目標の現在値
- 表示する目標 - 選択した複数の目標を使用して、パフォーマンスを計算および表示します。スコアまたはステータス記号を使用して、パフォーマンス・レベルを表します。
- 目標スコア - レポートの目標を基にしたスコア
- スコア - スコアカードまたはメジャーのスコア
- ステータス - 現在のパフォーマンス・レベル
- 加重 - パフォーマンスの評価にスコアカードのコンポーネントがどの程度使用されるかを示す割合
- スコアの表示 - パースペクティブ・チャートでメジャーをグループ化するパースペクティブのスコア
- 加重されたスコア - パースペクティブのスコアが(パースペクティブ・チャートで)パフォーマンスに与える影響の程度を示します。
- 色で示したステータス - パフォーマンス・レベルに該当する色(良好の場合は緑など)をページに適用
- トレンド - スコアカードが評価するオブジェクトのパフォーマンスが向上したか、低下したか、または変化がないかどうかを示します。

## スコアカードのチャート

「開始日」および「終了日」でカレンダー・アイコンをクリックして、グラフ・データの日付範囲を指定します。そして、次の表示プリファレンスを選択します。

- 凡例 - グラフに表すデータの各種類を示すテキスト

- パースペクティブのショート名 - パースペクティブのショート名を使用します。
- xy 軸の自動スケーリング - データに合わせて軸のサイズを自動的に調整します。
- 行/列のレイアウト - 複数のチャートおよびグラフを表示する方法を指定します。
- チャートのタイプ - 使用するグラフの種類
- スコア - パースペクティブ・チャート上のパースペクティブの未修正スコア
- 加重されたスコアの表示 - グループ化するメジャーの加重を基にしたパースペクティブのスコア
- 実績 - レーダー・チャートでのすべてのメジャー実績値をグラフ化
- 実績を正規化 - 個々の相対的な加重を維持しながら、100%に追加して、スコアカードのコンポーネントを表示します。これは、レーダー・チャートに合うようにメジャーをスケール化します。
- 目標 - 目標値をグラフ化
- 比較演算子 - 異なるレポート目標を使用して、値を計算およびグラフ化

# A

## 制限付きの次元、メンバーおよび別名文字

### この付録の内容

一般的な制限.....	189
文字とスペース .....	189

## 一般的な制限

次元、メンバーまたは別名の名前を付ける場合は、次のルールに従ってください。

- Unicode モードの次元、メンバーまたは別名に名前を付ける場合は、80 文字以下の名前を使用する。
- 引用符(" ")、かっこ([ ])、タブは使用しない。
- 関数の名前または引数を使用しない。
- 他の次元、メンバー、生成名、レベル名および別名を使用しない。

## 文字とスペース

次元、メンバーまたは別名の名前では、次の文字を使用しない。

文字	名前
@	アット・マーク
¥	円記号
{ }	中かっこ
,	カンマ
-	ダッシュ、ハイフンまたはマイナス符号
=	等号
<	小なり記号
()	丸かっこ
.	ピリオド
+	プラス記号
_	アンダースコア

文字	名前
	縦棒

名前の初めと終わりにはスペースを使用しない。

# B


## 複雑な式の作成

### この付録の内容

式エディタ .....	191
構文と表記規則 .....	195
プレースホルダ .....	195
関数の挿入 .....	196
アプリケーション・データの使用法 .....	207
式の検証 .....	215

## 式エディタ

式エディタを使用すると、スコアカードおよびメジャーのパフォーマンスを評価するパフォーマンス・インディケータ用のメジャー、次元メジャー、範囲の高度な式を作成できます。式エディタを使用して、次のタスクを実行します。

- 実績、スコア、目標、期間累計の高度な式を定義します。  
高度な式では、その他のオブジェクトの値を使用する計算ができます。191 ページの「メジャー式の操作」を参照してください。
- メジャーおよびスコアカードのパフォーマンスを表すパフォーマンス・インディケータに添付される範囲で式を使用します。式エディタを使用するには、「部分範囲設定」ボックスで式の設定ボタン  をクリックします。  
192 ページの「パフォーマンス・インディケータの操作」を参照してください。

## メジャー式の操作

式エディタを使用して、次のタスクを実行します。

- 目標およびスコアカードなど、その他のオブジェクトの値を使用する式を作成します。  
関数を使用して、使用するオブジェクトおよび値の種類を示します。使用する値が生成された日付を指定できます。また、今後生成される値のプレースホルダを挿入できます。
- メジャーを生成したテンプレートが変更された場合は、次元メジャーの式を更新してください。
- SUM または MAX などの演算子をスコアカードのすべてのアイテムに適用します。

## パフォーマンス・インディケータの操作

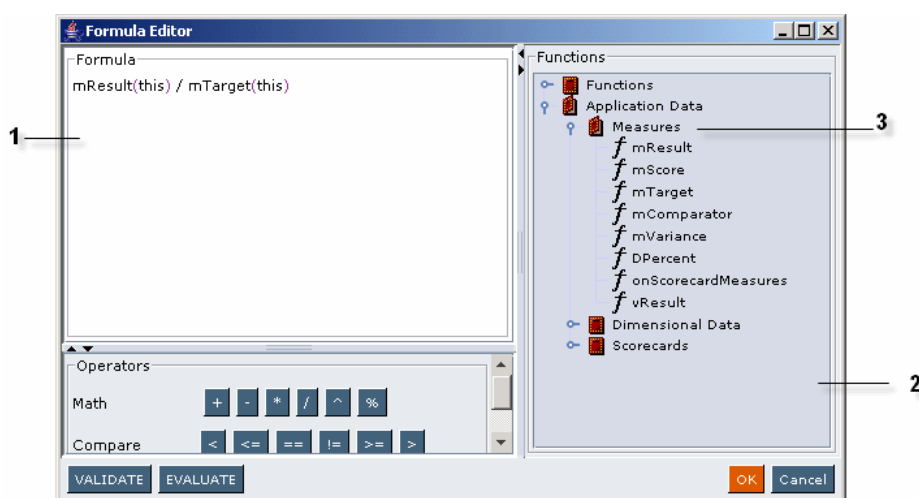
式エディタを使用して、メジャー・パフォーマンスのレベルを評価および表示パフォーマンス・インディケータ用の式を作成します。たとえば、パフォーマンスが他のメジャーの実績またはスコアに依存する場合は、これらの他のメジャー値がどのように使用されるかを定義できます。

式で `this` を使用して、パフォーマンス・インディケータが使用される現在のメジャーまたはスコアカードを参照します。

## レイアウトおよびコンポーネント

次の図に、式エディタのコンポーネントを示します。

図 26 式エディタ



次のフレームおよびツールを使用して、式を作成します。

1. 左側の式フレーム: 関数を挿入し、データを入力するのに使用します。193 ページの「式フレーム」を参照してください。
2. 右側の関数フレーム: 式を定義するのに使用する関数が含まれます。193 ページの「関数フォルダ」を参照してください。
3. 関数フレームの関数フォルダ: 算術および統計など、タイプ別に関数をグループ化します。「アプリケーション・データ」フォルダには、メジャーの実績およびスコアカード・スコアなど、異なる種類のアプリケーション・データを挿入できます。193 ページの「アプリケーション・データ・フォルダ」を参照してください。

次の項を参照してください。

- 194 ページの「算術演算および比較演算」
- 194 ページの「条件演算」

## 式フレーム

式フレームに関数およびオブジェクトの値を配置して式を作成します。関数は、次の3つの方法で挿入できます。

- 関数フレームから関数を式フレームにドラッグ
- 関数フレームで関数をダブルクリック
- 式フレームで右クリック

関数を挿入した後、使用するデータを指定します。入力する必要があるデータは、次のプレース・ホルダで表されます。

- Value: SQRT など、算術関数で使用されます。
- Arg: スコアカードなど、使用するデータの種類を指定するのに使用します。
- Attribute: 次のような関数の適用または値の挿入に使用します。
  - 次元データ
  - スコアカードのすべてのメジャー
  - スコアカードのすべてのスコアカード

## 関数フォルダ

関数フォルダには、計算の実行に使用できる関数が含まれています。また、メジャー、スコアカードおよび変数など、オブジェクトの値を挿入する関数も含まれます。

関数には、次の4種類があります。

- 算術 - 値の平方根の挿入、値の切下げなどのタスクを実行するのに使用できる関数があります。197 ページの「[算術関数](#)」を参照してください。
- 統計 - メジャー実績などのオブジェクト値を追加したり、スコアカード・スコアの平均を求めるなどオブジェクトによって生成される平均値を見つけたりするタスクを実行できる関数を提供します。198 ページの「[統計関数](#)」を参照してください。
- 論理 - 式の条件を指定する、またはオブジェクト値が利用できない場合に使用する値を指定するのに使用できる関数を提供します。202 ページの「[IF 文](#)」を参照してください。
- 時間 - 現在または以前に生成されたオブジェクト値を使用できる関数を提供します。この関数は、今後生成される値を Performance Scorecard に挿入させるために使用する関数も提供します。204 ページの「[時間関連の関数](#)」を参照してください。

## アプリケーション・データ・フォルダ

アプリケーション・データ・フォルダには、次のような他のオブジェクトの値を使用して計算を実行できる関数が含まれています。

- メジャーの実績、スコア、目標および差異
- 目標(しきい値の設定)

- 変数実績
- スコアカード・スコア

現在のメジャーまたはスコアカードを参照するには、これらの関数で `this` を使用します。








次元データ・フォルダには、スコアカードにあるすべてのメジャーなど、複数のオブジェクトを使用して計算を実行できる関数が含まれています。

[207 ページの「アプリケーション・データの使用方法」](#) を参照してください。

## 算術演算および比較演算




次の演算ボタンを使用できます。

表 7 演算

演算子	説明
	数の累乗を挿入します。例: $2 \wedge 2 = 4$
	100 で除算し、パーセンテージとして数を挿入します。 例: $0.5 = 50\%$ <code>mResult(netprofit)% = mResult(netprofit) / 100</code>
	クリックして、別の数より小さな数であることを示します。
	クリックして、別の数より小さいまたはその数と等しい数であることを示します。
	クリックして、別の数より大きいまたはその数と等しい数であることを示します。
	クリックして、同じ値を持つ 2 つの数であることを示します。
	クリックして、同じ値を持たない 2 つの数であることを示します。

## 条件演算

これらのボタンを使用して、特定の基準または条件を満たした場合に使用するデータを指定します。これらのボタンは、基準が満たされた場合に、特定の結果を発生させる IF 文で使用します。[202 ページの「IF 文」](#) を参照してください。

- And ボタン、 - AND 文を挿入します。この文を使用すると、結果が発生する前に存在する必要がある複数の条件を指定できます。たとえば、顧客の満足度を表す複合メジャーでは、サポート・コールとクライアント参照のメジャーを使用できます。サポート・コールが 20 未満で、参照が 40 を超える場合にのみ高い顧客満足度となるように指定するには、次のような式を作成します。IF (mResult ("support calls") <20)  mResult("references") >40
- Or ボタン、 - OR 文を挿入します。この文を使用すると、何かが起こる前に複数の条件のうち 1 つが存在する必要があることを指定できます。たとえ

ば、効率的な製品テストを監視する複合メジャーでは、クライアントによって記録された不備の数とテクニカル・サポートにかかってきた電話の回数を追跡するメジャーを使用できます。これらのうちいずれかが **true** である場合に、製品テストが良好なレベルになります。

- クライアントから提出された不備が 100 件未満
- テクニカル・サポートにかかってきた電話が 1000 件未満

この式は、次のように定義できます。IF mResult("client defects") <100 || mScore("support calls") < 1000))

- Not ボタン、**!** -NOT 文を挿入します。この文を使用すると、**true** ではない、または発生するべきではない条件を指定できます。

## 構文と表記規則

演算または関数を挿入した後、使用するデータまたはオブジェクト値を指定します。これらの値は、プレースホルダによって表されます。使用されるプレースホルダは、挿入した関数によって異なります。[195 ページの「プレースホルダ」](#)を参照してください。

関数では、次の表記規則に従います。

- 使用する値を持つオブジェクトの名前は、引用符(" ")で囲みます。たとえば、次の式は、セールス・スコアカードの現在のスコアを挿入します。  
sScorecard("Sales")
- 他のオブジェクトの値を挿入する関数は、かっこ()で囲みます。
- オブジェクト名の後は、閉じかっこを 2 つ"))"使用します。

**ヒント：** かっこに色を付けると、式に正しい数の閉じかっこが含まれているかを確認するのに役立ちます。式には、それぞれ 2 つの色付きかっこが含まれる必要があります。

## プレースホルダ

プレースホルダは、計算を実行するために提供する必要があるデータの種類を示します。関数を基にして、使用する値でこれらのプレースホルダを置き換えます。

- Value: [195 ページの「Value」](#) を参照してください。
- Arg: [196 ページの「Arg」](#) を参照してください。
- Attribute: [196 ページの「Attribute」](#) を参照してください。
- 週および年などの時間間隔

### Value

Value プレースホルダは、計算で使用する数を表します。

たとえば、250 の平方根を計算するには、次のタスクを実行します。

1. SQRT 関数をダブルクリックします。
2. value を 250 で置き換えます。SQRT(250)

## Arg

Arg プレースホルダは、次を表します。

- スコアカードまたはメジャーなどのオブジェクト
- 実績やスコアなどのオブジェクト値の種類

たとえば、2つのメジャーで収集された実績の平均を求めるには、次のタスクを実行します。

1. Average をダブルクリックします。
2. average にカーソルを置き、mResult をダブルクリックして、実績を使用することを示します。

```
average(mResult(arg1, arg2))
```

3. カーソルを arg1 の前に置いて右クリックし、表示されるボックスから最初のメジャーを選択します。
4. arg2 を削除し、NetProfit に閉じかっこを追加し、コンマを挿入します。

```
average(mResult("NetProfit"))
```

5. average および mResult を挿入します。
6. 2つ目の mResult を右クリックし、もう1つのメジャーを選択します。
7. 2つ目のメジャーの後に閉じかっこ")"を挿入します。

```
average(mResult("NetProfit"),mResult("NetProfit"))
```

8. 残りのプレースホルダを削除します。

## Attribute

Attribute プレースホルダは、次のオブジェクトのいずれかを表します。

- 変更されたテンプレートによって生成されるすべての次元メジャー
- スコアカードにあるすべての低レベルのスコアカード

## 関数の挿入

このトピックでは、次の関数およびオプションの使用方法について説明します。

- [197 ページの「算術関数」](#)
- [198 ページの「統計関数」](#)
- [202 ページの「IF 文」](#)
- [204 ページの「isNoValue の使用方法」](#)
- [204 ページの「時間関連の関数」](#)

## 算術関数

このトピックでは、次の算術関数を使用する方法について説明します。

- [ABS](#)
- [INT](#)
- [LOG および LOG10](#)
- [SQRT](#)

### ABS

ABS を使用して、指定する数値の絶対値を挿入します。

この関数は、使用する数値で value を置き換える次の構文を使用します。

ABS(value)

例: ABS(-4)=4

▶ この関数を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 関数>算術を選択します。
- 2 ABS をダブルクリックします。
- 3 value を、使用する数で置き換えます。

### INT

INT を使用して、その数に最も近い整数に切り下げます。この関数は、切り下げる数値で value を置き換える次の構文を使用します。

INT(value)

例: INT(21.8)=21

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>算術を選択します。
- 2 INT をダブルクリックします。
- 3 value を、使用する数で置き換えます。

### LOG および LOG10

LOG を使用して、底に値の対数を挿入します。これにより、参照のより小さなフレームを使用して、非常に大きい値を表せます。たとえば、LOG は、地震の活動を評価するのに使用されます。

LOG は、次の構文を使用します。

LOG(value, base)

例: LOG(4, 100,000)= 0.12

LOG10 を使用して、指定した数の底-10 の対数を挿入します。この関数は、次の構文を使用します。

例: LOG10(86)=1.93449

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>算術を選択します。
- 2 LOG または LOG10 をダブルクリックします。
- 3 value および base を、使用する数値で置き換えます。

## SQRT

SQRT を使用して、数の正の平方根を挿入します。この関数は、使用する数値で value を置き換える次の構文を使用します。

SQRT(value)

例: SQRT(16)=4

▶ この関数を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 関数>算術を選択します。
- 2 SQRT をダブルクリックします。
- 3 value を、使用する数で置き換えます。

## 統計関数

この項では、次の統計関数の使用方法について説明します。

- Average
- COUNT
- MIN
- MAX
- MEDIAN
- PERCENTILE
- SUM

**注：** 式およびスコアの計算設定で「不明な値は無視する」を使用する場合は、実績のないメジャーは、これらの関数を含む式には含まれなくなります。  
110 ページの「収集されていないデータまたは使用不可のデータの使用方法」を参照してください。

## Average

Average を使用して、複数のスコアカードの平均スコアなど、複数の値の平均を挿入します。この関数は、使用する関数およびオブジェクトを表す `arg1..` で、次の構文を使用します。

```
Average(arg1, arg2...)
```

たとえば、Average(`sScore(development cost)`, `sScore(overhead)`, `sScore(cost of sales)`)は、指定した3つのスコアカードの平均スコアを挿入します。

▶ この関数を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに **Average** をダブルクリックします。

Average(`arg1`, `arg2...`)が挿入されます。

- 2 最初のかっこの後に、使用するデータを取得する関数で `ar1` を置き換えます。
- 3 使用する値を持つオブジェクトを右クリックして選択します。
- 4 コンマを挿入し、手順3から5を繰り返して計算で使用する値を持つオブジェクトを識別します。

## COUNT

COUNT を使用して、スコアカードのアイテム数を挿入します。この関数は、使用する関数およびオブジェクトを表す `arg` で、次の構文を使用します。

```
COUNT(arg1, arg2...)
```

たとえば、COUNT(`onScorecardMeasures("netprofit")`)は、NetProfit スコアカードにメジャーがいくつあるかを識別します。

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに **COUNT** をダブルクリックします。

COUNT(`arg1`, `arg2...`)が挿入されます。

- 2 `arg1` を削除します。
- 3 アプリケーション>スコアカードを選択し、**ScorecardMeasures** をダブルクリックします。
- 4 表示されるボックスから使用するスコアカードを選択します。
- 5 これらの手順を繰り返して、欠落している引数を挿入します。

## MIN

MIN を使用して、メジャーのグループなど、オブジェクトのグループ内の最小値を挿入します。この関数は、使用するオブジェクトを表す `arg1`, `arg2` で、次の構文を使用します。

```
MIN(arg1, arg2...)
```

たとえば、次のメジャー実績を想定します。

- this で表される作成している式を持つメジャー: 35,000
- 自動車の売上げ=40,000
- トラックの売上げ=21,000

トラックの売上げが、最小の実績値であるため、21,000 が挿入されます。

▶ この関数を挿入するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに MIN をダブルクリックします。

MIN(arg1, arg2...) が挿入されます。

- 2 arg1 を削除し、使用する値を取得する関数を挿入します。

たとえば、スコアカードの最小スコアを見つけるには、sScore を挿入します。

- 3 ボックスから使用するオブジェクトを選択します。

- 4 手順 2 および 3 を繰り返して、残りの引数を定義します。

## MAX

MAX を使用して、メジャーのグループなど、オブジェクトのグループ内の最大値を挿入します。この関数は、使用するオブジェクトの値を取得する関数を表す arg1 ... で、次の構文を使用します。

MAX(arg1, arg2...)

次のメジャー実績を想定します。

- this で表される作成している式を持つメジャー: 766
- 自動車の売上げ=9000
- トラックの売上げ=11000

トラックの売上げが、最大の実績値であるため、1100 が挿入されます。

MAX(mResult(this), mResult("Car sales"), mResult("Truck sales"))

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに MAX をダブルクリックします。

MAX(arg1, arg2...) が挿入されます。

- 2 arg1 を削除し、使用する値を取得する関数を挿入します。

たとえば、メジャーによって収集された最高の実績を見つけるには、mResult を挿入します。

- 3 表示されるボックスから使用するオブジェクトを選択します。

- 4 手順 2 および 3 を繰り返して、残りの引数を指定します。

## MEDIAN

MEDIAN を使用して、値のグループの中央値を挿入します。たとえば、次の値の中央値は、2つの中央の値(70 と 90)の平均である 80 となります。

- 60
- 70
- 90
- 100

この関数は、次の構文を使用します。Arg1...は、使用する値の種類、および使用する値を持つオブジェクトを取得する関数を表します。

MEDIAN(arg1, arg2...)

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに MEDIAN をダブルクリックします。

MEDIAN(arg1, arg2...)が挿入されます。

- 2 arg1 を削除し、使用する値を取得する関数を挿入します。

たとえば、メジャーで定義された最高の目標を見つけるには、mTarget を挿入します。

- 3 表示されるボックスから使用するオブジェクトを選択します。
- 4 手順 2 および 3 を繰り返して、残りの引数を指定します。

## PERCENTILE

PERCENTILE を使用して、値のグループの x%を表す値を識別します。たとえば、この関数を使用して、スコアカード・スコアが 60%百分率である従業員のみにボーナスを与えられます。これは、60%の従業員のスコアがこのレベル以下になることを意味します。PERCENTILE は、ボーナスを受け取るために従業員が持つ必要があるスコアカード・スコアを識別します。

PERCENTILE は、次の構文を使用します。V1 は、スコアまたは実績など、使用する値の種類を表します。K は、使用するパーセンテージを表します。

PERCENTILE(v1, v2, v3, k)

たとえば、PERCENTILE(onScorecardMeasures(score, "scorecard"), 75%)は、すべてのスコアの 75%がこれを下回る値を挿入します。

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>統計を選択し、さらに PERCENTILE をダブルクリックします。

PERCENTILE(v1,v2...,k)が挿入されます。

- 2 最初のかっこの後にカーソルを置きます。
- 3 v1, v2...を使用する値の種類を挿入する関数に置き換えます。

たとえば、スコアカードのスコアを使用するには、sScore 関数を挿入します。

- 4 表示されるボックスから使用する値を持つオブジェクトを選択します。
- 5 手順 3 と 4 を繰り返して、使用するオブジェクト値をすべて挿入します。
- 6 k を、使用するパーセンテージで置き換えます。

例: `PERCENTILE(onScorecardMeasures(result, "scorecard name"),%80)`

## SUM

SUM は、オブジェクト・グループの値を追加します。この関数は、`arg1`、`arg2` を、使用するオブジェクトで置き換える次の構文を使用します。

`SUM(arg1, arg2...)`

たとえば、次のスコアカード・スコアを想定します。

- 総売上 = 340
- 総収益 = 20,000,000

`SUM(sScore("Net Sales"), sScore("NetProfit"))`は、2つのスコアを追加し、20,000,340 を挿入します。

▶ この関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>「統計」を選択し、さらに SUM をダブルクリックします。

`SUM(arg1, arg2...)`が挿入されます。

- 2 `arg1` を、使用する値を持つオブジェクトを挿入する関数に置き換えます。

たとえば、メジャーの実績を追加するには、`mResult` を挿入します。

- 3 表示されるボックスから使用するオブジェクトを選択します。
- 4 手順 2 および 3 を繰り返して、残りの引数を指定します。

## IF 文

次のトピックでは、IF 文を使用する場合とその使用方法について説明します。

- [202 ページの「IF 文を使用する場合」](#)
- [203 ページの「構文およびプレースホルダ」](#)
- [203 ページの「IF 文の挿入」](#)

### IF 文を使用する場合

IF 文を使用すると、別のイベントが発生するのに存在しなければならない基準を定義できます。IF 文を使用して、特定の状況で使用する値または実行する計算を識別します。

たとえば、スコアカードが均等に加重されている 10 のメジャーを使用するとします。8 つのメジャーは 90%、2 つのメジャーは 5% のスコアです。スコアカード・スコアが低くなりすぎるのを防ぐため、IF を使用して、異なるスコアを計算して

使用します。たとえば、メジャーの実際のスコアが 25%を下回った場合に、そのメジャーのスコアを 50%に置き換えられます。

また、IF を使用して、他の式で使用されているメジャーの実績が使用できない場合に、かわりに使用するデータも指定できます。この場合、IF を使用して、メジャーで収集された最新の実績を挿入します。

## 構文およびプレースホルダ

IF 文は、次の構文を使用します。IF(condition, then, else)。次のプレースホルダが使用されます。



- THEN - CONDITION が true である場合の結果を表します。このプレースホルダには、異なる値や計算を使用できます。
- CONDITION - 結果が発生するために true となる必要がある基準を表します。この条件が true である場合は、THEN で定義した結果が使用されます。複数の条件も使用できます。条件が false である場合は、ELSE で定義した結果が使用されます。
- ELSE - THEN で定義した結果が false である場合に使用されるもう 1 つの結果を表します。

条件を指定したら、次のタスクを実行します。

- 条件がコンマ(,)で終わっていることを確認します。
- [Enter]を押して、空行を挿入します。
- 条件が true である場合に使用する結果(THEN プレースホルダ)を指定するコードの次の行をインデントします。

## IF 文の挿入

この項では、IF 文の作成方法について説明します。演算子を使用して、複数の条件を定義したり、発生するべきではない結果を識別できます。

- 満たす必要のある条件の 1 つを定義するには、「発生しなくてはならない」ボタン  をクリックします。
- 発生してはならない条件を定義するには、「発生してはならない」ボタン  をクリックします。

指定する必要のある情報を見直して、IF 文を作成します。203 ページの「[構文およびプレースホルダ](#)」を参照してください。

▶ IF 文を挿入するには、次の手順に従います。

### 1 関数>論理を選択し、さらに IF をダブルクリックします。

IF(condition, then, else)が挿入されます。

### 2 カーソルを開くかっこの後に置き、condition を、使用する値を取得する関数に置き換えます。

たとえば、条件がスコアカード・スコアに関連する場合は、sScore を挿入します。

- 3 表示されるボックスから使用する値を持つオブジェクトを選択します。
- 4 [Enter]を押して、空行を挿入します。
- 5 オプション: 別の条件を定義して、[Enter]を押します。
- 6 カーソルをインデントして、条件が true である場合に使用する値または関数に置き換えます。
- 7 [Enter]を押して、空行を挿入します。
- 8 カーソルをインデントして、else を THEN の結果が false である場合に使用する値または関数に置き換えます。

## isNoValue の使用方法

isNoValue を使用して、式の一部に欠落した値があるかどうかを決定します。欠落した値は、二重ダッシュ(-- )で表されます。IF 文で isNoValue を使用すると、値が欠落している場合に使用するデータまたは結果を識別できます。

isNoValue は、次の 2 つの方法で使用できます。

- 式で他のオブジェクトの値が存在していることを確認する場合。式の一部を選択します。「関数」>「論理」を選択し、さらに「IsNoValue」をダブルクリックします。IsNoValue が false の場合は、使用するオブジェクトに値が存在していて、式が有効です。IsNoValue が true の場合は、使用するオブジェクトのすべての値が存在せず、式が無効であることを示します。
- 欠落した値と別の値を置き換える場合。IF 文を使用して、他の値が使用できない場合に使用するデータを指定します。たとえば、スコアが使用できない場合に、スコアカード・スコアに 50 を使用するには、次の式を使用できます。  
`IF(isNoValue(sScore(scorecard)), 50, sScore ("scorecard"))。`

[202 ページの「IF 文」](#)を参照してください。

## 時間関連の関数

次の関数を使用して、既存の値、または今後生成される値を使用する計算を実行できます。

- ValuesToDate: 挿入して、オブジェクトが生成するすべての値を使用します。  
[205 ページの「valuesToDate」](#)を参照してください。  
実績およびスコアなど、アプリケーション・データを使用する計算では、ValuesToDate を使用できません。
- timeOffset: 挿入して、古い値、現在の値、または式で生成される値を使用します。  
[206 ページの「timeOffset」](#)を参照してください。

週または月など、時間間隔を使用して生成された、または生成される値の期間を指定できます。

## valuesToDate

valuesToDate を使用して、特定の期間でオブジェクトによって生成される実績およびスコアで統計演算を実行します。たとえば、この関数を使用して、過去 6 か月で達成されたメジャーの最高スコアを挿入します。

valuesToDate は、次の関数で使用できます。

- MIN および MAX
- SUM および COUNT
- Ave および MEDIAN
- PERCENTILE

▶ valuesToDate を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>時間を選択し、さらに valuesToDate をダブルクリックします。
- 2 表示されるボックスから使用する値を持つメジャーを選択します。現在のメジャーを使用するには、このメジャーを選択します。

valuesToDate(attribute, "measure", period)が挿入されます。

- 3 attribute を、使用する値の種類を取得する関数に置き換えます。

たとえば、スコアカードでメジャーのスコアを使用するには、onScorecardMeasures を挿入し、表示されるボックスからスコアカードを選択します。

**ヒント：** レポートの目標以外の目標を使用する値を計算するには、右クリックして、「目標の挿入」を選択します。

- 4 period を、値が使用可能になってからの時間を表す次の間隔に置き換えます。

- day - オブジェクトが昨日から値を生成され始めた場合に使用します。
- week - オブジェクトが 7 日前から生成され始めた場合に使用します。
- month - オブジェクトが 4 週間前から生成され始めた場合に使用します。
- half-year - オブジェクトが 6 か月前から生成され始めた場合に使用します。
- year - オブジェクトが 1 年前から生成され始めた場合に使用します。

たとえば、今年に達成したスコアカードのメジャーの最高スコアを挿入するには、次のように入力します。

```
valuesToDate(MAX(onScorecardMeasures," Scorecardname" ,year))
```

## mPTDResults

mPTDResult 関数を使用して、期間累計の実績を使用する計算を実行し、他のビジネス・プロジェクト用の式で期間累計の実績を参照します。

**注：** レポートから入力された期間累計の実績は、式を使用して計算した値を上書きします。mPTDResult は、常にレポートから入力された最新の期間累計実績の値となります。

- ▶ mPTDResults を使用するには、次の手順に従います。
- 1 関数>メジャーを選択し、さらに mPTDResults をダブルクリックします。
  - 2 表示されるボックスからメジャーまたは次元メジャーを選択し、「OK」をクリックします。  
mPTDResult("Measure")が挿入されます。
  - 3 該当する関数を挿入し、実績値を使用して計算を実行します。

## timeOffset

timeOffset を使用して、現在または以前に生成された値を使用する計算を実行します。この関数を使用して、今後生成される値で式も更新できます。

以前に生成された値は、次の2つの方法で挿入できます。

- 値が生成された日付の使用
- 経過した時間間隔(月や年など)の指定

- ▶ timeOffset を使用するには、次の手順に従います。
- 1 関数>時間を選択し、さらに timeOffset をダブルクリックします。  
timeOffset(subformula, - #d,w,y,m,p)または dd/mm/YY が挿入されます。
  - 2 subformula を、使用する値を持つオブジェクトを挿入する関数に置き換えます。  
たとえば、timeOffset(mScore("InternalCosts"))は、InternalCosts メジャーのスコアを取得します。
  - 3 次のタスクを実行します。
    - 現在または以前に生成された値を挿入するには、#を間隔の数に置き換えます。これは、値が生成されてから経過した月などの間隔です。
    - まだ生成されていないが、生成された時点でその値を挿入するには、-をプラス記号(+)で置き換えます。また、#を、プラス記号(+)で生成される週数などの間隔に置き換えます。
  - 4 値が生成された、または生成される日付がわかっているかどうかにより、TimeOffset を使用して時間間隔を次のように指定します。
    - 値が生成された、または生成される日付がわからない場合は、次の変数の1つとともに timeOffset(subformula, # - (間隔))を使用します。
      - d - x 日前に生成された値、または x 日後に生成される値を挿入します
      - w - x 週前に生成された値、または x 週後に生成される値を挿入します
      - y - x 年前に生成された値、または x 年後に生成される値を挿入します
      - m - x か月前に生成された値、または x か月後に生成される値を挿入します
      - q - x 四半期前に生成された値、または x 四半期後に生成される値を挿入します
      - p - x 期間前に生成された値、または x 期間後に生成される値を挿入します

たとえば、6週間前に収集したメジャー実績を挿入するには、次のように入力します。

```
timeOffset(mResult("measure"), -6 w
```

- 値が生成された、または生成される日付がわかっている場合は、`timeOffset(subformula, # dd/MM/yy)`を使用します。

`dd/mm/yy` をメジャーが生成された、または生成される日、月、および年の最後の2桁に置き換えます。たとえば、2007年12月1日に生成されたスコアカードのスコアを挿入するには、`timeOffset(sScore("scorecard"), 01/12/07` と入力します。

## アプリケーション・データの使用方法

このトピックでは、式で次のオブジェクトの値を使用する方法について説明します。

- [207 ページの「メジャーの使用方法」](#)
- [211 ページの「スコアカードの使用方法」](#)
- [213 ページの「変数の使用方法」](#)
- [213 ページの「次元メジャーの使用方法」](#)

### メジャーの使用方法

この項では、次のメジャー関数を使用する方法について説明します。`this` を実績、スコア、目標の関数とともに使用して、現在のメジャーまたはスコアカードを参照します。

- 実績: [207 ページの「mResult」](#) および [208 ページの「mPTDResults」](#) を参照してください。
- スコア: [208 ページの「mScore」](#) を参照してください。
- 目標: [209 ページの「mTarget」](#) を参照してください。
- 複数の値を持つ目標のサブ目標: [210 ページの「mSubTarget」](#) を参照してください。
- その他の目標: [209 ページの「mComparator」](#) を参照してください。
- 変数: [211 ページの「mVariance」](#) を参照してください。

スコアカードのすべてのメジャーを使用する計算を実行する方法についても説明します。[211 ページの「onScorecardMeasures」](#) を参照してください。

### mResult

`mResult` を使用して、メジャー実績を使用する計算を実行します。この関数は、次のタスクにも使用できます。

- 以前に収集された実績を `timeOffset` を使用して挿入する
- 収集される実績を `timeOffset` を使用して挿入する

- メジャーが収集した実績すべての平均値を求めるなどの演算を実行する
- メジャー実績で算術、統計、論理関数を実行する。196 ページの「関数の挿入」を参照してください。

▶ mResult を使用するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mResult をダブルクリックします。
- 2 使用するメジャーを選択します。現在のメジャーの実績を使用するには、このメジャーを選択します。

たとえば、次の式は、NetProfit メジャーで収集される現在の実績を挿入します。

```
mResult("NetProfit")
```

以前に収集されたメジャー実績を使用するには、次のように入力します。

```
timeOffset(mResult("measure name"),-interval))
```

## mPTDResults

実績収集者のユーザーは、mPTDResult を使用して、期間累計の実績を使用する計算を実行し、他のビジネス・オブジェクトの式で期間累計の実績を参照できます。レポートから入力される期間累計の実績は、式を使用して計算する値を上書きします。mPTDResult は、常にレポートから入力された最新の期間累計の実績の値となります。

▶ mPTDResults を使用するには、次の手順に従います。

- 1 関数>メジャーを選択し、さらに mPTDResults をダブルクリックします。
- 2 表示されるボックスからメジャーまたは次元メジャーを選択し、「OK」をクリックします。

mPTDResult("Measure")が挿入されます。

- 3 該当する関数を挿入し、実績値を使用して計算を実行します。

## mScore

mScore を使用して、指定したメジャーのスコアを使用する計算を実行します。

▶ mScore を使用するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mScore をダブルクリックします。
- 2 使用するメジャーを選択します。現在のメジャーを使用するには、このメジャーを選択します。

たとえば、次の式は、Revenue メジャーの現在のスコアを挿入します。

```
mScore("Revenue")
```

以前のスコアを挿入するには、`timeOffset(mScore("measure name"), -interval))`と入力します。

## mTarget

mTarget を使用して、選択したメジャーの目標を使用する計算を実行します。ツールバーの「レポートの出力先」リストから複数の値の目標を選択した場合は、mTarget は、複数の値の目標を作成する際に定義した順序の最初のサブ目標の値を使用します。たとえば、次の複数の値の目標では、順序の最初にある **Maximum** サブ目標が使用されます。

図 27 複数の値の目標のサブ目標の順序のサンプル



81 ページの「複数の値の目標の作成」を参照してください。

- ▶ mTarget を使用するには、次の手順に従います。
  - 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mTarget をダブルクリックします。
  - 2 「メジャーの選択」ボックスから使用するメジャーを選択します。現在のメジャーを使用するには、このメジャーを選択します。

たとえば、次の式は、Total Sales メジャーの現在の目標を挿入します。

```
mTarget("TotalSales")
```

この関数を他の関数とともに使用して以前の目標を使用する計算を実行するには、`timeOffset(mTarget("measure name"), -間隔)`と入力します。

## mComparator

mComparator を使用して、次のような計算を実行します。

- 「レポートの出力先」リストから選択した目標以外の名前指定した目標を使用します。たとえば、Q1、Q2、Q3、Q4 という財務四半期の目標があり、Q2 がレポートの出力先である場合に、mComparator で、式に Q1 または Q4 の値を挿入します。選択した目標が複数の値を持つ場合は、順序の一番上のサブ目標が使用されます。
- 目標、およびサブ目標の順序にかかわらず、名前指定した該当するサブ目標を使用します。たとえば、次の例では、定義された順序では最後であるにもかかわらず、**Minimum** サブ目標の値を挿入できます。

図 28 複数の値の目標のサブ目標の順序のサンプル



このように、mComparator は、基本的に、選択したレポートの出力先、または複数の値の目標でのサブ目標の順序にかかわらず、特定の目標を使用する計算を実行できます。

- ▶ mComparator を使用するには、次の手順に従います。
  - 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mComparator をダブルクリックします。
  - 2 使用するメジャーを選択します。現在のメジャーを使用するには、このメジャーを選択します。
  - 3 OK をクリックします。
  - 4 表示される「目標の選択」ボックスから使用する目標を選択します。
  - 5 OK をクリックします。
  - 6 実行する関数および計算を挿入します。

たとえば、ShortTerm という目標の値を挿入するには、次のような式を使用します。

```
mComparator(this, "ShortTerm")
```

## mSubTarget

mSubTarget を使用して、maximum などの名前でサブ目標を識別します。レポートの出力先が複数值で、maximum というサブ目標を持つ場合は、サブ目標の順序にかかわらず maximum の値が使用されます。レポートの出力先が複数值でない場合、または複数值であるが Maximum というサブ目標を持たない場合は、一番上の順序にあるサブ目標が使用されます。

- ▶ mSubTarget を使用するには、次の手順に従います。
  - 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mSubTarget をダブルクリックします。
  - 2 「メジャーの選択」ボックスから使用するメジャーを選択します。現在のメジャーを使用するには、このメジャーを選択します。
  - 3 使用するサブ目標の名前を選択し、「OK」をクリックします。

## mVariance

mVariance を使用して、メジャーが収集した実績とその目標間の差を挿入します。これにより、実際のパフォーマンスを期待されるパフォーマンスと比較できます。

- ▶ mVariance を使用するには、次の手順に従います。
- 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに mVariance をダブルクリックします。
- 2 使用するメジャーを選択します。現在のメジャーを挿入するには、このメジャーを選択します。

mVariance("measure")が挿入されます。

## onScorecardMeasures

onScorecardMeasures を使用して、従業員、戦略要素、責任要素のスコアカードのメジャーを使用する計算を実行します。

たとえば、ProductSales スコアカードの最高スコアを持つメジャーを識別するには、MAX(onScorecardMeasures(score, "ProductSales"))と入力します。

- ▶ onScorecardMeasures を使用するには、次の手順に従います。
- 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに onScorecardMeasures をダブルクリックします。
- 2 「スコアカードの選択」ボックスから使用されるメジャーのスコアカードを選択します。
- 3 attribute を、実績など、使用するメジャー値の種類に置き換えます。

例: onScorecardMeasures(result, "EuropeanSales")

- 4 カーソルを onScorecardMeasures の前に置き、実行する演算を挿入し、続けて開くかっこを挿入します。

MAX(onScorecardMeasures)

- 5 たとえば、スコアカードのメジャーで達成される最高の実績を使用するには、次のように入力します。

MAX(onScorecardMeasures(result, "EuropeanSales"))

- 6 式の終わりに閉じかっこを挿入します。

MAX(onScorecardMeasures(result, "EuropeanSales"))

## スコアカードの使用方法

次のトピックでは、式でスコアカード・データを使用する方法について説明します。

- [212 ページの「sScore」](#)
- [212 ページの「onScorecardScorecards」](#)

## sScore

sScorecard を使用して、指定したスコアカードのスコアを使用する計算を実行します。従業員、戦略要素、責任要素のスコアカードのスコアを使用できます。

この関数を使用する式で this を使用して、現在のスコアカードを参照します。

▶ sScore を使用するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーション・データ>スコアカードを選択し、さらに sScore をダブルクリックします。
- 2 スコアカードを次のように選択します。
  - 従業員スコアカード: 「従業員」を展開して、従業員をクリックします。
  - 戦略要素または責任要素のスコアカード: 該当する「マップ」フォルダを展開して、マップ構造を移動し、要素を選択します。

たとえば、Ted Burns という従業員のスコアを挿入するには、次のように入力します。

```
sScore("TedBurns")
```

以前のスコアを使用するには、timeOffset(sScore("name"), -intervals)) と入力します。たとえば、Ted が 1 年前に達成したスコアを挿入するには、timeOffset(sScore("TedBurns"), -1y)) と入力します。

## onScorecardScorecards

onScorecardScorecards を使用して、次のタスクを実行します。

- スコアカードにあるすべての低レベル・スコアカードのスコアを挿入する
- スコアカードにあるすべての低レベル・スコアカードに変更を適用する
- スコアカードにあるすべての低レベル・スコアカードで演算を実行する

**ヒント:** この関数を使用する式で this を使用して、現在のスコアカードを参照できます。

▶ onScorecardScorecards を使用するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーション・データ>スコアカードを選択し、さらに onScorecardScorecards をダブルクリックします。
- 2 スコアカードを選択します。

戦略目標のサンプル・スコアカードである Decreased Costs が使用されます。

```
onScorecardScorecards("Decreasd Costs")
```

- 3 カーソルを onScorecardScorecards の前に置き、演算または関数を挿入し、さらに開くカッコを挿入します。

たとえば、Decreased Costs スコアカードにあるすべてのスコアカードで昨年達成された平均スコアを使用するには、次のように入力します。

```
timeOffset(Average(onScorecardScorecards("Decreased Costs")), -1y)
```

## 変数の使用方法

vResult を使用して、変数を使用する計算を実行します。

▶ vResult を使用するには、次の手順に従います。

- 1 アプリケーション・データ>メジャーを選択し、さらに vResult をダブルクリックします。
- 2 使用する変数を選択します。

たとえば、米ドルの現在値を挿入するには、次のように入力します。

```
vResult("US Dollar")
```

## 次元メジャーの使用方法

dimensionalMeasure を使用して、単一の次元メジャーを使用する計算を実行します。214 ページの「dimensionalMeasure」を参照してください。

dimensionalChildren を使用して、次元メジャーおよび子の値を使用する計算を実行します。たとえば、この次元アウトラインで ItalianOffices メジャーを使用して実行する計算は、フローレンス、ベニス、ローマの子メジャーにも適用されます。

- ヨーロッパのオフィス
  - イタリアのオフィス
    - フローレンス(子)
    - ローマ
    - ベニス

### 注意:

実績の式でこの関数を使用して実績を集約すると、子次元のデータは、レポートのトレンド・テーブルから省略されることがあります。たとえば、次の次元アウトラインがあるとします:

- APAC
  - オーストラリア
    - シドニー
  - 韓国
    - ソウル

APAC メジャー実績の式として次の内容を指定するとします。ここで、Region はメジャー・テンプレートの名前です:SUM(dimensionalMeasure(result, "Region", ["Australia", "Korea"]))

式と同じ次元には複数の子ノードを指定できないため、次のように各ノードのSUMを追加してこの問題を解決します:

```
SUM(dimensionalMeasure(result, "Region", ["Australia"])) +  
SUM(dimensionalMeasure(result, "Region", ["Korea"]))
```

214 ページの「dimensionalChildren の使用について」を参照してください。

## dimensionalMeasure

dimensionalMeasure を使用して、アウトラインで次元メジャーまたは子メジャーの値を使用する計算を実行します。たとえば、この関数を使用すると、このアウトラインで、ベニスのメジャーのみにデータのみを使用する計算を実行できます。

- イタリアの営業所
  - フローレンス
  - ローマ
  - ベニス
- ドイツの営業所

▶ dimensionalMeasure を使用するには、次の手順に従います。

- 1 使用する次元メジャーを生成するテンプレートを変更していることを確認します。
- 2 アプリケーション・データ>次元データを選択し、さらに dimensionalMeasure をダブルクリックします。
- 3 「テンプレートの選択」ボックスから使用する次元メジャーを生成するテンプレートを選択します。

dimensionalMeasure(attribute, "template", ["dimensional member1", "dimensional member2"...]) が挿入されます。

- 4 attribute を、スコアなど、使用する値の種類に置き換えます。
- 5 dimensionalmember1 および dimensionalmember2 を、使用する次元メジャーの生成に使用する次元の名前で置き換えます。

**注：** メジャーが1つの次元のみを使用して生成される場合は、dimensionalmember2 プレースホルダを削除します。メジャーが複数の次元を使用して生成される場合は、各次元を指定します。

- 6 カーソルを dimensionalMeasure の前に置き、実行する演算または関数を挿入します。

たとえば、次の式は、ベニスの次元メジャーによって収集された最高の製品収益実績を見つけます。

```
MAX(dimensionalMeasure(result, "Revenue", ["Venice", "Products"]))
```

## dimensionalChildren の使用について

dimensionalChildren を使用して、計算を実行するか、高レベルの次元メジャーに属するすべての子メジャーの値を使用します。

DimensionalChildren は、次の構文を使用します。

```
dimensionalChildren(attribute, "template", ["dimension1", "dimension2"...])
```

プレースホルダを次の情報に置き換えます。

- Attribute: 実績など、使用するメジャー値の種類を指定します。
- Template: 使用する次元メジャーを生成するテンプレートの名前を指定します。
- Dimension1: 使用する次元メジャーを生成する各次元の名前を指定します。

たとえば、組織がヨーロッパと北米の営業所を持つとします。各営業所の売上げ(収益)は、Revenue テンプレート、Product 次元および Office 次元を使用して追跡されます。最高の売上げを記録する営業所を識別するには、次の式を使用します。

```
MAX(dimensionalChildren(result, "Revenue", [Office, "Products"]))
```

## dimensionalChildren の使用方法

▶ dimensionalChildren を使用するには、次の手順に従います。

- 1 使用する次元メジャーを生成するテンプレートを変更していることを確認します。
- 2 アプリケーション・データ>次元データを選択し、さらに次をダブルクリックします「dimensionalChildren」。
- 3 「テンプレートの選択」ボックスから使用する次元メジャーを生成するテンプレートを選択します。

```
dimensionalChildren(attribute, "template", ["dimension1, "
"dimension2"...])が挿入されます。
```

- 4 attribute を、スコアなど、使用する値に置き換えます。
- 5 dimension1 および dimension2 を、使用するメジャーの名前、および使用する子を持つメジャーの名前で置き換えます。
- 6 カーソルを dimensionalChildren の前に置き、実行する演算または関数を挿入します。

たとえば、次の式では、次元メジャーの平均スコア、およびその子を使用して、各イタリアの営業所の収益を追跡します。

```
Average(dimensionalChildren(score, Revenue, [Italy, Products]))
```

## 式の検証

式のエラーを識別して解決するには、2つのレベルの検証を実行します。

- オープンなメジャーまたはパフォーマンス・インディケータの式を検証するには、式を選択して、「検証」をクリックします。[215 ページの「一般的なエラーの解決」](#)を参照してください。
- すべてのメジャーおよびパフォーマンス・インディケータの式を検証するには、式のエラー・レポートを使用します。[216 ページの「すべての式の検証」](#)を参照してください。

## 一般的なエラーの解決

一般的なエラーを次に示します。

- mResult などのすべての関数はかっこで囲みます。式には、それぞれ色の付いたかっこのセットが必要です。

Average(mresult "measurename")は正しくない式で、  
Average(mResult("Measure"))は正しい式です。

- メジャーで使用するオブジェクトの名前は引用符で囲みます。

MIN(onScorecardMeasures) score, Revenue))は正しくない式で、  
MIN(onScorecardMeasures) score, "Revenue"))は正しい式です。

- 式で使用するすべての次元メジャー名は、角かっこで囲みます。

MAX(dimensionalMeasure (result, "Revenue", ["Venice, "Products"]))は正しくない式で、MAX(dimensionalMeasure (result, "Revenue", ["Venice", "Products"]))は正しい式です。

- this は引用符で囲まないでください。"this"は正しくありません。

## すべての式の検証

式のエラー・レポートを使用して、式にエラーのあるアプリケーションでオブジェクトを識別します。レポートは、次のエラーを識別します。

- メジャー実績、目標、スコアおよび期間累計の式
- パフォーマンス・インディケータの範囲
- アラートをトリガーするのに使用される式

式のエラー・レポートを生成するには、「管理」>「式エラー」を選択します。レポートでは、エラーの解決に使用できる次のデータが提供されます。

- 式でエラーのあるメジャーまたはパフォーマンス・インディケータの名前
- スコアなど、エラーを含むの式の種類
- 式の無効なセクション
- セクションが無効である理由の説明



# レポート機能の拡張

## この付録の内容

Interactive Reporting での Performance Scorecard データの使用方法 .....	217
生成されたデフォルトのレポート .....	218
Performance Scorecard データを含む Interactive Reporting の生成 .....	221
カスタム・レポートおよび Interactive Reporting レポートへのリンクの追加 .....	225
汎用 Performance Scorecard レポートへのリンク .....	226

## Interactive Reporting での Performance Scorecard データの使用方法

Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Studio を使用して、Performance Scorecard データにアクセスできます。表示されるデータは、Performance Scorecard で管理者によって生成されるスター・スキーマ・テーブルから取得されます。デフォルトで、次の事前にフォーマットされたレポートを使用して、Interactive Reporting で Performance Scorecard データにアクセスできます。

- スコアカード
- 戦略スコアカード
- スコアカード(メジャー・トレンド)

Interactive Reporting で Performance Scorecard を使用するには、次のタスクを実行します。

1. ODBC 接続を作成し、DAS サービスへの接続を追加します。
2. 接続パラメータを格納するデータベース接続(OCE ファイル)を作成します。統合では、Interactive Reporting サーバーから実績が取得されます。その際には、Interactive Reporting で作成される BQY ファイルも使用されます。OCE ファイルの作成方法の詳細については、Interactive Reporting のドキュメントを参照してください。
3. OCE ファイルを公開します。
4. レポートのクエリーおよびパラメータを含む BQY ファイルを公開します。Interactive Reporting のドキュメントを参照してください。
5. Performance Scorecard を起動して、スター・スキーマ・データベースを生成し、レポートを参照するためのカスタム・レポート・リンクを作成します。

## 生成されたデフォルトのレポート

デフォルトでは、次のフォーマット設定済 Performance Scorecard レポートが利用できます。

- スコアカード・レポート
- 戦略スコアカード・レポート
- スコアカード(メジャー・トレンド)

各レポートは、レポート生成用のスマート・カット・パラメータを指定するフォーマット設定済 BQY ファイルに基づいて生成されます。また、BQY ファイルを変更し、独自にカスタマイズしたレポートを作成する際のデフォルトのレポートに使用できます。

Performance Scorecard データとカスタムの Interactive Reporting レポートを使用できる汎用レポートも作成できます。これにより、複数のスコアカードまたはメジャーでのレポート、より多くのデータへのアクセス、およびデバッグ・レポートなど、クエリーでのレポート生成などができます。

## スコアカード・レポート

スコアカード・レポートは、Scorecard.bqy によって生成されます。これは、メジャーおよび次元メジャーを使用して、選択した従業員スコアカードに関する次の情報を提供します。

- スコアカード名
- パースペクティブ(利用可能な場合)
- メジャー名
- メジャー単位
- メジャー目標
- メジャー実績
- メジャー・スコア
- パフォーマンス・インディケータ

次のパラメータを使用します。

- ScorecardName は、Performance Scorecard でのスコアカードの名前です。
- Date は、スコアカードのレポート日(フォーマットは MMDDYYYY で、MM は 1月の 01 から始まります)です。

このリストを使用して確認のためにレポートのメジャーを選択します。

## メジャーのトレンドを表示するスコアカード

メジャーのトレンドを表示するスコアカード・レポートは、Scorecard\_withTrend.bqy によって生成されます。これは、選択したスコアカードの 1 つ以上のメジャーのトレンド・テーブルの詳細を提供します。使用可能なスコアカードの全部または一部を表示できます。詳細は表フォーマットで示され、

値およびパフォーマンス・インディケータを使用すると、指定した日付または日付範囲の、選択したメジャーのトレンドを評価できます。

**注：** このレポートでは、次元メジャーは表示されません。

次のパラメータを使用します。

- ScorecardName は、Performance Scorecard でのスコアカードの名前です。
- Date1 から Date6 には、6 つの日付の少なくとも 1 つが必要です。

「メジャーの表示」リストには、レポートで示されるすべてのメジャーが表示されます。このリストを使用して確認のためにレポートから個々のメジャーを選択します。

トレンドを表示する従業員スコアカード・レポートでは、次の情報が得られます。

- メジャー名
- パフォーマンス・インディケータ
- 選択した日付ごとのメジャーのスコア、実績および目標

## 戦略スコアカード

戦略スコアカード・レポートは、StrategyDashboard.bqy によって生成されます。これは、選択したメジャーの現在の実績と目標を示すグラフなど、戦略目的のコンポーネントの要約を提供します。ダッシュボードは、戦略の現在の進行状況の表示、戦略に適用される分析、機会および問題に関するノートの追加、またはアクションや戦略イニシアチブの表示などの機会を提供します。

**注：** このレポートでは、次元メジャーは表示されません。

BQY ファイルは、次のパラメータを使用します。

- ScorecardName は、Performance Scorecard での戦略要素の名前です。
- Date1 から Date6 には、6 つの日付の少なくとも 1 つが必要です。


メジャーのリストを使用して確認用のレポートのメジャーを選択します。目標に対する実績は、グラフ・フォーマットで表示されます。

戦略ダッシュボードでは、次の情報が得られます。

- 戦略のために選択した日付または日付範囲
- 戦略の所有者
- 戦略名と説明
- パースペクティブ(利用可能な場合)
- テーマ
- 関連付けられているメジャーの名前(リストから選択可能)
- 戦略用に選択したメジャーの目標に対する実績を示す棒グラフ。このグラフは、単位がメジャーに関連付けられている場合にのみ表示されます。

- 戦略の分析、改善や変更の機会、または対処する必要がある問題を示す、戦略に関する様々なテーマについてのノートおよびコメント。
- この戦略要素に関連付けられている現在のアクションと戦略的なイニシアチブ

## Interactive Reporting および BI レポートの設定

- ▶ カスタム・メジャー・レポートを生成するには、次の手順に従います。
- 1 「レポート設定」ボックスで、「テスト」また「汎用」を選択します。
  - 2 「名前」に、レポートの名前を入力します。
  - 3 「サーバー」に、サーバーの名前を入力します。
  - 4 「スコアカード」をクリックして、スコアカードのメジャーを選択します。
  - 5 「メジャー」で「選択」をクリックして、メジャーを選択します。
  - 6 データの交差点を使用するには、「次元」の「選択」をクリックします。
  - 7 カレンダー・アイコン  をクリックし、日付を選択して、レポートを生成する日付を指定します。
  - 8 「追加」をクリックして、レポートの内容のフィールドを挿入します。左側にある最初のボックスの各フィールドに名前を入力します。
  - 9 次のデータを使用できます。
    - レポート日 - Performance Scorecard のツールバーで選択される現在のレポート日。dd/MM/yyyy フォーマットで指定します。
    - レポート日数 - レポートの日数(dd)。独自の日付フォーマットを作成するのに使用します。
    - レポート月 - レポート日の月数(MM)。独自の日付フォーマットを作成するのに使用します。
    - レポート年 - レポート日の年数/yyyy)。独自の日付フォーマットを作成するのに使用します。
    - レポートの期間 - 財務四半期など、現在のレポート日に該当するレポートの期間名。
    - 現在の目標名 - Performance Scorecard ツールバーの「レポートの出力先」リストから選択した目標の名前。
    - 現在の目標キー - レポート目標のプライマリ・キー
    - 現在の目標 ID - Performance Scorecard でレポート目標を一意に識別する ID。
  - 10 「保存」をクリックします。

# Performance Scorecard データを含む Interactive Reporting の生成

次の手順で説明するように、Interactive Reporting を介して Performance Scorecard データベースからレポートを生成できます。

- Interactive Reporting データベース接続(OCE ファイル)を作成します。
- OCE(Open Catalog Extension)ファイルをインポートします。
- ファイルを公開します。
- スター・スキーマ・データベースおよびレポートを生成します。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。
- レポートを表示します。
- 生成したレポートへのリンクを作成します。

## OCE ファイルの作成

Interactive Reporting データベースの接続ファイル(OCE)は、リレーショナルまたは Essbase データベースでデータ・ソースへの接続を指定するポータブル・ファイルです。ファイルは、Interactive Reporting で作成でき、ユーザー名やパスワードなど、データベース接続に関する情報を保管します。

同じレポートを頻繁に生成する場合、必要な OCE ファイルは1つのみです。複数のソースからデータにアクセスするカスタム・レポートを作成する場合は、1つのレポートに多数の OCE ファイルが必要となる場合があります。

- ▶ Interactive Reports の OCE ファイルを作成するには、次の手順に従います。
- 1 Interactive Reporting コンピュータでレポートに使用されるデータベースへの ODBC 接続を作成します。
  - 2 接続タイプ(ODBC)、データベース・タイプおよびデータ・ソースの名前(ODBC 接続名)を含む ODBC 接続情報を追加します。
  - 3 スタート>「プログラム」>「Oracle EPM」>「Interactive Reporting Studio」を選択して .OCE ファイルを作成します。  
データベース接続ウィザードが表示されます。
  - 4 新規ドキュメントの作成で新規データベース接続ファイルをクリックして、リストからリポジトリのドキュメントを選択します。
  - 5 次のようにウィザード画面を完了してデータベース接続情報を定義します。
    - 接続ソフトウェアのタイプとして ODBC を選択します。
    - データベース・タイプを選択します。
    - データベースのユーザー名およびパスワードを入力します。
    - ODBC データベース・ホストの IP アドレスまたは名前を入力します。
  - 6 終了をクリックします。

- 7 OCE ファイルを保存します。
- 8 Interactive Reporting Studio を閉じます。

Interactive Reporting サーバーにファイルをインポートして公開します。

## OCE ファイルのインポート

OCE ファイルを作成した後、EPM Workspace サーバーにインポートして、レポートの生成に使用します。

- ▶ OCE ファイルをインポートするには、次の手順に従います。
  - 1 管理者として EPM Workspace にログオンし、Hyperion Workspace Agent および Web Application サービスが実行されていることを確認します。
  - 2 エクスプローラを選択してリポジトリの場所に移動します。
  - 3 右クリックして、新規フォルダを選択し、インポートするファイル用のフォルダを作成します。フォルダを作成しない場合は、そのままルート(/:)の下にファイルを残します。

「新規フォルダの作成」ボックスが表示されます。
  - 4 新しいフォルダの名前を入力して、OK をクリックします。
  - 5 新しいフォルダを選択します。
  - 6 右クリックしてショートカット・メニューを表示し、インポート>ファイルを選択し、Interactive Reporting 内で .OCE ファイルを公開します。

「ファイルの選択」タブが表示されます。
  - 7 「ファイルの選択」タブのファイルで、参照をクリックして .OCE ファイルの格納場所に移動します。

デフォルトでは、このファイルは `c:\¥hyperion¥products¥BIPlus¥data¥OpenCatalogExtensions` にあります。
  - 8 次へをクリックします。
  - 9 OCE の処理オプションで、次のオプションおよび情報を選択します。
    - 「データ・ソースのアクセス」から、「次のユーザー名とパスワードを使用」を選択します。
    - 「ユーザー名」および「パスワード」のボックスにデータベースのユーザー名とパスワードを入力します。
    - 「エンド・ユーザーの認証システムが有効な場所にパススルー可能」を選択します。
  - 10 終了をクリックします。

## BQY ファイルのインポート

Interactive Reports 内で、レポートは、フォーマットと構造を定義する BQY ファイルとして保管されます。

次のサンプル BQY ファイルが用意されています。

- Scorecard.bqy
- Scorecard\_withMeasureTrend.bqy
- StrategyDashboard.bqy

独自のレポートの作成には、これらのファイルを基準として使用します。

▶ BQY ファイルをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 EPM Workspace に管理者としてログオンします。
- 2 ビュー・ペインで、.OCE フォルダの場所に移動します。
- 3 フォルダを右クリックしてショートカット・メニューを表示し、ファイルのインポートを選択してサンプルの BQY レポートにアクセスします。
- 4 「ファイルの選択」タブにあるファイルで参照をクリックし、選択した BQY ファイルの場所に移動し、次へをクリックします。デフォルトでは、サンプル・ファイルは、`C:\Hyperion\products\PerformanceScorecard\AppServer\InstallableApps\common\Reports\Template_BI+`にあります。
- 5 次へをクリックします。  
「ファイルの選択」タブが表示されます。
- 6 ファイルの選択タブで、権限の編集をクリックして「プロパティ」ページを表示し、レポートのアクセス・レベルを設定します。
- 7 レポートへのアクセス権を与えるユーザー、役割、またはグループを使用可能なユーザー、「使用可能なグループ」、「使用可能な役割のリストから選択します。
- 8 指定したユーザーを選択したユーザー」、「選択したグループ」、「選択された役割のリストに移動します。
- 9 編集をクリックします。
- 10 権限の編集で、ファイルへのアクセスの適切なレベル(「アクセス権なし」、「フル・コントロール」など)を選択します。
- 11 適応状態、またはレポートを変更するためにユーザーが必要とするアクセス権のレベル(「表示のみ」、「検索と分析」など)を選択します。
- 12 お気に入りで継承または「プッシュ」を選択します。
- 13 OK をクリックして、「権限の編集」ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 14 「プロパティ」ダイアログ・ボックスで、OK をクリックして新しい権限を保存します。
- 15 次へをクリックします。  
「IR プロパティ」タブが表示されます。
- 16 すべてのクエリーでユーザー名とパスワードを取得リストから、OCE デフォルトからを選択します。
- 17 接続から、クエリー/データ・モデル名ごとに OCE ファイルを選択します。  
「ユーザー名」、「パスワード」および「オプション」の情報は、OCE ファイルから自動的に入力されます。
- 18 Interactive Reporting オプションで、ADR の使用可能を選択します。

## 19 次へをクリックします。

「ユーザー名」、「パスワード」および「オプション」の情報は、OCE ファイルから自動的に入力されます。これで、レポートが公開され、Performance Scorecard で生成に利用できるようになります。

## Interactive Reporting レポートの生成

OCE および BQY ファイルを Interactive Reporting にインポートした後、レポートを生成できます。

▶ Interactive Reporting を使用してレポートを生成するには、次の手順に従います。

- 1 Windows メニューで、スタート>設定>「コントロール パネル」>「サービス」を選択し、「サービス」ウィンドウを表示します。
- 2 Hyperion Workspace エージェントおよび Hyperion Workspace Web アプリケーションのサービスが実行されていることを確認します。
- 3 次の URL を使用して、Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition を起動します。

`http://サーバー:ポート/workspace`

- 4 Performance Scorecard に管理者としてログオンします。
- 5 管理>スター・スキーマの生成を選択します。  
「スター・スキーマの生成」ページが表示されます。
- 6 使用するコンテンツを選択します。
  - 「時間オプション」で、実績を表示する日付を選択します。すべての日付のデータが必要でない場合は、「日付」から「いくつかの日付について計算」を選択して、カレンダーから日付範囲を選択します。

**注：** スマート・カット URL で指定した日付は、Performance Scorecard のスター・スキーマ・テーブルに保存しているデータのセットに存在している必要があります。

- 「スター・スキーマ行の生成」で、レポート用のデータを生成する必要がある日付を選択します。
  - 「スター・スキーマの構造」で、適切なオプションを選択します。メジャー加重を使用する場合は、「加重を含めて作成」を選択します。
- 7 「Oracle Essbase データベースの生成」および「Essbase 命名規則に準拠」の選択を解除します。
  - 8 データベースの作成をクリックします。
  - 9 オプション: レポートへのリンクを作成します。

## 生成されたレポートの表示

- ▶ 生成されたレポートを表示するには、次の手順に従います。
  - 1 Performance Scorecard のブラウザ・ビューで、レポート>カスタム・レポートを選択します。
  - 2 プリファレンスに追加したカスタマイズ済レポートを選択します。レポートの名前は、レポートを生成するときに入力した名前です。


## カスタム・レポートおよび Interactive Reporting レポートへのリンクの追加

アプリケーションから、デフォルトおよびカスタムの Interactive Reporting レポートへのリンクを生成して作成できます。これらのレポートへのリンクは、ブラウザ・ビューの「カスタム・レポート」フォルダに表示されます。

- ▶ カスタム・レポートへのリンクを作成するには、次の手順に従います。
  - 1 Performance Scorecard で、ファイル>スコアカードの構成を選択します。
  - 2 レポートを選択します。
  - 3 レポートの追加をクリックします。  
「レポート設定」が表示されます。
  - 4 レポートのタイプの選択で、生成するレポートのタイプを選択します。
    - スコアカード
    - 戦略スコアカード
    - スコアカード(メジャー・トレンド)
    - 汎用レポート選択したレポート・タイプのレポート設定が表示されます。
  - 5 名前で、Interactive Reporting または Interactive Reporting レポートの一意の名前を入力します。  
次の情報が表示されます。
    - サーバー - Interactive Reporting または Interactive Reporting サーバーの名前。
    - ポート - サーバーのポート番号。
    - 場所 - Interactive Reporting BQY または OCE ファイルへのパス。
  - 6 スコアカード名の横のスコアカードをクリックして、レポートの生成に使用するスコアカードを選択します。  
**注：** 複数のスコアカードのレポートを生成する必要がある場合は、「汎用」レポート・タイプを選択します。
  - 7 スコアカードのタイプの選択から、レポートのスコアカードのタイプ(「戦略」など)を選択します。

- 8 表示されるボックスから、次のようにスコアカードを選択します。
- 従業員の場合は、「検索」をクリックして従業員名を選択します。
  - 責任要素および戦略要素の場合は、要素が使用されているマップを展開して要素を選択します。

「値」列の下にスコアカード名が表示されます。

- 9 日付の横にあるカレンダー・ボタン  をクリックして、レポートを生成する日付を選択します。

選択可能な日付は、スコアカード・タイプによって異なります。

- スコアカード・レポートの場合、日付は1つです
- 戦略スコアカード・レポートの場合、日付は2つです
- スコアカード(メジャー・トレンド)レポートの場合、日付は6つです

- 10 保存をクリックします。

新しいレポートの名前と URL が、「レポート設定」タブの外部レポートのリストに追加されます。

- 11 オプション: 別のブラウザ・ウィンドウでレポートを表示するには、新しいウィンドウで起動を選択します。

- 12 保存をクリックします。

- 13 オプション: 「レポート・タイプ」リストに新しいリンクを追加します。

1. ReportTypes.xml に移動し、レポート・タイプを追加します。デフォルトでは、このファイルは次の場所にインストールされます。

```
C:\¥Hyperion¥hps¥9.5¥AppServer¥InstalledApps¥Embedded Java  
Container (Tomcat)¥5.0.28¥webreportsDomain¥webapps¥HPSWebReports  
¥WEB-INF¥classes
```

2. 次のテキストのセクションを検索します。

```
<ReportType name="Test" type="IR" sortOrder="4" port="19000"  
server="localhost" location="workspace/browse/get/HPSWebReorts/  
Test.bqy"
```

3. 最後の/ReportType タグの前に、次のフォーマットで新しいレポート・タイプを追加します。

```
<parameter name="(レポート)" type="(タイプ)" sortOrder="(レポート・リストで  
の表示順)" required="(True または False)">
```

レポートが、「カスタム・レポート」フォルダに表示されます。

## 汎用 Performance Scorecard レポートへのリンク

デフォルトのレポートと異なる要件を持つ汎用レポートを Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition で作成できます。たとえば、複数のメジャーおよびクエリーを反映する汎用レポートを作成します。Performance Scorecard のブラウザ・ビューで、これらのレポートにリンクを追加するには、次の手順に従います。

▶ 汎用レポートへのリンクを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ファイル>スコアカードの構成を選択します。
- 2 レポートを選択します。
- 3 レポートの追加をクリックします。  
「レポート設定」が表示されます。
- 4 レポートのタイプの選択で、汎用を選択します。  
汎用のレポート設定が表示されます。
- 5 名前に Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting または Business Intelligence レポートの一意的な名前を入力します。
- 6 Business Intelligence レポートを作成する場合は、BI を選択します。Intelligence Reporting レポートを作成する場合は、IR を選択します。

Interactive Reports サーバーの名前とポート番号、および BQY ファイルと OCE ファイルの場所が表示されます。

- 7 次のパラメータの値を指定します。
  - ScorecardName - 選択したスコアカードの名前
  - MeasureName - 選択したメジャーの名前
  - Date - レポートを生成する日付(ddMMYYYY フォーマット)
  - DimensionName - 選択した次元の名前
  - Query - クエリーを使用する場合は true と入力します。それ以外の場合は false と入力します。
- 8 **オプション:** 新しいパラメータと値の追加行を作成するには、追加をクリックします。この手順を繰り返して、必要な分のみ行を追加します。
- 9 保存をクリックします。  
新しいレポートの名前および URL が、外部レポートのリストに追加されます。
- 10 **オプション:** 表示の際に新しいブラウザ・ウィンドウでレポートを表示するには、新しいウィンドウで起動を選択します。
- 11 保存をクリックします。
- 12 **オプション:** 「レポート・タイプ」リストに新しいリンクを追加します。

1. ReportTypes.xml に移動し、レポートのタイプと名前を追加します。デフォルトでは、このファイルは、C:\Hyperion\hps\9.5\AppServer\InstalledApps\Embedded Java Container (Tomcat)\5.0.28\webreportsDomain\webapps\HPSWebReports\WEB-INF\classes にインストールされます。

2. 次のコードのセクションを検索します。

```
<ReportType name="Test" type="IR" sortOrder="4" port="19000"
server="localhost" location="workspace/browse/get/HPSWebReorts/
Test.bqy"
```

3. 新しいレポートの名前およびタイプを最後の /ReportType タグの前に次のフォーマットで追加します。

```
parameter name="(レポート)" type="(レポート・タイプ)" sortOrder="(レポート・リストでの順序)" required="(TrueまたはFalse)"/>
```

**注：** アポストロフィなどの特殊文字を使用するには、文字の前に円記号(¥)を入力します。たとえば、「LastQuarter¥'s Financial Report」のようにします。

レポートは、ブラウザ・ビューの「カスタム・レポート」フォルダに表示されます。

---

# 用語集

---

**!** 感嘆符(!)(bang character(!))を参照してください。

**#MISSING** 欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING))を参照してください。

**2 パス(two-pass)** 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbaseのプロパティです。2パスのメンバーは、2番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

**Calculation Manager Planning** および **Financial Management** のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証、管理するために使用できる、Performance Management Architect のモジュールの一つです。

**CDF** カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))を参照してください。

**CDM** カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))を参照してください。

**Cookie** Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

**essbase.cfg** Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

**EssCell** 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

**ESSCMD** Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

**ESSLANG** テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。**エンコード方式(encoding)**も参照してください。

**ESSMSH** **MaxL シェル(MaxL Shell)**を参照してください。

**Extensible Markup Language(XML)** データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

**Extract-Transform-Load(ETL)** データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。

**GUI** グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

**ID(identity)** 外部認証におけるユーザーまたはグループの固有の ID です。

**Install\_Home** EPM System 製品がインストールされるディレクトリを示す変数です。同じコンピュータに複数のアプリケーションがインストールされている場合は、EPM System 製品の1つのインスタンスを指します。

**Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)(Interactive Reporting connection file(.oce))** データベース API(ODBC、SQL\*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)を作成して発行します。

**Java データベース接続(JDBC)(Java Database Connectivity(JDBC))** Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

**JSP** Java Server Page です。

**KeyContacts ガジェット(KeyContacts gadget)** Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供します。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts がジェットを使用できます。

**LRO リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO))**を参照してください。

**MaxL** Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。[MaxL DDL](#)、[MaxL DML](#) および [MaxL シェル\(MaxL Shell\)](#)も参照してください。

**MaxL DDL** Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。

**MaxL DML** Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作の言語です。

**MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)**  
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

**MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)**  
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

**MaxL Perl モジュール(MaxL Perl Module)** Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

**MaxL シェル(MaxL Shell)** MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX は essmsh、Windows は essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

**MaxL スクリプト・エディタ(MaxL Script Editor)** 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

**MDX(多次元式)(MDX(multidimensional expression))** リレーショナル・データベースで SQL を使用する際に、OLAP 準拠のデータベース向けに OLE DB に命令する言語です。「OLAPQuery」セクションのアウトライナを構築するとき、Interactive Reporting クライアントは要求を MDX の命令に変換します。ユーザーがクエリーを処理するとき、MDX がデータベース・サーバーに送信され、サーバーはクエリーの結果となるレコードを戻します。[SQL スプレッドシート\(SQL spreadsheet\)](#)も参照してください。

**MIME タイプ(MIME Type)** 多目的インターネット・メール拡張仕様(Multipurpose Internet Mail Extension)です。アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより決定されます。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

**NULL 値(null value)** データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

**ODBC** Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスの方法です。

**「OK」ステータス(OK status)** 集計ステータスの 1 つです。エンティティが集計済であり、階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

**OLAP メタデータ・カタログ(OLAP Metadata Catalog)** 統合サービスで、リレーショナル・データ・ソースから取り出されるデータの特徴、ソース、場所およびタイプを記述したメタデータが含まれているリレーショナル・データベースです。

**OLAP モデル(OLAP model)** 統合サービスで、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAP モデルは多次元データベースの構造を生成するために使用されます。

**Open Database Connectivity(ODBC)** 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

**PL 勘定(P&L)(P&L accounts(P&L))** 損益勘定です。通常、会社の損益計算書を構成する費用勘定と収益勘定の集合を指します。

**POV(視点)(POV(point of view))** 行、列またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリおよびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

**Production Reporting** [SQR Production Reporting](#) を参照してください。

**PVA 期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA))**を参照してください。

**root メンバー(root member)** 次元分岐における最上位のメンバーです。

**RSC サービス(RSC services)** リモート・サービス・コンフィグレータで構成されるサービスです。リポジトリ・サービス、サービス・ブローカ、名前サービス、イベント・サービスおよびジョブ・サービスを含みます。

**Shared Services レジストリ(Shared Services Registry)** Shared Services データベースの一部です。Shared Services レジストリでは、インストールされたほとんどの EPM System 製品の情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、配置設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を保管および再利用します。

**Smart Space Collaborator** ユーザーまたはシステムがメッセージを送信したり、Reporting and Analysis リポジトリのコンテンツを共有したりするためのサービスです。メッセージには、インスタント・メッセージのスタイル、ディスカッション、ミーティング、トースト・メッセージなどの様々な形態を使用できます。

**Smart Space クライアント・ソフトウェア(Smart Space client software)** クライアントのコンピュータ上で実行し、ガジェット、即時コラボレーションおよび Reporting and Analysis リポジトリへのアクセスを提供します。Smart Space のワークフレームとガジェットから構成されます。

**SmartBook ガジェット(SmartBook gadget)** Reporting and Analysis リポジトリまたは URL からのドキュメントを含みます。SmartBook が開くとすべてのドキュメントがロードされるので、あらゆるコンテンツへのアクセスを即座に実行できます。

**SPF ファイル(SPF files)** SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

**SQL スプレッドシート(SQL spreadsheet)** SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

**SQR Production Reporting** データ・アクセス、データ操作および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

**Structured Query Language(SQL)** リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

**TCP/IP Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP)**を参照してください。

**Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP)** 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

**Unicode モードのアプリケーション(Unicode-mode application)** 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

**Uniform Resource Locator(URL)** インターネットまたはイントラネット上のリソースのアドレスです。

**Web サーバー(Web server)** イントラネットまたはインターネットの Web ページや Web アプリケーションをホストするソフトウェアやハードウェアです。

**WITH セクション(WITH section)** MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタムのメンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

**Workspace ページ(Workspace Page)** 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

**ws.conf** Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

**wsconf\_platform** UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

**XML Extensible Markup Language(XML)**を参照してください。

**XOLAP** アウトラインのメンバーのみを保管し、クエリ時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

**Y 軸スケール(Y axis scale)** 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

**Zero Administration** サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。

**アウトライン(outline)** 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計および算術的關係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

**アウトライン同期(outline synchronization)** パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

**アクセサ(accessor)** データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

**アクセス権(access permissions)** リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

**アクティビティ・レベルの承認(activity-level authorization)** 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

**アクティブ・サービス(active service)** 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

**アセンブリ(assemblies)** EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

**値次元(value dimension)** 入力値、換算値および集計の詳細を定義するために使用されます。

**アダプタ(adapter)** ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

**アップグレード(upgrade)** 以前のソフトウェア・リリースを現在のリリースに置換するプロセス、またはある製品を別の製品に置換するプロセスです。

**宛先(destination)** Profitability and Cost Management の割当てでは、宛先は割り当てられる値を受け取るポイントを指します。

**アドホック・レポート(ad hoc report)** エンド・ユーザーがその場で作成するオンライン分析クエリです。

**アプリケーション(application)** (1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析およびレポートに対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

**アプリケーションの通貨(application currency)** アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

**アペンダ(appender)** 宛先を意味する Log4j の用語です。

**安全率(Risk Free Rate)** より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

**暗黙の共有(implied share)** メンバーが1つ以上の子を持ち、集計されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

**アーチファクト(artifact)** 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

**移行(migration)** アプリケーション、アーチファクト、またはユーザーを、別の環境またはコンピュータにコピーするプロセスです。たとえば、テスト環境から実稼働環境にコピーします。

**移行監査レポート(migration audit report)** 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

**移行スナップショット(migration snapshot)** アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取り込まれます。

**移行定義ファイル(.mdf)(migration definition file(.mdf))** アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

**移行ログ(migration log)** アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取り込むログ・ファイルです。

**依存エンティティ(dependent entity)** 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

**一意でないメンバー名(non-unique member name)** [重複メンバー名\(duplicate member name\)](#)を参照してください。

**一意のメンバー名(unique member name)** データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

**一意メンバーのアウトライン(unique member outline)** 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

**イメージ・ブックマーク(image bookmarks)** Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

**因果関係マップ(cause and effect map)** 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示します。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。

**インデックス(index)** (1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得する方法です。(2)インデックス・ファイルを指します。

**インデックス・キャッシュ(index cache)** インデックス・ページを含むバッファです。

**インデックス項目(index entry)** 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

**インデックス・ファイル(index file)** ブロック・ストレージのデータ取得情報を保管する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

**インデックス・ページ(index page)** インデックス・ファイルの下位区分です。データ・ブロックを指すポインタを含みます。

**イントロスペクション(introspection)** データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。[スクレーピング\(scraping\)](#)と対比してください。

**インポート・フォーマット(import format)** FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

**「影響」ステータス(IMPACTED status)** 親エンティティに集計する子エンティティの変更を示します。

**円グラフ(pie chart)** 1つのデータ・セットを扇形に分割された円形で示すグラフです。

**エンコード方式(encoding)** テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングする方法の1つです。各エンコード方式には UTF-8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。[コード・ページ\(code page\)](#)および[ロケール\(locale\)](#)も参照してください。

#### **エンタープライズ・ビュー(Enterprise View)**

Administration Services の機能の1つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーチファクトを直接操作できます。

**エンティティ(entity)** 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

**エージェント(agent)** アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

**お気に入りガジェット(Favorites gadget)** Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含みます。

**親(parents)** 直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親はエンティティであると同時に少なくとも1つのノードに関連しているため、エンティティ、ノードおよび親の情報が関連付けられています。

**親の調整(parent adjustments)** 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

**折れ線グラフ(line chart)** データ・セットを最大50個表示できるグラフです。各データ・セットは線で示されます。折れ線グラフで絶対値やパーセントを表す際に、前の線の上に次の線を重ねていく形で表示することも可能です。

**オンライン分析プロセス(OLAP)(online analytical processing(OLAP))** 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行うことができる多次元環境です。集計された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAPシステムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析およびモデリングが含まれます。

**会社間消去(intercompany elimination)** **消去(elimination)**を参照してください。

**会社間照合(intercompany matching)** アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の集計合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

**会社間照合レポート(intercompany matching report)** 会社間勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

**拡張リレーショナル・アクセス(Advanced Relational Access)** リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースに存在する要約レベルのデータにマッピングされます。

**確認レベル(review level)** プロセス管理の確認ステータス・インディケータの1つです。「開始していません」、「第1パス」、「送信済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

**加重(weight)** スコアカードのアイテムに割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、そのアイテムの相対的な重要性を示します。スコアカードのすべてのアイテムの加重を総計すると100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

**カスケード(cascade)** メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

**カスタム・カレンダー(custom calendar)** システム管理者が作成したカレンダーです。

**カスタム次元(custom dimension)** ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

**カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))** Javaで開発され、MaxLにより Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。**カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))**も参照してください。

**カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))** Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。**カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))**も参照してください。

**カスタム・プロパティ(custom property)** ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

**カスタム・レポート(custom report)** 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

**型付きメジャー(typed measure)** Essbase で、メジャーが示されている次元で Text または Date というタグが付けられたメンバーです。セルの値は事前定義されたテキストまたは日付として表示されます。

**カタログ・ペイン(Catalog pane)** アクティブ・セクションで利用可能な要素のリストを表示します。アクティブ・セクションがクエリーの場合はデータベース・テーブルのリストが表示され、ピボットの場合は結果列が表示され、ダッシュボードの場合は埋込み可能セクション、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールが表示されます。

**カテゴリ(categories)** データ編成に使用するグループです(月など)。

**株式ベータ(Equity Beta)** 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は1.2です。

**可変属性(varying attribute)** 1つ以上の次元で変化する属性の関連付けです。これらの次元との関連で値を追跡するために使用できます。たとえば、Product次元に関連付けられているSales Representativeという可変属性を使用すると、複数の販売員によるCustomer Salesの値を時間次元との関連で追跡できます。また、5月に特定の販売員が担当した製品を検索するといった場合にも、可変属性をメンバー選択で使用できます。

**カレンダー(calendar)** ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3およびQ4から構成されます。

**為替レート(exchange rate)** ある通貨から別の通貨に変換する際に使用する数値です。たとえば、1米ドルをユーロに変換する場合、為替レートの0.8936に米ドルを乗じます。これにより、1米ドルに相当するユーロは0.8936と算出されます。

**為替レート・タイプ(exchange rate type)** 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、ヒストリカル・レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されます。

**換算(translation)** **通貨換算(currency conversion)**を参照してください。

**換算レート(conversion rate)** **為替レート(exchange rate)**を参照してください。

**勘定科目次元(accounts dimension)** 高機能の会計を可能にする次元タイプです。勘定科目として定義可能な次元は1つのみです。

**勘定科目の種別(account type)** 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の振る舞いを示します。勘定科目タイプのオプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

**勘定科目の消去(account eliminations)** 集計時に集計ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

**勘定科目のブロック(account blocking)** 集計ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算集計プロセスで値を受け取りません。

**関数(function)** 値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。

**感嘆符(!)(bang character(!))** 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

**管理対象サーバー(managed server)** 内蔵されたJava仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

**関連勘定科目(Related Accounts)** 勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

**外部でトリガーされるイベント(externally triggered events)** ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

**外部認証(external authentication)** OracleのHyperionアプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、アプリケーションにログオンすること指します。ユーザー情報の保管場所は、通常はMSADやNTLMなどの企業ディレクトリとなります。

**ガジェット(gadget)** EPMのコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysisのコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

**期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA))** 通貨換算方法の1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

**基本エンティティ(base entity)** 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

**基本次元(base dimension)** 1つまたは複数の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product 次元が Flavors 属性次元の基本次元となります。

**基本通貨(base currency)** 日常の業務トランザクションが行われる通貨です。

**期末(ending period)** チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

**キャッシュ(cache)** データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

**キューブ(cube)** 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

**キューブ・スキーマ(cube schema)** Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

**キューブ配置(cube deployment)** Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

**兄弟(sibling)** 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

**共有 Workspace ページ(Shared Workspace Page)** 専用のシステム・フォルダに保管され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

**共有メンバー(shared member)** ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

**行の抑制(suppress rows)** 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付けます。

**クエリー(query)** データ・プロバイダからの情報の要求です。リレーショナル・データ・ソースにアクセスする場合などに使用されます。

**クエリー・ガバナー(query governor)** Essbase Integration Server のパラメータ、または Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

**クラスタ(cluster)** 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

**クラスタ棒グラフ(clustered bar charts)** カテゴリを横に並べたグラフです。並列カテゴリの分析に便利です。垂直棒グラフでのみ使用されます。

**繰返し(iteration)** 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。

**クリーン・ブロック(clean block)** 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。

**クロス集計レポート(crosstab reporting)** テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うことです。テーブルのセルには、交差する分類に合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

**グリッドの POV(grid POV)** 行、列またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート・デザイナーはグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列またはページではなくグリッドの POV に配置します。

**グループ(group)** 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

**グローバル・レポート・コマンド(global report command)** 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

**計算(calculation)** データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行したりするプロセスです。

**計算結果アイテム(computed item)** データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ・アイテム、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

**計算スクリプト(calc script)** データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

**系統データ(genealogy data)** 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

**系列(lineage)** 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューでグラフィカルに表示できます。**トレーサビリティ(traceability)** も参照してください。

**結合(join)** 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく 2 つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

**欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING))** ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないか、またはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

**権限(permission)** データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

**検索ガジェット(Search gadget)** Reporting and Analysis のリポジトリを検索します。検索ガジェットは、ドキュメントをインポートしたときに設定されたドキュメントのキーワードや説明で一致を探します。

**検証(validation)** アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプトまたはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。たとえば、FDM の検証ルールにより、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。

**限界税率(Marginal Tax Rate)** 税引き後の負債コストを計算するために使用されます。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

**現地通貨(local currency)** 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

**原点(origin)** 2 つの軸の交差です。

**子(child)** データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

**高機能計算(intelligent calculation)** 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算方法です。

**交差(intersection)** 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位。ワークシートのセル。

**構成ファイル(configuration file)** セキュリティ・プラットフォームでは、XML ドキュメントの構成を製品の管理者やインストール・プログラムに依存しています。XML ドキュメントは有意義なプロパティの値を示し、企業の認証シナリオに関連する場所と属性を指定するように変更する必要があります。

**構造ビュー(structure view)** トピックをコンポーネントのデータ・アイテムの単純なリストとして表示します。

**構築方法(build method)** データベース・アウトラインを変更するために使用する方法の一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築方法を選択します。

**個人の反復タイム・イベント(personal recurring time events)**

再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

**個人用変数(personal variable)** 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

**個人用ページ(personal pages)** リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

**コミット・アクセス(committed access)** Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

**コンテキスト変数(context variable)** タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

**コンテンツ(content)** リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

**コンテンツ・ブラウザ(content browser)** コンテンツを選択して Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

**コントリビューション(contribution)** 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

**コントロール・グループ(controls group)** 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されます。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

**コード・ページ(code page)** 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。[エンコード方式\(encoding\)](#)も参照してください。

**差異(variance)** プラン値と実績値などの 2 つの値の差です。

**サイクル・スルー(cycle through)** データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。

**再構成 URL(reconfigure URL)** ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするための URL です。

**再構築(restructure)** データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

**最新(latest)** 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

**最上位メンバー(top-level member)** 次元のアウトラインで、階層ツリーが一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

**サブ勘定科目のナンバリング(Subaccount Numbering)** 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

**サブスクライブ(subscribe)** アイテムまたはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、アイテムまたはフォルダにフラグを付けることを指します。

**サポート詳細(supporting detail)** セルの値を算出した計算および仮定です。

**三角換算法(triangulation)** 第 3 の共通通貨を介して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手段です。欧州の場合はユーロが共通通貨として使用されます。たとえば、フランス・フランからイタリア・リラに変換する場合、ユーロが共通通貨として定義されます。したがって、フランの残高をリラに変換するには、フランからユーロに変換してから、ユーロからリラに変換します。

**算出ステータス(calculation status)** 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

**算術演算子(mathematical operator)** 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、\*、/、%など)。

**算術データ・ロード(arithmetic data load)** データベース内の値に対して演算(たとえば各値に 10 を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

**サンプリング(sampling)** エンティティの特性を判断するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。[メタデータのサンプリング\(metadata sampling\)](#)も参照してください。

**サービス(services)** ビジネス・アイテムを取得、変更、追加および削除するためのリソースです(権限付与、認証など)。

**サーブレット(servlet)** Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

#### **サーブレット・コンフィグレータ(Servlet Configurator)**

ローカルにインストールされているすべてのサーブレットを構成するユーティリティです。

**残高勘定科目(balance account)** 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

**式(formula)** データベース・メンバーを計算する演算子、関数、次元およびメンバー名、および定数の組合せです。

**式の保存(preserve formulas)** データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

**資産勘定科目(asset account)** 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

**支出勘定科目(expense account)** 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

**市場リスク割増額(Market Risk Premium)** 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

**システム抽出(system extract)** データをアプリケーションのメタデータから ASCII ファイルに転送します。

**子孫(descendant)** データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

**シナリオ(scenario)** データを分類するための次元です(Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

**支配比率(percent control)** 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

**収益勘定科目(income account)** 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

**集計(consolidation)** 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3 および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この集計は Year になります。

**集計比率(percent consolidation)** 親に集計された子の値の割合です。

**集計ファイル(\*.cns)(consolidation file(\*.cns))** 集計ファイルは、集計のプロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。集計ファイルを使用して、集計を定義したり変更したりすることも可能です。

**集計ファイル(親)(consolidated file(Parent))** 事業部門のすべてのファイルが集計されたファイルです。集計の定義を含みます。

**集計ルール(consolidation rule)** 階層のノードを集計する際に実行されるルールを特定します。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、集計ルール内で制御できます。

**修飾名(qualified name)** 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York] など)。

**集約(aggregation)** 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

**集約関数(aggregate function)** 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

**集約スクリプト(aggregation script)** 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

**集約ストレージ・データベース(aggregate storage database)**

潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

**集約制約(aggregate limit)** 集約要求ライン・アイテムや集約メタトピック・アイテムに設定する制約です。

**集約セル(aggregate cell)** 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

**集約ビュー(aggregate view)** 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

**出資比率(percent ownership)** エンティティが親によって所有される程度です。

**手動ステージ(manual stage)** 完了するためにユーザーが操作する必要があるステージです。

**消去(elimination)** 組織内のエンティティ間でのトランザクションをゼロに設定(消去)するプロセスです。

**消去済勘定科目(Eliminated Account)** 集計ファイルに表示されない勘定科目です。

**詳細チャート(detail chart)** 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

**使用済ブロック(dirty block)** 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

**シリアル計算(serial calculation)** デフォルトの計算設定です。1 つの計算を複数のタスクに分割して、一度に 1 つのタスクを計算します。

**仕訳(JE)(journal entry(JE))** シナリオと期間の残高勘定科目の借方または貸方に計上する調整の集合です。

**シングル・サインオン(single sign-on)** 外部のログイン情報を使用するシングル・ログインにより、複数の EPM System 製品にアクセスできる機能です。

**信頼できるパスワード(trusted password)** ある製品について認証されたユーザーが、パスワードを再入力せずに他の製品にもアクセスできるようにするパスワードです。

**信頼できるユーザー(trusted user)** 認証されたユーザーです。

**時間次元(time dimension)** データが示す期間を定義します(会計期間、暦時間など)。

**軸(axis)** (1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。(2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

**時系列レポート作成(time series reporting)** カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

**次元(dimension)** ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の各単位ごとのメンバーが含まれます。

**次元間の無関係性(interdimensional irrelevance)** 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元はアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

**次元構築(dimension build)** Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

**次元構築のルール(dimension build rules)** データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

**次元性(dimensionality)** MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、{(West, Feb), (East, Mar)} というセットの場合は、含まれている 2 つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります。

**次元タイプ(dimension type)** 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

**次元タブ(dimension tab)** 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

**次元テーブル(dimension table)** (1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。(2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する 1 つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAP モデルのコンテナを指します。

**事前計算(precaculation)** ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

**持続性(persistence)** Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

**実行時プロンプト(runtime prompt)** ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

**実績の頻度(result frequency)** 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

**自動逆仕訳(auto-reversing journal)** 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

**自動ステージ(automated stage)** ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

**従業員(employee)** 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認証のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

**重要事業領域(CBA)(critical business area(CBA))** 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チームまたはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

**重要成功要因(CSF)(critical success factor(CSF))** 戦略目標を達成するために確立および維持する必要がある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1 つ以上のアクションに対する親となります。

**上位レベル・ブロック(upper-level block)** 少なくとも 1 つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

**冗長データ(redundant data)** 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、トランザクションの間保持されます。

**ジョブ(jobs)** 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting または汎用ドキュメントを含めることができます。

**ジョブの出力(job output)** ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

**数値属性範囲(numeric attribute range)** 基本次元メンバーを関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

**スクレーピング(scraping)** データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。[イントロスペクション\(introspection\)](#) と対比してください。

**スケール(scaling)** スケールによって値の表示方法を決定します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

**スコア(score)** ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

**スコアカード(scorecard)** 目標を達成する上での、従業員、戦略要素または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。

**スコープ(scope)** Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が 3 レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。**持続性(persistence)**も参照してください。

**ステージ(stage)** 通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の 1 つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の 2 つのタイプがあります。

**ステージ・アクション(stage action)** 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

**ステージ後割当て(post stage assignment)** 割当てでモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

**ステージ内割当て(intrastage assignment)** 財務フローの割当てです。同じステージ内のオブジェクトに対して割り当てられます。

**ステージング領域(staging area)** 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

**ステータス・バー(Status bar)** 画面下部のステータス・バーには、コマンド、勘定科目およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

**スナップショット(snapshot)** 特定の時点の読取り専用データです。

**スポットライタ(Spotlighter)** 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

**スマート・カット(SmartCut)** URL フォームのリポジトリ・アイテムへのリンクです。

**スマート・スライス(smart slice)** Smart View で、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。次元または次元メンバーの限定的なセットを含みません。

**スマート・タグ(smart tags)** Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

**スーパー・サービス(super service)** RSC サービスを開始するために startCommonServices スクリプトによって使用される専用のサービスです。

**スーパーバイザ(supervisor)** サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

**ズーム(zoom)** レポートの倍率を設定します。たとえば、ページ全体またはページ幅に合わせて倍率を変更したり、100%を基準としてパーセントで倍率を指定することができます。

**ズームチャート(ZoomChart)** チャートを拡大することにより詳細情報を表示するために使用されます。チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

**精度(precision)** 数値に表示される小数点以下の桁数です。

**製品(product)** Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

**セカンダリ・メジャー(secondary measure)** プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーには業績レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

**責任マップ(accountability map)** 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

**セキュリティ・エージェント(security agent)** Web アクセス管理プロバイダ(Netegrity SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

**セキュリティ・プラットフォーム(security platform)** EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

**世代(generation)** データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

**設計レポート(Design Report)** コンポーネント・ライブラリを使ってカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインタフェースです。

**接続ファイル(connection file)** [Interactive Reporting 接続ファイル\(.oce\)](#)([Interactive Reporting connection file\(.oce\)](#))を参照してください。

**セル(cell)** (1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

**セル・ノート(cell note)** Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

**選択リスト(choice list)** レポート・デザイナーがレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用する次元の POV を変更できます。

**戦略マップ(Strategy map)** 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組み入れる方法を示します。

**戦略目標(SO)(strategic objective(SO))** 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の 1 つのパーспекティブに関連付けられ、1 つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目標の親になります。

**税金の初期残高(Taxes - Initial Balances)** Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリーは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

**相関サブクエリー(correlated subqueries)** 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

**相互割当て(reciprocal assignment)** 財務フローの割当ての一種です。宛先の 1 つとしてソースが含まれます。

**組織(organization)** 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

**疎次元(sparse dimension)** ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。**密次元(dense dimension)** と対比してください。

**祖先(ancestor)** その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

**属性(attribute)** 次元メンバーの特性です。たとえば、Employee 次元のメンバーは名前、年齢、住所といった属性を持ち、Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

**属性計算次元(Attribute Calculations dimension)** メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの 1 月の平均売上値を計算できます。

**属性次元(attribute dimension)** 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

**属性タイプ(attribute type)** 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

**属性の関連付け(attribute association)** データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

**属性レポート(attribute reporting)** 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。[基本次元\(base dimension\)](#)も参照してください。

**貸借一致の仕訳(balanced journal)** 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

**対称型マルチプロセッシング(SMP)(symmetric multiprocessing(SMP))** マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

**タイトル・バー(Title bar)** Strategic Finance 名、ファイル名およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示します。

**タイム・イベント(time events)** ジョブを実行するトリガーです。

**タイム・スケール(time scale)** 指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示します。

**タイム・ライン・ビューア(time line viewer)** 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

**多次元データベース(multidimensional database)** 3つ以上の次元でデータを整理、保管および参照する方法です。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。[リレーショナル・データベース\(relational database\)](#)と対比してください。

**タスクフロー(taskflow)** ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

**タスクフロー・インスタンス(taskflow instance)** タスクフローの単一のインスタンスを示します。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

**タスクフロー管理システム(taskflow management system)** タスクフローの定義および作成し、その実行を管理します。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

**タスクフロー参加者(taskflow participant)** 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

**タスクフロー定義(taskflow definition)** タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスを示します。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

**タスク・リスト(task list)** 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

**タブ(tabs)** Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

**タプル(tuple)** MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual])といったタプルがあります。

**単項演算子(unary operator)** アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、\*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されます。

**代替階層(alternate hierarchy)** 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

**ダッシュボード(dashboard)** 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

**置換(replace)** データ・ロードのオプションの1つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

**チャート(chart)** スプレッドシート・データをグラフィカルに表したものです。視覚的な表示により、分析、カラー・コーディング、および比較の手助けとなるビジュアル・キューの効率が上がります。

**チャート・テンプレート(chart template)** ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

**抽出コマンド(extraction command)** Essbase レポート作成コマンドの 1 つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

**調査(Investigation) ドリルスルー(drill-through)**を参照してください。

**調整(adjustment) 仕訳(JE)(journal entry(JE))**を参照してください。

**調整勘定科目(plug account)** 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

**重複する別名(duplicate alias name)** 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

**重複メンバーのアウトライン(duplicate member outline)** 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

**重複メンバー名(duplicate member name)** データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが 2 つ含まれることがあります。

**直接レート(direct rate)** 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間またはシナリオのレートを入力します。

**通貨(monetary)** 金銭的な値です。

**通貨換算(currency conversion)** データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1 米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます( $1 \times 0.923702$ )。変換後のユーロの額は 0.92 になります。

**通貨の上書き(Currency Overrides)** 入力期間で、選択した入力メソッドを上書きして、デフォルトの通貨/アイテムとして該当期間の値を入力できます。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

**通貨パーティション(currency partition)** アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

**通常仕訳(regular journal)** 特定の期間に一度限りの調整を入力するための機能です。貸借一致エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

**通知ガジェット(Notifications gadget)** 他のユーザーやシステムから受け取った通知メッセージの履歴を表示します。

**定義済ドリル・パス(predefined drill paths)** データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

**適応状態(adaptive states)** Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

**テキスト・メジャー(text measure)** メジャーの値をテキストとして表現できるデータ型です。Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。**型付きメジャー(typed measure)**、**テキスト・リスト(text list)**および**導出テキスト・メジャー(derived text measure)**も参照してください。

**テキスト・リスト(text list)** Essbase で、数値の識別子にマッピングされたテキストの値を保管するオブジェクトです。テキスト・リストではテキスト・メジャーを使用できます。

**テンプレート(template)** 特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済のフォーマットです。

**デフォルト通貨単位(Default Currency Units)** データの単位スケールを定義します。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して 10 を入力すると、10,000 と解釈されます。

**データ関数(data function)** データを集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを集計します。

**データ・キャッシュ(data cache)** 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

**データ・セル(data cell)** **セル(cell)**を参照してください。

**データ値(data value)** [セル\(cell\)](#)を参照してください。

**「データなし」ステータス(NO DATA status)** 集計ステータスの1つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

**データ・ファイル・キャッシュ(data file cache)** 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

**データ・フォーム(data form)** Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

**データベース接続(database connection)** データソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

**データ・マイニング(data mining)** Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

**データ・モデル(data model)** データベース・テーブルのサブセットを示します。

**データ・ロック(data lock)** 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぎます。

**データ・ロード位置(data load location)** FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が1つあります。

**データ・ロードのルール(data load rules)** テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を決定する一連の基準です。

**透過パーティション(transparent partition)** ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

**透過ログイン(transparent login)** ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせます。

**統合(integration)** Shared Services を使用して EPM System 製品間でデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付け、およびスケジュールが決定されます。

**トップ・ラベルとサイド・ラベル(top and side labels)** 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

**トラフィック・ライト(traffic lighting)** 2つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

**トリガー(triggers)** ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbase の機能の1つです。基準に一致すると、Essbase はユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

**トレーサビリティ(traceability)** メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえば Essbase Studio の場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソースまで追跡できます。

**トレース・レベル(trace level)** ログ・ファイルで捕捉された詳細のレベルを定義します。

**トレース割当て(trace allocations)** Profitability and Cost Management の機能の1つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

**トークン(token)** 外部認証システム上の1つの有効なユーザーまたはグループの暗号化された ID です。

**トースト・メッセージ(toast message)** 画面右下の隅に表示され、現れたり消えたりするメッセージです。

**同期(sync)** Shared Services とアプリケーション・モデルの同期です。

**同期済(synchronized)** モデルの最新バージョンがアプリケーションと Shared Services の両方に存在する状態を指します。[モデル\(model\)](#)も参照してください。

**導出テキスト・メジャー(derived text measure)** Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、Sales メジャーに基づき、High、Medium および Low という値を含む Sales Performance Index という導出テキスト・メジャーの場合、対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium および Low が表示されるように定義されます。テキスト・メジャー(text measure)も参照してください。

**動的階層(dynamic hierarchy)** 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

**動的計算(dynamic calculation)** Essbase で、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

**動的計算および保管メンバー(Dynamic Calc and Store members)** ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2 回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

**動的計算メンバー(Dynamic Calc members)** ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

**動的参照(dynamic reference)** データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポインタです。

**動的時系列(Dynamic Time Series)** ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

**動的ビュー勘定科目(dynamic view account)** 勘定科目の 1 つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

**動的メンバー・リスト(dynamic member list)** システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されるとき、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

**動的レポート(dynamic report)** レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

**ドメイン(domain)** データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

**ドライバ(driver)** ドライバは割当て方法の一種です。ドライバを利用する複数ソース間の数学的關係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示します。

**ドリルスルー(drill-through)** あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

**ドリルダウン(drill-down)** 次元の階層を使用してクエリ結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパースペクティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

**名前付きセット(named set)** MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリ内で複数回参照することが可能です。

**入力データ(input data)** 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

**認証(authentication)** 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

**認証サービス(authentication service)** 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

**ネイティブ認証(native authentication)** サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

**ネスト列ヘッダー(nested column headings)** 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列ヘッダーのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列ヘッダーはネスト列です。ネスト列ヘッダーでは、ヘッダーの一番上の行の Q1(Year 次元)が、ヘッダーの一番下の行の Actual および Budget(Scenario 次元)で修飾されます。

**ノート(note)** ボックス、メジャー、スコアカードまたはマップ要素に関連する補足情報です。

**ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)(Hypertext Markup Language(HTML))** Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

**ハイパーリンク(hyperlink)** ファイル、Web ページまたはイントラネット HTML ページへのリンクです。

**ハイブリッド分析(Hybrid Analysis)** リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

**ハイライト(highlighting)** 構成に応じて、チャートのセルまたはズームチャートの詳細がハイライトされ、値のステータス(赤色は不正、黄色は警告、緑色は良好)が示されます。

**範囲(range)** 上限と下限、およびその間に含まれる値のセットです。数字、金額または日付を含むことが可能です。

**反復タイム・イベント(recurring time event)** ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

**反復テンプレート(recurring template)** 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

**汎用ジョブ(generic jobs)** SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

**凡例ボックス(legend box)** 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

**バックアップ(backup)** アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

**バッチ POV(batch POV)** ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

**バッチ計算(batch calculation)** データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

**バッチ処理モード(batch processing mode)** サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用する方法です。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

**バッチ・ファイル(batch file)** 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

**バッチ・ローダー(batch loader)** 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

**バージョン(version)** データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

**パターン照合(pattern matching)** 条件として入力されるアイテムの一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(\*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple\*」では apple、applesauce、applecranberry など が戻されます。

**パフォーマンス・インディケータ(performance indicator)** ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルトのパフォーマンス・インディケータも使用できますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

**パブリック・ジョブ・パラメータ(public job parameters)** 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

**パブリック反復タイム・イベント(public recurring time events)** 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

**パレット(palette)** JASCに準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う16色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。

**パースペクティブ(perspective)** スコアボードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

**パーティション化(partitioning)** データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

**パーティション領域(partition area)** データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの1つ以上のセル領域から構成されます。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に18個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する18個のセルが含まれていなければいけません。

**非アクティブ・グループ(inactive group)** 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

**非アクティブ・サービス(inactive service)** 稼動が一時停止しているサービスです。

**「非アクティブ」ステータス(INACTIVE status)** エンティティの当期の集計が非アクティブにされていることを示します。

**非アクティブ・ユーザー(inactive user)** 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

**非次元モデル(non-dimensional model)** Shared Services のモデル・タイプの1つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

**日付メジャー(date measure)** Essbase で、メジャーが示されている次元で「日付」のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。**型付きメジャー(typed measure)**も参照してください。

**表示タイプ(display type)** リポジトリに保存された3種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

**標準仕訳テンプレート(standard journal template)** 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

**標準次元(standard dimension)** 属性次元以外の次元です。

**ビジネス・プロセス(business process)** 集合的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

**ビジネス・ルール(business rules)** 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

**ビジュアル・キュー(visual cue)** 特定のタイプのデータ値をハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。

**ビュー(view)** 年次累計または期別のデータを示すものです。

**ピボット(pivot)** 取得したデータのパーспекティブを変更する機能です。Essbase では、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

**ピン(pins)** ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやグラフィック・ライトの色を変更できます。

**ピンボード(pinboard)** 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはグラフィック・ライトを定義する必要があります。

**ファイルの区切り文字(file delimiter)** データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

**ファクト・テーブル(fact table)** スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キーおよび次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

**フィルタ(filter)** データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

**フィールド(field)** データ・ソース・ファイル内のアイテムです。Essbase データベースにロードされません。

**フォルダ(folder)** 他のファイルを含んで階層を形成するファイルです。

**フォーマット(format)** ドキュメントやレポート・オブジェクトの視覚的な特性です。

**フォーマット文字列(format string)** Essbase で、セルの値の表示を変換する方法です。

**復元(restore)** データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

**複製パーティション(replicated partition)** パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

**負債勘定科目(liability account)** 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目タイプです。未払費用、買掛金勘定、長期借入金などが負債勘定科目に含まれます。

**フッター(footer)** レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

**フリーフォーム・グリッド(free-form grid)** 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

**フリーフォーム・レポート作成(free-form reporting)** ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

**フレーム(frame)** デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームと Workspace フレームが2つの主要な領域となります。

**フロー勘定科目(flow account)** 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

**ブック(book)** 類似する Financial Reporting ドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。

**ブックの POV(book POV)** ブックが実行される次元のメンバーです。

**ブックマーク(bookmark)** ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークの2つのタイプがあります。

**ブロック(block)** プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

**ブロックされた勘定科目(Blocked Account)** 手動で入力する必要のあるために集計ファイルの計算に含めない勘定科目です。

**ブロック・ストレージ・データベース(block storage database)** 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

**ブロードキャスト・メッセージ(broadcast message)**

Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が送信する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどのユーザー向けの情報が表示されます。

**分離レベル(isolation level)** データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase カーネルの設定です。

**プライマリ・メジャー(primary measure)** 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

**プランナ(planner)** プランナは、大多数のユーザーから構成されます。データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、および Smart View の使用が可能です。

**プランニング・ユニット(planning unit)** シナリオ、バージョンおよびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付けおよび承認のための基本単位です。

**プレゼンテーション(presentation)** Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並替え、配布および確認を行うことができます。リポジトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。

**プロキシ・サーバー(proxy server)** セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

**プロジェクト(project)** 実装でグループ化された EPM System 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

**プロセス監視レポート(process monitor report)** FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判断するために使用できます。

**プロット領域(plot area)** X 軸、Y 軸および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

**プロパティ(property)** アーチファクトの特性です(サイズ、タイプ、処理手順など)。

**プロビジョニング(provisioning)** ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権限を付与するプロセスです。

**並列エクスポート(parallel export)** Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1 つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1 つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

**並列計算(parallel calculation)** 計算オプションの 1 つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

**並列データ・ロード(parallel data load)** Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

**ヘッド・アップ・ディスプレイ(head up display)** Windows デスクトップの上に、背景イメージを含むロード済 Smart Space デスクトップを表示するモードです。

**変換(transformation)** (1)アプリケーションの移行後も移行先の環境で正しく機能するように、アーチファクトを変換します。(2)データ・マイニングで、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更します。

**変換先通貨(destination currency)** 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

**変換元通貨(source currency)** 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

**「変更済」ステータス(CHANGED status)** 集計ステータスの1つです。エンティティのデータが変更されたことを示します。

**別名(alias)** 代替名です。たとえば、列をより簡単に特定する記述子として、メンバー名のかわりに別名を表示できます。

**別名テーブル(alias table)** メンバーの代替名を含むテーブルです。

**ページ(page)** グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしばZ軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

**ページ・ファイル(page file)** Essbase のデータ・ファイルです。

**ページ見出し(page heading)** レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

**ページ・メンバー(page member)** ページ軸を決定するメンバーです。

**保管階層(stored hierarchy)** 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含むことができないなどの一定の制限があります。

**ホスト(host)** アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

**ホスト・プロパティ(host properties)** ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Install\_Home が含まれる場合は、いずれかの Install\_Home に関するプロパティとなります。ホスト・プロパティは CMC から構成されます。

**保存された仮定(saved assumptions)** ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

**棒グラフ(bar chart)** 1-50 のデータ・セットを含むことができるグラフです。各データ・セットには任意の数の値を割り当てることができます。データ・セットは、対応する棒のグループ、上下に積み上げた棒、または別々の行に個別の棒として表示されません。

**マイ Workspace ページ(My Workspace Page)** 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

**マイニング属性(mining attribute)** データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

**マスター・データ・モデル(master data model)** 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

**マップ・ナビゲータ(Map Navigator)** 戦略、責任および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

**マップ・ファイル(Map File)** 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するために使用されます。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mpr となります。

**マルチロード(multiload)** 複数の期間、カテゴリおよび場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

**マージ(merge)** データ・ロード・オプションの1つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

**密次元(dense dimension)** ブロック・ストレージ・データベースで、次元メンバーのすべての組合せのデータを含んでいる可能性のある次元です。たとえば、時間次元はすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるために、しばしば密な次元となっています。疎次元(sparse dimension)と対比してください。

**ミニスキーマ(minischema)** データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

**ミニレポート(minireport)** レポートのコンポーネントの1つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンクおよびレポートのロード用の1つまたは複数のクエリーを含みます。各レポートには、1つ以上のミニレポートを含めることができます。

**耳折れ(dog-ear)** 折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されます。

**メジャー(measures)** OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。**ファクト・テーブル(fact table)**も参照してください。

**メタアウトライン(metaoutline)** 統合サービスで、OLAP モデルから Essbase のアウトラインを作成するための規則と構造を含んだテンプレートです。

**メタデータ(metadata)** データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータのプロパティと属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間およびセキュリティなどが含まれます。

**メタデータ・セキュリティ(metadata security)** ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

**メタデータのサンプリング(metadata sampling)** ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

**メタデータ要素(metadata elements)** データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成される、およびその他のメタデータです。

**メトリック(metric)** ビジネス・データから計算される数値測定単位です。業績評価や企業トレンド分析に役立ちます。

**メンバー(member)** 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

**メンバー選択レポート・コマンド(member selection report command)** 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

**メンバー専用レポート・コマンド(member-specific report command)** レポート・ライターのフォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

**メンバー・リスト(member list)** 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

**メンバー・ロード(member load)** 統合サービスで、次元およびメンバー(データを含まない)を Essbase のアウトラインに追加するプロセスです。

**目標(target)** 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

**持株会社(holding company)** 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

**モデル(model)** (1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。(2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。(3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

**役割(role)** リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

**ユーザー定義属性(UDA)(user-defined attribute(UDA))** アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDA を使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

**ユーザー定義メンバー・リスト(user-defined member list)** ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

**ユーザー・ディレクトリ(user directory)** ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。

**ユーザー変数(user variable)** ユーザーのメンバー選択に基づいて、データ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示します。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

**要約チャート(Summary chart)** 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

**予算管理者(budget administrator)** アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

**ライトバック(write-back)** 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

**ライフ・サイクル管理(life cycle management)** アプリケーション情報をライフサイクルの最初から最後まで通して管理するプロセスです。

**ライフ・サイクル管理ユーティリティ(Lifecycle Management Utility)** アプリケーションとアーチファクトの移行に使用されるコマンドライン・ユーティリティです。

**ライン・アイテムの詳細(line item detail)** 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

**リソース(resources)** システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

**リポジトリ(repository)** ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマットおよび注釈の情報を保管します。

**領域(area)** メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

**履歴平均(Historical Average)** 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

**リレーショナル・データベース(relational database)** 関連する2次元テーブルにデータを保管するデータベースです。[多次元データベース\(multidimensional database\)](#)と対比してください。

**リンク(link)** (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。(2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

**リンク条件(link condition)** タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

**リンク・データ・モデル(linked data model)** リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

**リンク・パーティション(linked partition)** データ・セルを使用して2つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新しいシートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

**リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO))** セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。[ローカル・レポート・オブジェクト\(local report object\)](#)と対比してください。

**隣接する四角形(bounding rectangle)** Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または1ページ当たりの行数により指定されます。

**レイアウト領域(layout area)** Workspace Page で、コンテンツを配置可能な領域を指定するために使用されます。

**例外(exceptions)** 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

**レイヤー(layer)** (1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。(2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

**レコード(record)** データベースで、1つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号および販売データのフィールドが含まれることがあります。

**列(column)** グリッドまたはテーブルで縦方向に表示される情報です。列には、特定のフィールドからのデータ、計算により得られたデータ、またはテキストの情報が含まれます。

**レベル(level)** 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル 0)から上位の親メンバーへと並べられます。

**レベル 0 のブロック(level 0 block)** 疎のレベル 0 メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

**レベル 0 のメンバー(level 0 member)** 子の存在しないメンバーです。

**レポート・エクストラクタ(Report Extractor)** スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

**レポート・オブジェクト(report object)** レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

**レポート・スクリプト(report script)** 1つまたは複数の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

**レポートの通貨(reporting currency)** 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

**レポート・ビューア(Report Viewer)** レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

**ログ・アナライザ(Log Analyzer)** Essbase ログのフィルタ、検索および分析を行うための Administration Services の機能です。

**ロケーション別名(location alias)** データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD または API を使用して設定されます。

**ロケール(locale)** コンピュータで使用される言語、通貨、および日付フォーマット、データのソート順、文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。[エンコード方式\(encoding\)](#)および [ESSLANG](#) も参照してください。

**ロケール・ヘッダー・レコード(locale header record)** スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

**ロック済(locked)** ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

**「ロック済」ステータス(LOCKED status)** 集計ステータスの 1 つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

**ロック済データ・モデル(locked data model)** ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

**論理グループ(logic group)** FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される 1 つ以上の論理勘定を含みます。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

**ローカル結果(local results)** データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカルの結果を要求すると、カタログに表示されます。

**ローカル・レポート・オブジェクト(local report object)** Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。[リンク・レポート・オブジェクト\(LRO\)](#) ([linked reporting object\(LRO\)](#)) と対比してください。

**ロールアップ(roll-up)** [集計\(consolidation\)](#) を参照してください。

**ワイルド・カード(wild card)** 検索文字列で、任意の 1 文字または文字グループを示す文字(\*)です。

**割当て(assignment)** Profitability and Cost Management で、割当てモデルでのソースと宛先の関連付けです。割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

**ワーク・フロー(work flow)** FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

**ワークブック(workbook)** 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

# 索引

## 記号

.oce ファイル, 217  
 インポート, 222

## A - Z

Balanced Scorecard フレームワーク, 40

Baldrige Criteria フレームワーク, 41

BQY レポート

BQY ファイル, 217

インポート, 222

スコアカード, 218

戦略ダッシュボード, 219

メジャーのトレンドを表示するスコアカード, 218

dimensionalChildren, 215

dimensionalMeasure, 214

Interactive Reporting

スマート・カット URL, 225

レポート、アクセス方法, 217

レポート、生成, 221

レポートの生成, 222

Interactive Reporting レポート

スマート・カット URL, 225

表示, 225

KPI フレームワーク, 41

mComparator, 209

mPTDResults, 205

mResult, 207

mScore, 208

mSubTarget, 210

mTarget, 209

mVariance, 211

onScorecardMeasures, 211

onScorecardScorecards, 212

Scorecard.bqy, 218

Scorecard\_withTrend.bqy, 218

sScore, 212

Stern Stewart の統合された EVA フレームワーク, 40

URL

スマート・カット, 225

Workspace ページ

作成, 177

説明, 37

## あ行

アクション, 59

アクティブなアラート・レポート

使用, 169

アプリケーション

説明, 16

ビジネス・オブジェクト、構築用に作成, 17

プリファレンス

外部 Web ページ、リンク, 114

欠落しているメジャー・データ、使用, 110

スコアカードの表示, 115

頻度、すべてのメジャーの定義, 111

メジャーおよびスコアカードのスコアリング制限、定義, 109

アプリケーション・フレームワーク

作成, 42

指定, 42

説明, 40

アラート

イニシアチブ、作成, 133

継承済の属性, 127

検索, 33

コピー, 138

削除, 138

使用不可, 140

自動登録, 140

スコアカード、作成, 131

説明, 127

その他、登録, 140

その他のユーザー、登録解除, 141  
 登録, 139  
 登録解除, 140  
 変更, 137  
 メジャー、作成, 129  
 要件, 127  
 アラート通知  
   イニシアチブ, 135  
   応答, 138  
   スコアカード, 132  
   メジャー, 131  
   メッセージへの値の挿入, 136  
 イニシアチブ  
   アラート、作成, 133  
   カテゴリ別にグループ化, 36  
   検索, 33  
   更新または変更, 122  
   コピー, 123  
   削除, 122  
   作成, 120  
   表示されたデータ、カスタマイズ, 124  
   リンク, 123  
 イニシアチブ・ステータス・レポート  
   アクセス, 171  
   使用, 171  
 エンティティ  
   作成, 61, 63  
   説明, 58  
 オブジェクト・ビュー, 29

## か行

会計年度の開始日、定義, 112  
 カスタム範囲  
   作成, 84  
   説明, 84  
 カスタム・レポート、表示, 225  
 カテゴリ  
   説明, 36  
   タイプ, 120  
   タイプ、作成, 120  
 カレンダー  
   会計年度の開始日、定義, 112  
   年タイプ、定義, 113  
 期間  
   説明, 75  
 期間累計の実績  
   式、使用, 205

レポート、使用の変更, 159  
 レポート、入力, 160, 170  
 計算  
   期間累計の実績、使用, 205  
   欠落データ、処理, 110  
   メジャー, 77  
 検索  
   Workspace の全製品アプリケーション, 33  
   ノートと注釈, 34  
   複数の製品アプリケーション, 33

## さ行

式  
   複雑、作成, 191  
   メジャー・スコア, 77  
   メジャーの実績, 77  
   メジャーの目標, 77  
 システム次元, 94  
 システム・マップ, 94  
 収集期限の延長  
   説明, 76  
   メジャー、割当て先, 88  
   目標、割当て先, 88  
 収集されていないメジャー  
   実績、入力, 158  
   説明, 77  
 収集されていないメジャー実績  
   使用, 110  
   入力, 158, 161  
 収集されていない目標値  
   使用, 110  
   入力, 159, 161  
 収集の頻度  
   説明, 76  
   メジャー、指定, 87  
   目標、指定, 87  
 所有者  
   イニシアチブ、指定, 51  
   説明, 77  
   戦略要素および責任要素、指定, 51  
   メジャー、指定, 51  
 次元のアウトライン  
   作成, 95  
   説明, 93  
   変更, 99  
 次元メジャー  
   生成, 96

- 生成、概要, 96
- 説明, 78
- データ、式で使用, 213
- 実績
  - 外部データソース内、使用, 97
  - 欠落、処理, 110
  - 削除, 159
  - 式、指定, 77
  - 説明, 74
  - 入力, 158, 159
  - 目標、入力, 161
- 実績収集者
  - 指定, 89
  - 説明, 77
- 実績の収集レポート
  - 実績、指定, 170
- 実績の頻度
  - 説明, 76
- 従業員
  - コピー, 54
  - 作成, 49
  - 責任
    - 割当て, 51
  - 責任、転送, 52
  - 説明, 47
  - データ、レポートでのアクセス, 168
  - プライマリ・スコアカード、作成, 50
  - 変更, 53
- スコアカード
  - アラート、作成, 131
  - 加重, 103
  - カテゴリ別にグループ化, 36
  - 高度な計算、実行, 211
  - 作成, 101, 105
  - 従業員のプライマリ・スコアカード、作成, 50
  - セカンダリ、作成
    - 責任要素、戦略要素および従業員, 105
  - 説明, 19
  - タイプ, 102
  - プリファレンス, 115
  - 変更, 108
  - 要件, 103
- スコアカード・テンプレート
  - 作成, 104
  - 説明, 102
- スコアカードのアラート
  - 作成, 131
  - タイプ, 128
- スコアカード・パフォーマンス・レポート
  - アクセス, 164
  - 基本データ、アクセス, 165
  - スコアカード・データ、グラフ化, 166
  - スコアカード・メジャー、詳細、表示, 167
  - 説明, 163
- スコアカード・レポート, 218
- スコアリング制限、指定, 109
- スマート・カット, 225
- 責任
  - 従業員、割当て, 51
  - 説明, 51
- 責任マップ
  - 削除, 71
  - 作成, 63
  - 説明, 56
  - 変更, 68
- 責任要素
  - 階層、フレームワーク・レベルでの定義, 44
  - 検索, 33
  - 作成, 63
  - パフォーマンス、評価と表現, 57
- 責任要素、ビジネス領域を参照, 43
- 責任要素のスコアカード・レポート
  - データ、グラフ化, 166
  - ノート、アクセス, 167
- セキュリティの役割, 22
- 戦略ダッシュボード, 218, 219
  - StrategyDashboard.bqy, 219
- 戦略ツリー
  - 削除, 71
  - 作成, 60
  - 説明, 55
  - 変更, 68
  - リンク, 70
- 戦略テーマ
  - 作成, 43
  - 説明, 43
- 戦略マップ
  - 作成, 65
  - 戦略要素、追加, 67
  - 背景、インポート, 65
  - 説明, 56
  - 変更, 68
- 戦略目標

作成, 61  
 説明, 58  
 戦略要素  
   階層、定義, 43  
   階層、フレームワーク・レベルでの定義, 43  
   作成, 61  
   従業員、割当て, 62  
   タイプ, 57  
   パフォーマンス、評価と表現, 57

## た行

単位  
   作成, 80  
   説明, 75  
 注釈  
   削除, 148  
   作成, 147  
   説明, 146  
   変更, 147  
   要件, 147  
   レポート、表示, 148  
 注釈作成者  
   従業員の戦略要素への割当て, 62  
 登録  
   アラート作成時に自動登録, 140  
   使用可能, 141  
   使用不可, 141  
   説明, 139  
   その他のユーザー、登録, 139  
   変更, 142  
 ドメイン  
   検索, 33  
   従業員、関連付け, 49  
   説明, 16

## な行

名前付き範囲  
   作成, 83  
   スコアカードの割当て, 107  
   説明, 83  
   メジャーへの割当て, 90  
 ノート  
   検索, 146  
   削除, 145  
   作成, 143, 144  
   戦略と責任のスコアカード, 167  
   全般、アクセス, 143

変更, 145  
 返答, 144  
 メジャー, 162

## は行

範囲  
   カスタム、作成, 84  
   説明, 78  
   名前付き、作成, 83  
   メジャー、作成, 90  
 パフォーマンス・インディケータ  
   作成, 82  
   スコアカード、定義, 103  
   説明, 78  
   変更, 85  
   メジャー、定義, 78  
 パブリック・アラート  
   説明, 127  
   登録, 140  
   登録解除, 141  
 パースpekティブ  
   作成, 42  
   説明, 39  
 頻度  
   1つのメジャー、指定, 87  
   実績, 76  
   設定, 75  
   説明, 75  
   メジャーの実績と目標の収集, 76  
 ビジネス・オブジェクト  
   説明, 16  
   ドメイン、別に表示, 35  
   パフォーマンス・ステータス別に表示, 35  
   命名規則, 21  
   ロック済, 22  
 ビジネス領域、責任要素を参照, 59  
 ビュー  
   オブジェクト, 29  
   ブラウザ, 31  
 フィルタ  
   ドメイン別, 35  
   パフォーマンス・ステータス別, 35  
 複合メジャー、説明, 78  
 複数の値の目標  
   作成, 81  
   説明, 81  
 フレームワーク

- Balanced Scorecard, 40
- Baldrige Criteria, 41
- Stern Stewart の統合された EVA, 40
- アプリケーション・フレームワーク、指定、40
- キー・パフォーマンス・インディケータ (KPI), 41
- コピー, 45
- 削除, 45
- 作成, 41
- 説明, 17
- 付属、使用, 42
- 変更, 45
- 用語、カスタマイズ, 44
- ブラウザ・ビュー, 31
- プライマリ・スコアカード
  - 作成, 50
  - 説明, 50
- プリファレンス
  - アプリケーション
    - Web ページへのリンク、追加, 114
    - 欠落データ、処理, 110
    - 頻度、適用, 111
    - メジャーおよびスコアカードのスコアリング制限、指定, 109
  - アプリケーション、指定, 109
  - 個人用, 116
  - 頻度
    - すべてのメジャー、適用, 111
  - メジャーおよびスコアカードのスコアリング制限, 109
- 変数
  - 作成, 81
  - 実績、入力, 158
- 別名
  - 次元、指定, 95
  - メンバー、指定, 95
- ポートレット
  - 作成, 183
  - 使用、概要, 183
  - 説明, 37
- ま行**
- マップ
  - 検索, 33
  - 削除, 71
  - 責任、作成, 63
  - 戦略、作成, 65
  - 戦略ツリー、作成, 60
  - ドメイン別に表示, 35
  - 変更, 68
  - リンク, 70
  - マップ・エディタ、説明, 59
  - マップ要素
    - 責任、作成, 63
    - 戦略ツリー、作成, 61
    - 戦略マップ、追加, 67
    - タイプ, 57
  - メジャー
    - アラート、作成, 129
    - 検索, 33
    - 高度な計算、実行, 207
    - コピー, 91
    - 削除, 92
    - 作成
      - 式、定義, 87
      - 従業員、割当て, 89
      - パフォーマンス・インディケータと範囲、定義, 90
      - レポート・オプション、定義, 89
    - 収集期限の延長, 76
    - 実績
      - 実績の収集レポート, 170
      - 変更および削除, 159
    - 説明, 18
    - その他のオブジェクトとの関連付け, 162
    - タイプ
      - 収集されていない, 77
      - 次元, 78
      - 非次元, 78
      - プライマリ, 78
      - データ、グラフ化, 156
    - 変更, 91
    - 要件, 79, 85
  - メジャー収集期限の延長, 76
  - メジャー詳細レポート
    - アクセス, 154
    - オブジェクトの関連付け、表示, 162
    - 実績、入力, 158
    - タブ、カスタム・レポートとの置換, 162
    - データ、グラフ化, 156
  - メジャー・テンプレート
    - コピー, 100
    - 作成, 96

メジャーのアラート

作成, 129

タイプ, 128

登録, 139

メジャーのトレンドを表示するスコアカード,  
218

メジャーのトレンドを表示するスコアカード・  
レポート, 218

メジャー・パフォーマンス・レポート

アクセス, 152

カスタマイズ, 153, 180

説明, 152

目標

1つの値、作成, 80

値、入力, 159

外部データソース内、使用, 97

削除, 160

式, 77

収集期限の延長, 76

実績、入力, 161

説明, 74

複数の値、作成, 81

変更, 160

目標設定者、指定, 89

目標収集期限の延長, 76

目標設定者

指定, 89

説明, 77

メジャーのトレンドを表示するスコアカー  
ド, 218

メジャー・パフォーマンス, 152

レポートの期間

作成, 115

説明, 115

ログオン, 25

ロック, 22

## わ行

次元

作成, 95

説明, 78, 93

## や行

用語、フレームワーク、カスタマイズ, 44

## ら行

リンク

Web ページ、追加, 114

イニシアチブ, 123

マップ, 70

レポート

イニシアチブ・ステータス, 171

従業員プロフィール, 168

スコアカード, 218

スコアカード・パフォーマンス, 164

スマート・カット, 225

生成されたデフォルトのレポート, 218

生成済、表示, 225

戦略ダッシュボード, 218, 219

メジャー詳細, 154